
第2章 調査結果

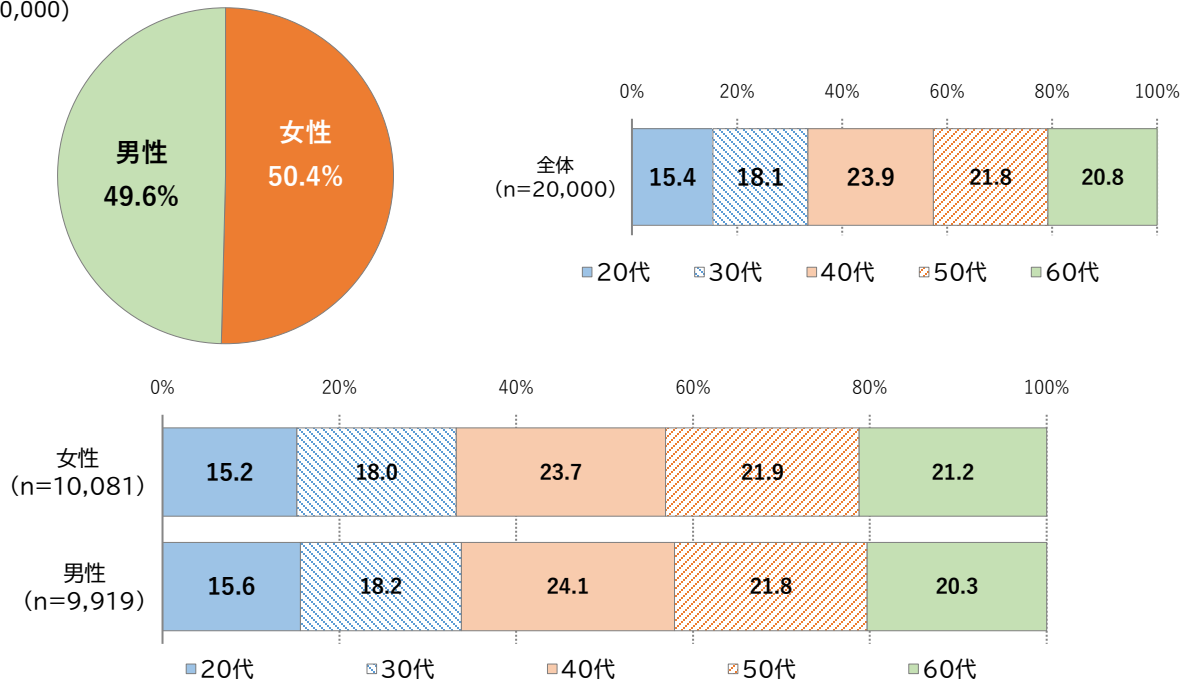
第2章 調査結果

1. 基本属性

・本調査における回答者の基本属性を以下にまとめる。

(1) 性別・年代

(n=20,000)



(2) 居住地

・都道府県ごとの回収数は以下の通り。

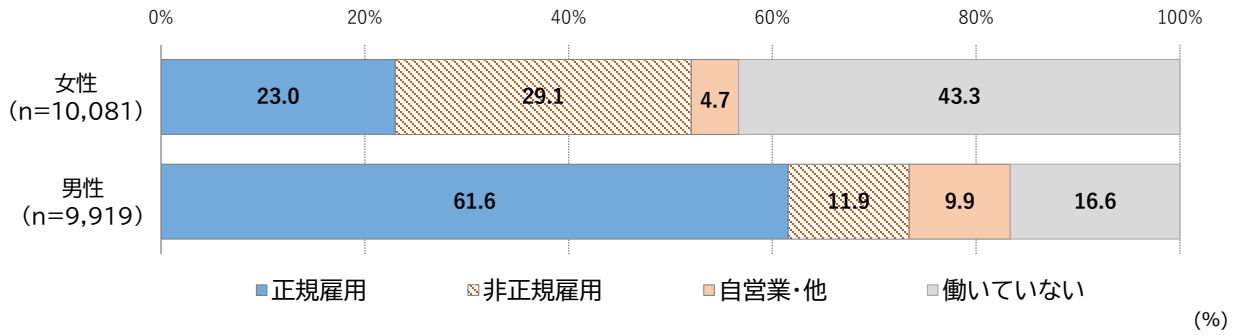
(人)

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山
全体	944	156	145	349	126	139	222	322	254	233	1248	1005	2652	1698	299	149
女性	521	85	72	202	65	77	115	147	117	125	599	485	1271	831	171	74
男性	423	71	73	147	61	62	107	175	137	108	649	520	1381	867	128	75

	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
全体	149	90	84	286	286	477	1369	283	216	429	1673	1023	257	151	88	84
女性	69	41	44	137	142	246	693	148	111	218	904	532	122	73	45	37
男性	80	49	40	149	144	231	676	135	105	211	769	491	135	78	43	47

	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
全体	285	492	194	105	138	184	80	737	72	143	159	125	103	169	128
女性	148	236	103	44	70	86	41	401	38	70	88	54	43	85	55
男性	137	256	91	61	68	98	39	336	34	73	71	71	60	84	73

(3) 就業状況



	正規雇用		非正規雇用					自営業・自由業・その他					働いていない		
	正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業 (従業員がいる)	自営業・自由業 (従業員がいない)	自家営業の手伝い (家族従業員)	家庭内の賃仕事 (内職)	その他	主婦・主夫	学生	その他 (働いていない)
全体 (n=20,000)	40.5	1.6	14.5	1.9	3.1	0.7	0.3	1.4	4.7	0.7	0.2	0.3	17.0	2.5	10.6
女性 (n=10,081)	22.5	0.5	23.2	2.5	2.6	0.4	0.3	0.6	2.6	0.8	0.3	0.3	32.7	2.2	8.4
男性 (n=9,919)	58.8	2.8	5.8	1.3	3.5	0.9	0.3	2.2	6.8	0.5	0.1	0.3	1.0	2.8	12.8

(4) 産業

	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
全体 (n=13,986)	1.2	0.2	5.1	18.1	1.3	5.4	5.0	3.6	7.6	3.8	2.8	4.2	5.2	11.5	15.6	9.3
女性 (n=5,717)	1.0	0.2	3.9	11.5	0.9	2.6	2.7	3.4	10.7	4.3	2.0	6.8	6.3	17.9	16.0	10.0
男性 (n=8,269)	1.3	0.3	6.0	22.7	1.6	7.3	6.6	3.8	5.5	3.5	3.3	2.4	4.5	7.0	15.4	8.8

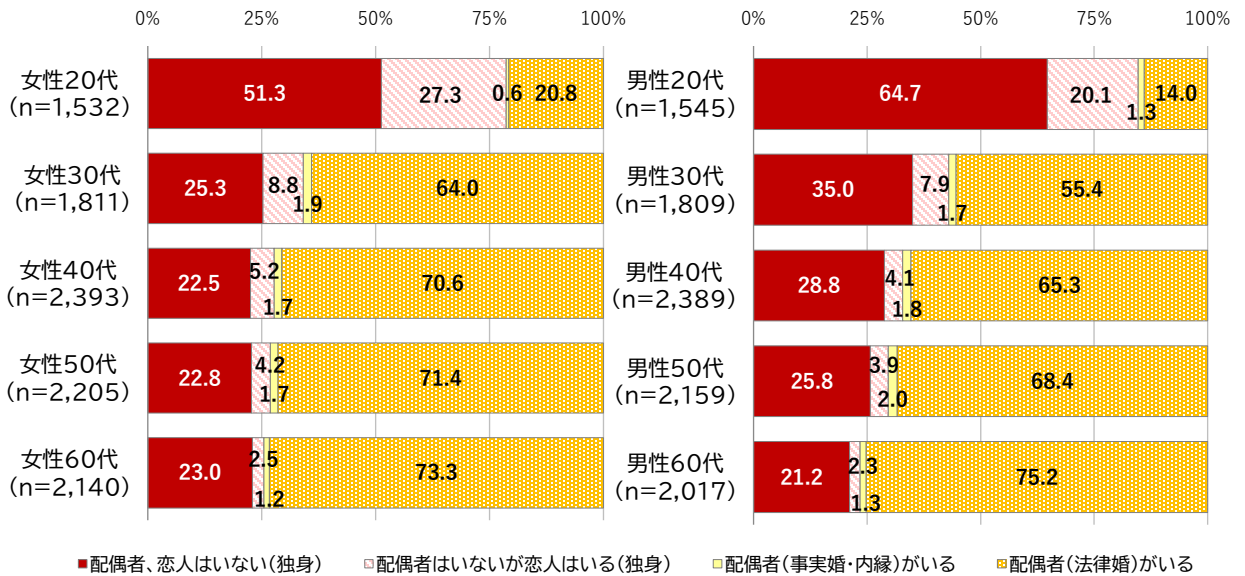
(5) 仕事の種類

	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
全体 (n=13,986)	27.0	21.9	7.8	8.7	12.1	1.1	0.9	7.4	1.8	1.3	3.2	7.0
女性 (n=5,717)	36.4	16.2	1.5	10.3	16.7	0.1	0.7	5.3	0.2	0.2	3.1	9.2
男性 (n=8,269)	20.4	25.8	12.2	7.5	8.9	1.8	1.0	8.8	2.9	2.1	3.2	5.4

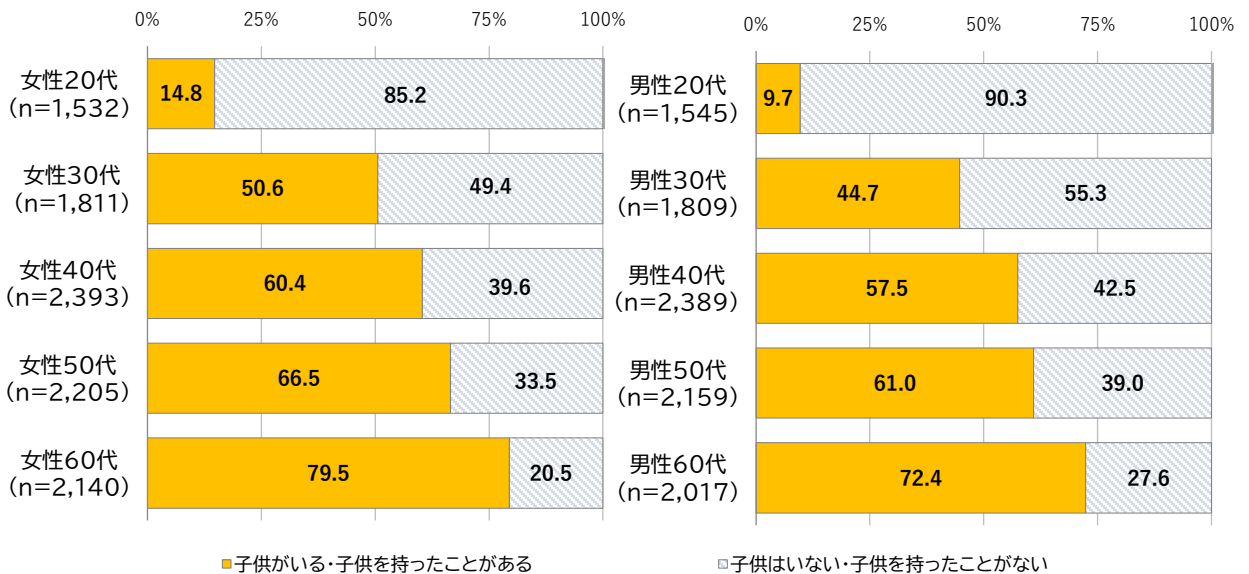
(6) 勤め先の従業員数

	1名~4名	5名~29名	30名~49名	50名~99名	100名~299名	300名~999名	1,000名以上	官公庁	民間企業・官公庁以外に勤めている	わからない
全体 (n=12,530)	4.7	17.4	7.1	9.8	13.2	11.9	22.9	3.9	0.5	8.6
女性 (n=5,246)	5.8	21.5	8.2	9.6	11.0	9.2	16.7	2.6	0.6	14.7
男性 (n=7,284)	3.9	14.5	6.3	9.9	14.9	13.8	27.3	4.8	0.4	4.2

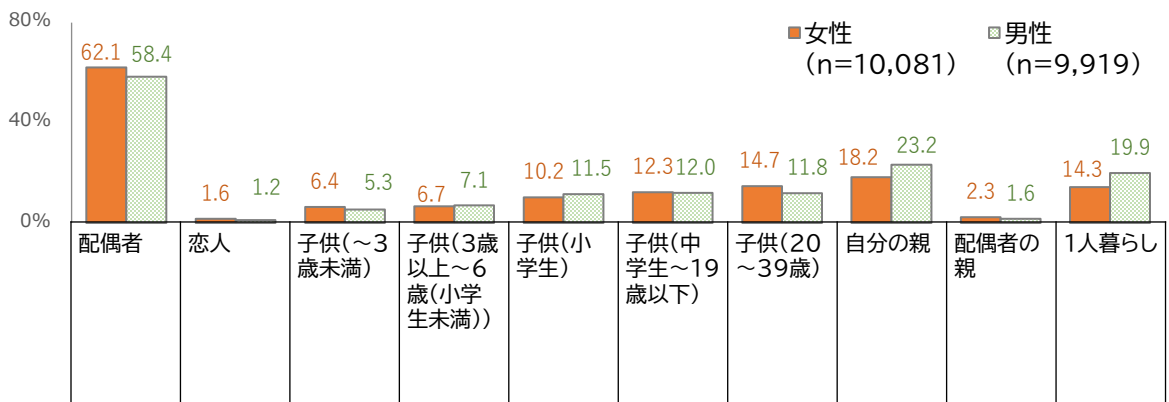
(7) 現在の配偶者等の状況



(8) 子供の有無

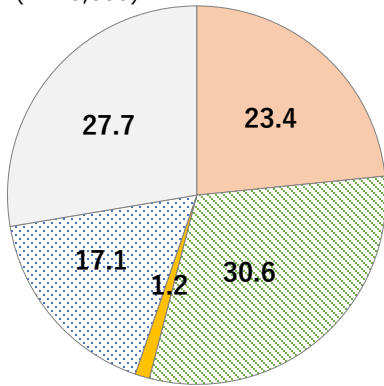


(9) 同居家族

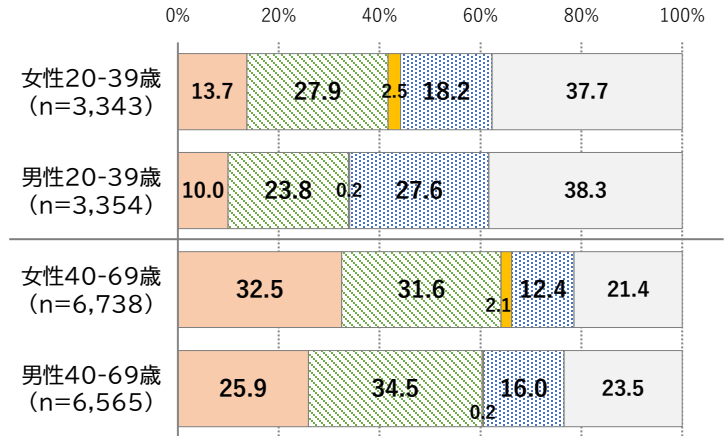


(10) 家族形態

(n=20,000)

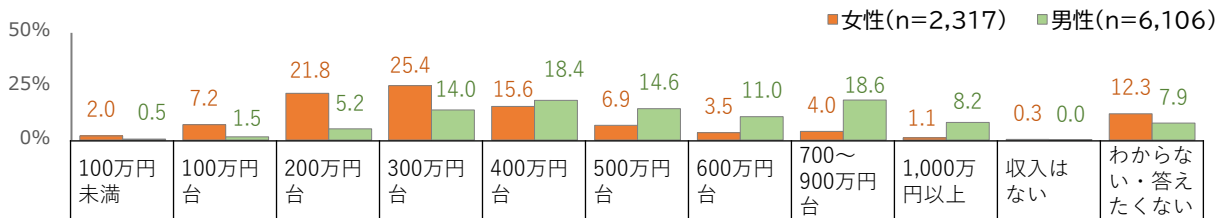


■ 夫婦のみ世帯 ■ 夫婦と子供から成る世帯 ■ 母子・父子世帯 ■ 単独世帯 ■ その他世帯

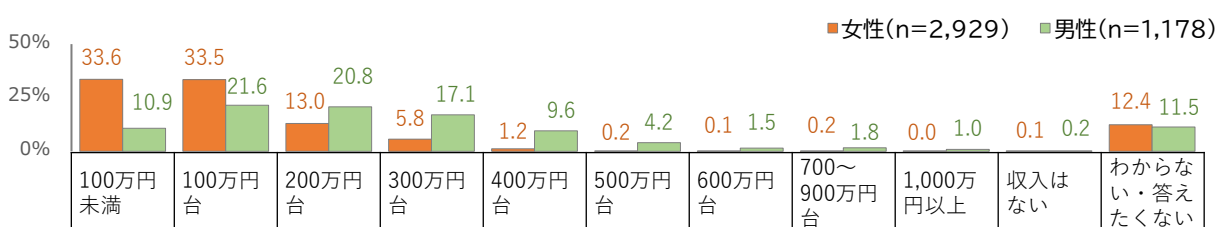


(11) 個人年収

[正規雇用]



[非正規雇用]

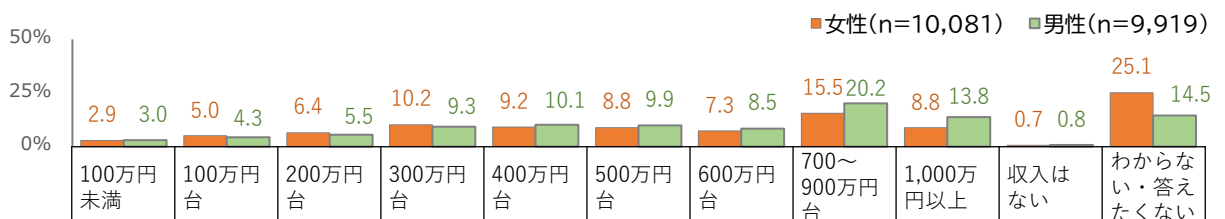


- 個人年収について、「女性／正規雇用」では、「300～400万円台」が41.0%。対して「男性／正規雇用」では、「300～400万円台」32.4%、「500～600万円台」25.5%、「700万円以上」26.8%。
- 「女性／非正規雇用」では、「200万円台以下」が80.0%。

個人年収	200万円以下	300～400万円台	500～600万円台	700万円以上
女性／正規雇用	31.0%	41.0%	10.4%	5.1%
男性／正規雇用	7.2%	32.4%	25.5%	26.8%
女性／非正規雇用	80.0%	7.0%	0.3%	0.2%
男性／非正規雇用	53.2%	26.7%	5.7%	2.8%

※「収入はない」「わからない 答えたくない」以外の数字を掲載

(12) 世帯年収



2. 働き方の現状と課題

(1) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象)

・「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値で見ると、女性で8割を超える項目は、「雇用の安定性を重視して働きたい」「負荷の少ないことを仕事にして働きたい」「突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい」「残業が少ないことを優先して働きたい」。男性で8割を超える項目はないが、「雇用の安定性を重視して働きたい」79.5%が最も高く、次に「自分がやりたいことを仕事にして働きたい」76.4%が続く。

・男女で比較すると、「残業が少ないことを優先して働きたい」は女性の方が10%ポイント以上高く、「専門性を磨けるように働きたい」「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」は男性の方が10%ポイント以上高い。

※80%を超えるセルに色掛け

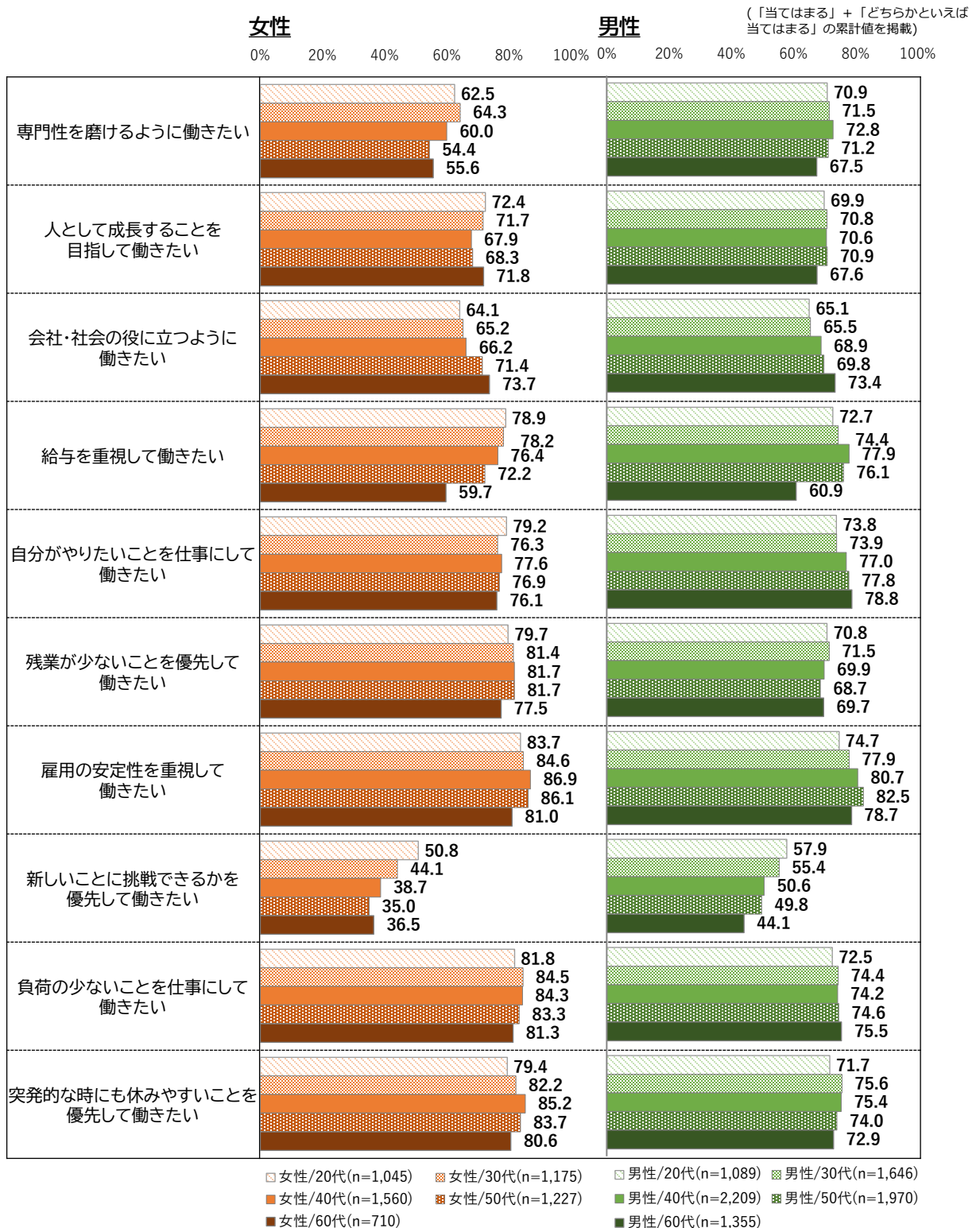
		女性(n=5,717)	男性(n=8,269)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	当てはまる +どちらか といえば 当てはまる
女性	専門性を磨けるように働きたい	15.0	44.6	26.3	14.1	59.6%				
	人として成長することを目指して働きたい	15.4	54.6	21.6	8.3	70.1%				
	会社・社会の役に立つように働きたい	13.4	54.2	24.3	8.0	67.7%				
	給与を重視して働きたい	22.9	51.3	21.7	4.0	74.3%				
	自分がやりたいことを仕事にして働きたい	21.7	55.6	18.2	4.5	77.3%				
	残業が少ないことを優先して働きたい	30.9	49.9	15.7	3.6	80.8%				
	雇用の安定性を重視して働きたい	32.6	52.3	12.2	2.8	84.9%				
	新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい	7.5	33.5	44.0	15.0	40.9%				
	負荷の少ないことを仕事にして働きたい	28.5	54.8	13.9	2.8	83.3%				
	突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい	29.2	53.5	14.4	3.0	82.6%				
男性	専門性を磨けるように働きたい	19.1	51.9	19.5	9.5	71.0%				
	人として成長することを目指して働きたい	17.4	52.7	21.9	8.0	70.1%				
	会社・社会の役に立つように働きたい	15.6	53.1	23.2	8.1	68.7%				
	給与を重視して働きたい	22.7	50.6	21.7	5.0	73.3%				
	自分がやりたいことを仕事にして働きたい	22.3	54.1	18.3	5.2	76.4%				
	残業が少ないことを優先して働きたい	19.0	51.1	24.2	5.8	70.0%				
	雇用の安定性を重視して働きたい	26.0	53.5	15.9	4.7	79.5%				
	新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい	10.4	40.9	38.0	10.7	51.3%				
	負荷の少ないことを仕事にして働きたい	19.3	55.0	21.2	4.4	74.3%				
	突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい	18.8	55.4	21.2	4.6	74.2%				

■ 当てはまる
 □ どちらかといえば当てはまらない
 ▨ どちらかといえば当てはまる
 ■ 当てはまらない

(1) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象、年代別)

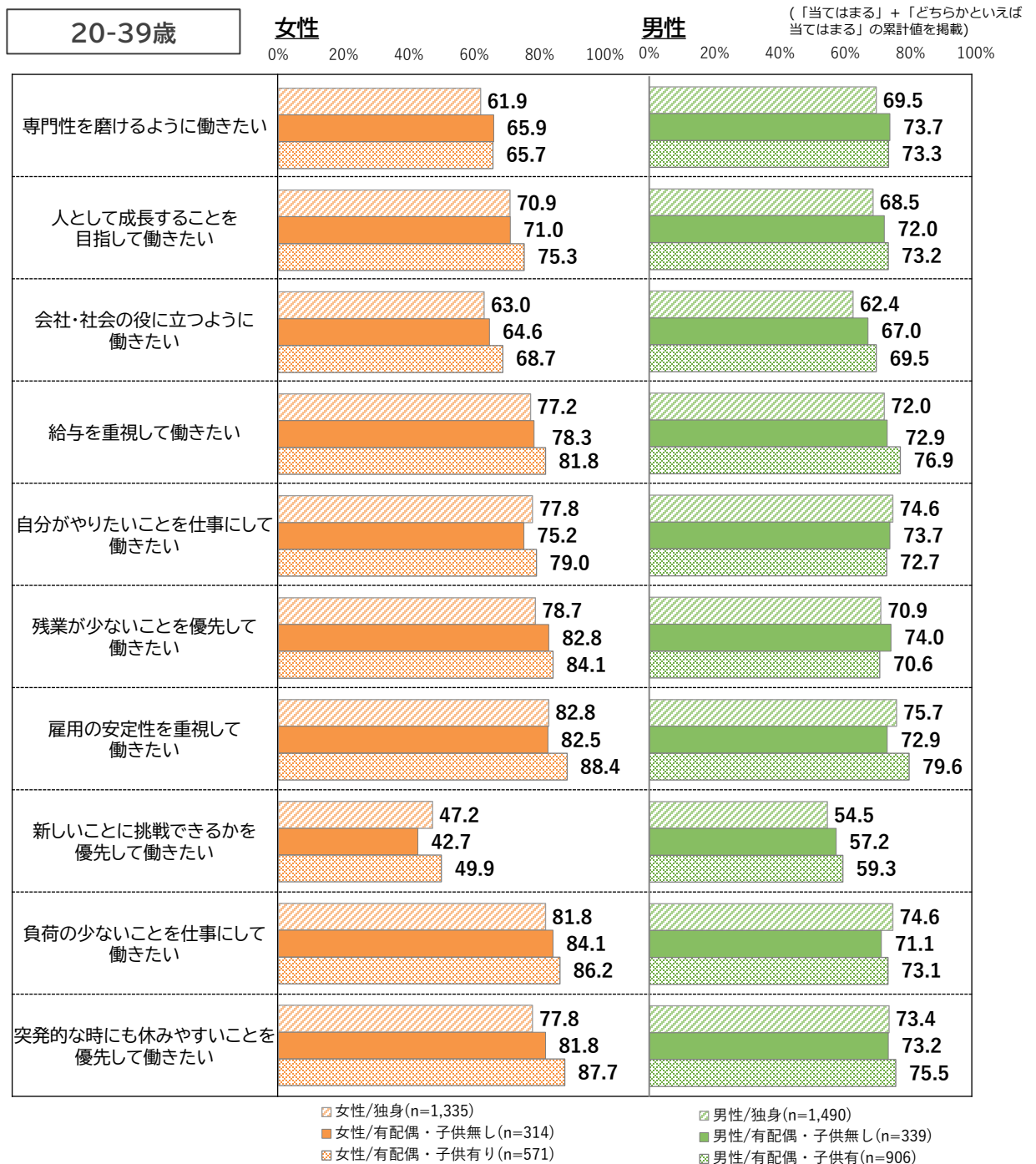
・年代別で見ると、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」が高く、年代が上がるほど「会社・社会の役に立つように働きたい」が高い傾向にある。また、女性では、若い年代ほど「給与を重視して働きたい」が高い傾向にある。

・同年代の男女で比較すると、若い年代ほど男女差が小さい傾向にあり、20代では男女で10%ポイント以上差がある項目はなかった。



(1) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象、配偶状況、子供の有無別)(20-39歳)

- ・20-39歳の人について配偶状況、子供の有無別に見てみると、女性では、「突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい」は、「有配偶・子供有り」の方が「独身」よりも10%ポイント近く高い。男性では、区分によって差があるものはなかった。
- ・男女で比較すると、「有配偶」では「負荷の少ないことを仕事にして働きたい」は女性の方が10%ポイント以上高く、「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」は、男性の方が10%ポイント近く高い。また「有配偶・子供有り」では、「残業が少ないことを優先して働きたい」「突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい」は女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・「独身」においては、男女差が10%ポイント以上ある項目はなかった。

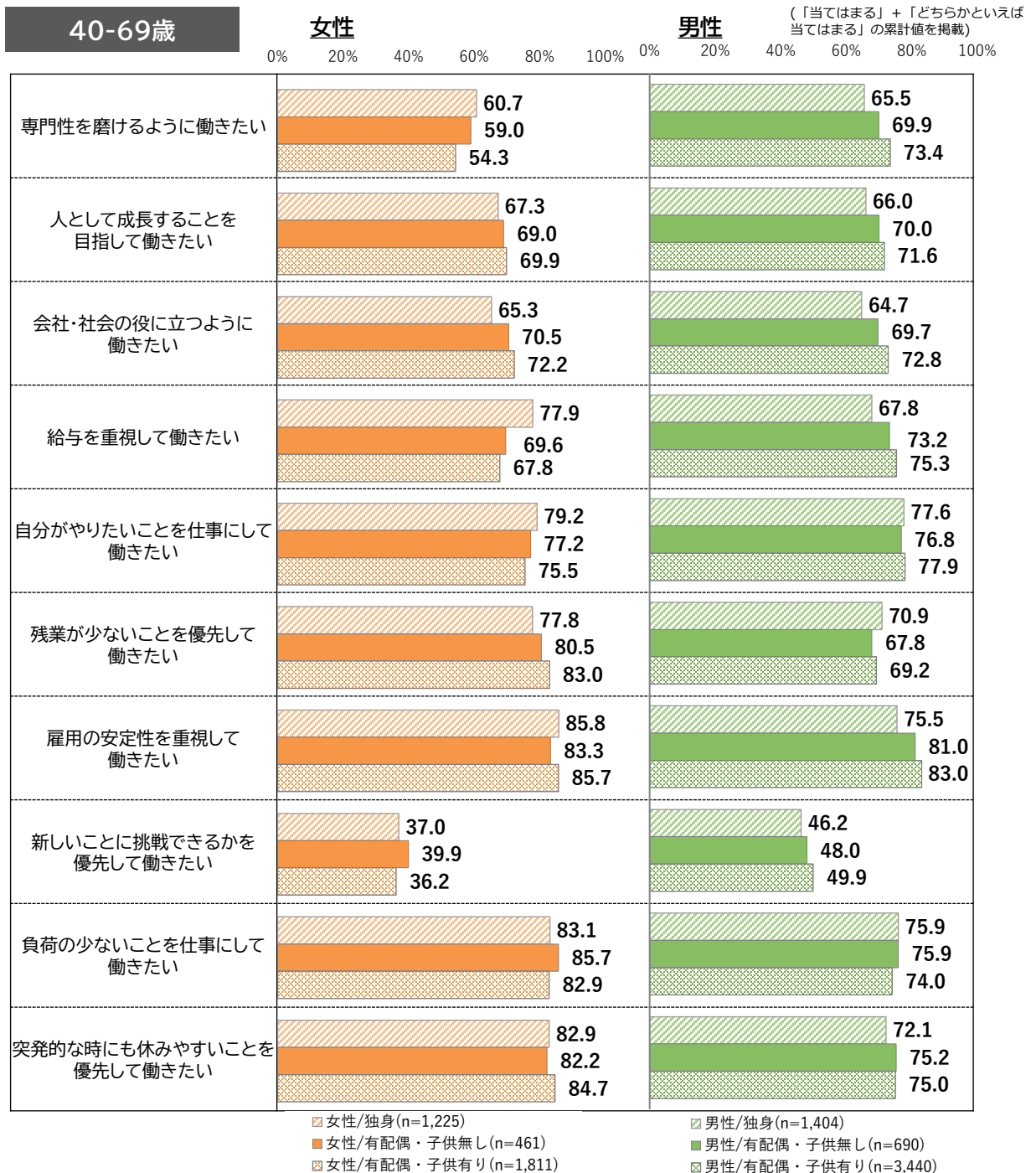


(1) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象、配偶状況、子供の有無別)(40-69歳)

・40-69歳の人について配偶状況、子供の有無別に見てみると、女性では、「給与を重視して働きたい」は「独身」の方が10%ポイント以上高い。男性では、10%ポイント以上差がある項目はなかったが、「会社・社会の役に立つように働きたい」「専門性を磨けるように働きたい」「給与を重視して働きたい」「雇用の安定性を重視して働きたい」は、「有配偶・子供有り」の方が8%ポイント近く高い。

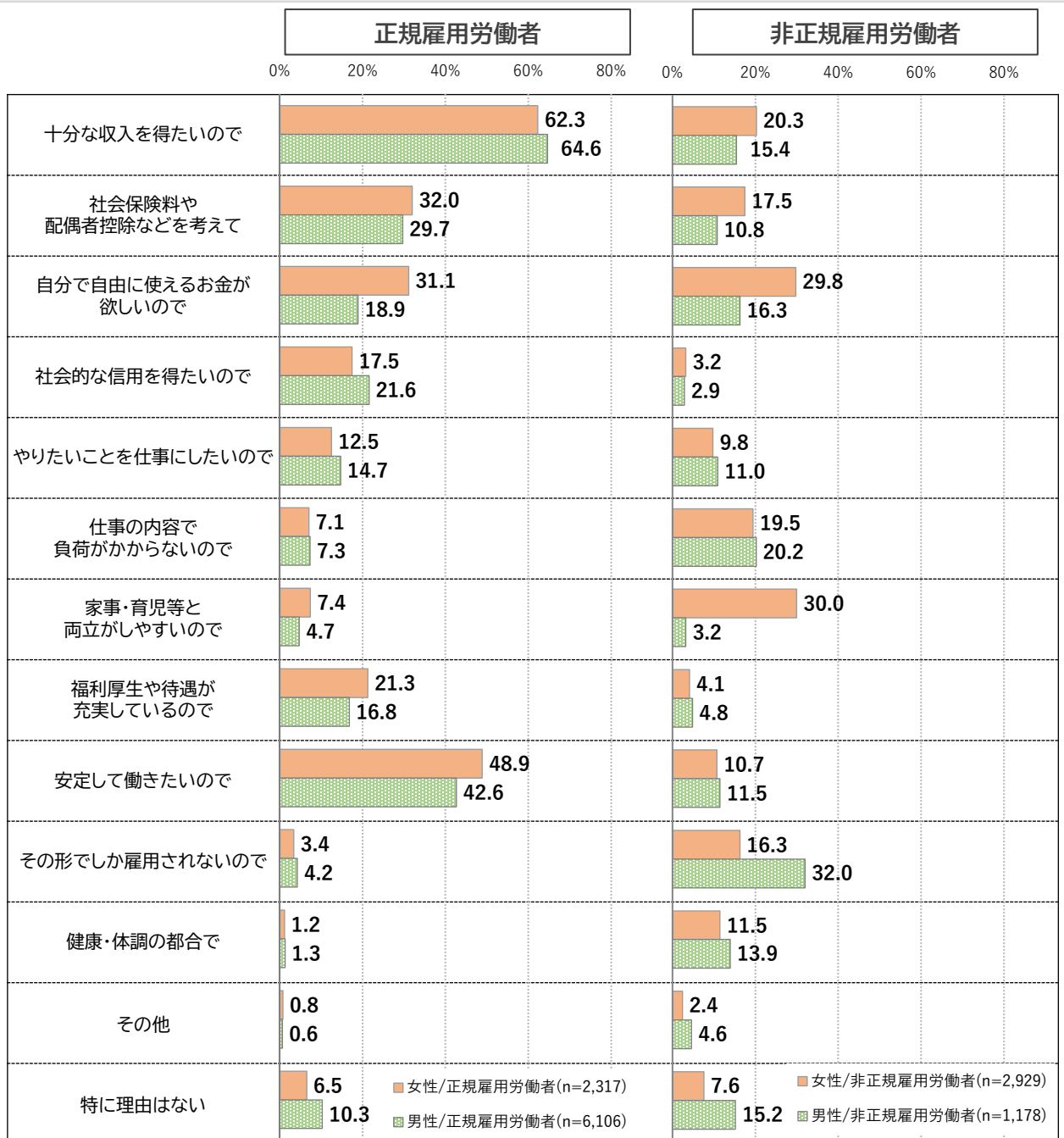
・男女で比較すると、「有配偶」では「残業が少ないことを優先して働きたい」「負荷の少ないことを仕事にして働きたい」は、女性の方が10%ポイント近く高く、「専門性を磨けるように働きたい」は、男性の方が10%ポイント以上高い。また、「有配偶・子供有り」では、「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」は、男性の方が10%ポイント以上高い。

・「独身」では、「給与を重視して働きたい」「雇用の安定性を重視して働きたい」「突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい」は女性の方が10%ポイント以上高い。



(2) 現在の職業・雇用形態で働いている理由

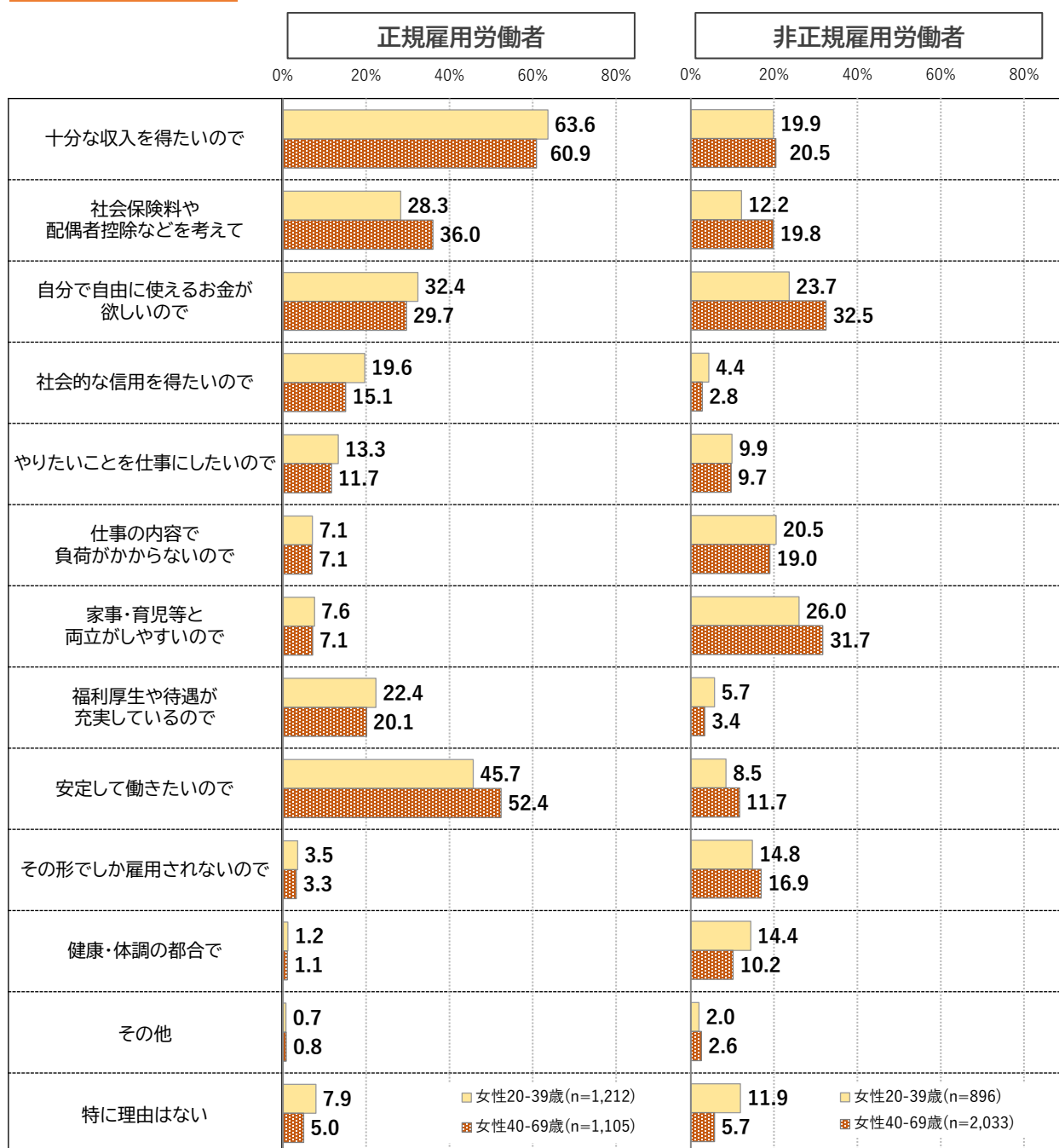
- ・雇用形態別に見てみると、正規雇用労働者では、男女ともに「十分な収入を得たいので」が6割強と最も高く、次に「安定して働きたいので」、「社会保険料や配偶者控除などを考えて」が続く。
- ・非正規雇用労働者では、女性では「家事・育児等と両立がしやすいので」30.0%が最も高く、次に「自分で自由に使えるお金が欲しいので」29.8%が続く。男性では「その形でしか雇用されないのでは」32.0%が最も高く、次に「仕事の内容で負荷がかからないので」20.2%が続く。
- ・男女別で比較すると、正規雇用労働者・非正規雇用労働者どちらも「自分で自由に使えるお金が欲しいのでは」は女性の方が10%ポイント以上高い。非正規雇用労働者では、「家事・育児等と両立がしやすいのでは」は女性の方が10%ポイント以上高く、「その形でしか雇用されないのでは」は男性の方が10%ポイント以上高い。
- ・正規雇用労働者と比較すると、非正規雇用労働者では、男女ともに「仕事の内容で負荷がかからないのでは」「その形でしか雇用されないのでは」「健康・体調の都合で」が10%ポイント以上高い。女性では、「家事・育児等と両立がしやすいのでは」も10%ポイント以上高い。



(2) 現在の職業・雇用形態で働いている理由(女性、年代別)

- ・女性について、20-39歳、40-69歳の年代別に見てみると、正規雇用労働者では、どちらの年代でも「十分な収入を得たいので」が最も高く6割強、次に「安定して働きたいので」が続く。なお、年代で10%ポイント以上差がある項目はなかった。
- ・非正規雇用労働者では、20-39歳では「家事・育児等と両立がしやすいので」26.0%が最も高く、次に「自分で自由に使えるお金が欲しいので」23.7%が続く。40-69歳では「自分で自由に使えるお金が欲しいので」32.5%が最も高く、次に「家事・育児等と両立がしやすいので」31.7%が続く。年代で10%ポイント以上差がある項目はなかった。
- ・正規雇用労働者と比較すると、非正規雇用労働者では、どちらの年代でも「家事・育児等と両立がしやすいので」「仕事の内容で負荷がかからないので」「その形でしか雇用されないのでは」が10%ポイント以上高い。20-39歳では、「健康・体調の都合で」も10%ポイント以上高い。

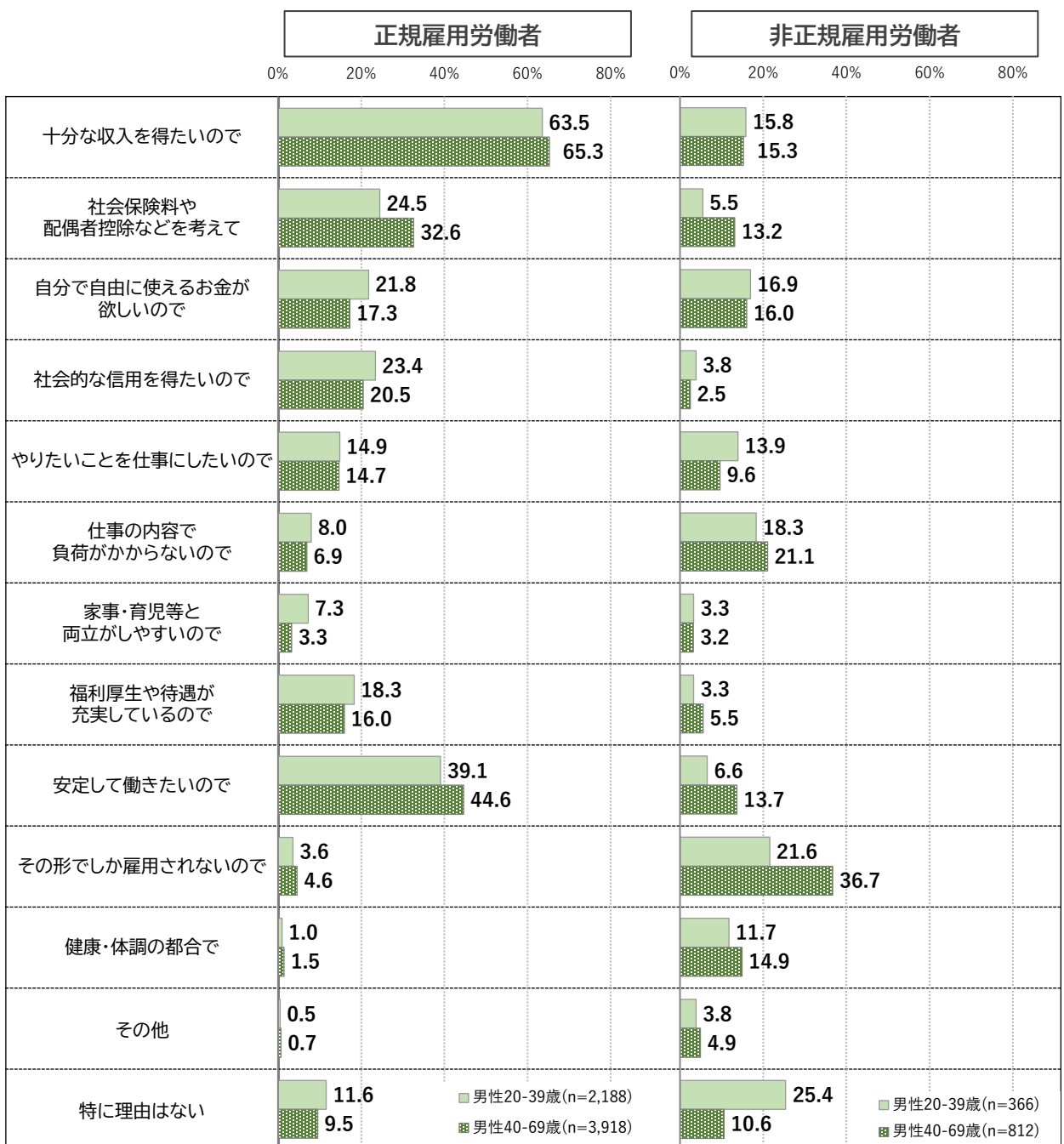
女性年代別



(2) 現在の職業・雇用形態で働いている理由(男性、年代別)

- ・男性について、20-39歳、40-69歳の年代別に見てみると、正規雇用労働者では、どちらの年代でも「十分な収入を得たいので」が6割強と最も高く、次に「安定して働きたいので」が続く。年代で10%ポイント以上差がある項目はない。
- ・非正規雇用労働者では、40-69歳では「その形でしか雇用されないので」36.7%が最も高く、20-39歳(21.6%)と10%ポイント以上差がある。一方、20-39歳では「特に理由はない」25.4%が最も高い。
- ・正規雇用労働者と比較すると、非正規雇用労働者では、どちらの年代でも「仕事の内容で負荷がかからないので」「その形でしか雇用されないので」「健康・体調の都合で」が10%ポイント以上高い。また20-39歳では「特に理由はない」も非正規雇用労働者の方が10%ポイント以上高い。

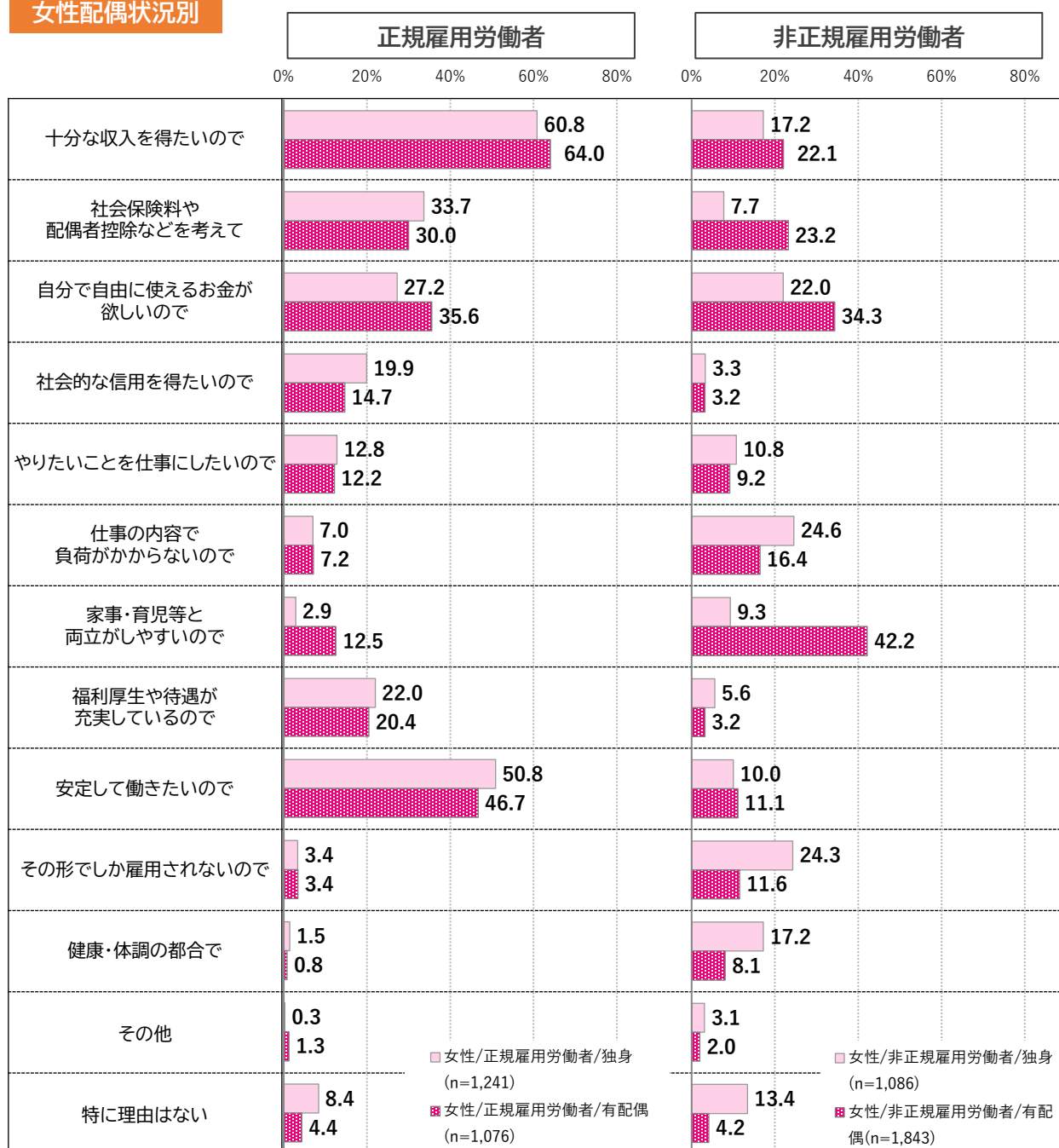
男性年代別



(2) 現在の職業・雇用形態で働いている理由(女性、配偶状況別)

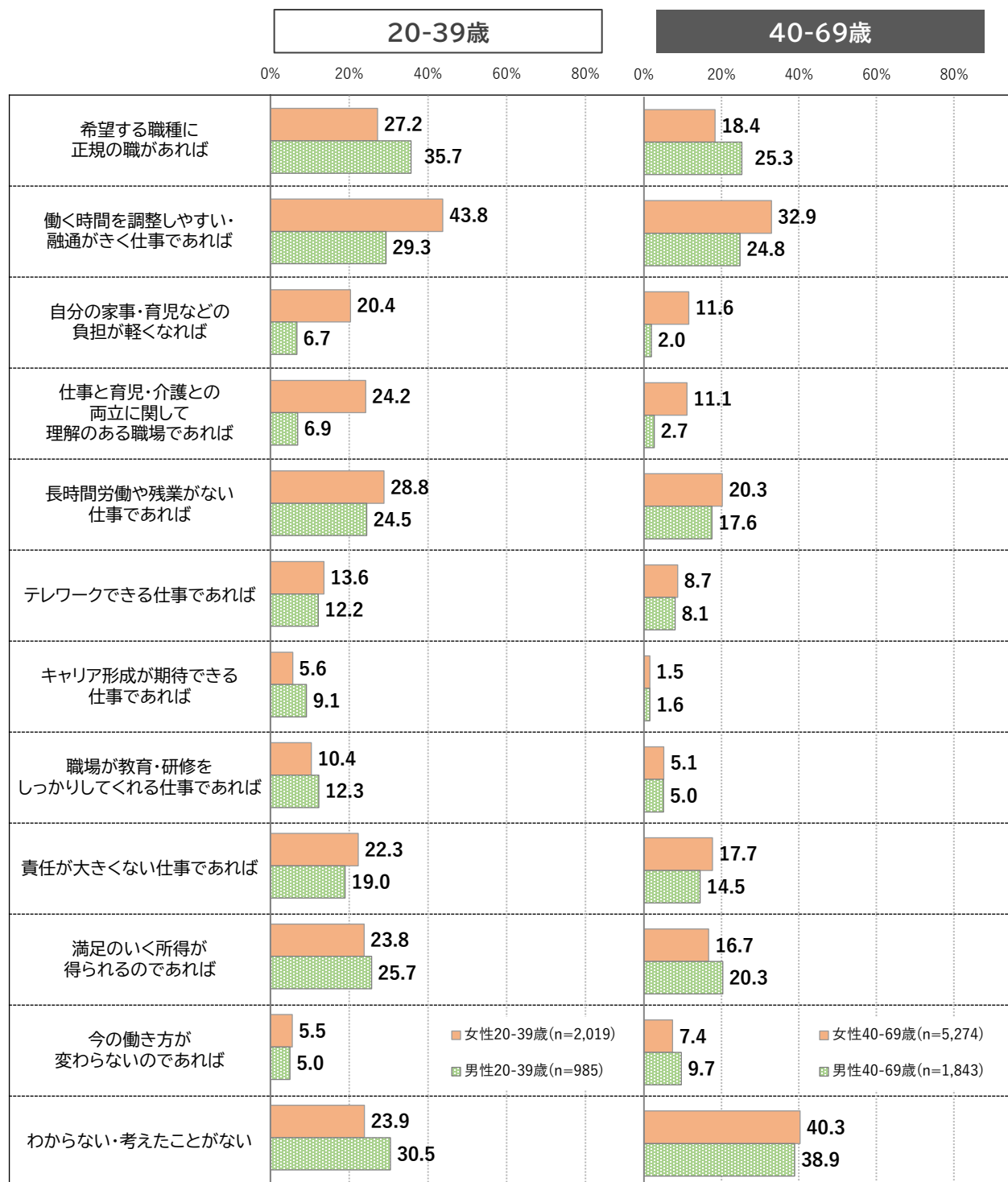
- ・女性について、配偶状況別に見てみると、正規雇用労働者では、どちらの区分でも「十分な収入を得たいので」が6割強と最も高く、次に「安定して働きたいので」が続く。10%ポイント以上差がある項目はなかった。
- ・非正規雇用労働者では、独身では「仕事の内容で負荷がかからないので」が24.6%と最も高く、次に「その形でしか雇用されないのでは」24.3%続く。有配偶では「家事・育児等と両立がしやすいので」42.2%が最も高く、次に「自分で自由に使えるお金が欲しいので」34.3%が続く。なお、独身の方が「その形でしか雇用されないのでは」が10%ポイント以上高く、有配偶の方が「社会保険料や配偶者控除などを考えて」「自分で自由に使えるお金が欲しいので」「家事・育児等と両立がしやすいので」が10%ポイント以上高い。
- ・非正規雇用労働者について、正規雇用労働者と比較すると、独身では「仕事の内容で負荷がかからないので」「その形でしか雇用されないのでは」「健康・体調の都合で」、有配偶では「家事・育児等と両立がしやすいので」が10%ポイント以上高い。

女性配偶状況別



(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(非正規雇用労働者もしくは無職者対象)

- ・20-39歳、40-69歳の年代別に見てみると、20-39歳については、女性では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」43.8%が最も高く、次に「長時間労働や残業がない仕事であれば」28.8%、「希望する職種に正規の職があれば」27.2%が続く。
- ・40-69歳については、女性では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」32.9%が最も高く、次に「長時間労働や残業がない仕事であれば」20.3%が続くが、「わからない・考えたことがない」も40.3%と高い。
- ・男女で比較すると、20-39歳では、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は女性の方が10%ポイント以上高い。



(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(非正規雇用労働者対象・産業別)

※対象数30人以上かつ30%以上のセルに色掛け

女性	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
	n=25	n=1	n=55	n=302	n=26	n=48	n=88	n=75	n=461	n=92	n=36	n=293	n=184	n=450	n=504	n=289
希望する職種に正規の職があれば	24.0	100.0	25.5	30.5	30.8	45.8	27.3	29.3	20.6	45.7	22.2	19.5	29.3	21.3	29.0	27.7
働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば	36.0	100.0	40.0	39.1	50.0	35.4	42.0	37.3	41.2	47.8	25.0	38.6	34.8	42.9	39.5	38.1
自分の家事・育児などの負担が軽くなれば	8.0	-	20.0	14.2	11.5	6.3	17.0	9.3	15.2	12.0	16.7	14.0	12.5	20.7	13.1	14.5
仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	8.0	-	18.2	16.2	7.7	4.2	10.2	16.0	13.4	16.3	11.1	15.7	15.8	19.1	14.3	15.2
長時間労働や残業がない仕事であれば	24.0	-	23.6	22.8	30.8	31.3	34.1	25.3	22.8	35.9	25.0	23.2	27.2	26.7	27.8	20.1
テレワークできる仕事であれば	8.0	-	14.5	7.3	7.7	14.6	8.0	14.7	6.5	14.1	19.4	3.4	9.8	4.4	10.3	10.0
キャリア形成が期待できる仕事であれば	-	-	1.8	1.3	3.8	4.2	4.5	2.7	3.3	3.3	2.8	3.4	5.4	0.9	0.8	3.1
職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば	4.0	-	7.3	6.3	7.7	4.2	6.8	6.7	8.9	13.0	2.8	5.8	6.5	4.7	5.6	6.9
責任が大きくない仕事であれば	20.0	-	14.5	24.2	38.5	16.7	22.7	28.0	22.6	25.0	19.4	20.8	18.5	21.3	23.2	17.6
満足のいく所得が得られるのであれば	16.0	100.0	27.3	28.1	23.1	25.0	28.4	24.0	20.4	31.5	22.2	19.1	21.2	21.1	23.4	19.4
今の働き方が変わらないのであれば	24.0	-	10.9	18.5	19.2	25.0	22.7	25.3	15.0	20.7	25.0	14.7	17.4	18.7	16.9	13.5
わからない・考えたことがない	20.0	-	14.5	18.9	11.5	10.4	13.6	21.3	30.4	13.0	16.7	27.6	23.4	18.9	25.0	29.1

男性	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
	n=13	n=4	n=30	n=215	n=7	n=50	n=98	n=28	n=92	n=23	n=39	n=50	n=81	n=71	n=253	n=124
希望する職種に正規の職があれば	30.8	-	46.7	43.7	14.3	34.0	32.7	32.1	32.6	30.4	25.6	36.0	38.3	28.2	36.8	29.8
働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば	38.5	25.0	23.3	21.9	14.3	26.0	24.5	28.6	41.3	17.4	35.9	26.0	27.2	31.0	30.8	25.0
自分の家事・育児などの負担が軽くなれば	15.4	50.0	3.3	2.8	14.3	6.0	2.0	-	2.2	4.3	2.6	6.0	4.9	1.4	4.0	0.8
仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	7.7	-	3.3	3.7	28.6	-	3.1	3.6	5.4	-	5.1	2.0	4.9	2.8	4.0	1.6
長時間労働や残業がない仕事であれば	38.5	25.0	23.3	18.6	42.9	26.0	15.3	14.3	27.2	8.7	15.4	26.0	19.8	18.3	21.3	21.0
テレワークできる仕事であれば	-	25.0	3.3	7.4	28.6	24.0	5.1	3.6	5.4	-	5.1	2.0	7.4	1.4	7.5	8.1
キャリア形成が期待できる仕事であれば	7.7	-	3.3	3.7	-	8.0	1.0	10.7	3.3	-	-	4.0	6.2	2.8	3.6	5.6
職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば	-	-	6.7	7.9	-	6.0	4.1	-	4.3	-	5.1	10.0	8.6	9.9	6.3	8.1
責任が大きくない仕事であれば	30.8	-	13.3	17.7	28.6	22.0	18.4	21.4	17.4	8.7	7.7	20.0	23.5	18.3	19.0	21.0
満足のいく所得が得られるのであれば	38.5	-	23.3	31.2	14.3	30.0	28.6	21.4	20.7	21.7	20.5	28.0	25.9	12.7	26.9	21.0
今の働き方が変わらないのであれば	23.1	-	26.7	20.0	-	28.0	25.5	21.4	16.3	21.7	20.5	12.0	19.8	18.3	16.2	19.4
わからない・考えたことがない	15.4	-	16.7	17.7	14.3	14.0	20.4	21.4	19.6	34.8	23.1	36.0	19.8	26.8	24.9	31.5

※該当なしは「-」と表示

(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(非正規雇用労働者対象・仕事の種類別)

※対象数30人以上かつ30%以上のセルに色掛け

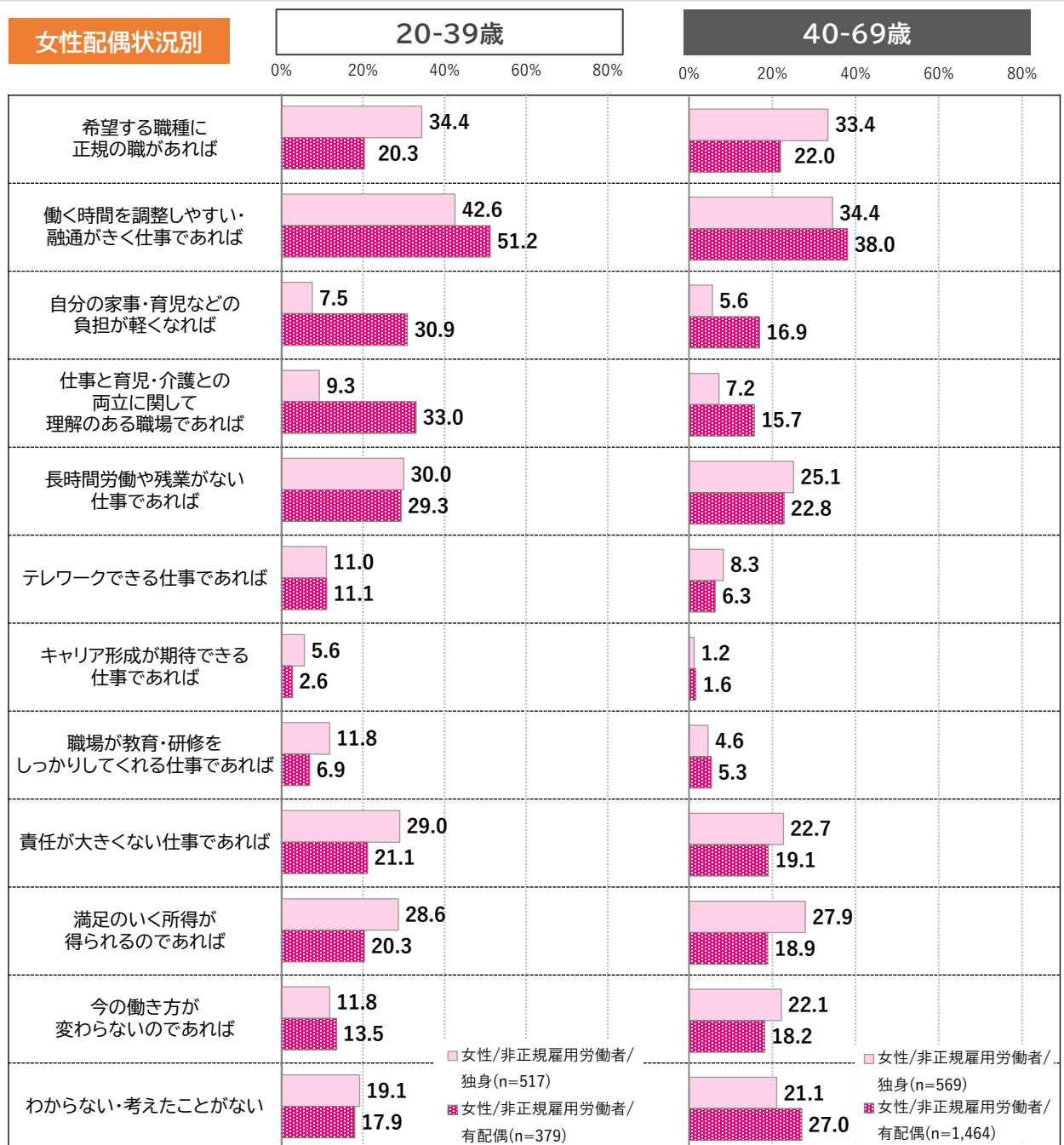
女性	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
	n=852	n=279	n=6	n=420	n=625	n=4	n=17	n=225	n=8	n=0	n=164	n=329
希望する職種に正規の職があれば	35.9	25.1	-	20.0	23.2	-	23.5	24.4	37.5	-	20.7	20.1
働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば	38.3	40.5	-	39.5	42.4	25.0	41.2	41.8	25.0	-	41.5	38.0
自分の家事・育児などの負担が軽くなれば	11.9	19.4	-	14.8	16.2	-	11.8	14.7	12.5	-	18.3	15.8
仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	14.9	19.4	50.0	14.3	15.7	-	5.9	16.4	-	-	11.6	13.7
長時間労働や残業がない仕事であれば	26.5	26.9	33.3	22.1	27.4	25.0	23.5	23.6	25.0	-	28.0	21.3
テレワークできる仕事であれば	13.8	7.2	-	6.4	5.0	25.0	5.9	5.3	-	-	5.5	5.8
キャリア形成が期待できる仕事であれば	2.3	2.9	33.3	2.9	2.4	-	-	0.9	12.5	-	1.8	2.1
職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば	6.3	4.3	-	8.1	6.7	25.0	-	6.2	12.5	-	6.7	6.7
責任が大きくない仕事であれば	20.9	19.0	-	20.5	23.7	50.0	5.9	25.8	25.0	-	23.2	21.9
満足のいく所得が得られるのであれば	24.9	25.8	-	19.3	21.4	50.0	11.8	27.1	37.5	-	23.8	16.7
今の働き方が変わらないのであれば	19.8	16.1	-	13.6	15.8	-	17.6	17.3	25.0	-	21.3	16.7
わからない・考えたことがない	17.0	17.6	-	32.1	24.5	50.0	23.5	21.8	12.5	-	26.8	30.7

男性	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
	n=214	n=158	n=16	n=98	n=185	n=43	n=9	n=154	n=28	n=17	n=121	n=135
希望する職種に正規の職があれば	34.1	33.5	12.5	37.8	35.7	39.5	22.2	45.5	50.0	64.7	31.4	25.2
働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば	22.0	29.7	25.0	35.7	33.0	32.6	55.6	20.1	21.4	17.6	39.7	20.0
自分の家事・育児などの負担が軽くなれば	2.3	3.8	-	5.1	4.9	2.3	22.2	2.6	-	11.8	4.1	0.7
仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	1.9	3.2	18.8	7.1	4.3	4.7	11.1	1.9	-	5.9	2.5	3.7
長時間労働や残業がない仕事であれば	16.4	21.5	18.8	23.5	24.3	20.9	44.4	17.5	14.3	23.5	24.8	18.5
テレワークできる仕事であれば	12.1	11.4	6.3	6.1	4.9	7.0	-	3.9	-	11.8	4.1	4.4
キャリア形成が期待できる仕事であれば	2.8	7.6	-	8.2	4.3	2.3	11.1	2.6	-	5.9	1.7	2.2
職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば	4.2	7.6	6.3	7.1	8.6	7.0	-	7.8	3.6	5.9	5.0	6.7
責任が大きくない仕事であれば	14.0	20.9	6.3	14.3	18.9	18.6	33.3	16.9	21.4	11.8	31.4	17.8
満足のいく所得が得られるのであれば	27.6	28.5	25.0	20.4	20.0	25.6	44.4	32.5	50.0	11.8	26.4	15.6
今の働き方が変わらないのであれば	24.8	21.5	37.5	16.3	13.5	9.3	22.2	16.9	28.6	5.9	23.1	17.8
わからない・考えたことがない	22.0	22.2	12.5	17.3	25.9	20.9	22.2	17.5	3.6	17.6	19.0	40.7

※該当なしは「-」と表示

(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(女性非正規雇用労働者対象)

- ・女性について、配偶状況別に見てみると、20-39歳では、どちらの区分でも「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高い。なお、「希望する職種に正規の職があれば」は独身の方が10%ポイント以上高く、「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は有配偶の方が10%ポイント以上高い。
- ・40-69歳では、独身では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」34.4%が最も高く、次に「希望する職種に正規の職があれば」33.4%が続く。有配偶では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」38.0%が最も高いが、「わからない・考えたことがない」も27.0%と高い。
- ・年代別で比較すると、独身の方が年代差は小さく、全体的に似た傾向にあるが、「今の働き方が変わらないのであれば」は40-69歳の方が10%ポイント以上高い。有配偶では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は20-39歳の方が10%ポイント以上高い。

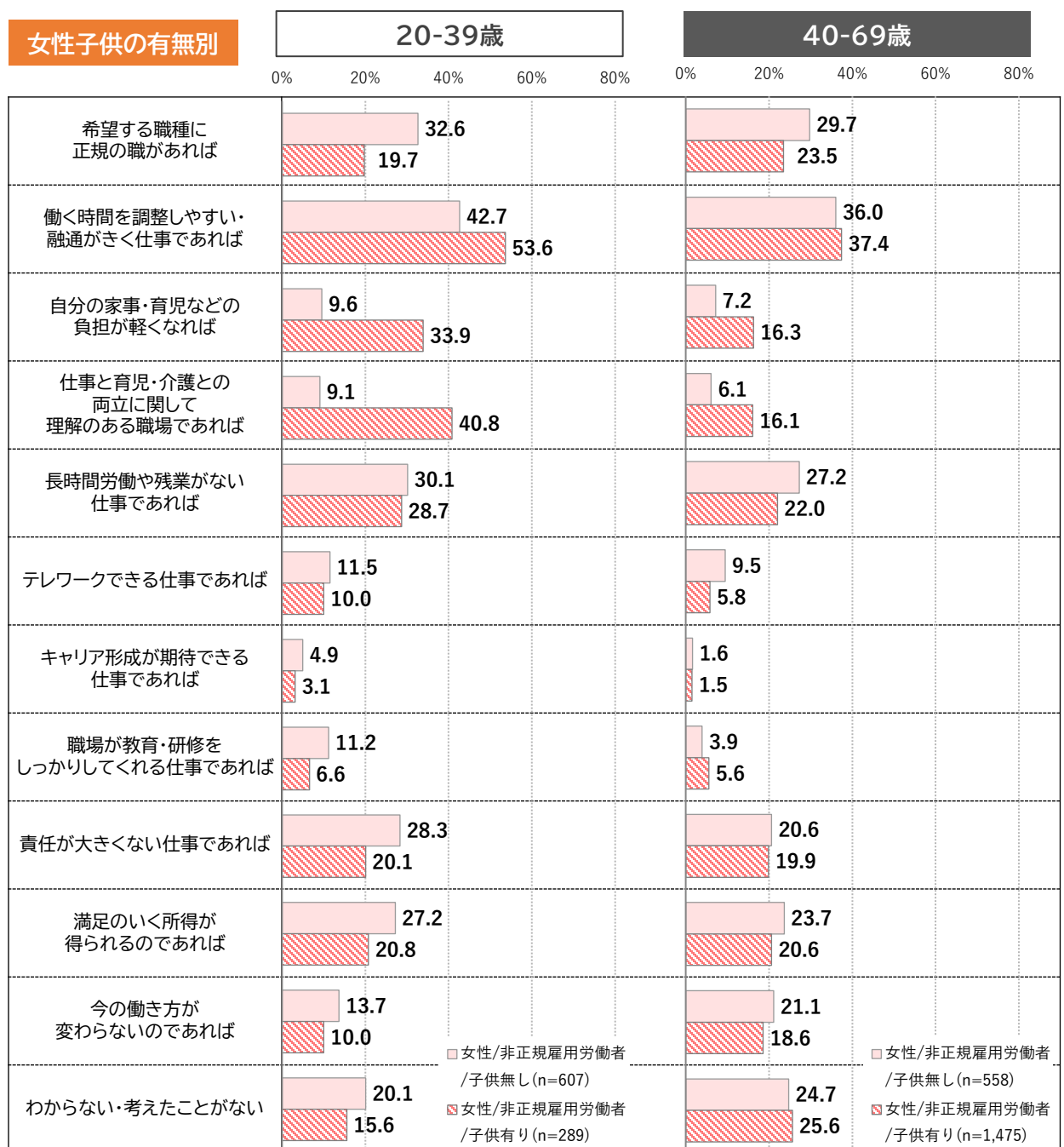


(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(女性非正規雇用労働者対象)

・女性について子供の有無別で見ると、20-39歳では、子供の有無にかかわらず、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高い。また、「希望する職種に正規の職があれば」は子供無しの方が10%ポイント以上高く、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は子供有りの方が10%ポイント以上高い。

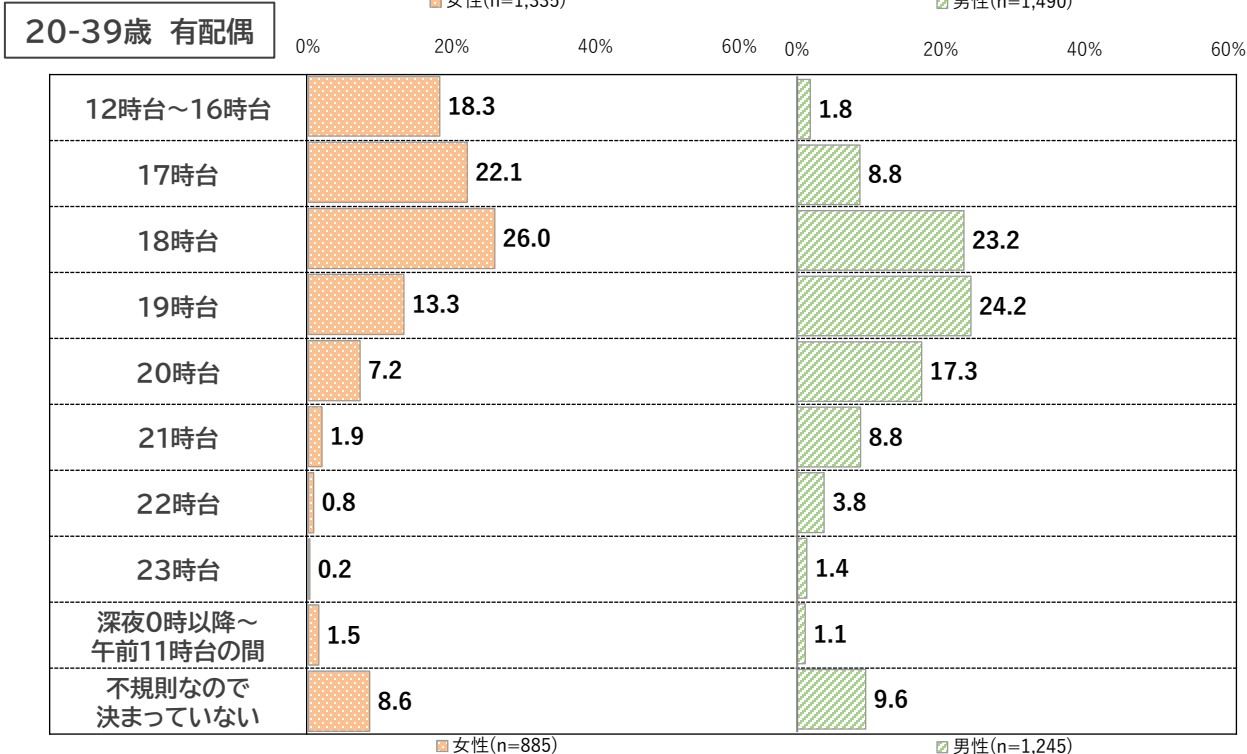
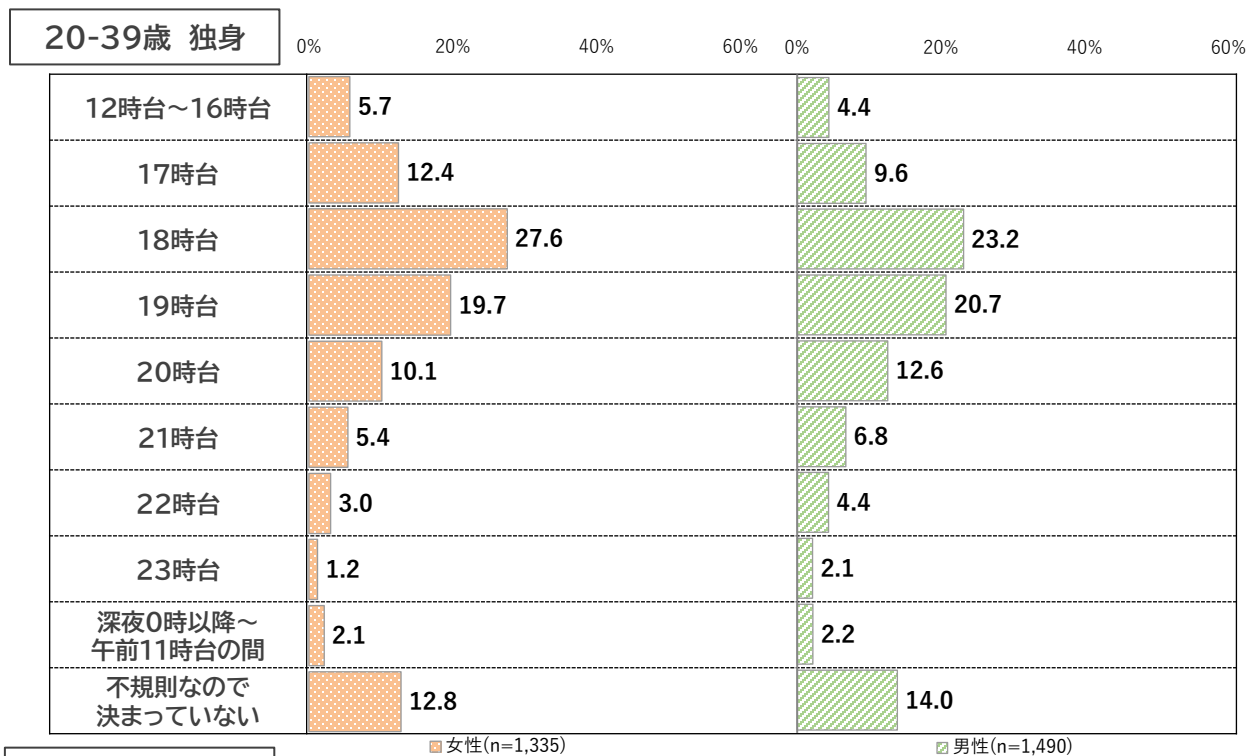
・40-69歳では、子供の有無にかかわらず、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高い。「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は子供有りの方が10%ポイント高い。

・年代別で比較すると、子供無しの方が年代差は少なく、10%ポイント以上差がある項目はなかった。一方、子供有りでは、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は20-39歳の方が10%ポイント以上高い。



(4) 仕事がある日の平均的な帰宅時間(有職者対象、配偶状況別)(20-39歳)

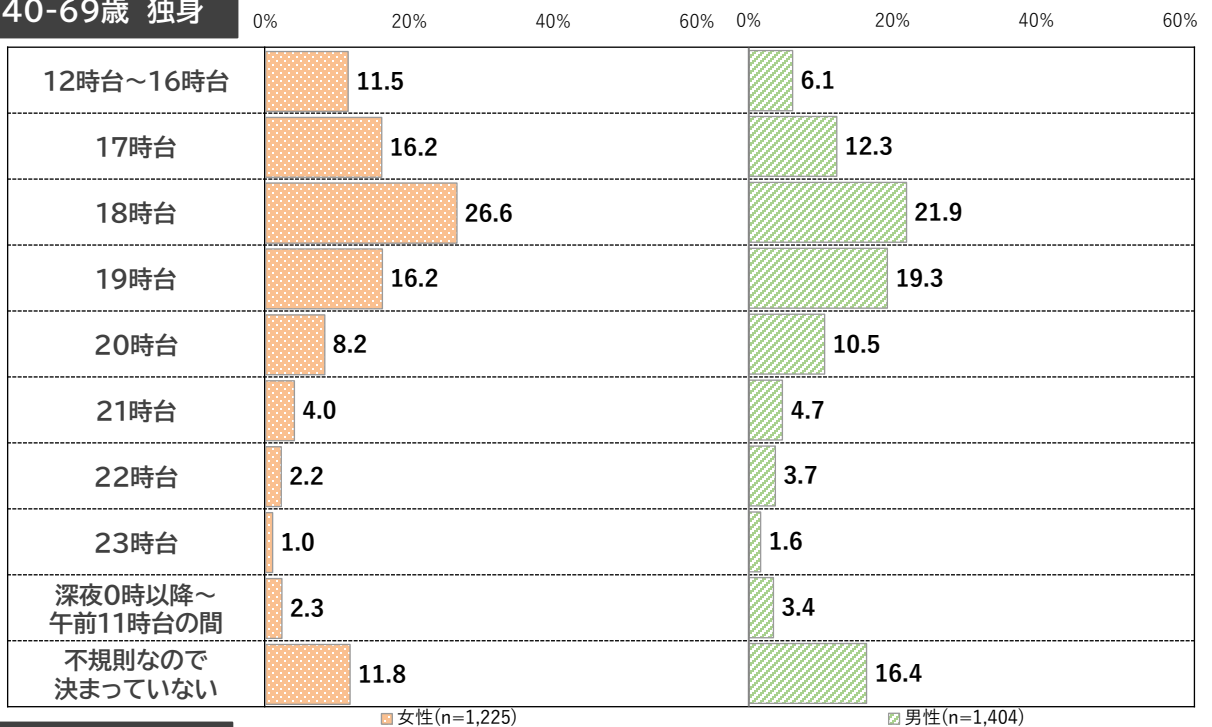
- 20-39歳の人について配偶状況別で見ると、独身では、「18時台」が女性で27.6%、男性で23.2%と男女ともに最も高く、どちらも次に「19時台」が続く。
- 有配偶では、女性は「18時台」26.0%が最も高く、次に「17時台」22.1%が続く。男性は「19時台」24.2%が最も高く、次に「18時台」23.2%が続く。
- 男女で比較すると、独身では、時間の分布は全体的に似た傾向にあるが、有配偶では、女性は18時台以前の時間帯で7割弱を占めるのに対し、男性は19時台以降の時間帯で6割弱と、傾向が異なっている。



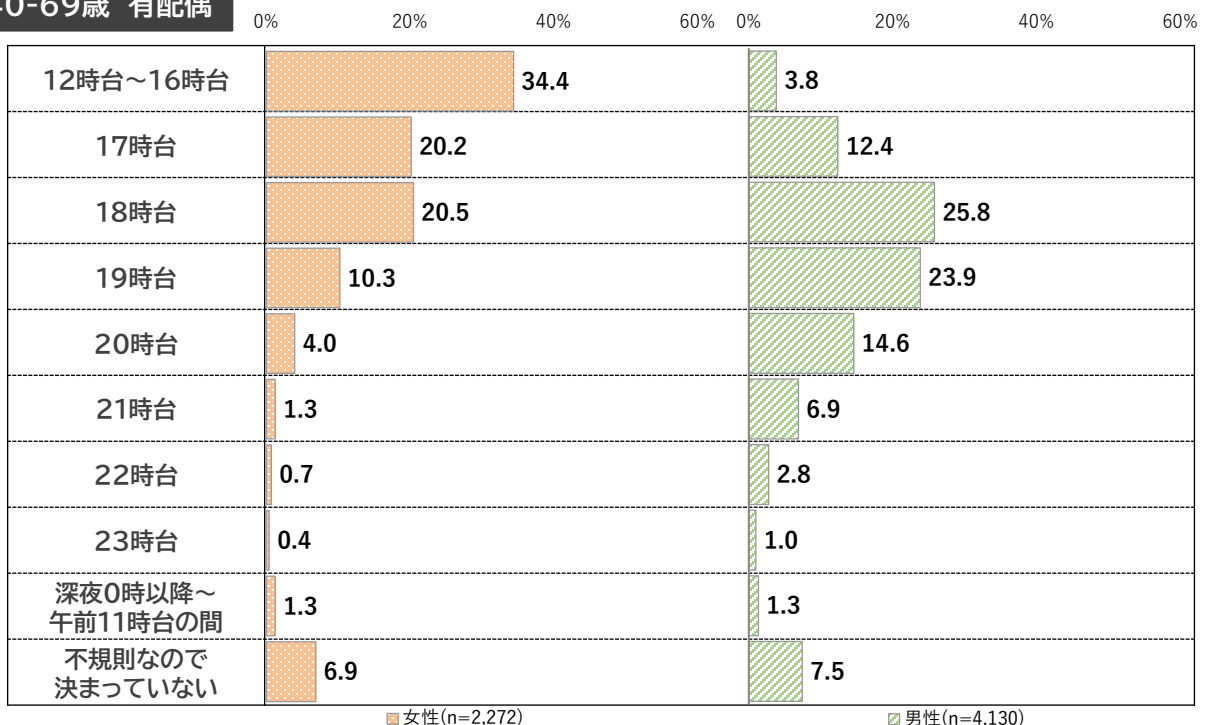
(4) 仕事がある日の平均的な帰宅時間(有職者対象、配偶状況別)(40-69歳)

- 40-69歳の人について配偶状況別に見てみると、独身では、男女ともに「18時台」が最も高く、女性で26.6%、男性で21.9%となっている。女性では次に「17時台」「19時台」がどちらも16.2%と続き、男性では次に「19時台」19.3%が続く。
- 有配偶では、女性は「12時台～16時台」34.4%が最も高く、次に「18時台」20.5%、「17時台」20.2%が続く。男性は「18時台」25.8%が最も高く、「19時台」23.9%が続く。
- 男女で比較すると、独身では、時間の分布は全体的に似た傾向にあるが、有配偶では、女性は18時台以前の時間帯で75%を占めるのに対し、男性は19時台以降の時間帯で5割と、傾向が異なっている。

40-69歳 独身

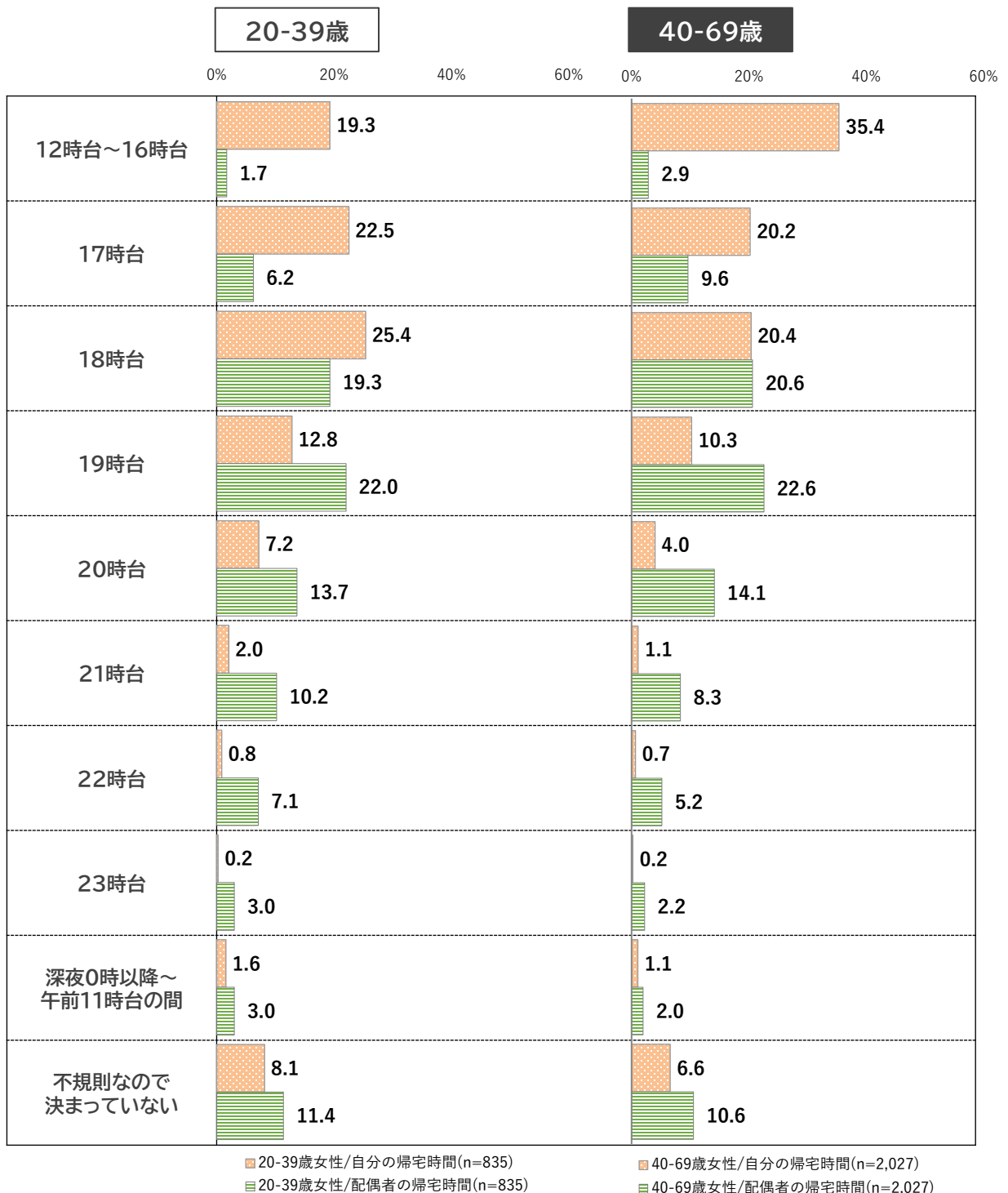


40-69歳 有配偶



(4) 仕事がある日の、自分と配偶者の平均的な帰宅時間(共働き・配偶者と同居している女性)

・配偶者と同居していて、自分も配偶者も働いている共働き女性の、「自分の帰宅時間」と「配偶者の帰宅時間」を年代別に比較すると、20-39歳では、18時台以前の時間帯は「自分の帰宅時間」が高く、19時台以降の時間帯は「配偶者の帰宅時間」が高い。
 ・40-69歳では、17時台以前の時間帯は「自分の帰宅時間」が高く、18時台は同程度、19時台以降は「配偶者の帰宅時間」が高い。



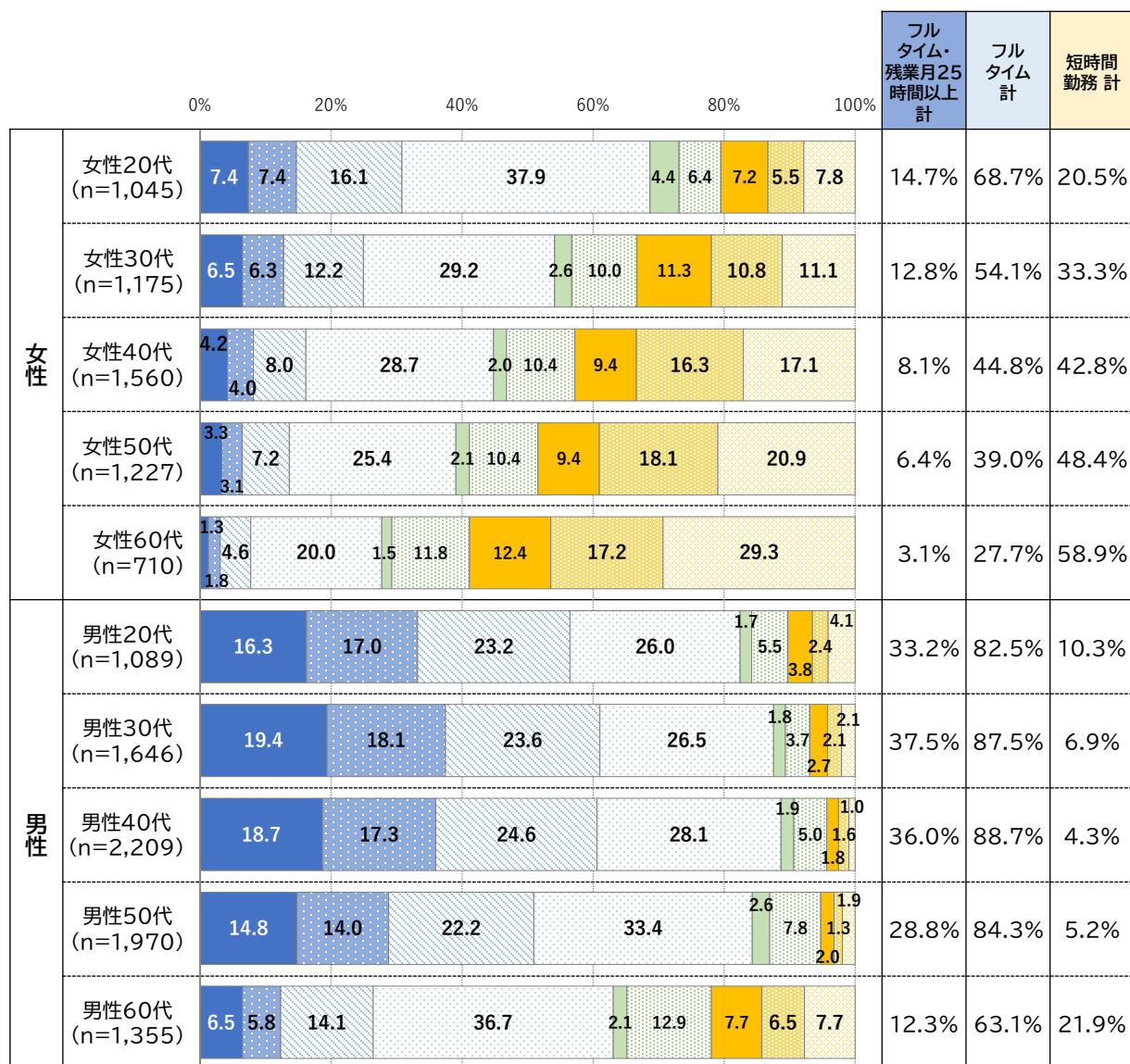
※配偶者の帰宅時間は「わからない 知らない」を除いて表章しているため、合計が100%にならない。

(5) 勤務形態(勤務時間)(有職者、年代別)

・年代別にフルタイムと短時間勤務の割合を見てみると、女性では、20代～30代ではフルタイムの割合が、短時間勤務の割合より20%ポイント以上高いが、40代ではどちらも4割強、50代以上では短時間勤務の割合が上回る。「フルタイム・残業月25時間以上計」の割合は、女性20代～30代で12～15%程度となっており、40代以上では1割を切っている。

・男性では、20～50代のいずれもフルタイムの割合が8割強、60代でも6割強となっている。「フルタイム・残業月25時間以上計」の割合は、男性30～40代で36～38%と最も高く、男性20代で33.2%、男性50代で28.8%となっている。また、「フルタイム・残業月46時間以上」(長時間労働)の割合についても、男性20～40代が高い。

・男女で比較すると、全ての年代で男性でフルタイム、女性で短時間勤務の割合が高く、特に30代以上でその差は大きい。またフルタイムにおいても、女性は「残業がほとんどない(月9時間以下)」の占める割合は全ての年代において5～7割であるのに対し、男性ではフルタイムにおける「残業がほとんどない(月9時間以下)」割合は、20～50代においては3～4割となっている。



- フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事
- フルタイムで残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事
- フルタイムで残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事
- フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間を超える仕事
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間以下の仕事
- 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 短時間勤務(週20時間未満)

※フルタイム 残業月25時間以上(計)=(月46時間以上残業)+(月25時間～45時間残業)の計

※フルタイム(計)=(月46時間以上残業)+(月25時間～45時間残業)+(月10時間～24時間残業)+(月9時間以下残業)の計

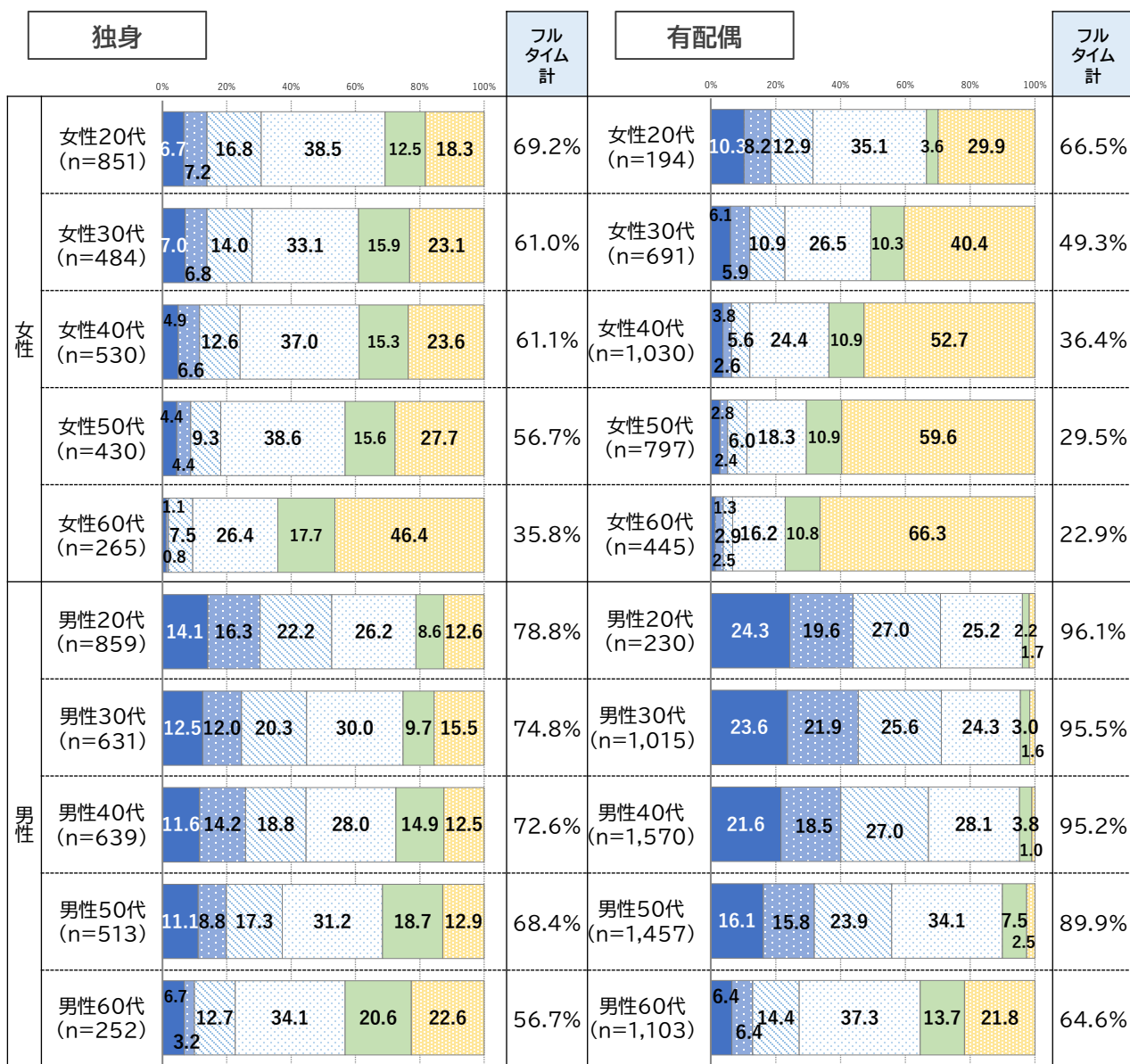
※短時間勤務(計)=短時間勤務(週30時間以上40時間未満)+(週20時間以上30時間未満)+(週20時間未満)の計

(5) 勤務形態(勤務時間)(有職者、年代、配偶状況別)

・年代、配偶状況別にフルタイムと短時間勤務の割合を見てみると、女性では、20～40代の「独身」においては、フルタイムの割合の方が、30%ポイント以上高い。「有配偶」においては、20代ではフルタイムの割合の方が30%ポイント以上高いが、30代ではフルタイムの割合が49.3%、短時間勤務の割合が40.4%とその差が小さくなる。40代以上では短時間勤務の割合の方が高く、年代が上になるほどその差は大きくなる。

・男性では、20～40代においては、「独身」ではフルタイムの割合が70%台、「有配偶」ではフルタイムの割合が95%以上となっている。更に50代でも「独身」ではフルタイムの割合が68.4%、「有配偶」では89.9%となっている。

・男女で比較すると、「独身」においては、フルタイムの割合は男性の方が高いものの、20～50代ではその差は10%ポイント程度。対して「有配偶」では、全ての年代でフルタイムの割合は、男性の方が約30%ポイント以上高く、特に40～50代でその差が大きい。またフルタイムにおける長時間勤務(残業月46時間以上)の状況についてみると、配偶状況にかかわらず男性の方が高いが、「独身」では、全ての年代でその差は10%ポイント以内となっている。一方「有配偶」の20～50代では、その差は10%ポイント以上となっており、特に20～40代では全体の2割を占めている。



■ フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事
 ■ フルタイムで残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事

■ フルタイムで残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事
 ■ フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事

■ 時間を調整・融通がきく仕事
 ■ 短時間勤務

(6) 現在の勤務時間による影響(有職者・フルタイム/長時間労働(残業月46時間以上)の男性対象)

・ポジティブ要素で累計値が5割を超える項目は「自分がやりたい仕事ができる」「昇進・昇給により影響を与える」「仕事で周りに負担をかけることがない」「職場の人間関係が円滑になる」、ネガティブ要素で累計値が5割を超える項目は、「趣味等の時間を十分取りにくい」「家事・育児等の時間を十分取りにくい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りにくい」「知人などとの繋がりが減る」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができない」。

フルタイム/長時間労働 男性

(n=1,289)

※「Aに近い」+「どちらかといえばAに近い」「Bに近い」+「どちらかといえばBに近い」のうち、累計が50%以上のセルに色掛け

計		A	B		計
64.2%		自分がやりたい仕事ができる	自分がやりたい仕事ができない		35.8%
57.2%		昇進・昇給により影響を与える	昇進・昇給により影響を与えない		42.8%
59.3%		仕事で周りに負担をかけることがない	仕事で周りに負担をかけてしまう		40.7%
59.8%		職場での人間関係が円滑になる	職場での人間関係に支障をきたす		40.2%
43.2%		趣味等の時間を十分取りやすい	趣味等の時間を十分取りにくい		56.8%
40.7%		家事・育児等の時間を十分取りやすい	家事・育児等の時間を十分取りにくい		59.3%
43.3%		家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい	家族とのコミュニケーションの時間を取りにくい		56.7%
42.3%		知人などとの繋がりが増える	知人などとの繋がりが減る		57.7%
41.0%		ワーク・ライフ・バランスを保つことができる	ワーク・ライフ・バランスを保つことができない		59.0%

■ Aに近い

▨ どちらかといえばAに近い

■ Bに近い

▨ どちらかといえばBに近い

(6) 現在の勤務時間による影響(有職者・短時間勤務の女性対象)

・ポジティブ要素で累計値が5割を超える項目が多く、「自分がやりたい仕事ができる」「仕事で周りに負担をかけることがない」「職場の人間関係が円滑になる」「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」「知人などとの繋がりが増える」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」。一方、ネガティブ要素で累計値が5割を超える項目は「昇進・昇給により影響を与えない」。

短時間勤務 女性

(n=2,285)

※「Aに近い」+「どちらかといえばAに近い」「Bに近い」+「どちらかといえばBに近い」のうち、累計が50%以上のセルに色掛け

計	A		B		計
72.3%	55.0	17.4	6.0	21.7	27.7%
27.0%	23.7	3.4	27.6	45.3	73.0%
73.7%	53.1	20.5	5.1	21.2	26.3%
76.5%	62.1	14.4	3.6	19.9	23.5%
78.4%	54.4	24.0	3.8	17.9	21.6%
81.3%	57.1	24.2	2.8	15.8	18.7%
80.9%	59.2	21.8	3.4	15.7	19.1%
63.9%	54.5	9.5	6.3	29.8	36.1%
78.4%	57.2	21.2	3.6	18.0	21.6%

■ Aに近い

▨ どちらかといえばAに近い

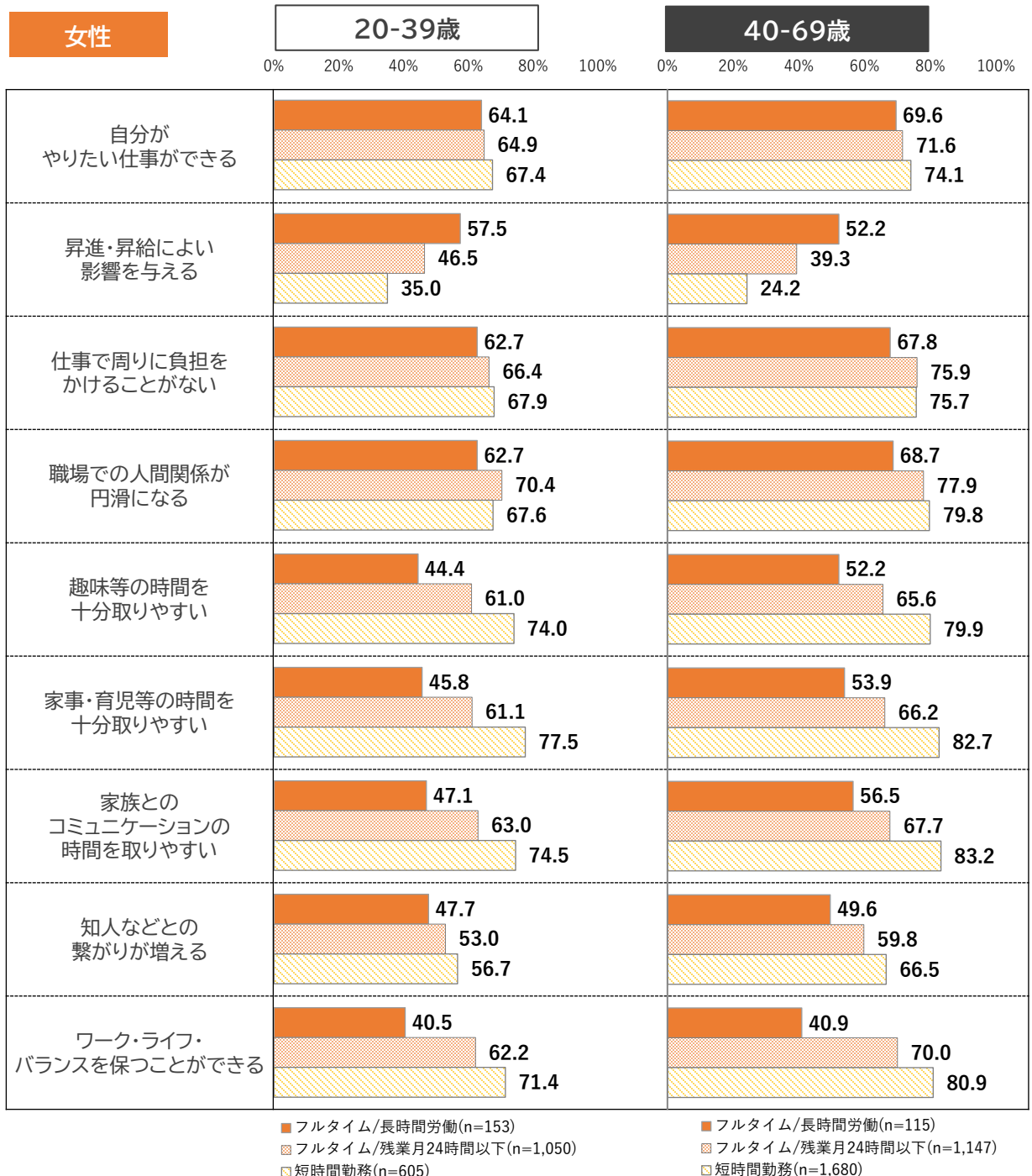
■ Bに近い

▨ どちらかといえばBに近い

(6) 現在の勤務時間による影響(有職者女性対象)

- ・女性について、20-39歳、40-69歳の年代別に現在の勤務時間による影響を見てみると、20-39歳では、「残業月46時間以上(以下「長時間労働」という。)」と「残業月24時間以下」では、「昇進・昇給による影響を与える」のみ「長時間労働」の方が10%ポイント以上高い。「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」は「残業月24時間以下」の方が10%ポイント以上高い。
- ・「短時間勤務」では、「昇進・昇給による影響を与える」が、フルタイム2区分(長時間労働、残業月24時間以下)と比べると低い。「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」については、「フルタイム/残業月24時間以下」よりも10%ポイント以上高い。
- ・40-69歳でも、20-39歳の女性と全体的に同じ傾向である。

※「Aに近い+どちらかといえばAに近い」の累計値を掲載

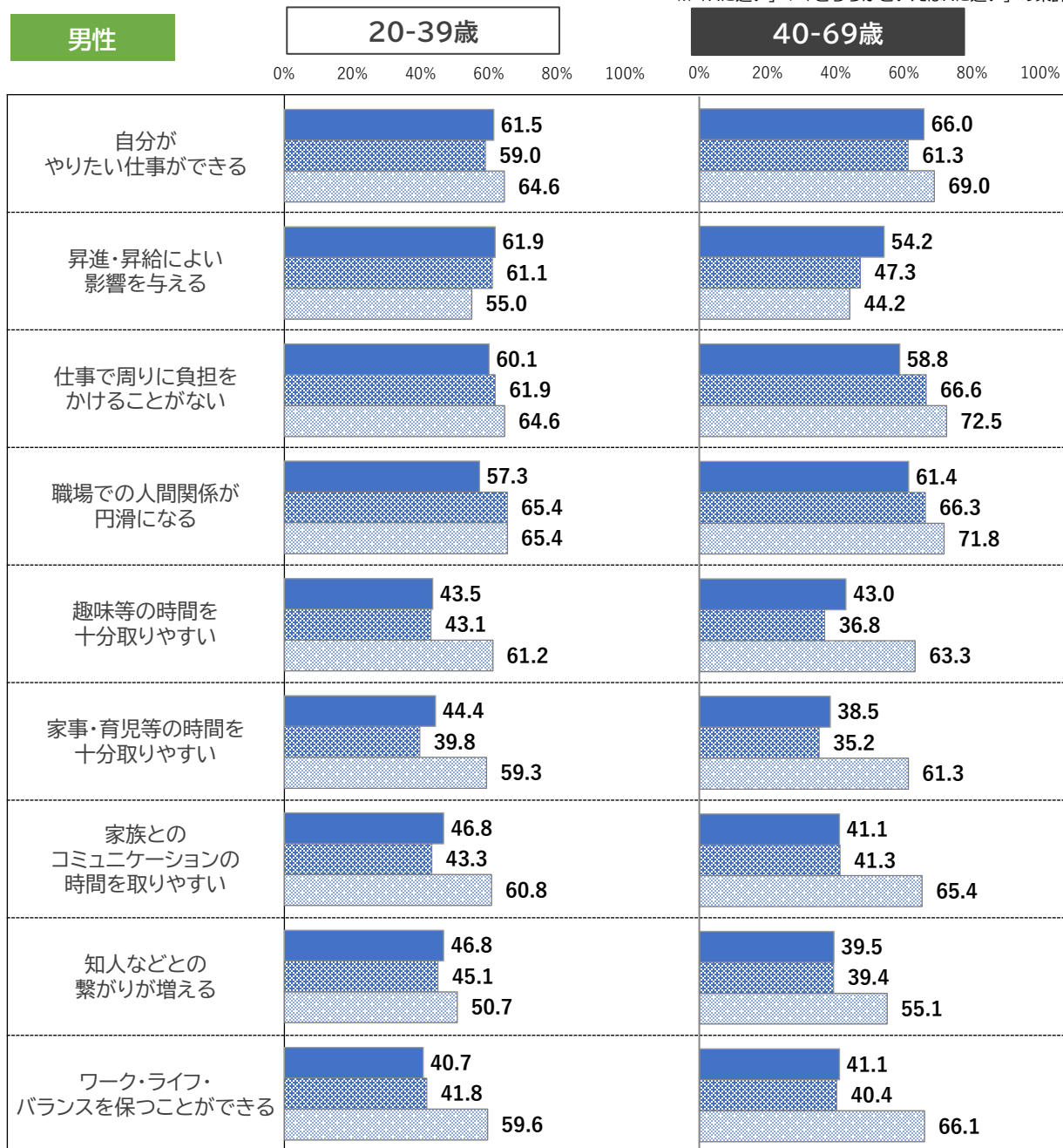


(6) 現在の勤務時間による影響(有職者・フルタイムの男性対象)

・フルタイムの男性について20-39歳、40-69歳の年代別に現在の勤務時間による影響を見てみると、20-39歳では、フルタイムにおいて「長時間労働」と「残業月24時間以下」を比較して、「長時間労働」の方が10%ポイント以上高い項目はなかった。一方、「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」は「残業月24時間以下」の方が10%ポイント以上高い。

・40-69歳では、「昇進・昇給により影響を与える」のみ「長時間労働」の方が10%ポイント高い。一方、「仕事で周りに負担をかけることがない」「職場での人間関係が円滑になる」「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」「知人などとの繋がりが増える」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」は「残業月24時間以下」の方が10%ポイント以上高い。

※「Aに近い」+「どちらかといえばAに近い」の累計値を掲載



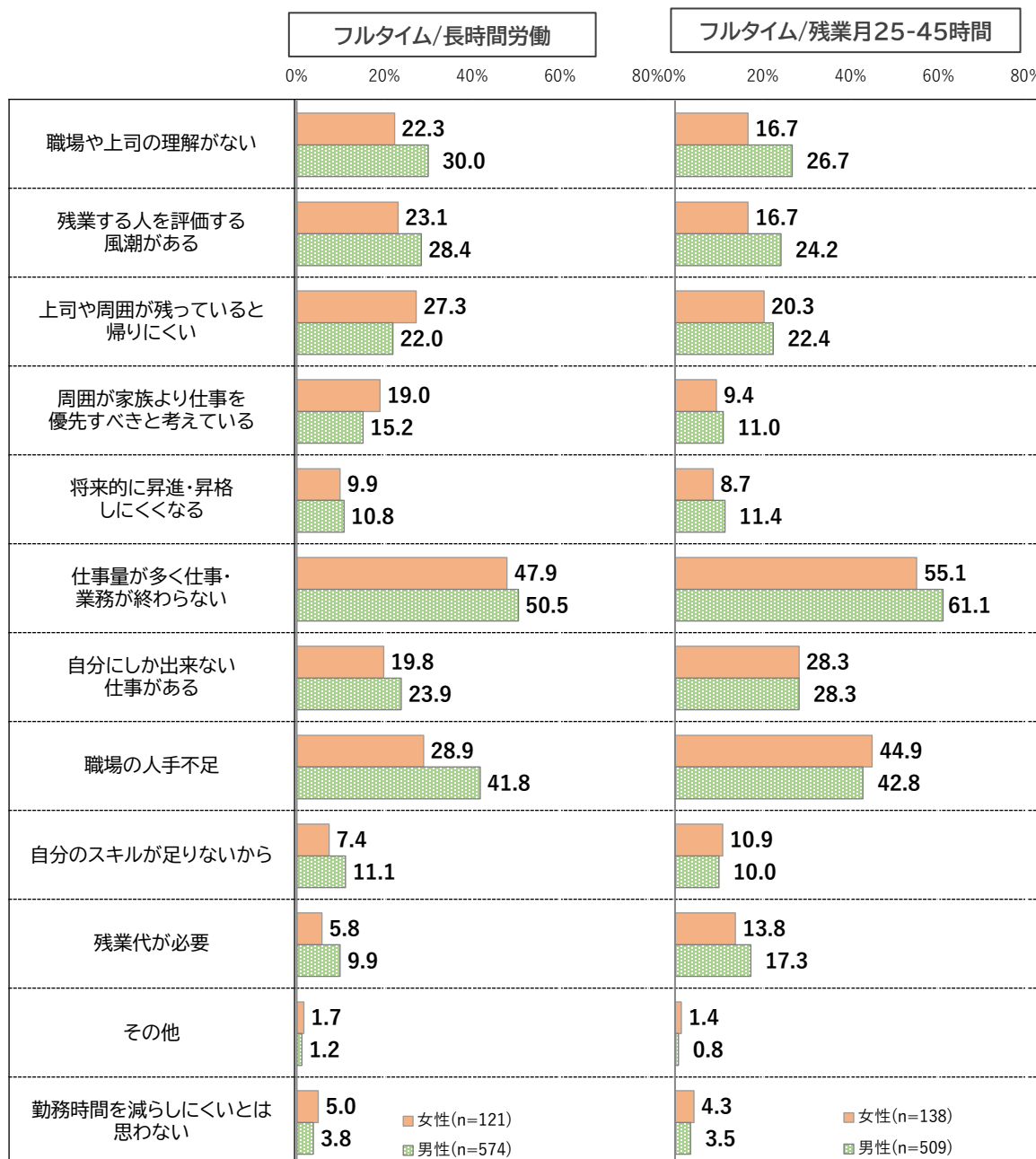
■ フルタイム/長時間労働(n=496)
 ■ フルタイム/残業月25-45時間(n=483)
 ■ フルタイム/残業月24時間以下(n=1,360)

■ フルタイム/長時間労働(n=793)
 ■ フルタイム/残業月25-45時間(n=736)
 ■ フルタイム/残業月24時間以下(n=2,946)

(7) 勤務時間を減らしにくい理由(フルタイム労働者、勤務形態別)

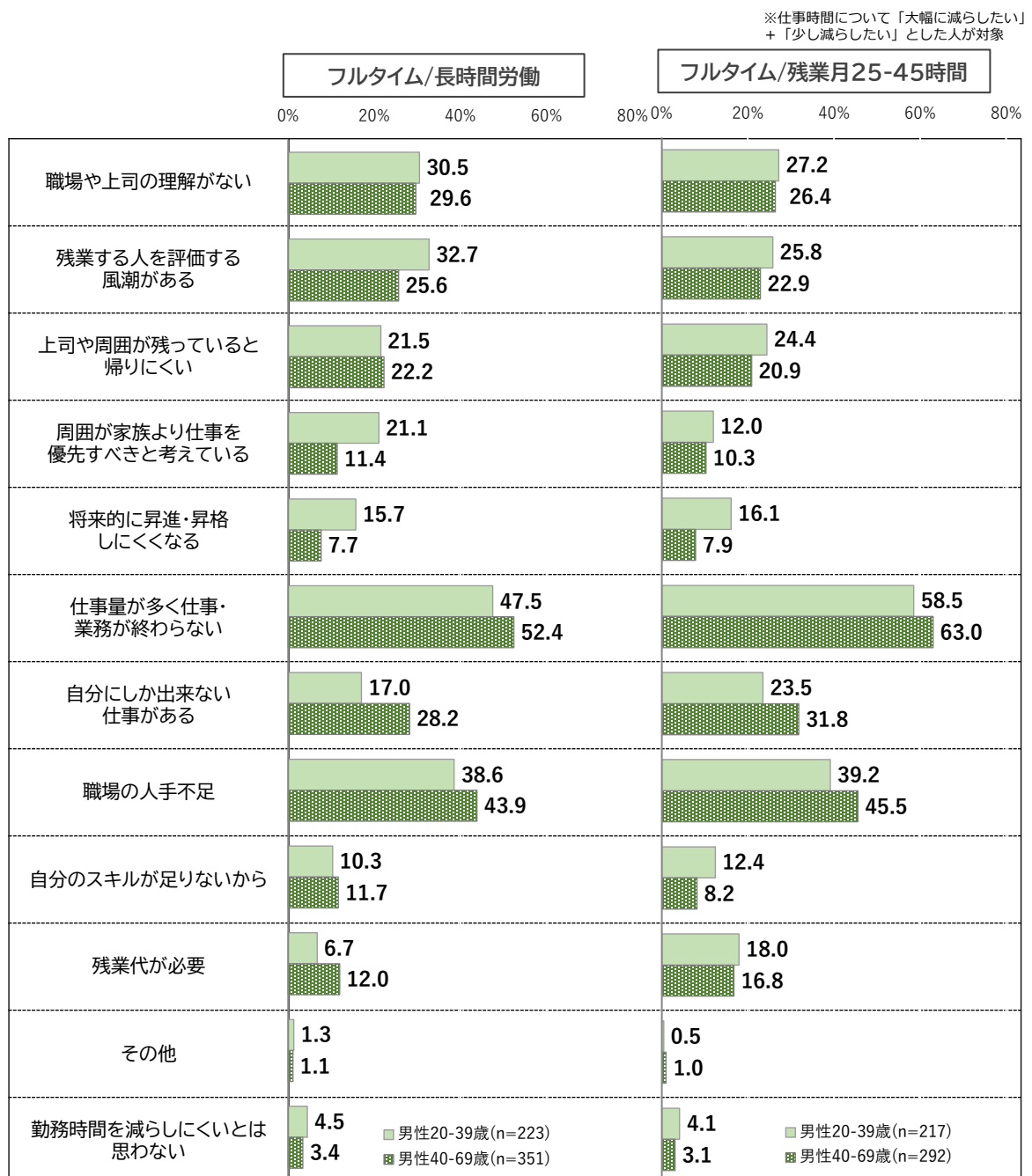
- ・「フルタイム/長時間労働」では、男女ともに「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」が5割程度で最も高い。男女ともに、次に「職場の人手不足」が続くが、男性41.8%に対し、女性28.9%と10%ポイント以上の差がある。
- ・「フルタイム/残業月25-45時間」では、男女ともに「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」が最も高く、次に「職場の人手不足」が続く。男女で比較すると「職場や上司の理解がない」で男性の方が10%ポイント以上高い。
- ・「長時間労働」と「残業月25-45時間」を比較すると、女性では「周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている」について、「長時間労働」の方が10%ポイント近く高い。一方、「職場の人手不足」は「残業月25-45時間」の方が10%ポイント以上高い。男性では、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」で「残業月25-45時間」の方が10%ポイント以上高い。

※仕事時間について「大幅に減らしたい」
+「少し減らしたい」とした人が対象



(7) 勤務時間を減らしにくい理由(フルタイム労働者、勤務形態別、男性)

- ・男性について「20-39歳」、「40-69歳」の年代別に見てみると、「フルタイム/長時間労働」では、どちらの年代でも「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」が5割程度で最も高く、次に「職場の人手不足」が4割程度で続く。また、「20-39歳」のみ「残業する人を評価する風潮がある」32.7%、「職場や上司の理解がない」30.5%と3割を超える。年代間では、「自分にしか出来ない仕事がある」については、「40-69歳」の方が10%ポイント以上高く、「周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている」は「20-39歳」の方が10%ポイント程度高い。
- ・「フルタイム/残業月25-45時間」でも、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」、「職場の人手不足」の順で高い。なお、年代間で10%ポイント以上差がある項目はない。
- ・「長時間労働」と「残業月25-45時間」で比較すると、「20-39歳」においては「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」「残業代が必要」について、「残業月25-45時間」の方が10%ポイント以上高い。「40-69歳」では、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」について、「残業月25-45時間」の方が10%ポイント以上高い。



(7) 勤務時間を減らしにくい理由(産業別)

※仕事時間について「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」とした人が対象
 ※対象数30人以上/40%以上のセルに色掛け

女性	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
	n=13	n=2	n=56	n=140	n=10	n=47	n=36	n=53	n=111	n=75	n=30	n=70	n=102	n=269	n=188	n=111
職場や上司の理解がない	7.7	-	25.0	14.3	40.0	17.0	13.9	20.8	18.9	16.0	16.7	12.9	13.7	17.5	18.1	17.1
残業する人を評価する風潮がある	30.8	50.0	10.7	12.9	20.0	21.3	16.7	18.9	9.9	8.0	20.0	7.1	9.8	7.8	12.2	15.3
上司や周囲が残っていると帰りにくい	23.1	50.0	14.3	17.9	30.0	10.6	11.1	13.2	15.3	18.7	6.7	12.9	18.6	18.6	10.6	14.4
周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている	15.4	-	8.9	8.6	20.0	6.4	5.6	3.8	10.8	8.0	16.7	4.3	7.8	4.8	7.4	10.8
将来的に昇進・昇格しにくくなる	15.4	100.0	3.6	5.0	40.0	10.6	-	7.5	9.9	9.3	6.7	4.3	3.9	3.7	3.2	6.3
仕事量が多く仕事・業務が終わらない	30.8	-	14.3	27.9	20.0	59.6	27.8	32.1	26.1	34.7	30.0	27.1	48.0	37.5	26.1	36.9
自分にしか出来ない仕事がある	15.4	-	23.2	18.6	20.0	14.9	13.9	13.2	9.9	16.0	6.7	15.7	24.5	15.6	14.9	21.6
職場の人手不足	38.5	-	21.4	24.3	30.0	34.0	47.2	32.1	46.8	29.3	20.0	41.4	40.2	49.8	33.0	27.9
自分のスキルが足りないから	7.7	-	7.1	2.9	50.0	14.9	5.6	3.8	7.2	10.7	3.3	5.7	8.8	6.3	10.1	9.9
残業代が必要	-	-	7.1	12.1	20.0	10.6	16.7	3.8	12.6	8.0	6.7	4.3	2.0	8.9	6.9	9.9
その他	15.4	-	5.4	4.3	10.0	6.4	5.6	5.7	2.7	5.3	6.7	4.3	2.9	3.7	4.3	3.6
勤務時間を減らしにくいとは思わない	7.7	-	23.2	13.6	10.0	12.8	16.7	22.6	21.6	17.3	23.3	15.7	14.7	13.8	20.2	19.8

男性	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
	n=32	n=9	n=160	n=518	n=43	n=177	n=173	n=97	n=119	n=77	n=77	n=62	n=111	n=158	n=336	n=160
職場や上司の理解がない	12.5	-	25.0	25.9	18.6	26.6	25.4	24.7	21.0	24.7	24.7	32.3	21.6	22.8	21.7	28.1
残業する人を評価する風潮がある	25.0	22.2	18.8	28.2	20.9	20.9	14.5	21.6	10.9	29.9	16.9	25.8	18.9	19.0	15.8	21.3
上司や周囲が残っていると帰りにくい	28.1	44.4	21.9	22.8	27.9	14.1	16.8	20.6	21.0	16.9	9.1	27.4	12.6	14.6	17.0	20.0
周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている	6.3	-	9.4	13.5	7.0	10.2	8.1	5.2	13.4	6.5	10.4	14.5	6.3	12.0	9.8	11.3
将来的に昇進・昇格しにくくなる	12.5	-	6.9	9.8	14.0	14.7	9.2	1.0	6.7	14.3	3.9	19.4	7.2	6.3	7.7	10.6
仕事量が多く仕事・業務が終わらない	34.4	33.3	40.6	45.9	48.8	51.4	36.4	49.5	39.5	39.0	35.1	38.7	51.4	38.6	41.4	38.8
自分にしか出来ない仕事がある	31.3	-	27.5	24.5	27.9	22.0	16.2	34.0	25.2	16.9	24.7	25.8	37.8	17.7	23.2	16.9
職場の人手不足	25.0	33.3	39.4	38.4	30.2	32.2	40.5	43.3	42.9	28.6	28.6	45.2	34.2	38.6	39.3	42.5
自分のスキルが足りないから	9.4	11.1	6.9	8.9	11.6	11.9	7.5	6.2	10.1	6.5	6.5	8.1	13.5	8.9	8.9	14.4
残業代が必要	-	11.1	5.6	16.4	16.3	7.3	15.6	6.2	7.6	9.1	5.2	11.3	7.2	5.1	11.9	11.9
その他	3.1	-	2.5	2.5	2.3	1.7	3.5	-	3.4	-	2.6	4.8	2.7	1.3	4.2	3.8
勤務時間を減らしにくいとは思わない	18.8	-	12.5	6.9	9.3	11.9	14.5	9.3	10.1	11.7	11.7	14.5	6.3	10.1	10.7	10.0

※該当なしは「-」と表示

(7) 勤務時間を減らしにくい理由(仕事の種類別)

※仕事時間について「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」とした人が対象
 ※対象数30人以上/40%以上のセルに色掛け

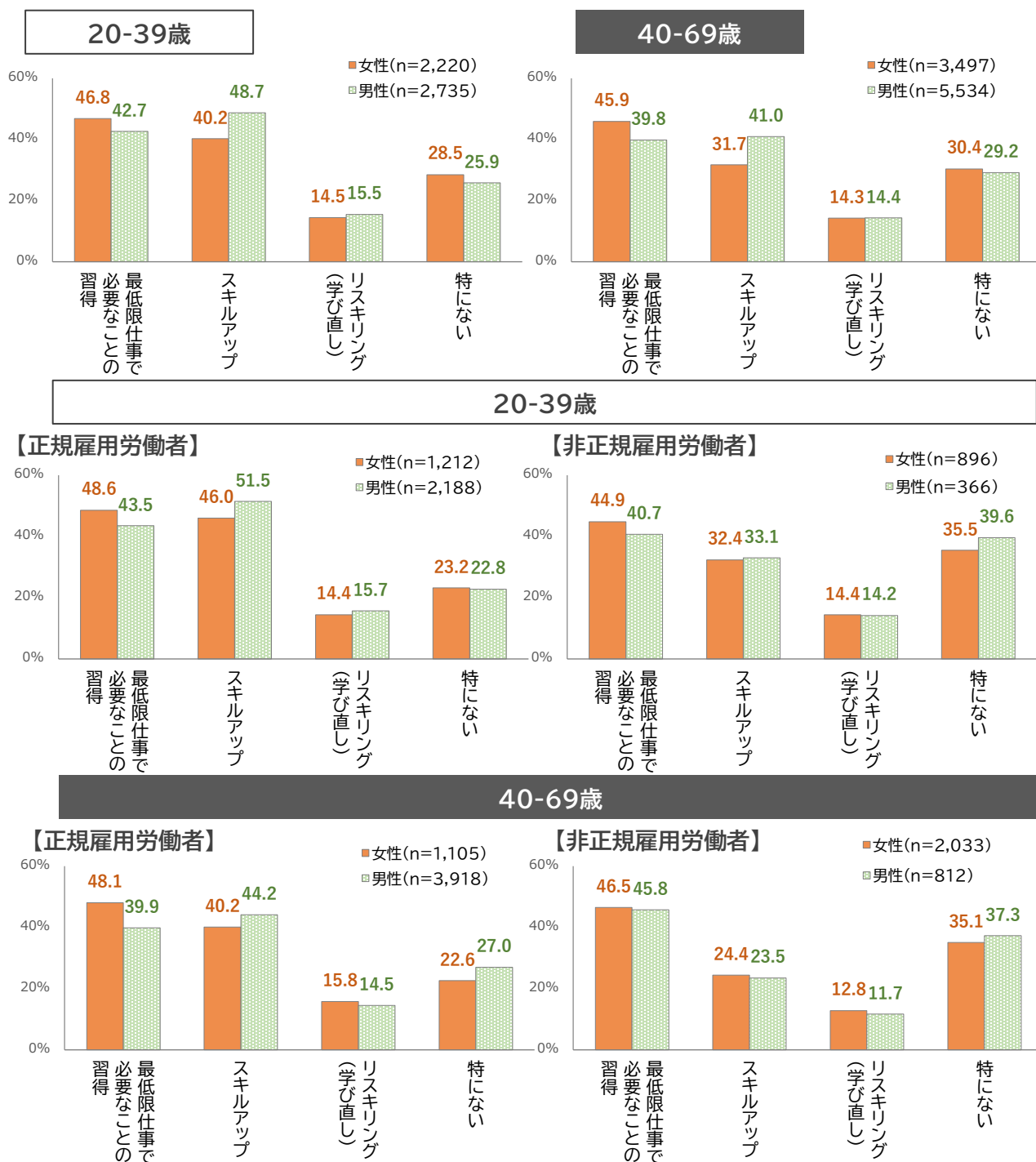
女性	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
	n=515	n=271	n=30	n=116	n=200	n=2	n=7	n=63	n=4	n=2	n=24	n=79
職場や上司の理解がない	18.6	16.2	10.0	17.2	18.0	-	14.3	14.3	25.0	50.0	12.5	12.7
残業する人を評価する風潮がある	14.2	13.3	3.3	9.5	5.0	-	14.3	14.3	50.0	-	20.8	10.1
上司や周囲が残っていると帰りにくい	15.5	19.6	16.7	15.5	9.5	-	28.6	19.0	-	-	4.2	16.5
周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている	6.2	7.7	13.3	8.6	9.0	-	28.6	12.7	25.0	-	4.2	5.1
将来的に昇進・昇格しにくくなる	5.6	5.2	6.7	9.5	6.5	-	14.3	4.8	-	-	-	3.8
仕事量が多く仕事・業務が終わらない	28.9	43.9	63.3	26.7	27.5	50.0	57.1	23.8	-	50.0	25.0	39.2
自分にしか出来ない仕事がある	16.1	22.1	36.7	10.3	15.0	-	28.6	12.7	-	-	4.2	12.7
職場の人手不足	28.9	42.8	36.7	43.1	43.0	50.0	42.9	30.2	25.0	50.0	50.0	40.5
自分のスキルが足りないから	8.7	9.2	10.0	5.2	7.5	-	14.3	-	-	-	8.3	6.3
残業代が必要	8.2	8.9	3.3	7.8	7.5	-	-	17.5	25.0	-	4.2	8.9
その他	5.4	1.1	3.3	3.4	4.0	-	14.3	6.3	-	-	8.3	7.6
勤務時間を減らしにくいとは思わない	20.0	11.4	3.3	24.1	16.5	50.0	14.3	11.1	-	-	20.8	19.0

男性	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
	n=470	n=638	n=274	n=173	n=204	n=43	n=22	n=180	n=82	n=60	n=76	n=87
職場や上司の理解がない	27.9	22.9	21.2	30.1	21.6	25.6	18.2	26.1	19.5	31.7	21.1	20.7
残業する人を評価する風潮がある	21.7	24.0	19.7	20.8	17.6	20.9	18.2	27.2	18.3	5.0	14.5	10.3
上司や周囲が残っていると帰りにくい	21.9	19.6	16.1	20.2	15.7	18.6	27.3	21.1	17.1	13.3	19.7	13.8
周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている	11.5	11.1	5.8	11.0	12.3	16.3	9.1	9.4	11.0	15.0	7.9	8.0
将来的に昇進・昇格しにくくなる	9.6	9.7	10.2	7.5	9.3	11.6	9.1	7.2	13.4	5.0	5.3	5.7
仕事量が多く仕事・業務が終わらない	35.7	50.6	51.5	43.9	36.8	34.9	40.9	41.1	32.9	35.0	39.5	32.2
自分にしか出来ない仕事がある	20.6	27.1	41.6	21.4	22.5	14.0	31.8	15.6	8.5	15.0	6.6	19.5
職場の人手不足	33.2	37.5	36.9	38.2	41.7	53.5	31.8	43.9	42.7	48.3	42.1	28.7
自分のスキルが足りないから	11.5	10.8	5.5	11.0	7.4	9.3	13.6	5.6	4.9	13.3	5.3	11.5
残業代が必要	9.1	10.5	3.6	12.1	8.3	20.9	-	20.6	23.2	10.0	14.5	11.5
その他	1.7	3.0	2.2	1.7	3.9	2.3	-	3.3	1.2	3.3	3.9	5.7
勤務時間を減らしにくいとは思わない	8.9	8.9	10.2	8.7	11.8	9.3	13.6	7.2	15.9	15.0	14.5	18.4

※該当なしは「-」と表示

(8) 仕事において必要と考えるもの(有職者対象、年代別、雇用形態別)

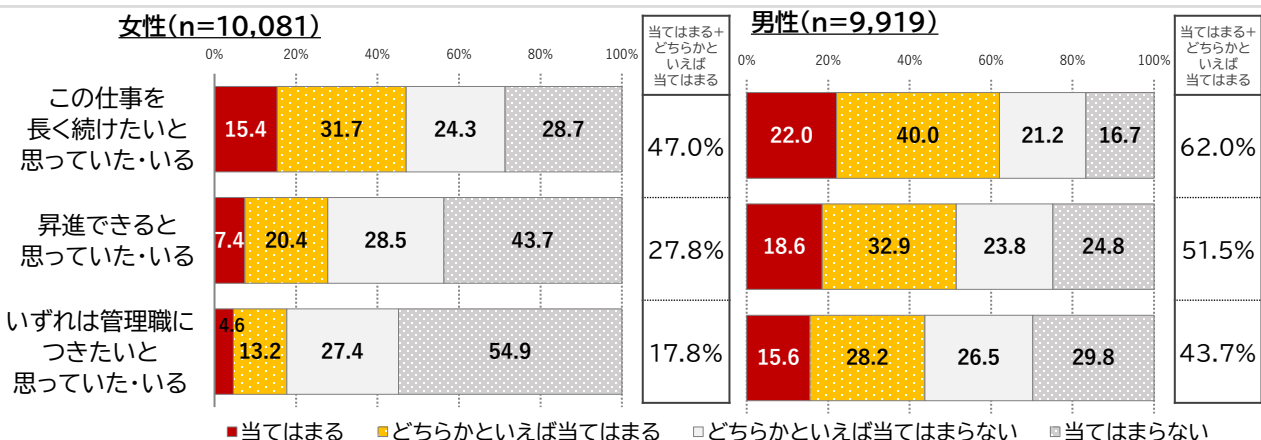
- ・年代別に見てみると、20-39歳においては、女性では「最低限仕事に必要なことの習得」46.8%、「スキルアップ」40.2%の順で高く、男性では「スキルアップ」48.7%、「最低限仕事に必要なことの習得」42.7%の順で高い。
- ・40-69歳においては、女性では「最低限仕事に必要なことの習得」45.9%、「スキルアップ」31.7%の順で高く、男性では「スキルアップ」41.0%、「最低限仕事に必要なことの習得」39.8%が同程度。
- ・年代・雇用形態別に見てみると、女性で「スキルアップ」が最も高いのは、「20-39歳・正規雇用労働者」46.0%、次に「40-69歳・正規雇用労働者」40.2%。最も低いのは「40-69歳・非正規雇用労働者」24.4%。
- ・「リスキリング」は、どの年代・雇用形態でも、男女ともに10～15%程度となった。



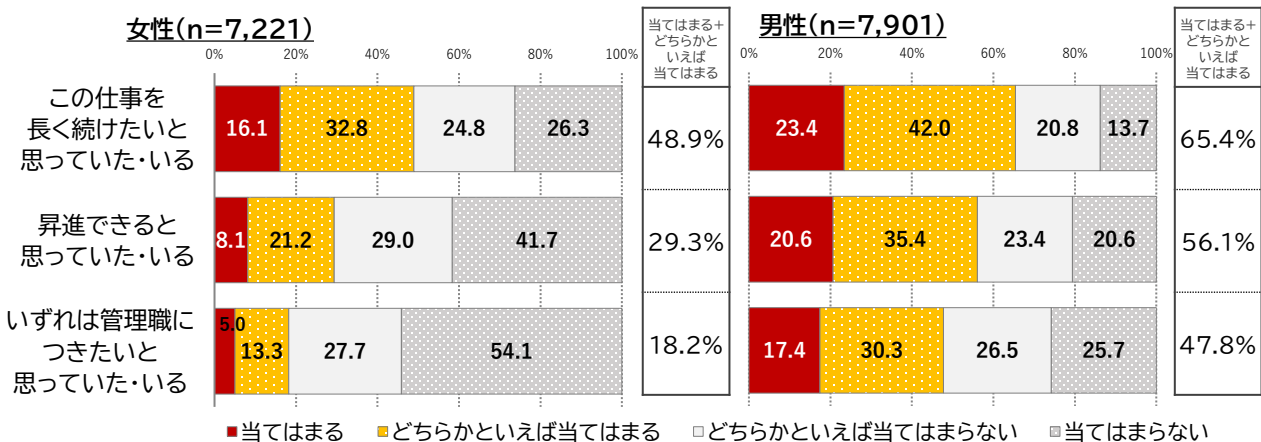
(9)「仕事での昇進」 20代時点での考え方(全体、初職の雇用形態別)

・男女別に「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値で見ると、「この仕事を長く続けたいと思っていた・いる(以下、「長く続けたい」)」は女性で47.0%、男性で62.0%と15%ポイント差がある。「昇進できると考えていた・いる(以下、「昇進できる」)」は女性で27.8%、男性で51.5%、「いずれは管理職につきたいと思っていた・いる(以下、「いずれは管理職」)」は女性で17.8%、男性で43.7%と、どちらも20%ポイント以上差がある。

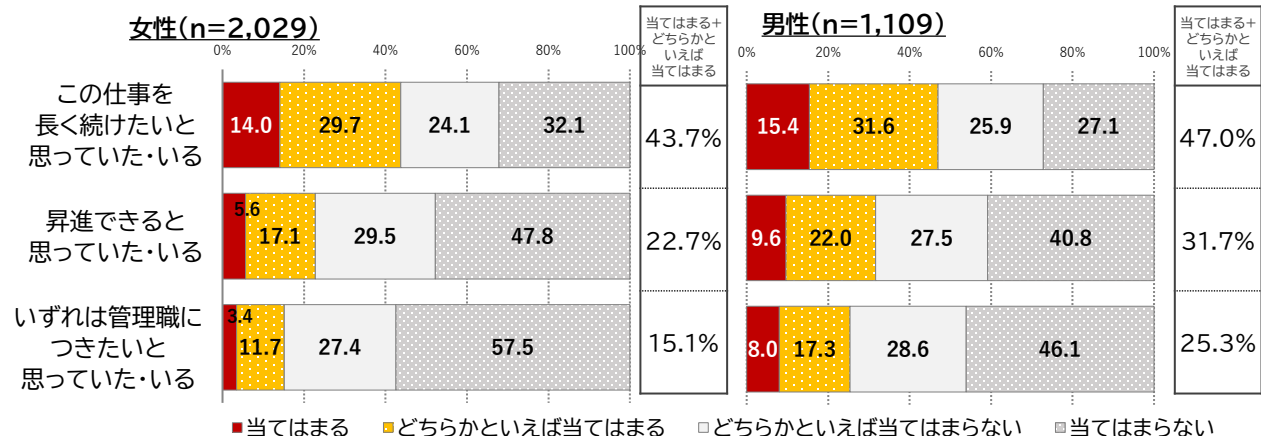
・初職の雇用形態別に見てみると、「初職が正規雇用労働者」では男女差が大きく、特に「昇進できる」「いずれは管理職」については25%ポイント以上男性の方が高い。一方「初職が非正規雇用労働者」では、「初職が正規雇用労働者」に比べ男女差が小さい。



初職が「正規雇用労働者」



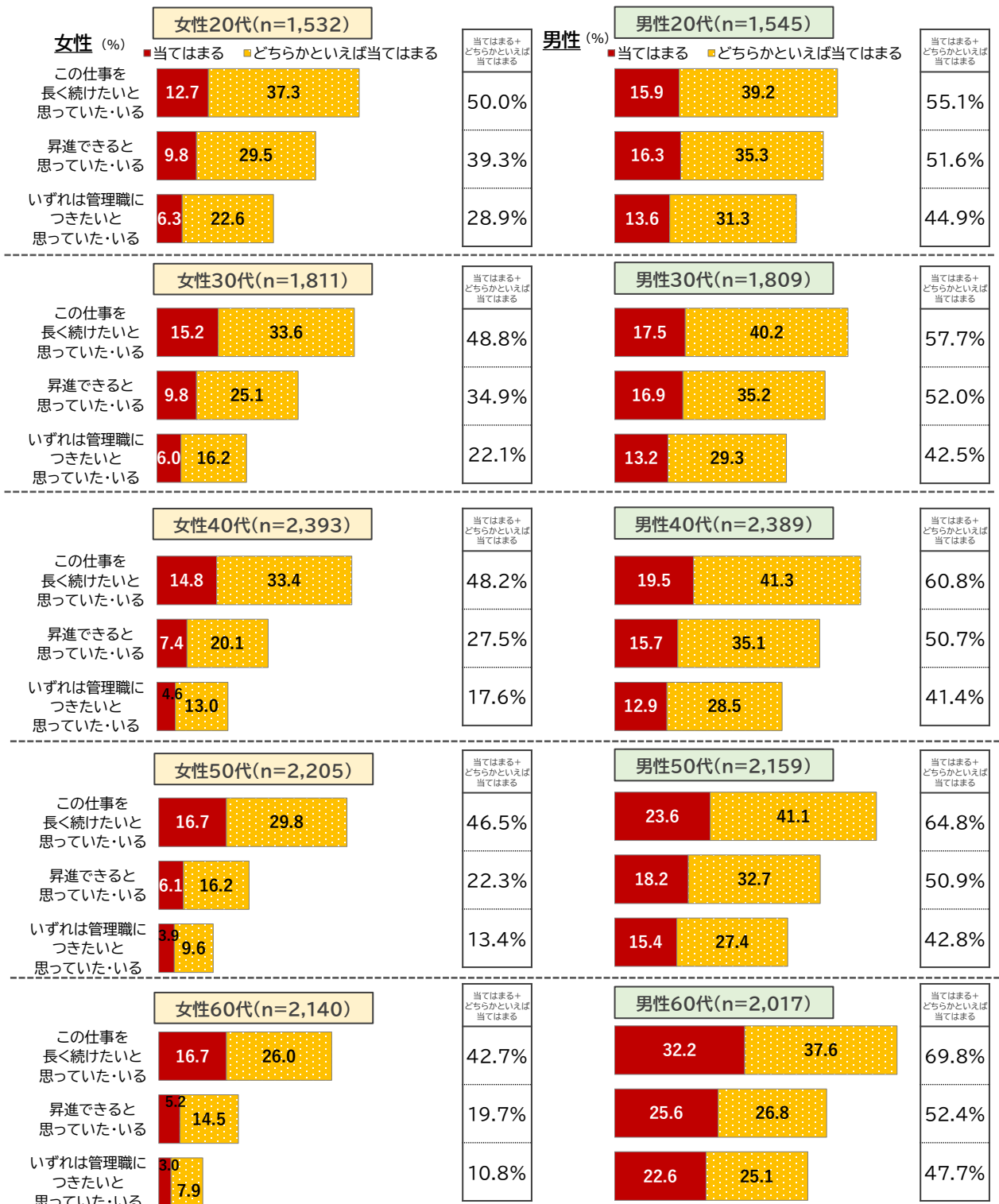
初職が「非正規雇用労働者」



※20代の方は現在どう思っているか、30~60代の方は20代の頃どう思っていたかについて回答。

(9)「仕事での昇進」 20代時点での考え方(年代別)

- ・年代別に見てみると、女性では「長く続けたい」「昇進できる」「いずれは管理職」のいずれの項目でも若い年代ほど割合が高く、特に「昇進できる」「いずれは管理職」について20代と60代では20%ポイント近く差がある。
- ・男性では、上の年代ほど「長く続けたい」が高い。「昇進できる」は全ての年代で5割程度、「いずれは管理職」は4～5割と、年代による差は見られないが、60代では「当てはまる」の割合が下の年代に比べ高い。
- ・男女で比較すると、20代で男女差が最も少ない。一方、40代以上になると、「昇進できる」「いずれは管理職」について、どちらも20%ポイント以上女性の方が低くなる。

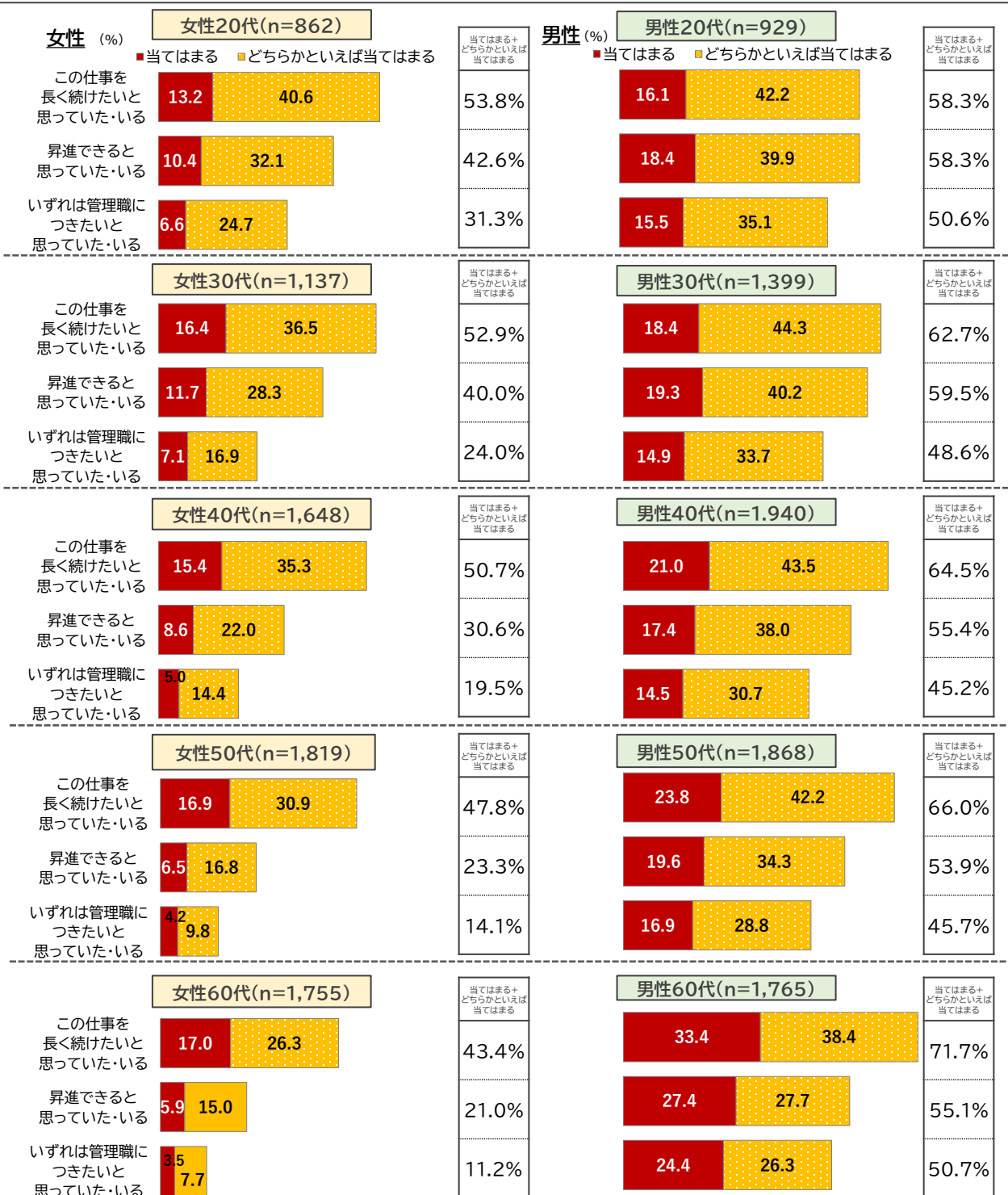


※20代の方は現在どう思っているか、30～60代の方は20代の頃どう思っていたかについて回答。

(9)「仕事での昇進」 20代時点での考え方(初職が「正規雇用労働者」)

- ・初職が「正規雇用労働者」について年代別に見てみると、女性では、「長く続けたい」「昇進できる」「いずれは管理職」のいずれの項目でも若い年代ほど割合が高く、特に「昇進できる」「いずれは管理職」については、20代と60代では20%ポイント以上差がある。
- ・男性では、上の年代ほど「長く続けたい」が高い。また、全ての年代で「昇進できる」は5～6割、「いずれは管理職」は45～50%程度と、年代による差は見られない。
- ・男女で比較すると、20代で男女差が最も少ない。一方、40代以上では、「昇進できる」「いずれは管理職」について、どちらも20%ポイント以上女性の方が低い。

初職が「正規雇用労働者」

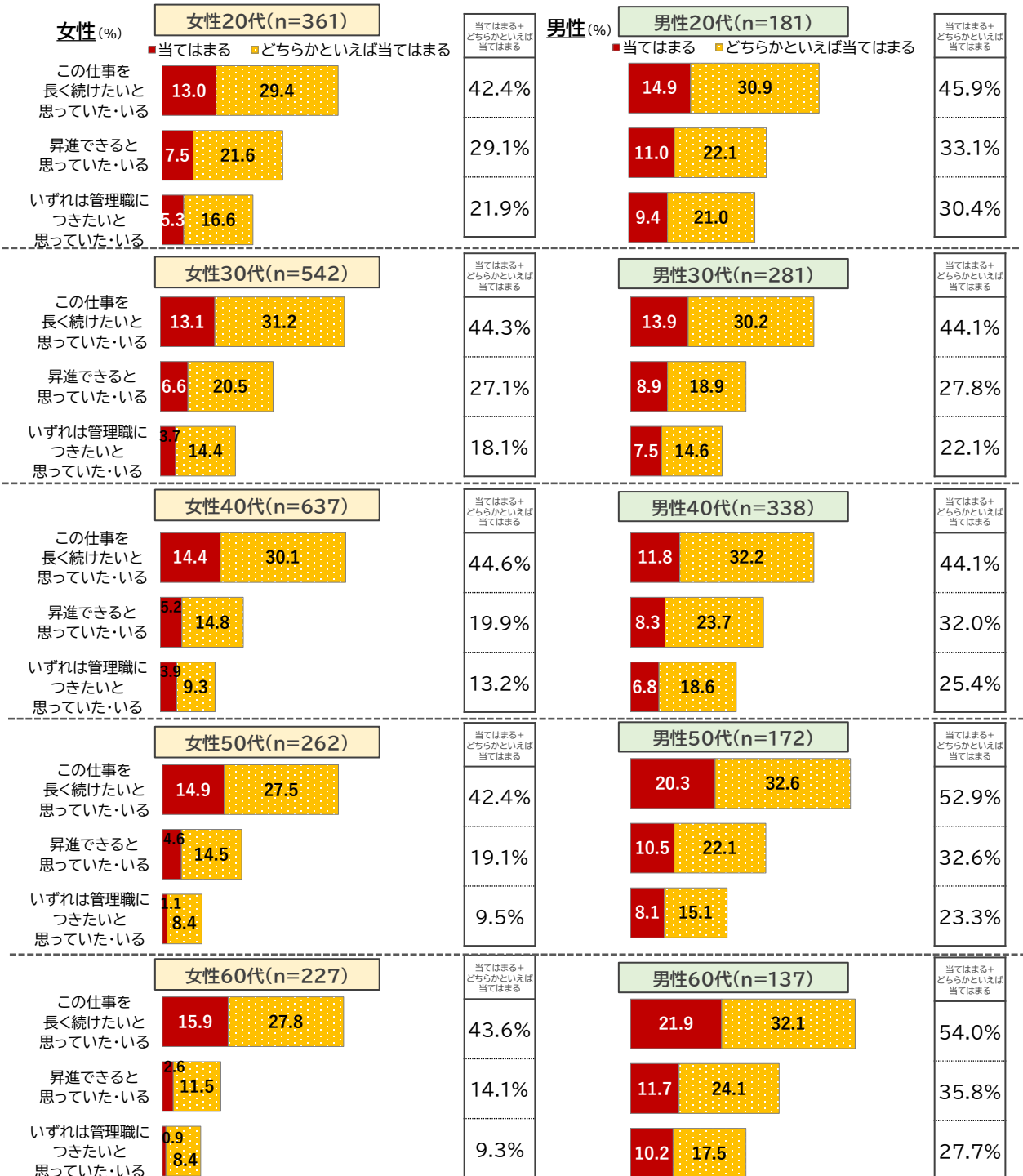


※20代の方は現在どう思っているか、30～60代の方は20代の頃どう思っていたかについて回答。

(9) 「仕事での昇進」 20代時点での考え方(初職が「非正規雇用労働者」)

- ・初職が「非正規雇用労働者」について年代別に見てみると、女性では、「長く続けたい」は全ての年代で4割強と年代による差は見られない。「昇進できる」「いずれは管理職」については、30代以下と40代以上で少し差が見られた。
- ・男性では、「長く続けたい」は50代より上で10%ポイント程度高いが、「昇進できる」は全ての年代で3割前後、「いずれは管理職」は全ての年代で25%前後となっている。
- ・男女で比較すると、20～30代では差はあまり見られない。40代～50代でも、「昇進できる」「いずれは管理職」について、女性の方が低いものの差は15%ポイント程度と、「初職が正規雇用労働者」よりも男女差は小さい。

初職が「非正規雇用労働者」



※20代の方は現在どう思っているか、30～60代の方は20代の頃どう思っていたかについて回答。

(10) 昇進することへのイメージ(有職者対象)

・「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値で見ると、「役割の割に給料が上がらない」「会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる」「仕事量が増し、勤務時間の調整がしにくくなる」は男女ともに6割を超えている。また、「家事・育児等の時間が取れなくなる」は女性のみ6割を超えている。全体的に、ネガティブ要素の方で割合が高い項目が多い。

・男女で比較すると、「家族が昇進を望んでいる」は男性の方が10%ポイント以上高い。

※60%を超えるセルに色掛け

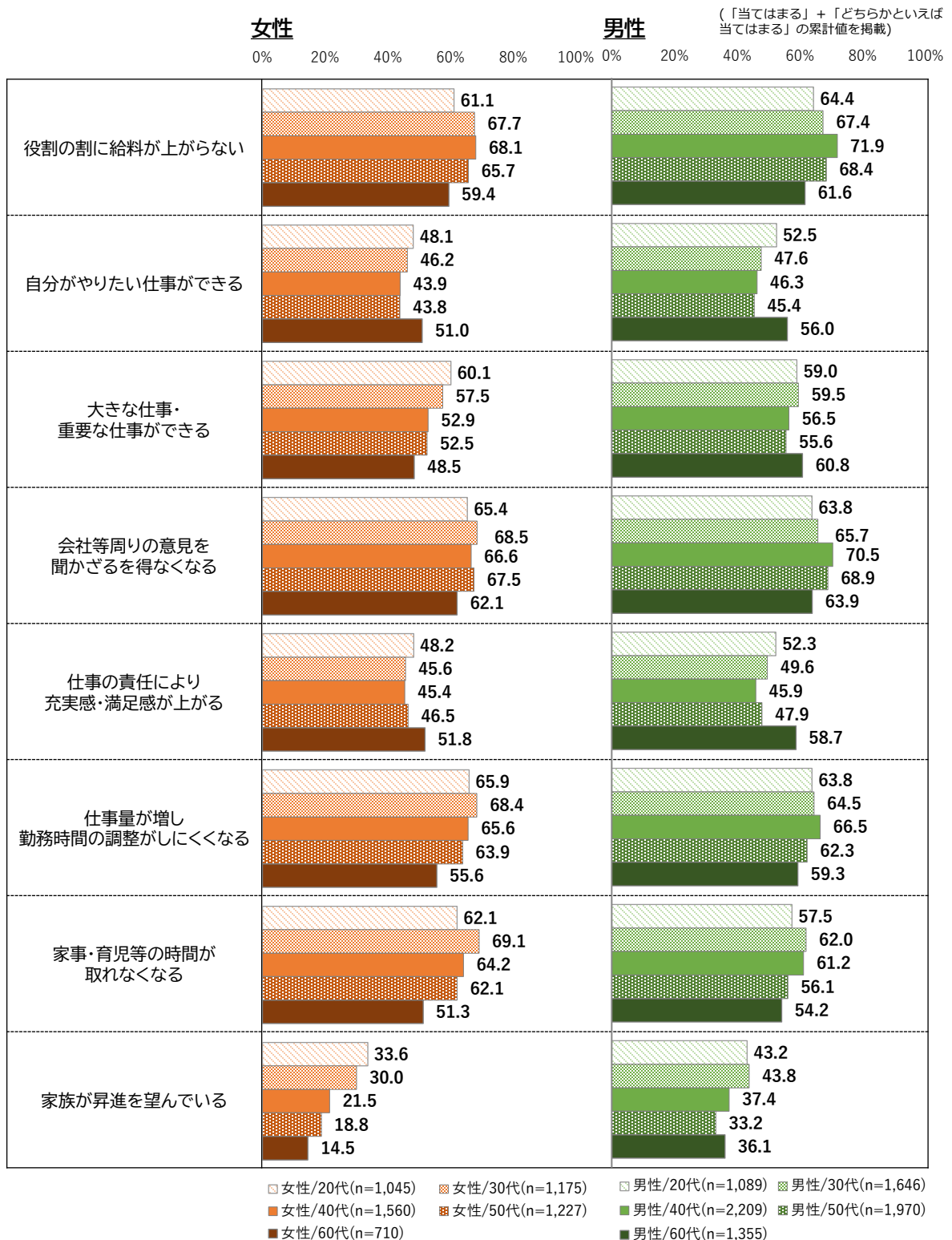
		0%	20%	40%	60%	80%	100%	
女性(n=5,717) 男性(n=8,269)								当てはまる +どちらか といえば 当てはまる
女性	役割の割に給料が上がらない	19.9	45.3	26.2	8.6			65.1%
	自分がやりたい仕事ができる	8.0	38.0	41.4	12.6			46.0%
	大きな仕事・重要な仕事ができる	10.2	44.3	33.7	11.7			54.5%
	会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる	16.5	49.9	26.2	7.5			66.4%
	仕事の責任により充実感・満足感上がる	7.2	39.8	40.9	12.2			47.0%
	仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる	20.2	44.4	26.5	8.8			64.6%
	家事・育児等の時間が取れなくなる	20.3	42.5	25.9	11.3			62.8%
	家族が昇進を望んでいる	3.3	20.8	41.5	34.5			24.0%
男性	役割の割に給料が上がらない	22.0	45.5	23.9	8.6			67.5%
	自分がやりたい仕事ができる	9.8	39.0	37.4	13.9			48.8%
	大きな仕事・重要な仕事ができる	10.5	47.4	31.6	10.4			57.9%
	会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる	16.6	50.6	25.3	7.5			67.2%
	仕事の責任により充実感・満足感上がる	8.3	41.8	37.0	12.9			50.1%
	仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる	16.9	46.7	28.5	7.9			63.6%
	家事・育児等の時間が取れなくなる	14.6	43.9	30.7	10.8			58.5%
	家族が昇進を望んでいる	5.5	32.7	41.7	20.1			38.2%

■ 当てはまる
 □ どちらかといえば当てはまらない
 ▨ どちらかといえば当てはまる
 ■ 当てはまらない

(10) 昇進することへのイメージ(有職者対象、年代別)

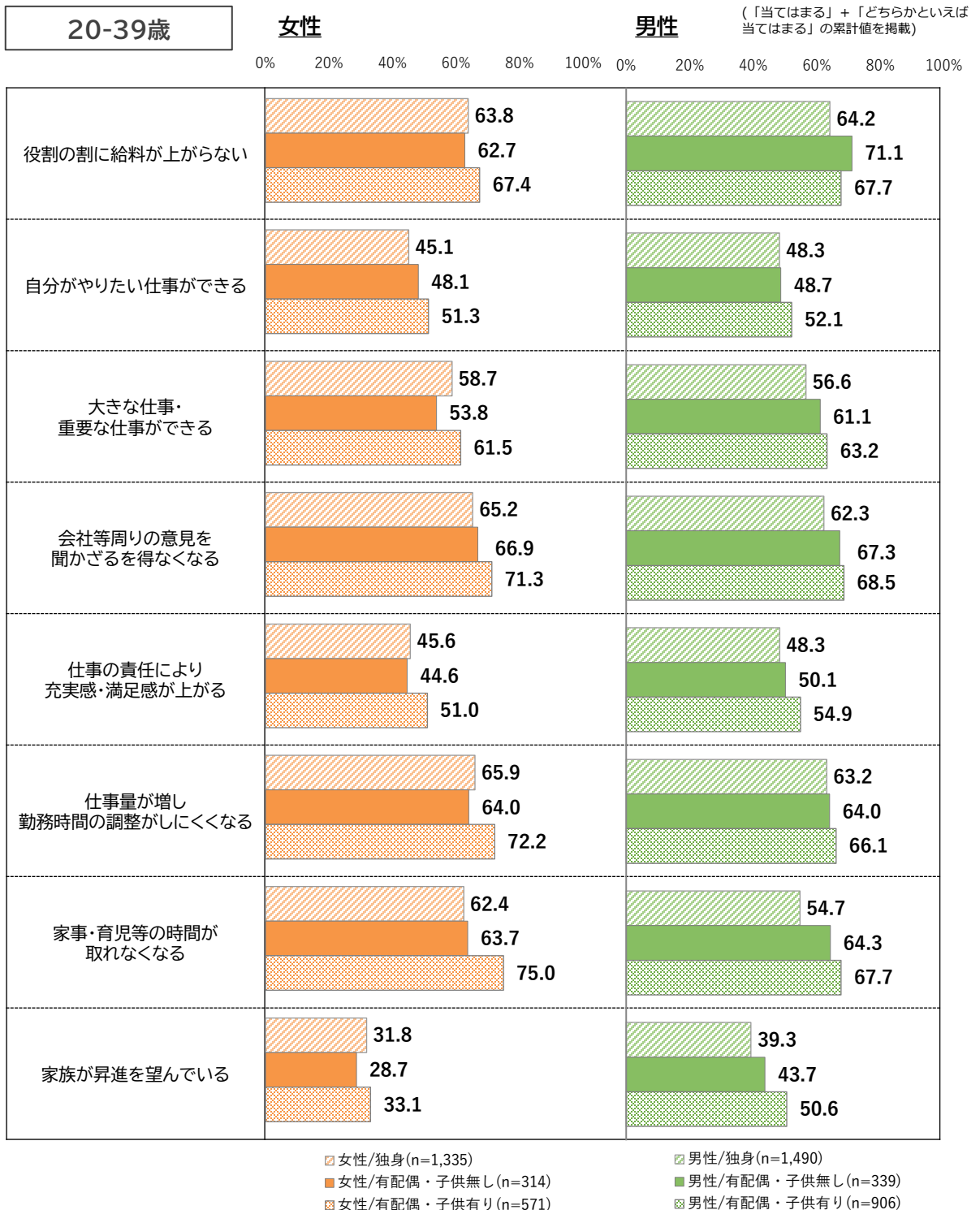
・年代別に見てみると、女性では若い年代ほど「大きな仕事・重要な仕事ができる」「家族が昇進を望んでいる」が高い傾向にある。

・同年代の男女で比較すると、10%ポイント以上差がある項目は少ないが、「家族が昇進を望んでいる」については、いずれの年代でも10~20%ポイント程度、女性の方が低い。



(10) 昇進することへのイメージ(有職者対象、配偶状況・子供の有無別、20-39歳)

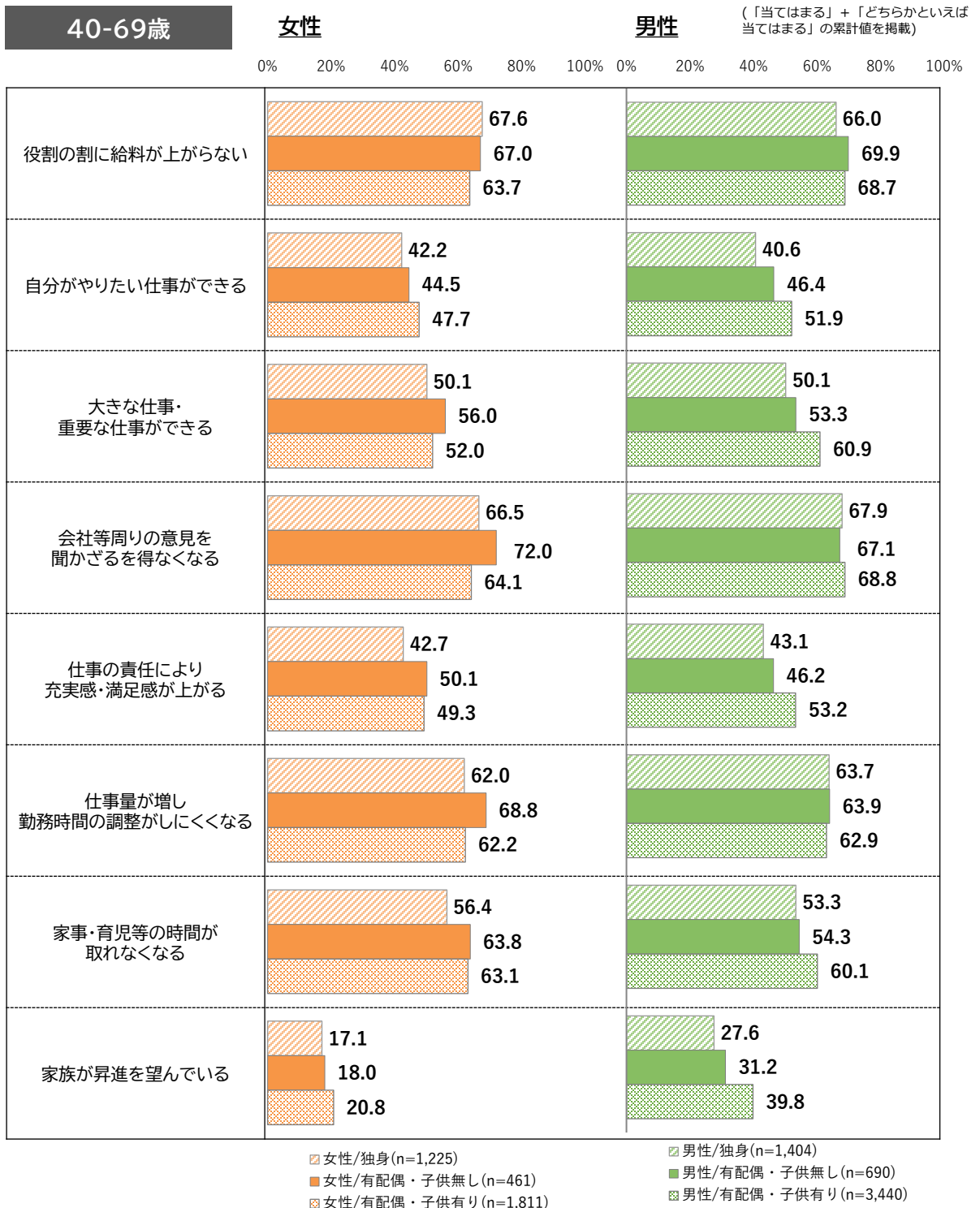
- ・20-39歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに「家事・育児等の時間が取れなくなる」は、「有配偶・子供有り」の方が「独身」よりも10%ポイント以上高い。また、男性では、「家族が昇進を望んでいる」は、「有配偶・子供有り」の方が、「独身」よりも10%ポイント以上高い。
- ・男女で比較すると、「家族が昇進を望んでいる」については、「有配偶・子供有り」では、男性の方が15%ポイント以上高い。



(10) 昇進することへのイメージ(有職者対象、配偶状況・子供の有無別、40-69歳)

・40-69歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男性では、「自分がやりたい仕事ができる」「大きな仕事・重要な仕事ができる」「仕事の責任により充実感・満足感が上がる」「家族が昇進を望んでいる」のポジティブ要素で、「有配偶・子供有り」の方が「独身」に比べ10%ポイント以上高い。

・男女で比較すると、「家族が昇進を望んでいる」については、いずれの区分でも男性の方が10%ポイント以上高い。

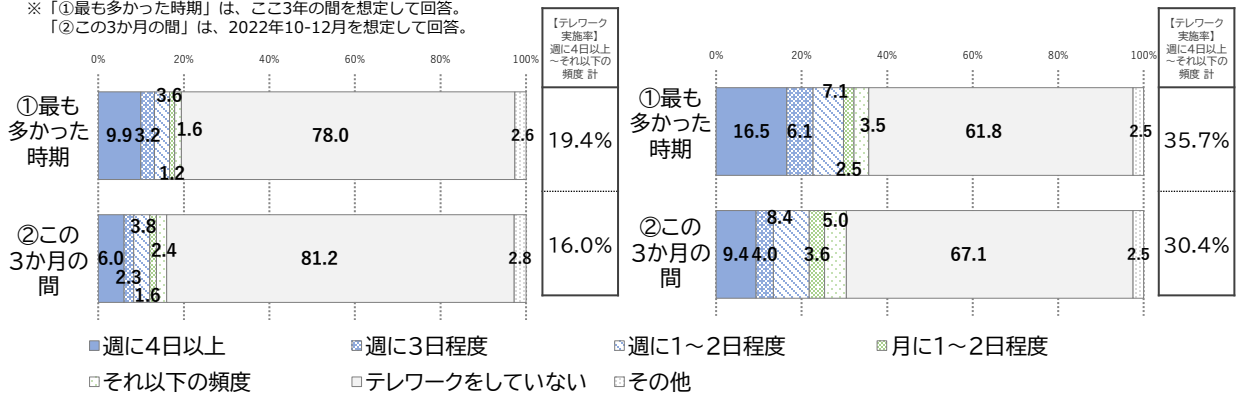


(11) テレワーク実施状況(有職者対象、雇用形態別)

- ・テレワーク実施率を男女別に見ると、この3年で最も多かった時期では女性で19.4%、男性で35.7%。この3か月の間(2022年10-12月を想定)では、女性は16.0%、男性は30.4%と、いずれも男性の方が10%ポイント以上高い。
- ・正規雇用労働者におけるテレワーク実施率については、最も多かった時期では女性27.9%、男性39.3%。この3か月の間では女性22.4%、男性33.2%と、いずれも男性の方が10%ポイント以上高い。
- ・非正規雇用労働者におけるテレワーク実施率については、最も多かった時期では女性10.6%、男性17.8%。この3か月の間では女性8.7%、男性14.1%となっている。

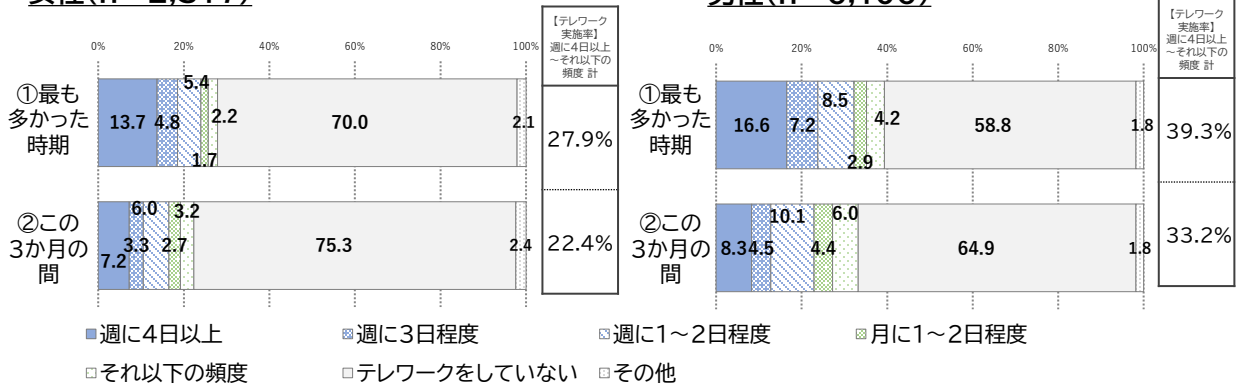
女性(n=5,717)

※「①最も多かった時期」は、ここ3年の間を想定して回答。
「②この3か月の間」は、2022年10-12月を想定して回答。



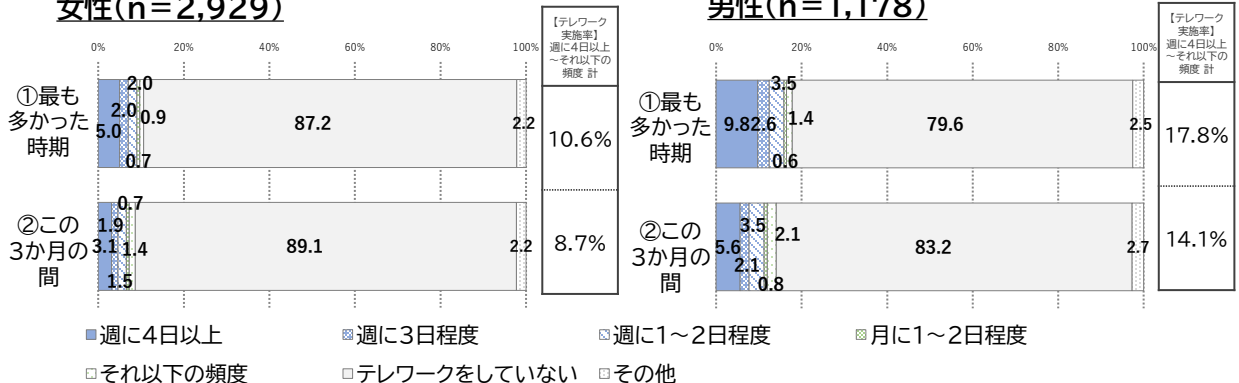
正規雇用労働者

女性(n=2,317)



非正規雇用労働者

女性(n=2,929)

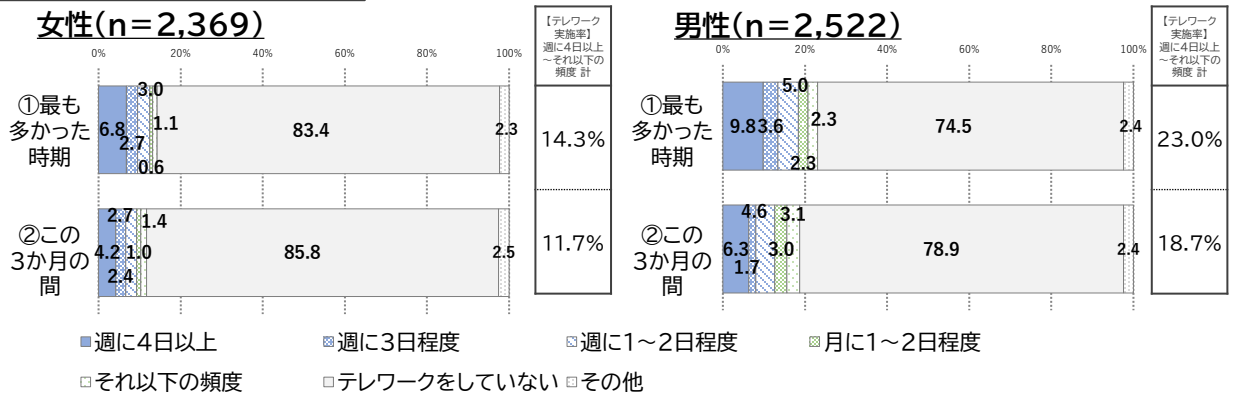


(11) テレワーク実施状況(有職者対象、勤務先の従業員規模別)

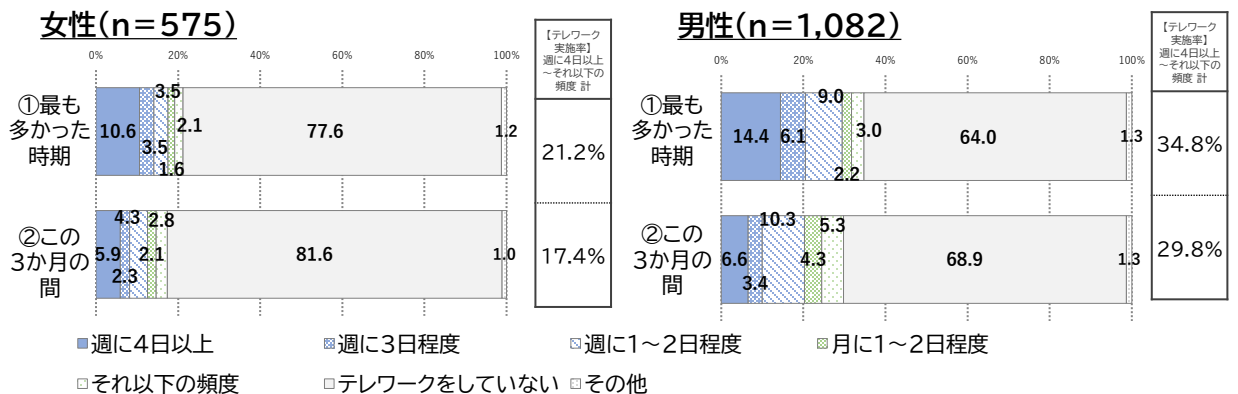
・勤務先の従業員規模別にテレワーク実施率を見てみると、この3年間で最も多かった時期、この3か月の間(2022年10-12月を想定)のいずれも男女ともに従業員数が多いほどテレワーク実施率が高い傾向にある。

・「従業員数300名以上」の企業に勤めている人では、最も多かった時期のテレワーク実施率は女性で28.8%、男性で49.4%。この3か月の間のテレワーク実施率は、女性で23.0%、男性で43.0%と、男性の方が20%ポイント以上高い。

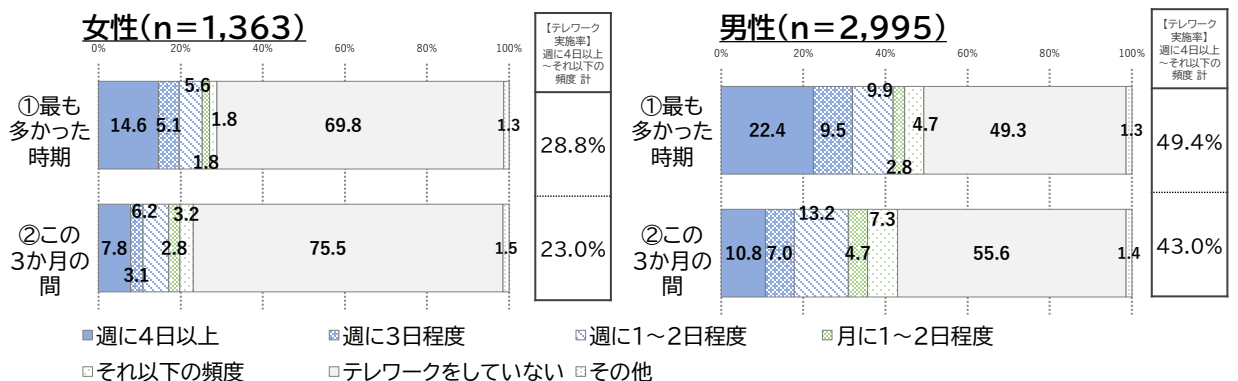
従業員数 99名以下



従業員数 100-299名



従業員数 300名以上



調査結果まとめ

◆“働くこと”に対する考え方と仕事において必要なもの

1 働くことに対する考え方について、男女とも「雇用の安定性を重視」が高い。また、女性では「残業・負荷の少なさ」など、仕事以外の時間確保も高く、特に有配偶・子供有りで顕著。

2 働くことに対する考え方について、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるか」が高い。一方、上の年代ほど「会社・社会の役に立つか」が高く、世代による差が見られた。

3 仕事において必要なものについて、男女とも「スキルアップ」は正規雇用労働者で4割強、非正規雇用労働者では27%。「リスキリング」は雇用形態にかかわらず10~15%程度。

- 働くことに対する考え方では、男女ともに「雇用の安定性を重視して働きたい」が最も高い。男女別にみると、女性は「残業が少ないことを優先」「負荷の少ないことを優先」が高く、男性は「専門性を磨けるように」等が高い。
- 年代別では、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」が高く、年代が上がるほど「会社・社会の役に立つように働きたい」が高い傾向がある。
- 仕事において必要なことについて、「スキルアップ」は、女性正規雇用労働者で43.2%、男性正規雇用労働者で46.8%。一方、女性非正規雇用労働者では26.9%、男性非正規雇用労働者では26.5%。「リスキリング」は、男女とも正規雇用労働者で15%、非正規雇用労働者で13%程度。

・有職者の「働くことに対する考え方」

(当てはまる+どちらかといえば当てはまるの累計値)

※選択肢は抜粋
※10%ポイント程度差がある(高い)項目に色掛け

	女性	男性
雇用の安定性を重視して働きたい	84.9%	79.5%
残業が少ないことを優先して働きたい	80.8%	70.0%
負荷の少ないことを優先して働きたい	83.3%	74.3%
専門性を磨けるように働きたい	59.6%	71.0%

◆現在の雇用形態で働く理由と、非正規雇用労働者が「正規雇用で働くための条件」

1 男女とも正規雇用の理由は「十分な収入 & 安定」。男性非正規雇用労働者は「その形でしか雇用されない」が高い。女性非正規雇用労働者は「家事・育児と両立しやすい」が高く、有配偶で顕著。

2 女性20-39歳非正規雇用労働者(有配偶)の、正規雇用で働く条件TOP3は、「働く時間を調整しやすい」「育児等の両立に理解がある」「自分の家事・育児等の負担が軽くなる」こと。

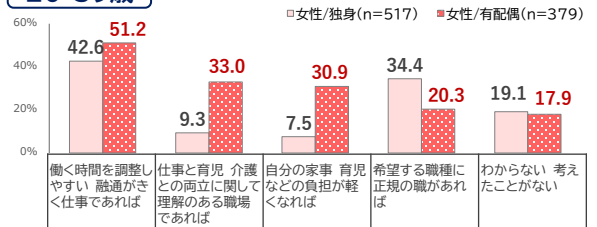
3 女性40-69歳非正規雇用労働者(有配偶)の、正規雇用で働く条件は、「働く時間を調整しやすい」ことが最も高いが、次に「わからない・考えたことがない」が挙がる。

- 現在の雇用形態で働く理由について、正規雇用労働者で男女ともに最も高い項目は「十分な収入を得たいので」で6割強、次に「安定して働きたいので」が続く。
- 非正規雇用労働者について見てみると、女性では「家事・育児等と両立しやすいので」30.0%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」29.8%が高く、男性では「その形でしか雇用されないので」32.0%が最も高い。
- 現在の雇用形態で働く理由(女性)について、配偶状況別に見てみると、非正規雇用労働者において、独身では「仕事の内容で負荷がかからないので」24.6%、「その形でしか雇用されないので」24.3%が高く、有配偶では「家事・育児等と両立しやすいので」42.2%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」34.3%が高い。また、「社会保険料や配偶者控除などを考えて」「自分で自由に使えるお金が欲しいので」「家事・育児等と両立しやすいので」は、有配偶の方が10%ポイント以上高い。

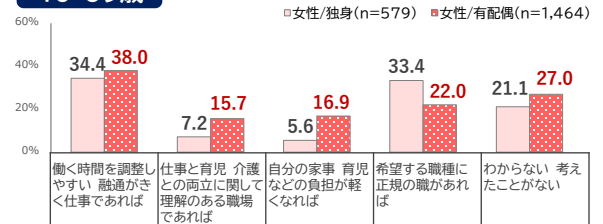
＜女性非正規雇用労働者が正規雇用で働く条件＞

※選択肢は抜粋

20-39歳



40-69歳



調査結果まとめ

◆長時間労働と働く時間を減らしにくい理由

- 1 男性20代～40代では、**有職者の約1/3が「フルタイム/残業月25時間以上」**。また「**有配偶**」の方がフルタイム・長時間労働の割合が高い。
- 2 男性の「長時間労働」におけるプラスの影響は、40代以上における「**昇進・昇給による影響**」のみ。**ワーク・ライフ・バランス**や**家事・育児時間確保等マイナスの影響**は複数挙がる。
- 3 男性が勤務時間を減らしにくい理由TOP2は「**仕事量**」「**人手不足**」。若い層の方が「**残業を評価する風潮**」「**周囲が仕事を優先すべきと考えている**」などが高い。

- 男性の残業月25時間以上の割合は右記表のとおりであり、どの年代でも「有配偶」の方が残業月25時間以上の割合が高い。
- 勤務時間が与える影響について、男性の「長時間労働(残業月46時間以上)」と「残業月24時間以下」で比較すると、20-39歳では長時間労働の方が10%ポイント以上高い項目はなかったが、40-69歳では「昇進・昇給による影響を与える」のみが高い。一方、どちらの年代でも「趣味等の時間」「家事・育児等の時間」「家族とのコミュニケーションの時間」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」かについて、「長時間労働」の方が10%ポイント以上低い。
- 「長時間労働」「残業月25-45時間」において勤務時間を減らしにくい理由は、年代に関係なく「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」「職場の人手不足」が高い。一方、「長時間労働」では、20-39歳でのみ「残業する人を評価する風潮がある」32.7%、「職場や上司の理解がない」30.5%と3割を超える。また、「周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている」は40-69歳と比べ10%ポイント程度高い。

対象者区分	フルタイム			
	①残業月46時間以上(長時間労働)	②残業月25-45時間	①+②(残業月25時間以上)	
男性・独身	20代	14.1%	16.3%	30.4%
	30代	12.5%	12.0%	24.6%
	40代	11.6%	14.2%	25.8%
	50代	11.1%	8.8%	19.9%
	60代	6.7%	3.2%	9.9%
男性・有配偶	20代	24.3%	19.6%	43.9%
	30代	23.6%	21.9%	45.5%
	40代	21.6%	18.5%	40.1%
	50代	16.1%	15.8%	31.9%
	60代	6.4%	6.4%	12.9%

◆「仕事での昇進」 20代時点での考え方

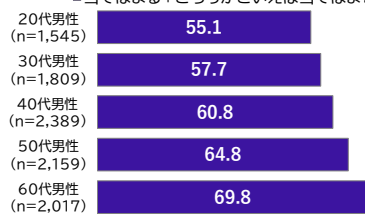
- 1 女性では、「長く続ける」「昇進できる」「いずれは管理職」、いずれも**若い年代ほど割合が高い**。特に「**昇進できる**」「**いずれは管理職**」で年代による差が大きく、**意識の変化が窺える**。
- 2 男性では、「昇進できる」「いずれは管理職」については、**年代による大きな差は見られない**。一方「**長く続けたい**」は若い年代ほど低く、「**一つの会社で勤め上げる**」**意識の変化が関係か**。
- 3 **初職が正規雇用か非正規雇用かによって、「昇進できる」「いずれは管理職」の割合は異なるが、初職が正規雇用の方が男女差が大きい**。

【この仕事を長く続けたいと思っている・いた】

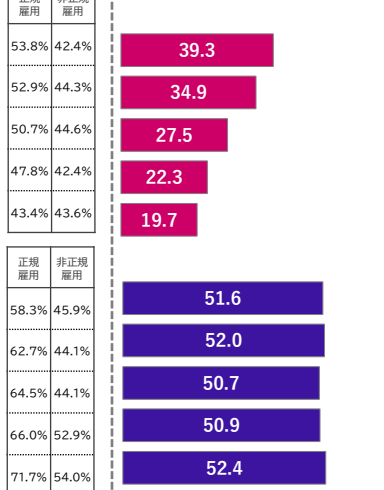
■当てはまる+どちらかといえば当てはまる



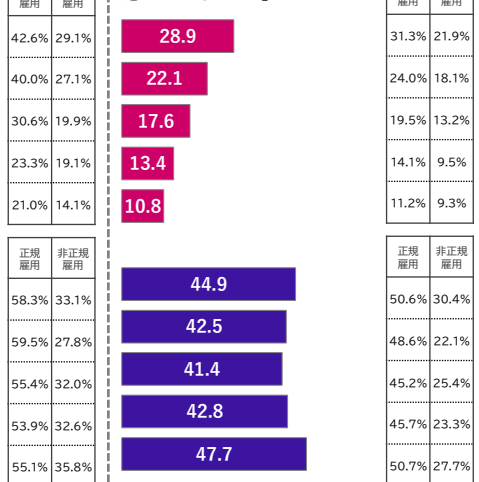
■当てはまる+どちらかといえば当てはまる



【昇進できている・いた】



【いずれは管理職につきたいと思っている・いた】



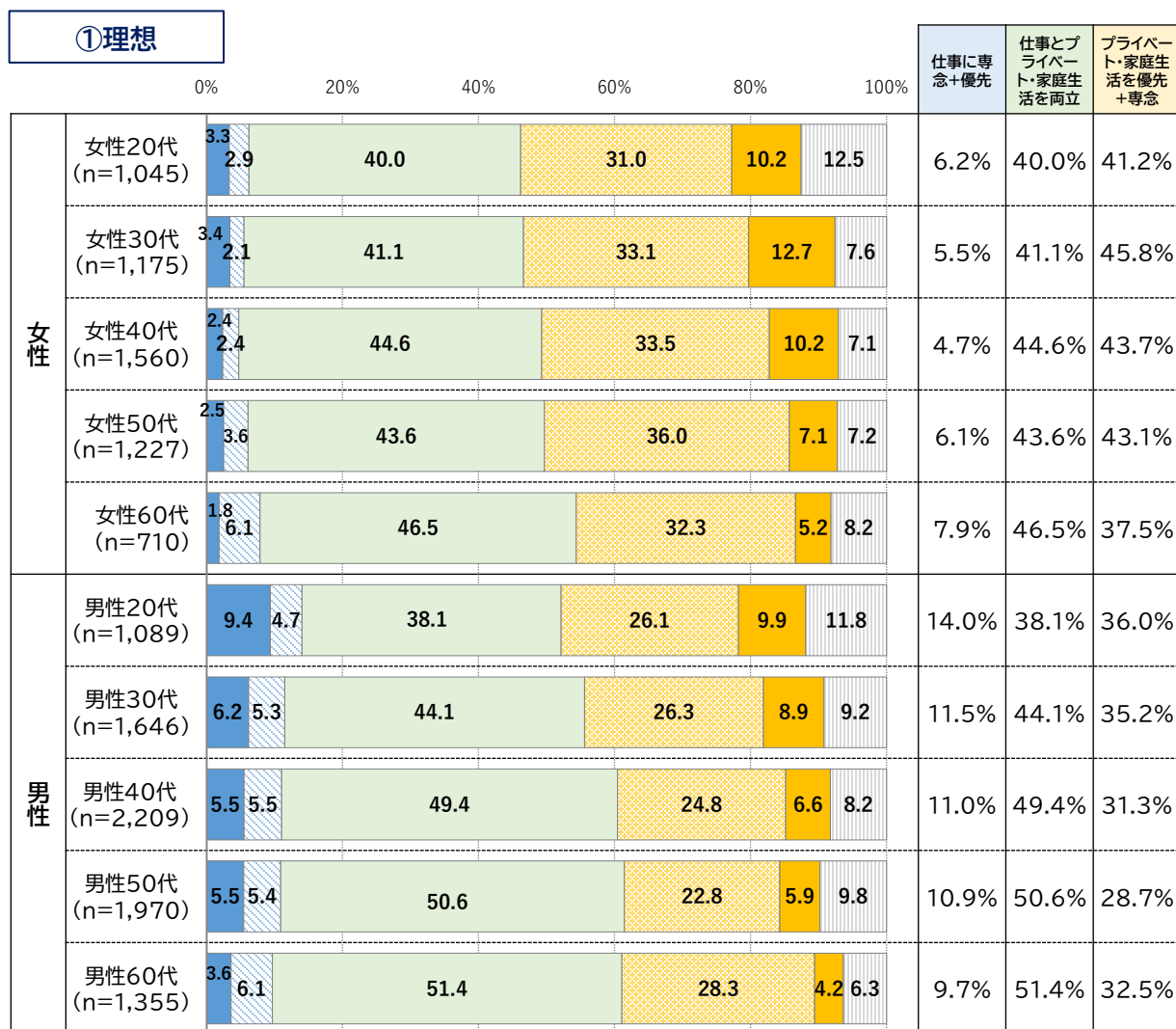
3.仕事とプライベートの理想と現実

(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、理想)

・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの理想について見てみると、男女ともに、全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高く、4～5割を占める。ただし、累計値で見ると、女性20～30代では「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」よりわずかに高い。

・同年代の男女を比較すると、30～50代では、女性の方が男性よりも「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高いが、20代では差が小さい(「プライベート・家庭生活を優先+専念」:20代女性41.2%、20代男性36.0%)。

・「仕事に専念+優先」は、男女ともに全ての年代で15%以下となっている。

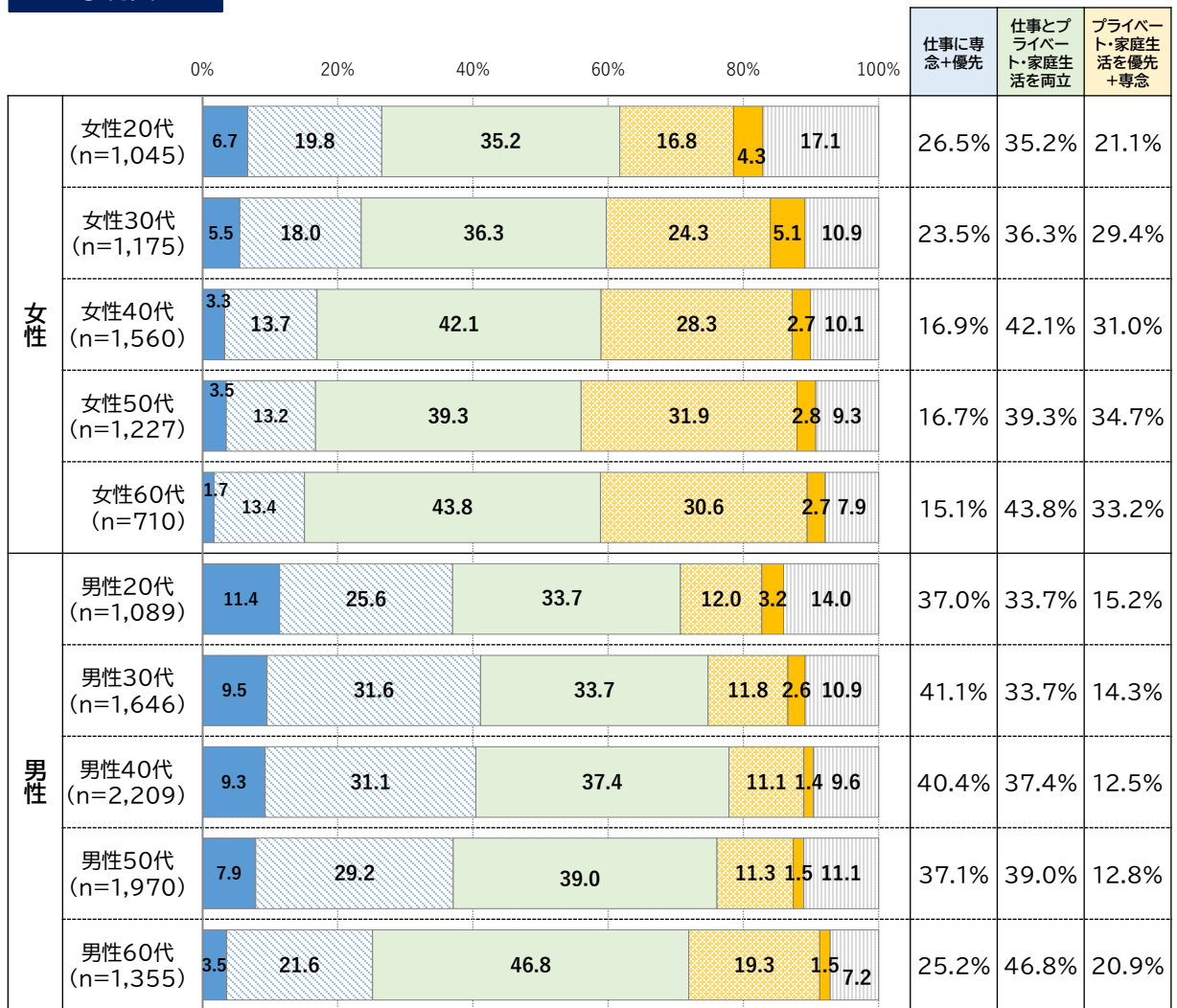


- 仕事に専念
- 仕事を優先
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- プライベート・家庭生活を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 考えたことがない・わからない

(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、現実)

- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの現実について見てみると、男女ともに全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高い。
- ・全体的に「理想」と比べると「現実」では「仕事に専念+優先」の割合が高く、特に男性20～40代の「現実」では、累計値で見ると「仕事に専念+優先」の割合が、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」よりも高くなる。
- ・同年代の男女で比較すると、全ての年代で「仕事に専念+優先」の割合は男性の方が10%ポイント以上高い。一方、「プライベート・家庭生活を優先+専念」については30代以上では女性の方が10%ポイント以上高いが、20代ではその差は小さい(「プライベート・家庭生活を優先+専念」:20代女性21.1%、20代男性15.2%)。

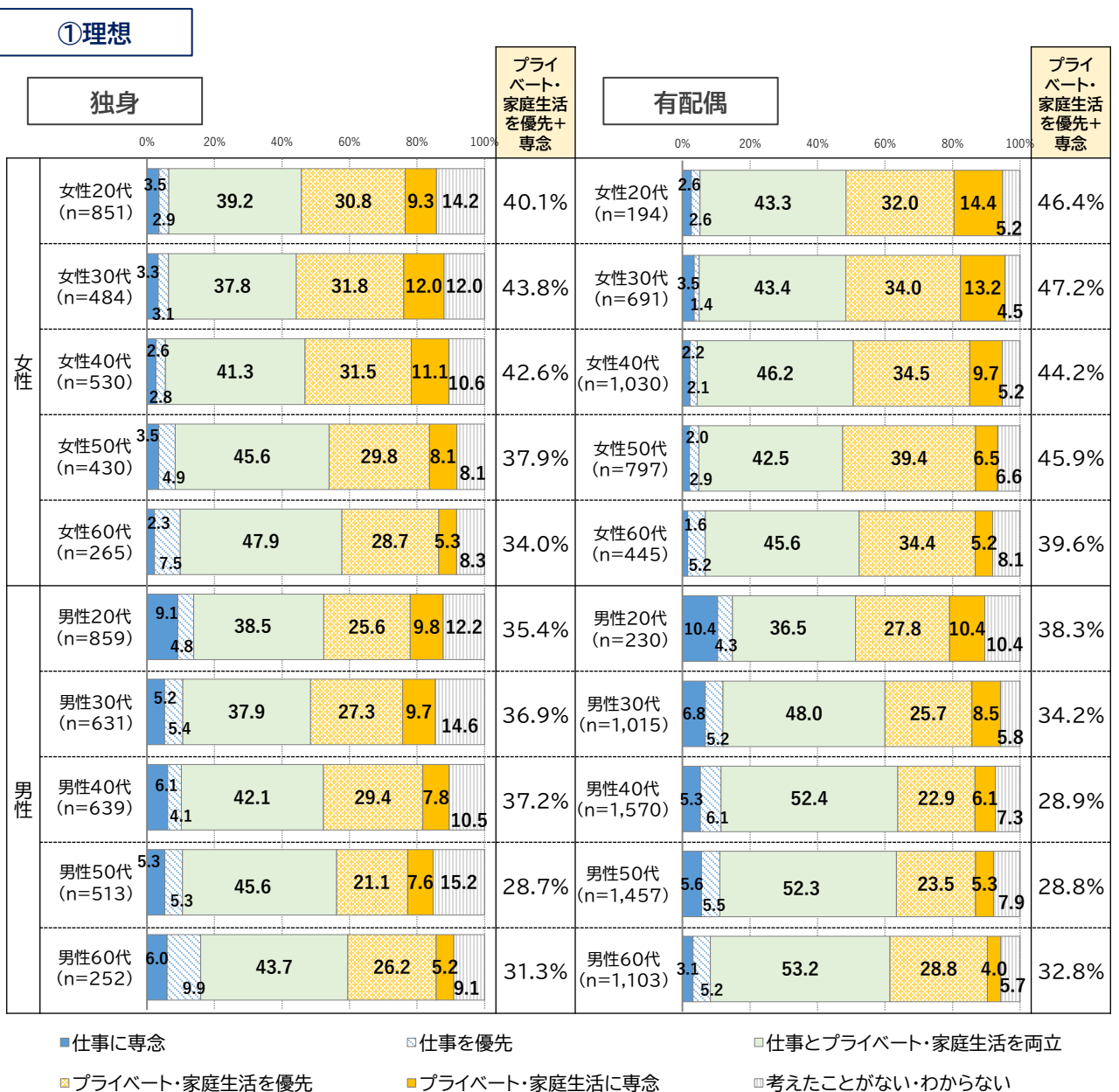
②現実



- 仕事に専念
- 仕事を優先
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- プライベート・家庭生活を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 考えたくない・わからない

(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、配偶状況別、理想)

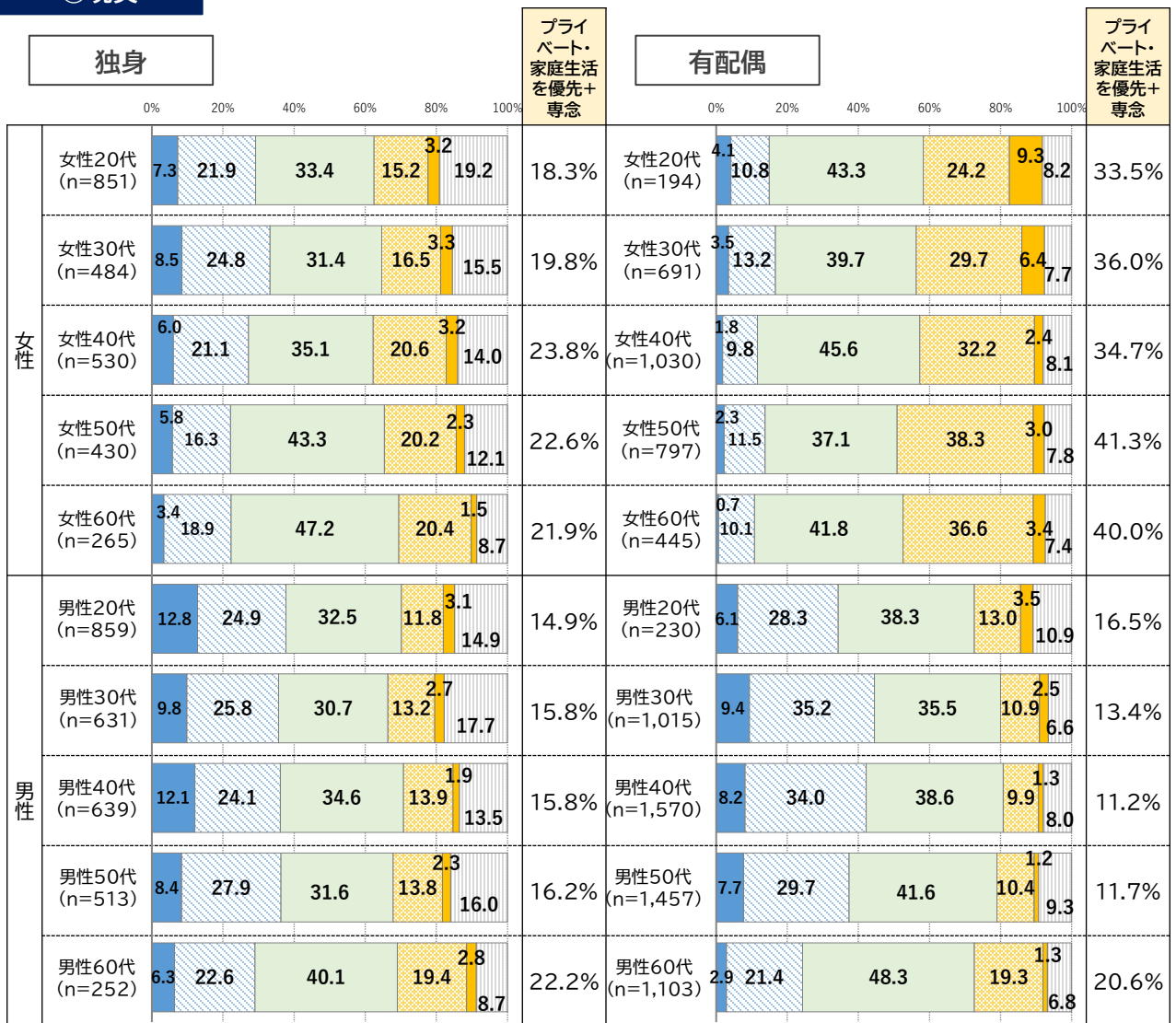
- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの理想について配偶状況別に見てみると、男女ともに配偶状況にかかわらず、全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高い。
- ・独身と有配偶を比較すると、30～40代の男性では有配偶の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が10%ポイント以上高い。また女性では、全ての年代で「有配偶」の方が、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が高い。
- ・男女の同年代で比較すると、独身では男性の方でやや「仕事に専念+優先」の割合が高いが、あまり大きな差は見られない。
- ・有配偶においては、30～50代では、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」を理想とする割合が10%ポイント以上高い。



(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、配偶状況別、現実)

- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの現実について配偶状況別に見てみると、有配偶50代女性を除く全ての区分で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が最も高いが、理想と比較すると「仕事に専念+優先」の割合が高い。
- ・独身と有配偶を比較すると、女性で差が大きく、全ての年代で「有配偶」の方が、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。また「独身」の方が、「仕事に専念+優先」の割合が高く、特に40代以下で顕著である。男性では、独身と有配偶で大きな差はなかった。
- ・独身について、同年代の男女で比較すると、男性の方が「仕事に専念+優先」の割合が高い傾向にあるが、20～40代、60代ではその差は10%ポイント以内であり、「プライベート・家庭生活を優先+専念」とする割合については、どの年代でも10%ポイント以上の差はない。
- ・有配偶については男女差が大きく、全ての年代で「仕事に専念+優先」の割合は男性の方が高く、特に30～50代では20%ポイント以上の差がある。また「プライベート・家庭生活を優先+専念」とする割合は、全ての年代で女性の方が高く、特に30～50代では20%ポイント以上の差がある。

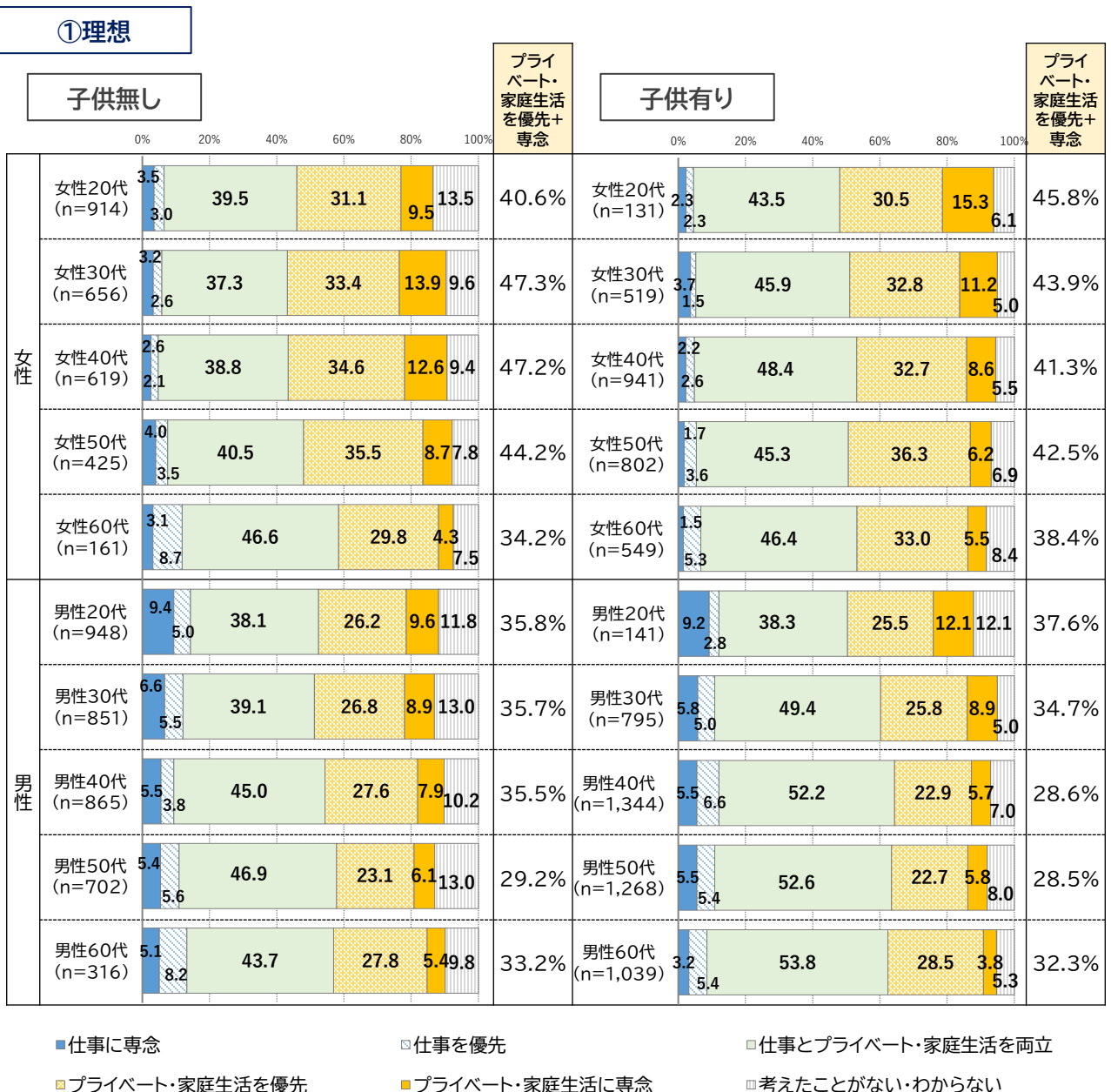
②現実



- 仕事に専念
- 仕事を優先
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- プライベート・家庭生活を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 考えたことがない・わからない

(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、子供の有無別、理想)

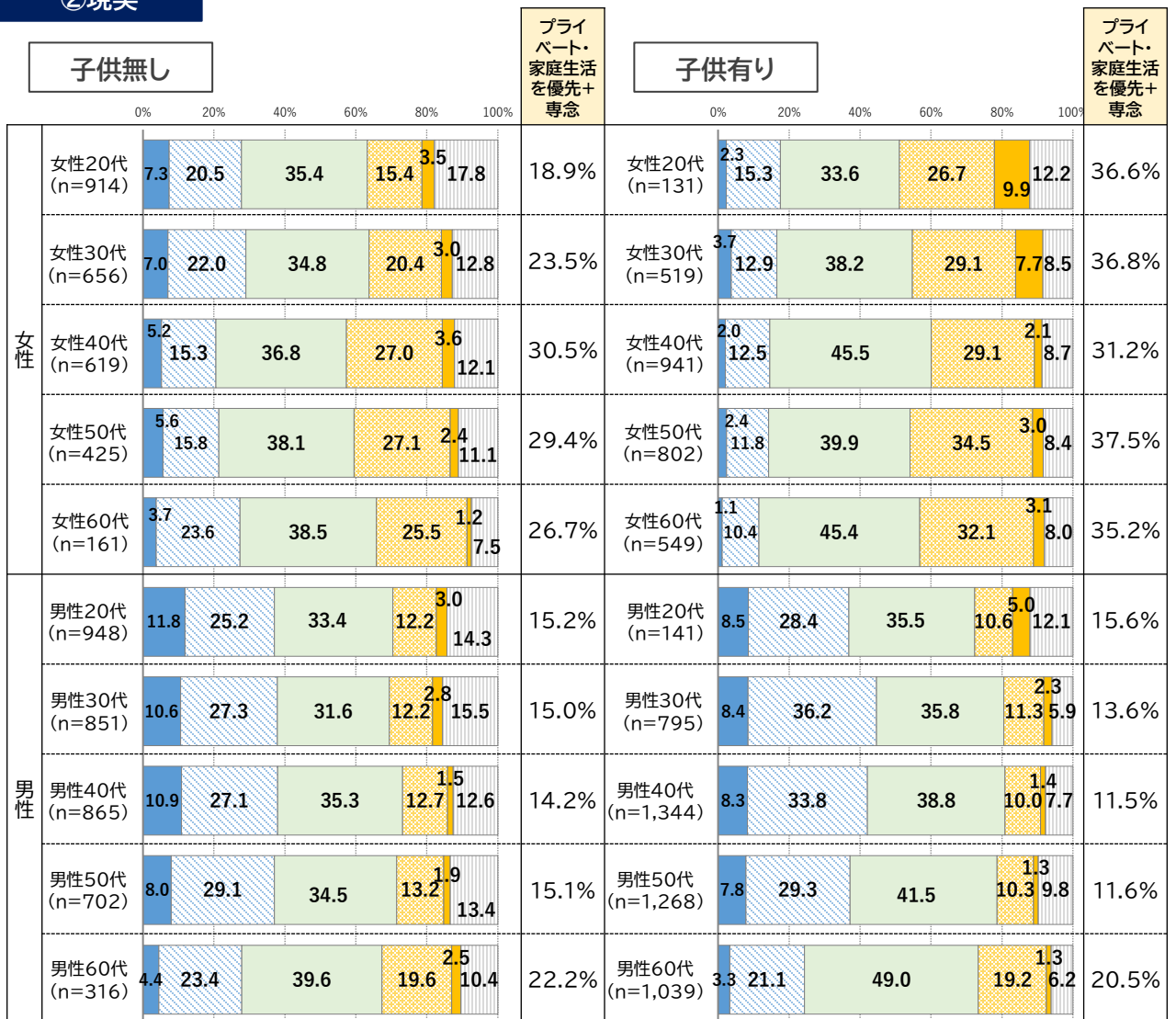
- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの理想について子供の有無別に見てみると、男女ともに子供の有無にかかわらず全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高い。
- ・子供の有無別に比較すると、30～50代女性では、「子供無し」の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が若干高く、「子供有り」の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が高い。また男性の30～60代でも、「子供有り」の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が高い。
- ・同年代の男女で比較すると、「子供無し」については、30～50代においては、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。
- ・「子供有り」においては、40～50代で、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」を理想とする割合が10%ポイント以上高い。



(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、子供の有無別、現実)

- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの現実について、子供の有無別で見ると、男女ともに「30代男性子供有り」を除く全ての区分で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高いが、「理想」と比較すると全ての区分で「仕事に専念+優先」の割合が高い。
- ・子供の有無別で比較すると、女性では20～30代で「子供有り」の方が、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。また「子供無し」の方が、「仕事に専念+優先」の割合が高く、特に30代以下及び60代で顕著である。
- ・男性では、子供の有無ではあまり大きな差は見られないが、「子供有り」の方が若干「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が高い。
- ・同年代の男女で比較すると、「子供無し」については、男性の方が「仕事に専念+優先」の割合が高く、40～50代では10%ポイント以上差がある。一方、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合は、40～50代では女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・「子供有り」では男女差が大きく、全ての年代で「仕事に専念+優先」の割合は男性の方が高く、特に30～40代では25%ポイント以上の差がある。また「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合は、全ての年代で女性の方が高く、特に20～30代、50代では20%ポイント以上の差がある。

②現実



- 仕事に専念
- プライベート・家庭生活を優先
- 仕事を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- 考えたことがない・わからない

(2) 配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者)

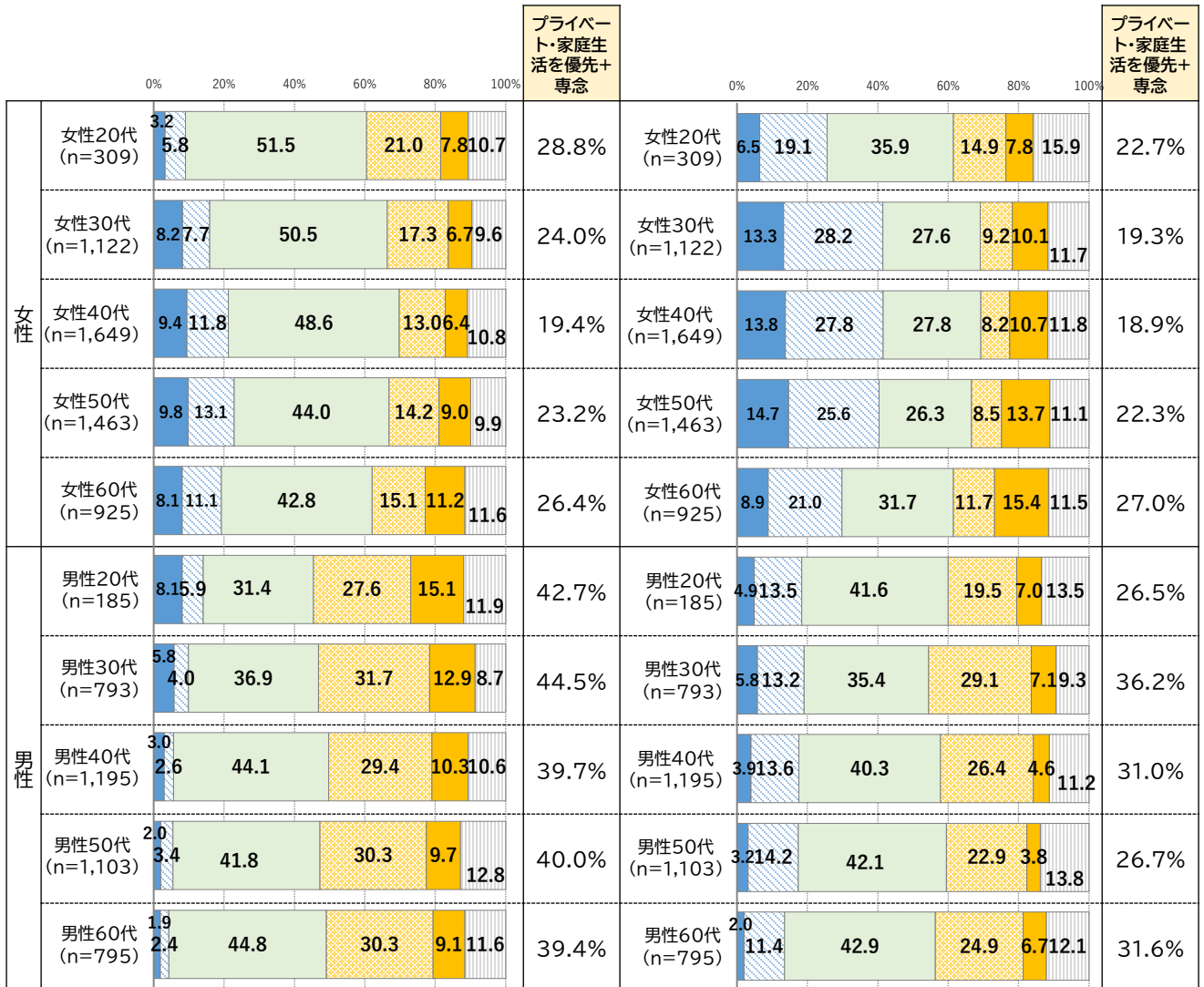
・配偶者が有職の人を対象に年代別に配偶者の仕事と家庭生活のバランスを見てみると、「理想」については、男女ともに全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高く、女性では4～5割、男性では3～4割となっている。ただし、男性では「プライベート・家庭生活を優先+専念」も高く、全ての年代で4割程度となっている。

・「現実」については、女性では20代では「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が35.9%と最も高いが、30～50代では「仕事に専念+優先」が4割強と最も高くなる。男性では20代では「仕事とプライベート・家庭生活を両立」41.6%が最も高く、30代では「プライベート・家庭生活を優先+専念」と「仕事とプライベート・家庭生活を両立」がどちらも35～36%と同程度、40代以上では「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が4割と最も高い。

・男女で比較すると、「理想」においては女性の方が配偶者に対して「仕事とプライベート・家庭生活を両立」を望む傾向があり、男性の方が配偶者に対して「プライベート・家庭生活を優先+専念」を望む傾向がある。「現実」においては、女性の方が配偶者の現実を見て「仕事を優先+専念」を挙げる傾向があり、男性では配偶者に対して「仕事とプライベート・家庭生活を両立」を挙げる傾向がある。また男女差は、「現実」においては20代で最も少ない。

①理想

②現実

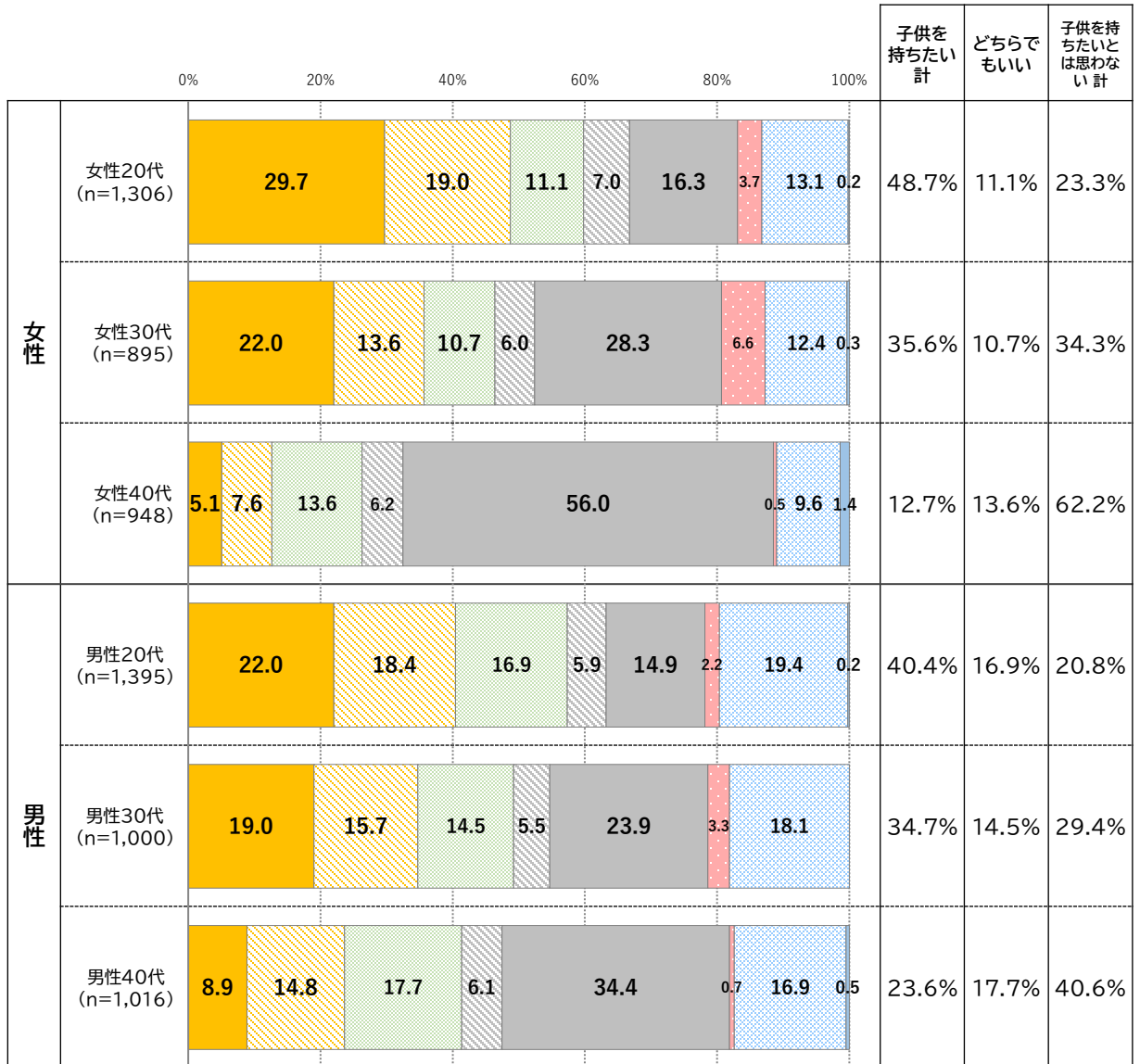


■ 仕事に専念 □ 仕事を優先 □ 仕事とプライベート・家庭生活を両立
 ■ プライベート・家庭生活を優先 ■ プライベート・家庭生活に専念 □ 考えたことがない・わからない

(3) 今後、子供を持ちたいと思うか(子供を持ったことがない人対象)

・年代別に見てみると、女性については、20代では「子供を持ちたい(計)」が48.7%と、「子供を持ちたいとは思わない(計)」23.3%を上回る。30代では、「子供を持ちたい(計)」35.6%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」34.3%と同程度。40代では、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が62.2%となる。

・男性については、20代では「子供を持ちたい(計)」が40.4%と、「子供を持ちたいとは思わない(計)」20.8%を上回る。30代では、「子供を持ちたい(計)」34.7%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」29.4%。40代では、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が40.6%となる。



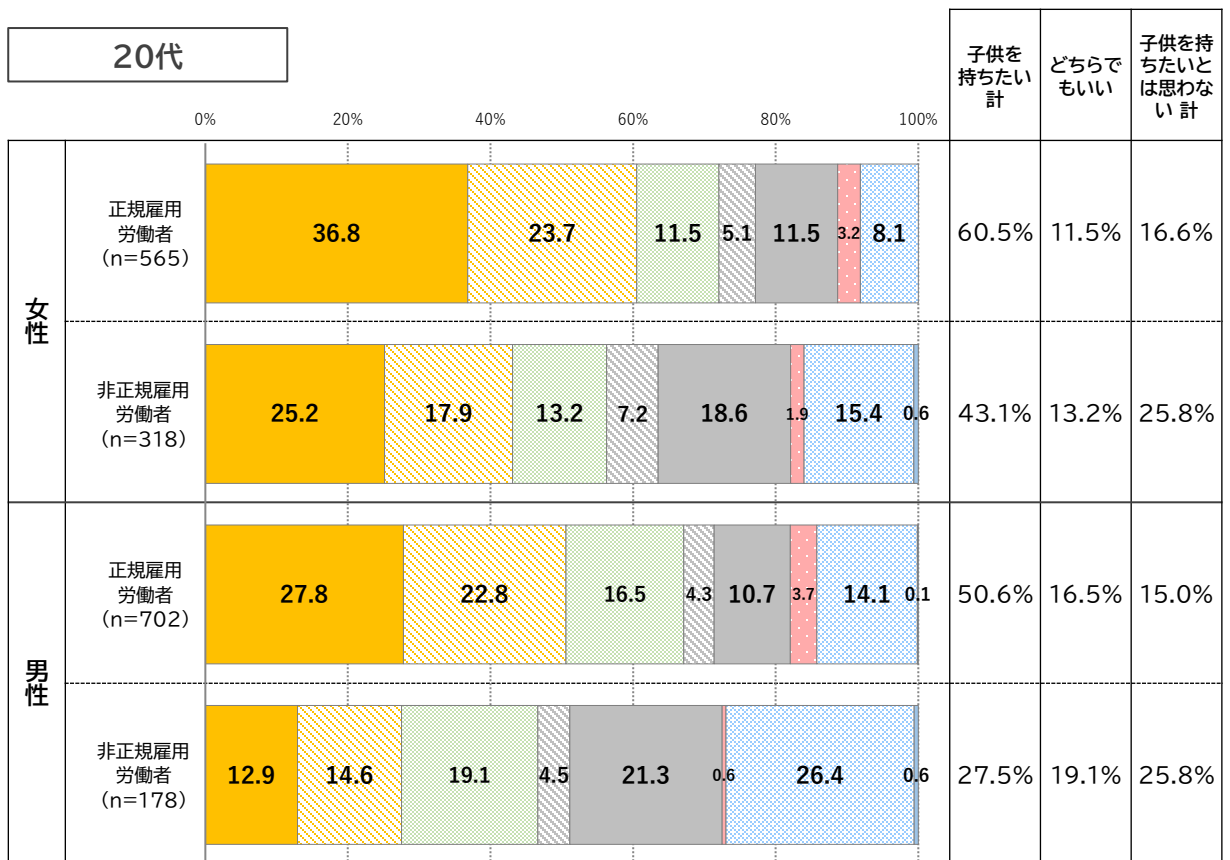
- 子供を持ちたいと思う
- 出来れば子供を持ちたいと思う
- どちらでもいいと思う
- あまり子供を持ちたいとは思わない
- 子供を持ちたいとは思わない
- 妊娠中である・既に子供を持つ予定がある
- まだわからない・考えたことがない
- その他

※子供を持ちたい(計) = 子供を持ちたいと思う + 出来れば子供を持ちたいと思う
 ※子供を持ちたいとは思わない(計) = 子供を持ちたいとは思わない + あまり子供を持ちたいとは思わない

(3) 今後、子供を持ちたいと思うか(子供を持ったことがない人対象、雇用形態別、20代)

・雇用形態別に見てみると、20代の女性においては、「正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」が60.5%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が16.6%であるのに対し、「非正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」43.1%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が25.8%と、「正規雇用労働者」の方が「子供を持ちたい(計)」割合が高い。

・20代の男性においては、「正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」が50.6%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が15.0%であるのに対し、「非正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」27.5%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」25.8%と同程度で、「正規雇用労働者」の方が「子供を持ちたい(計)」割合が高い。また「非正規雇用労働者」では、「まだわからない・考えたことがない」が26.4%と高い。



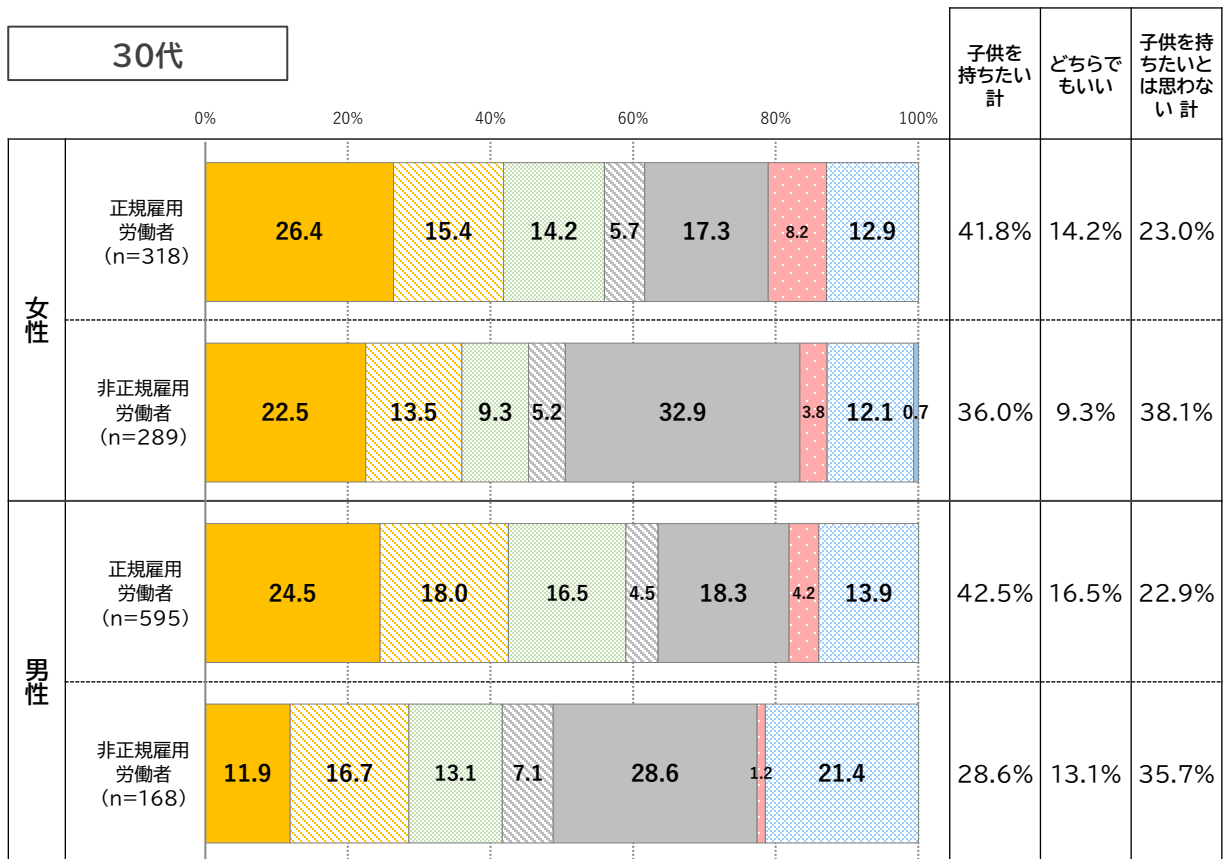
- 子供を持ちたいと思う
- ▨ 出来れば子供を持ちたいと思う
- ▨ どちらでもいいと思う
- ▨ あまり子供を持ちたいとは思わない
- 子供を持ちたいとは思わない
- 妊娠中である・既に子供を持つ予定がある
- ▨ まだわからない・考えたことがない
- その他

※子供を持ちたい(計) = 子供を持ちたいと思う + 出来れば子供を持ちたいと思う
 ※子供を持ちたいとは思わない(計) = 子供を持ちたいとは思わない + あまり子供を持ちたいとは思わない

(3) 今後、子供を持ちたいと思うか(子供を持ったことがない人対象、雇用形態別、30代)

・雇用形態別に見てみると、30代の女性においては、「正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」が41.8%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が23.0%であるのに対し、「非正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」36.0%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が38.1%と、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が「子供を持ちたい(計)」を上回っている。

・30代の男性においては、「正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」が42.5%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が22.9%であるのに対し、「非正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」28.6%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」35.7%と、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が「子供を持ちたい(計)」を上回っている。また「非正規雇用労働者」では、「まだわからない・考えたことがない」が21.4%と高い。

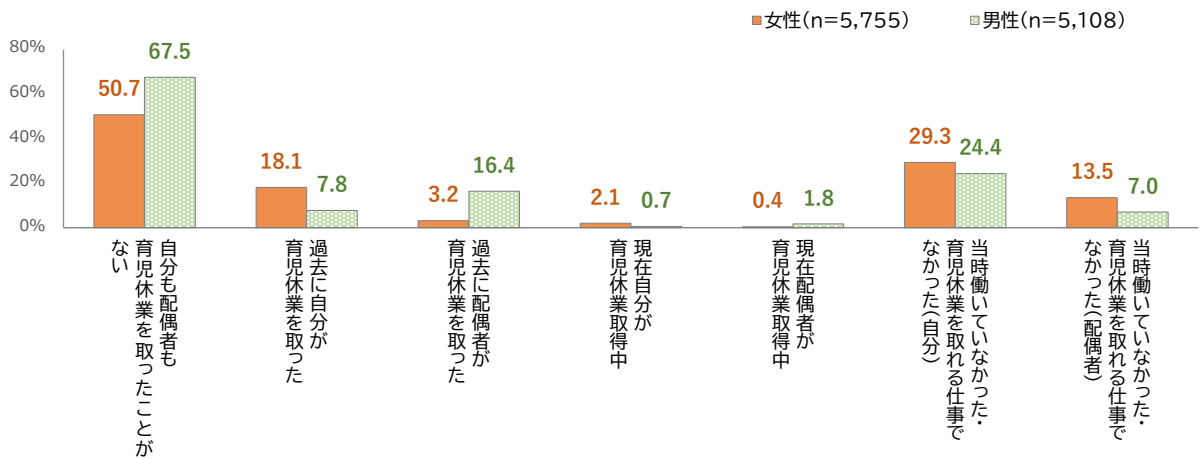


- 子供を持ちたいと思う
- ▨ どちらでもいいと思う
- 子供を持ちたいとは思わない
- ▨ まだわからない・考えたことがない
- ▨ 出来れば子供を持ちたいと思う
- ▨ あまり子供を持ちたいとは思わない
- 妊娠中である・既に子供を持つ予定がある
- その他

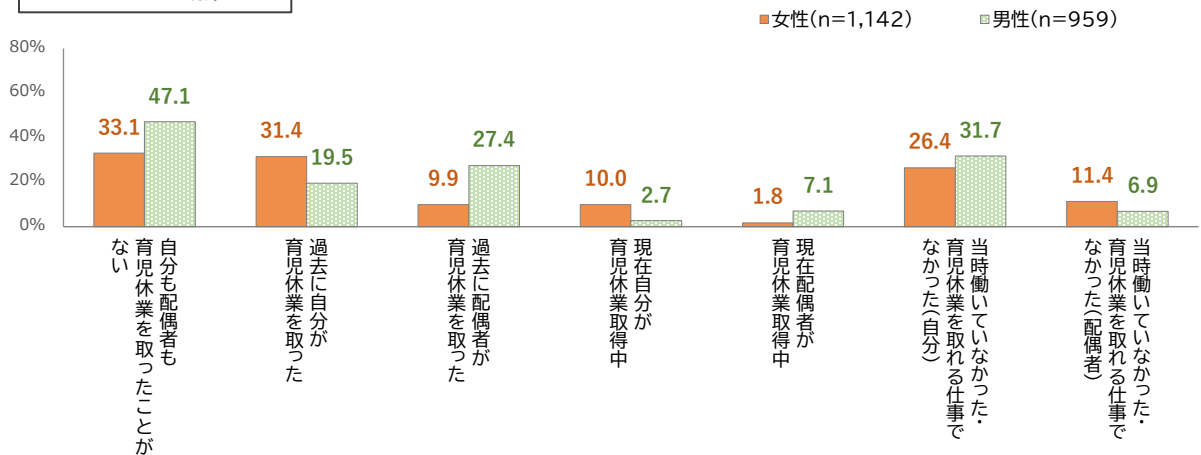
※子供を持ちたい(計) = 子供を持ちたいと思う + 出来れば子供を持ちたいと思う
 ※子供を持ちたいとは思わない(計) = 子供を持ちたいとは思わない + あまり子供を持ちたいとは思わない

(4) 育児休業の取得経験(子供がいる・子供を持ったことがある人対象)

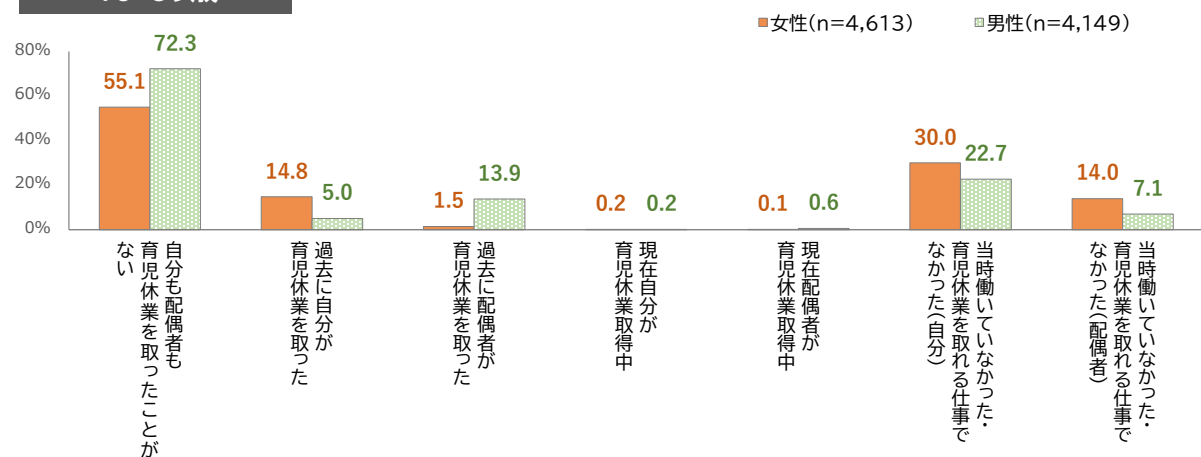
- ・「自分も配偶者も育児休業を取ったことがない」が、女性では50.7%、男性では67.5%となっている。
- ・「過去に自分が育児休業を取った」については、女性で18.1%、男性で7.8%。
- ・年代別に見ると、「過去に自分が育児休業を取った」については、20-39歳では、女性で31.4%、男性で19.5%。40-69歳では、女性で14.8%、男性で5.0%。



20-39歳



40-69歳

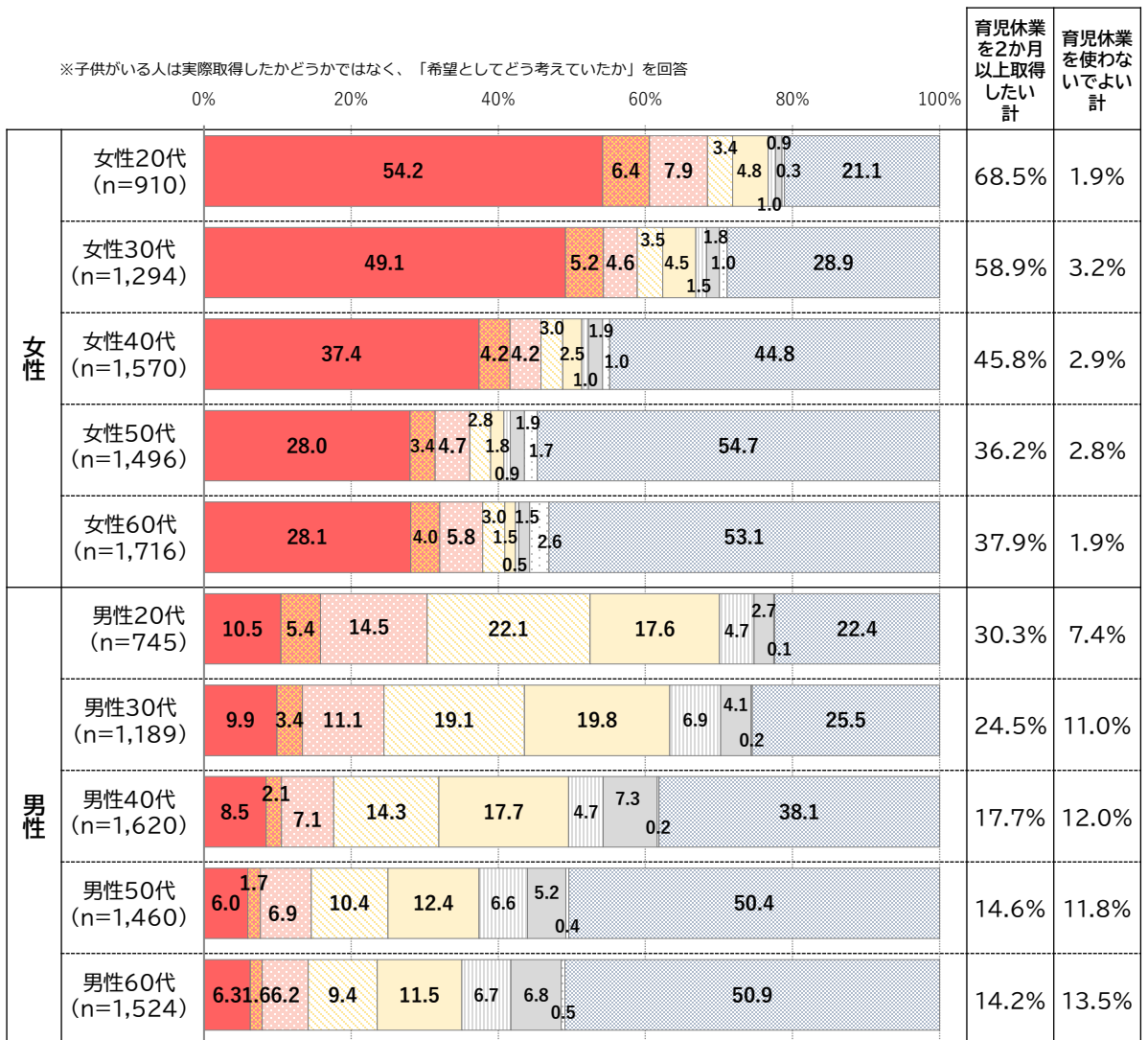


(5) 育児休業取得(第1子が生まれてから、子供が0～3歳の頃)の希望

(子供がいる・子供を持ったことがある人、もしくは子供を持ったことがないが持ちたい人(妊娠中も含む)が対象)

- ・男女、年代別にみると、女性の20～30代では「育児休業を半年以上取得したい」が最も高く5割、40代で4割、50～60代で3割となっている。なお、40代以上では、「覚えていない・特に希望はない・なかった」が4～5割と高い。
- ・男性では、全ての年代で「覚えていない・特に希望はない・なかった」が最も高いが、その他の選択肢の中では、20代では「育児休業を1か月程度取得したい」が22.1%と高く、30代以上では「育児休業を数日間取得したい」が最も高い。「育児休業を2か月以上取得したい」計で見てみると、20代では30.3%、30代では24.5%、40代より上の年代では15%程度となる。
- ・男女を比較すると、女性ではどの年代でも取得希望期間は「半年以上」が最も高い。一方、男性では「数日間」または「1か月程度」が高く、差が大きい。

※子供がいる人は実際取得したかどうかではなく、「希望としてどう考えていたか」を回答



- 育児休業を半年以上取得したい
- 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい
- 育児休業を2-3か月取得したい
- 育児休業を1か月程度取得したい
- 育児休業を数日間取得したい
- 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい
- 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい
- その他
- 覚えていない・特に希望はない・なかった

※育児休業を2か月以上取得したい(計) = 育児休業を半年以上取得したい+育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい+育児休業を2-3か月取得したい
 ※育児休業を使わないでよい(計) = 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい+育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい

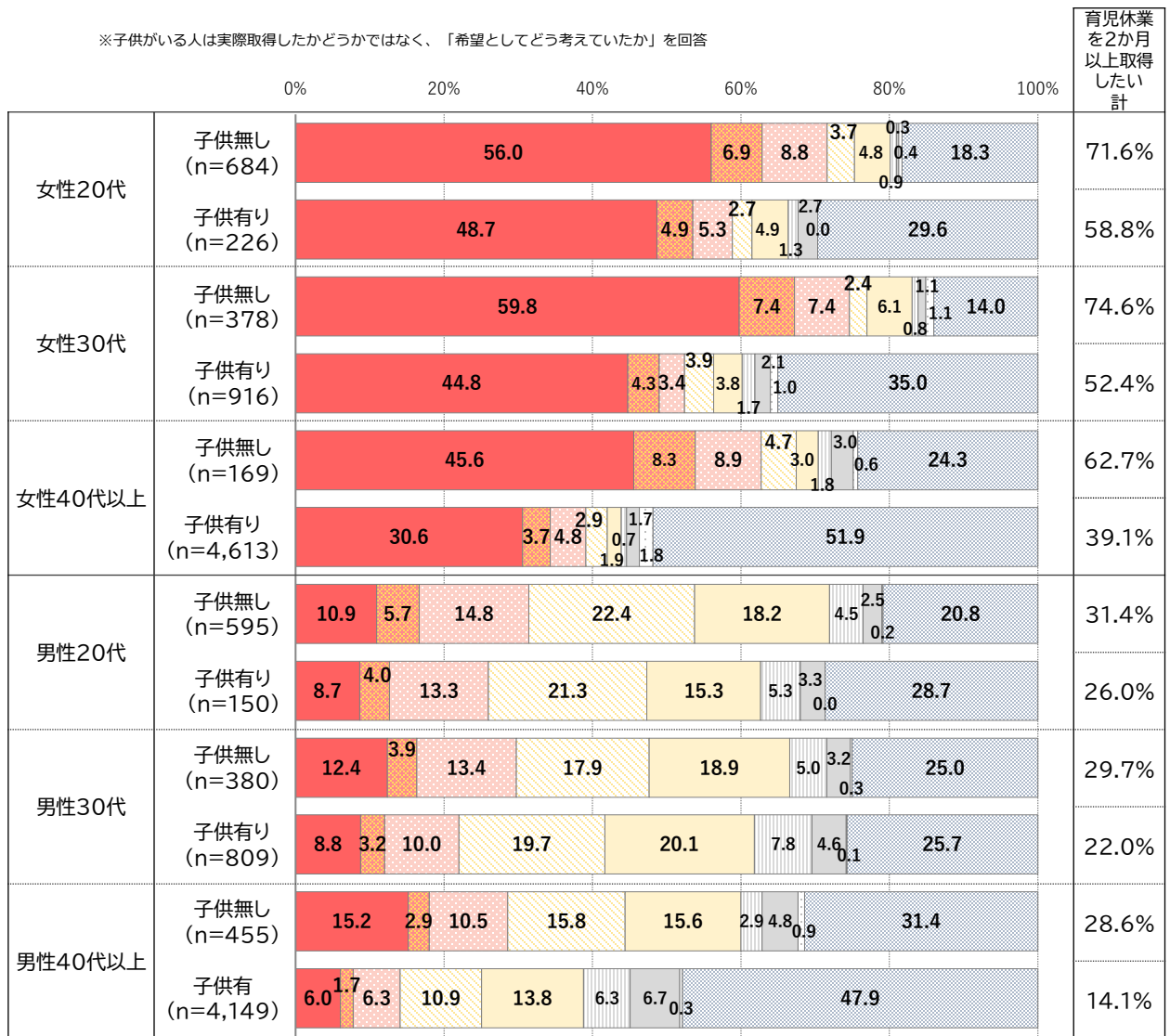
(5) 育児休業取得(第1子が生まれてから、子供が0~3歳の頃)の希望

(子供がいる・子供を持ったことがある人、もしくは子供を持ったことがないが持ちたい人(妊娠中も含む)が対象)

- ・年代、子供の有無別に見てみると、女性では、「40代以上子供有り」を除く全ての区分で「半年以上取得したい」で4~6割程度と最も高い。また、「子供無し」では「子供有り」と比べ、全ての年代で「育児休業を2か月以上取得したい」割合が10%ポイント以上高い。一方、「子供有り」では「子供無し」と比べ、全ての年代で、「覚えていない・特に希望はない・なかった」の割合が10%ポイント以上高い。
- ・男性では、「40代以上子供有り」を除く全ての区分で、「育児休業を2か月以上取得したい」割合が3割程度。「子供無し」の方が割合は高い傾向にある。「半年以上取得したい」割合は、いずれの区分でも1割程度となっている。
- ・同年代の男女で比較すると、育児休業を「半年以上取得したい」「2か月以上取得したい」のいずれの区分で見ても、女性の方が高い傾向にある。

※子供無し：子供を持ったことがないが持ちたい人(妊娠中も含む)
 子供有り：子供がいる 子供を持ったことがある人

※子供がいる人は実際取得したかどうかではなく、「希望としてどう考えていたか」を回答



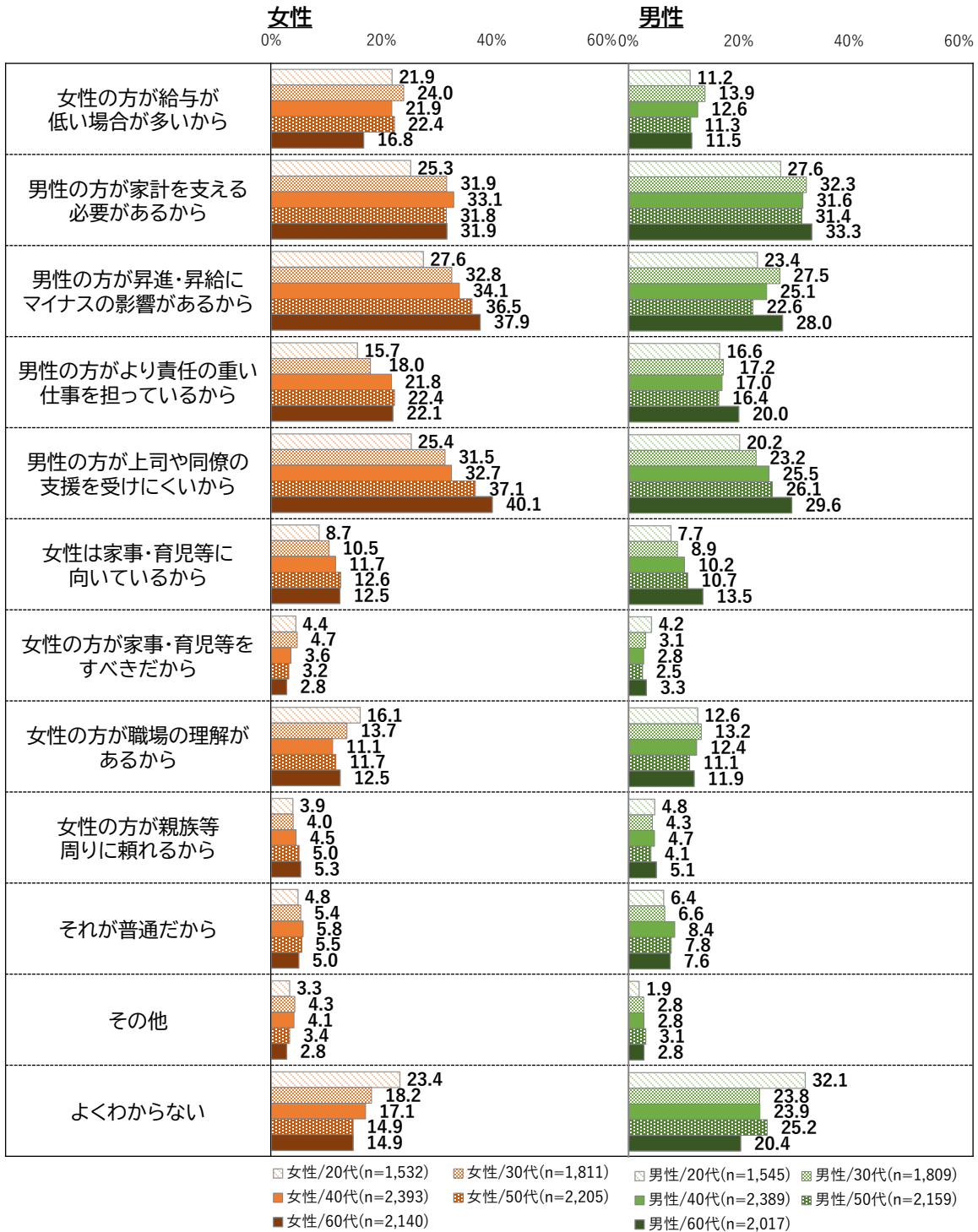
- 育児休業を半年以上取得したい
- 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい
- 育児休業を2-3か月取得したい
- 育児休業を1か月程度取得したい
- 育児休業を数日間取得したい
- 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい
- 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい
- その他
- 覚えていない・特に希望はない・なかった

※育児休業を2か月以上取得したい(計) = 育児休業を半年以上取得したい + 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい + 育児休業を2-3か月取得したい
 ※育児休業を使わないでよい(計) = 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい + 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい

(6) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(年代別)

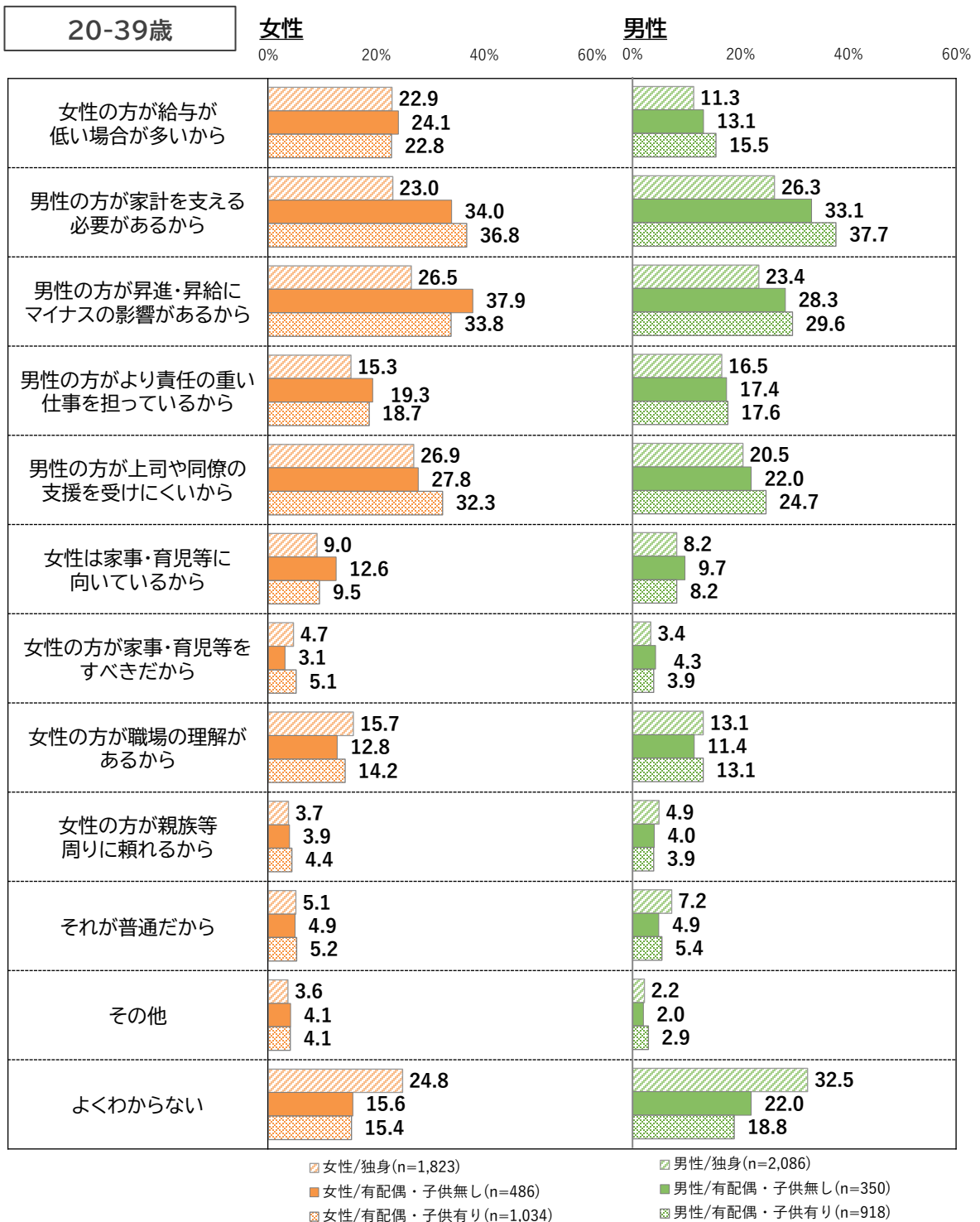
・年代別に見てみると、男女ともに上の年代ほど「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」「女性は家事・育児等に向いているから」が高い傾向にあり、また女性では上の年代ほど「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方がより責任の重い仕事を担っているから」「女性の方が親族等周りに頼れるから」が高い傾向にある。

・同年代の男女で比較すると、10%ポイント以上差がある項目は少ないが、「女性の方が給与が低い場合が多いから」は、20～50代では女性の方が10%ポイント程度高い。また、「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」は、50～60代では女性の方が10%ポイント程度高い。



(6) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(配偶状況・子供の有無別、20-39歳)

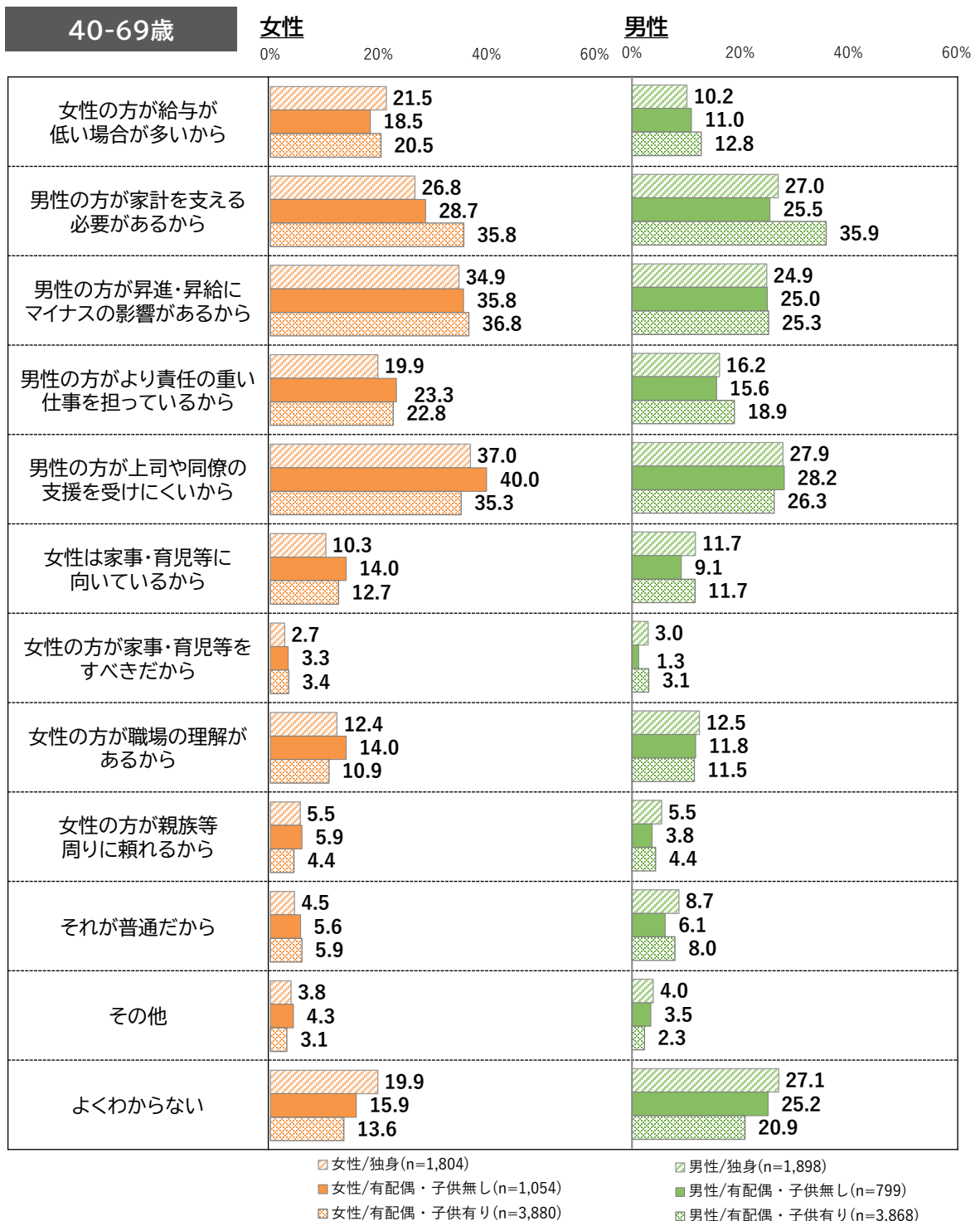
- ・20-39歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに「男性の方が家計を支える必要があるから」では「独身」と比べて「有配偶・子供有り」の方が10%ポイント以上高い。
- ・女性では、「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」については、「独身」と比べて「有配偶・子供無し」の方が10%ポイント以上高い。
- ・男女で比較すると、「女性の方が給与が低い場合が多いから」については、「独身」「有配偶・子供無し」では、男性よりも女性の方が10%ポイント以上高い。



(6) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(配偶状況・子供の有無別、40-69歳)

・40-69歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに「男性の方が家計を支える必要があるから」については、「独身」に比べて「有配偶・子供有り」の方が9%ポイント程度高い。

・男女で比較すると、「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」については、いずれの区分でも女性の方が10%ポイント程度高い。また、「女性の方が給与が低い場合が多いから」については、「独身」では、女性の方が10%ポイント以上高い。



(7) 育児休業取得への考え方

・「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値でみると、男女ともに7割を超える項目は、ポジティブ要素では「子供との良い関係を築くことができる」、ネガティブ要素では「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」「収入が減り不安な状態になる」。女性の7割を超える項目は、ポジティブ要素では「家にいる時間が増え安心感が高まる」、ネガティブ要素では「会社の制度等に問題があり取りにくい」「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」「昇進・昇給にマイナスの影響がある」「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」。

・男女で比較すると「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」は女性の方が10ポイント以上高い。

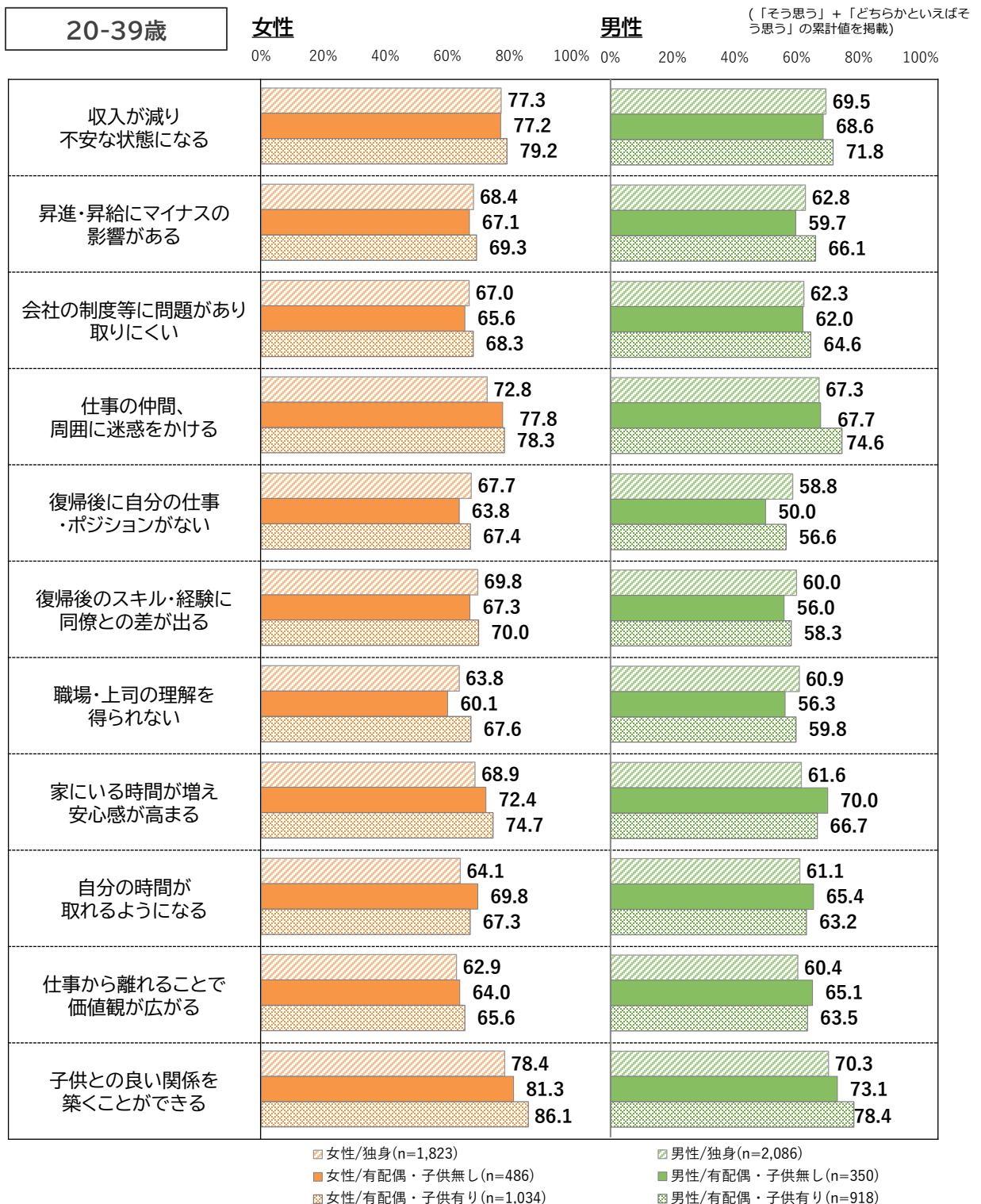
※70%を超えるセルに色掛け

		0%	20%	40%	60%	80%	100%	そう思う+ どちらかとい えばそう思う
女性	収入が減り不安な状態になる	24.6	53.3	16.7	5.5			77.9%
	昇進・昇給にマイナスの影響がある	19.9	51.5	22.1	6.5			71.4%
	会社の制度等に問題があり取りにくい	23.6	49.7	19.8	6.8			73.3%
	仕事の仲間、周囲に迷惑をかける	29.3	52.0	13.7	5.0			81.3%
	復帰後に自分の仕事・ポジションがない	19.7	50.7	23.5	6.2			70.3%
	復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る	20.1	52.3	21.7	5.9			72.4%
	職場・上司の理解を得られない	22.1	47.8	23.3	6.9			69.8%
	家にいる時間が増え安心感が高まる	19.4	51.0	24.0	5.6			70.4%
	自分の時間が取れるようになる	17.7	50.1	24.5	7.6			67.8%
	仕事から離れることで価値観が広がる	13.8	50.5	29.2	6.6			64.2%
	子供との良い関係を築くことができる	33.0	51.4	11.8	3.8			84.4%
男性	収入が減り不安な状態になる	20.9	49.6	21.9	7.6			70.5%
	昇進・昇給にマイナスの影響がある	17.6	46.8	27.1	8.5			64.4%
	会社の制度等に問題があり取りにくい	19.5	45.7	26.4	8.4			65.2%
	仕事の仲間、周囲に迷惑をかける	24.9	49.2	19.2	6.6			74.1%
	復帰後に自分の仕事・ポジションがない	14.4	43.8	32.1	9.7			58.2%
	復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る	13.8	44.5	32.1	9.7			58.2%
	職場・上司の理解を得られない	17.7	44.3	29.4	8.5			62.0%
	家にいる時間が増え安心感が高まる	14.8	49.3	28.6	7.4			64.0%
	自分の時間が取れるようになる	14.4	48.1	29.5	8.0			62.5%
	仕事から離れることで価値観が広がる	12.5	47.3	31.5	8.7			59.8%
	子供との良い関係を築くことができる	24.7	51.7	17.9	5.6			76.5%

■ そう思う ▨ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

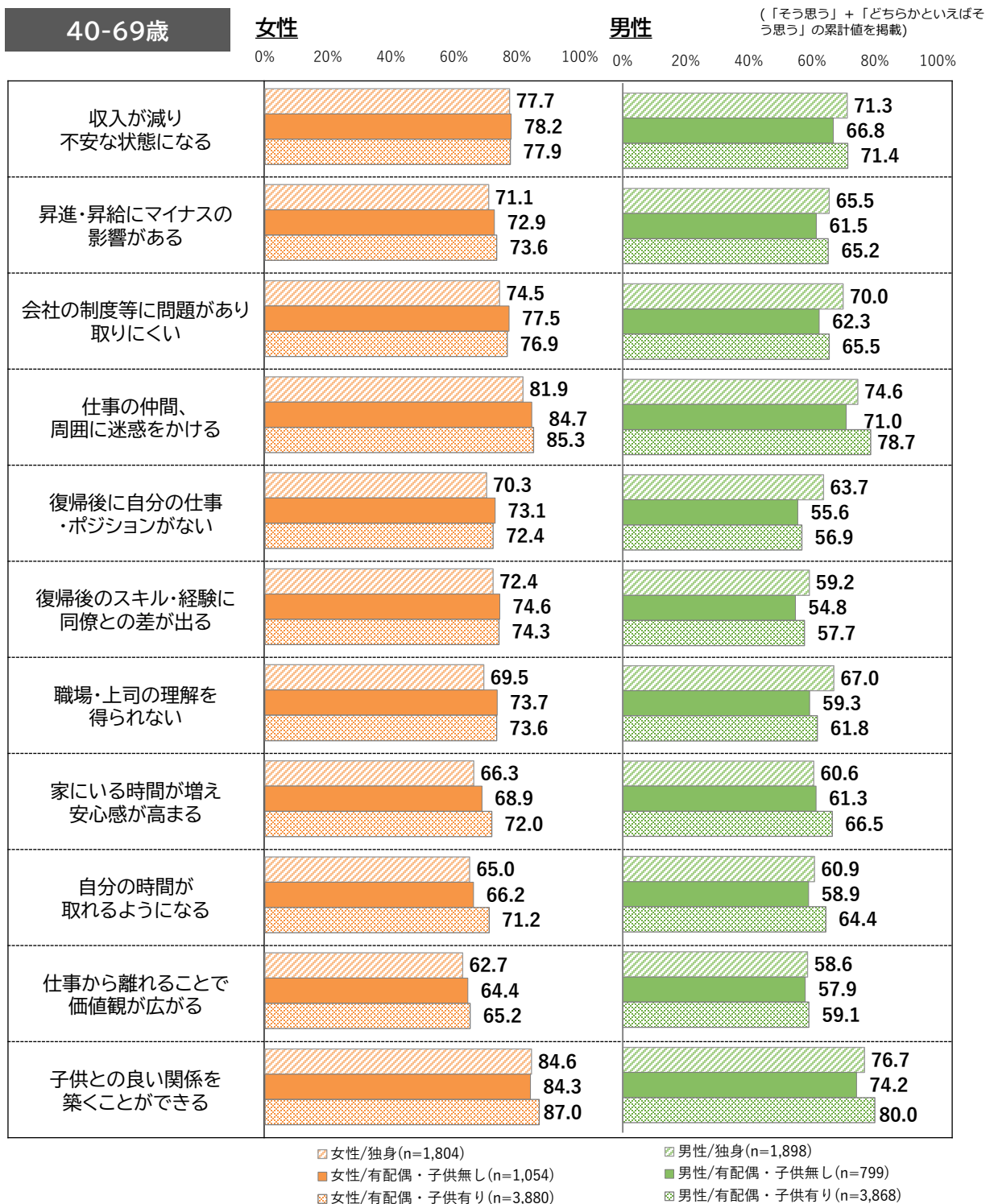
(7) 育児休業取得への考え方(配偶状況・子供の有無別、20-39歳)

- ・20-39歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに大きな差はなかった。
- ・男女で比較すると、「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」については、全ての区分で、男性より女性の方が10%ポイント程度高い。また「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」は、「有配偶・子供無し」においては、男性より女性の方が10%ポイント以上高い。



(7) 育児休業取得への考え方(配偶状況・子供の有無別、40-69歳)

・40-69歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに大きな差はなかった。
 ・男女で比較すると、「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」については、全ての区分で、男性より女性の方が10%ポイント以上高い。また「会社の制度等に問題があり取りにくい」「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」「職場・上司の理解を得られない」については、「有配偶・子供無し」「有配偶・子供有り」で、男性より女性の方が10%ポイント以上高い。「収入が減り不安な状態になる」「昇進・昇給にマイナスの影響がある」「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」「子供との良い関係を築くことができる」については、「有配偶・子供無し」において、男性より女性の方が10%ポイント以上高い。



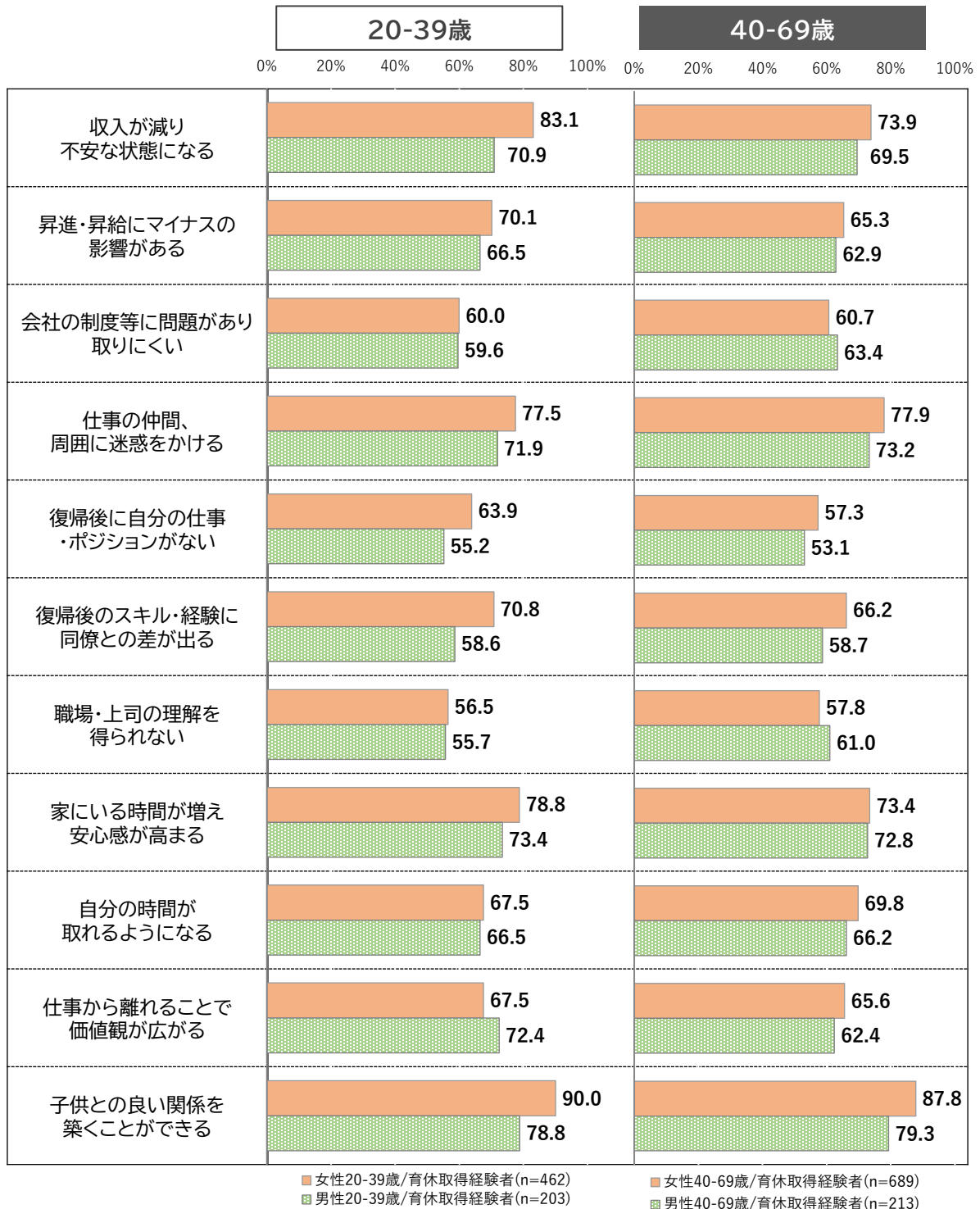
(7) 育児休業取得への考え方(育児休業取得経験者)

・育児休業取得経験者の育児休業取得への考え方について、年代別に見てみると、20-39歳では、ポジティブ要素では「子供との良い関係を築くことができる」、ネガティブ要素では「収入が減り不安な状態になる」「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」について、女性の方が10%ポイント以上高い。

・40-69歳では、ポジティブ要素である「子供との良い関係を築くことができる」について、女性の方が高い。

・20-39歳と40-69歳で比較すると差はあまりないが、「収入が減り不安な状態になる」については、20-39歳女性の方が、40-69歳女性と比べて10%ポイント近く高い。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載)

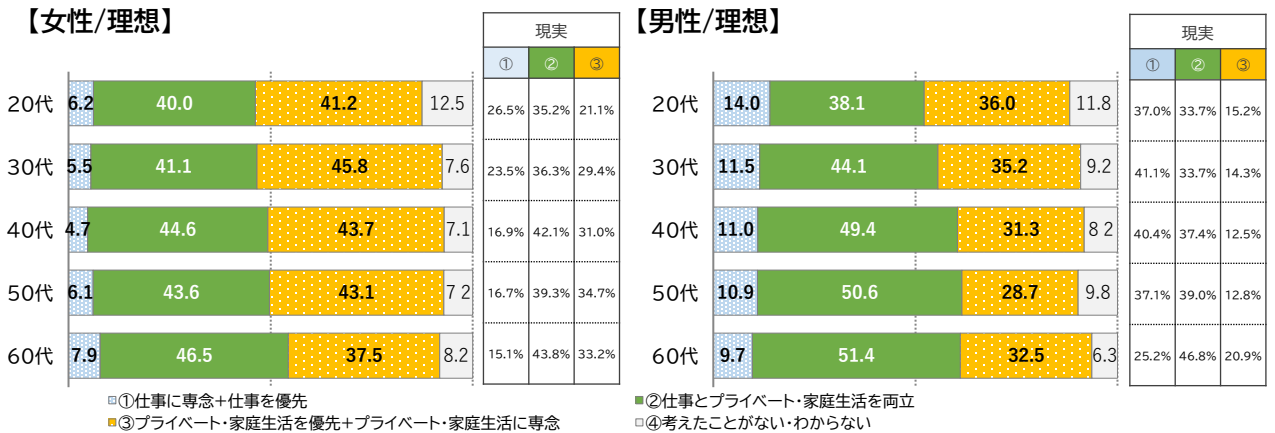


調査結果まとめ

◆仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者対象)

- 1 男女ともに、理想では「両立」志向がいずれの年代でも4~5割を占める。また、「仕事に専念+優先」は男性でも1割程度で、どの年代でも高くない。
- 2 30~50代では、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」を理想とする割合が高いが、20代では男女差は小さい。
- 3 現実では理想と比べ、「仕事に専念+優先」の割合が高く、特に男性で顕著。どの年代でも男性の方が「仕事に専念+優先」の割合が高いが、20代では上の年代と比べて男女差は小さい。

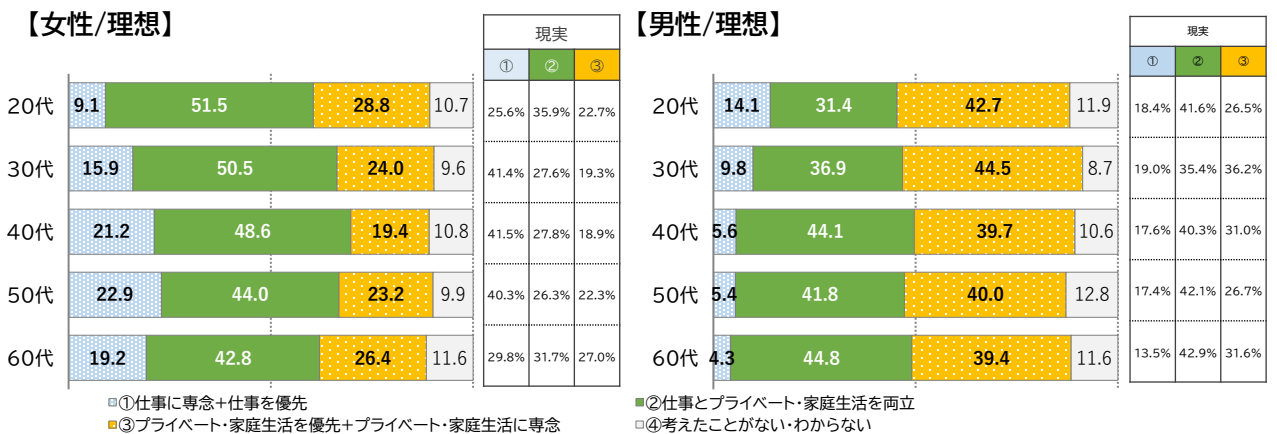
・有職者における仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実



◆配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者)

- 1 理想では男女ともに配偶者に「両立」を望む傾向が高く、女性は4~5割、男性は3~4割。なお、男性では「プライベート・家庭生活を優先+専念」も高く、全ての年代で約4割程度となっている。
- 2 現実に女性が配偶者を見ると、20代と60代では「両立」が最も高いが、30~50代では「仕事に専念+優先」が4割強と最も高い。
- 3 男女で比較すると、理想においては女性の方が配偶者に対して「両立」を望む傾向があり、男性は配偶者に対して「プライベート・家庭生活を優先+専念」を望む傾向がある。

・配偶者(有職者)の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実



調査結果まとめ

◆育児休業取得(子供が0～3歳の頃)の希望

- 1 女性では、「半年以上取得したい」が20～30代で5割程度、40代で4割、50～60代で3割。(40代以上では「覚えていない・希望がなかった」が4～5割と高い。)
- 2 男性では、どの年代でも「半年以上取得したい」は1割程度。若い年代ほど、取得希望期間は長くなる傾向がある。
- 3 取得希望の期間については、女性では全ての年代で「半年以上」が最も高い。一方、男性では、全ての年代で「数日間」または「1か月程度」が最も高く、差が大きい。

育児休業取得の希望		育児休業取得の希望期間				
		半年以上	4-5か月 (半年未満)	2-3か月	1か月程度	数日間
20代	女性	54.2%	6.4%	7.9%	3.4%	4.8%
	男性	10.5%	5.4%	14.5%	22.1%	17.6%
30代	女性	49.1%	5.2%	4.6%	3.5%	4.5%
	男性	9.9%	3.4%	11.1%	19.1%	19.8%
40代	女性	37.4%	4.2%	4.2%	3.0%	2.5%
	男性	8.5%	2.1%	7.1%	14.3%	17.7%
50代	女性	28.0%	3.4%	4.7%	2.8%	1.8%
	男性	6.0%	1.7%	6.9%	10.4%	12.4%
60代	女性	28.1%	4.0%	5.8%	3.0%	1.5%
	男性	6.3%	1.6%	6.2%	9.4%	11.5%

※子供がいる・子供を持ったことがある人、もしくは子供を持ちたい人(妊娠中も含む)が対象
※各区分で最も高い取得希望期間に色掛け

◆育児休業取得の影響・考え方と、男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由

- 1 育児休業取得への考え方・影響について、「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」「復帰後に自分のポジションがない」等で女性の方が高く、男女差が大きい。
- 2 男性の育児休業取得率が低い理由について、20-39歳の男女で高い項目は、「男性の方が家計を支える必要がある」「男性の方が昇進にマイナスの影響がある」「男性の方が周囲の支援を受けにくい」。
- 3 男性の育児休業取得率が低い理由について男女差が大きい項目は、「女性の方が給与が低い場合が多い」であり、20～39歳においては女性の方が10%ポイント高い。

※選択肢は抜粋
※男女差が10%ポイント以上ある(高い)項目に色掛け

- 育児休業取得への考え方・影響について、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の累計値で見ると、男女ともに7割を超える項目は、ポジティブ要素では「子供との良い関係を築くことができる」、ネガティブ要素では「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」「収入が減り不安な状態になる」。
- 「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」は男女差が大きく、女性の方が10%ポイント以上高い。

男性の育児休業取得率が低い理由	20-39歳	
	女性	男性
男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから	30.4%	25.6%
男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから	28.7%	21.8%
男性の方が家計を支える責任があるから	28.9%	30.1%
女性の方が給与が低い場合が多いから	23.1%	12.6%

4.生活の中でのバランス

(1) 1日の時間の使い方(仕事がある日、有職者)

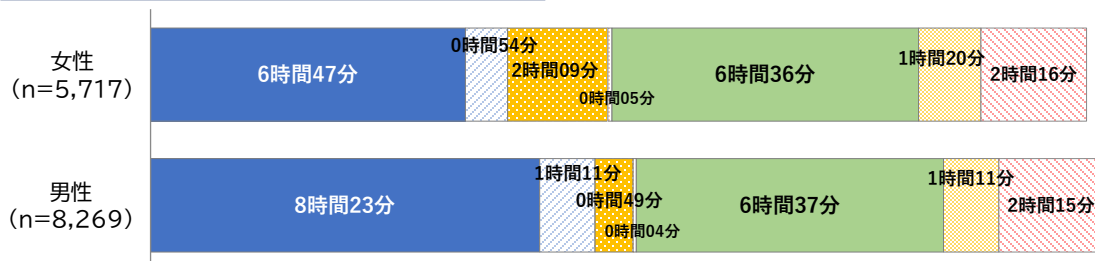
・仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方について有職者の男女で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が1時間20分長く、男性の2.6倍となっている。「仕事の時間」は男性の方が1時間36分長く、「睡眠時間」は男女同程度となっている。

・テレワークの日の「家事・育児時間」も女性の方が長い、その差はテレワーク以外の日より小さい。「仕事の時間」は男性の方が1時間22分長い。

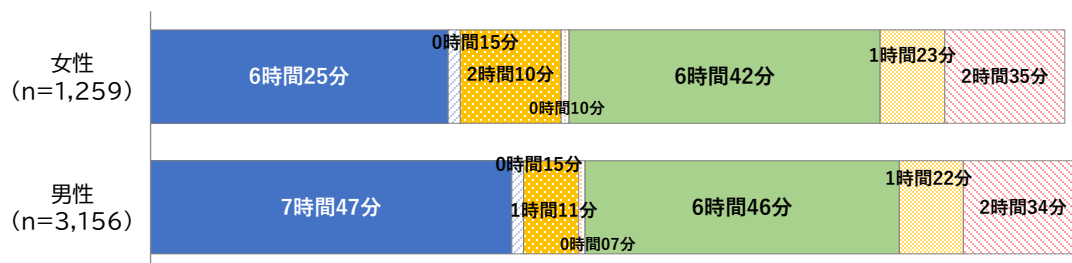
・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、男女ともに「仕事の時間」はテレワークの日の方が短くなっており、特に男性では30分以上短い。「家事・育児時間」は、男性ではテレワークの日の方が22分長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」も、男性ではテレワークの日の方が11分長い。また、「自分のことに使う時間」は、テレワークの日の方が、男女ともに19分長い。

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



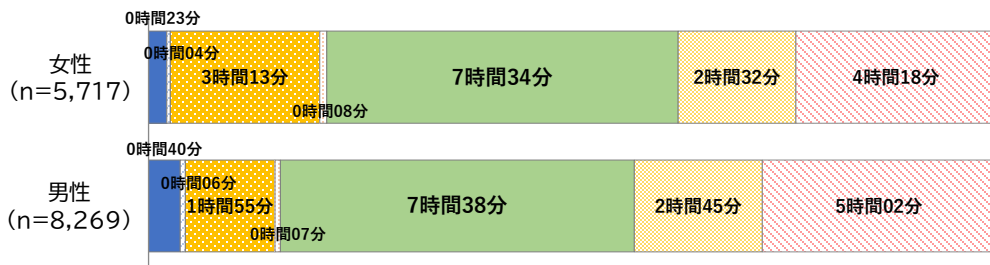
※食事 身の回りの用事(入浴時間等)の時間、友人等と遊んだり、くつろいだりする時間、その他の時間についてはグラフに表章していないため、合計で24時間にはならない。(以下同じ)

(1) 1日の時間の使い方(仕事がない日(有職者)、普段の日(働いていない人))

- ・有職者の仕事がない日と働いていない人の普段の日の1日の時間の使い方を見ると、有職者において、仕事がない日の「家事・育児時間」は、女性の方が1時間以上長い。一方、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性の方が13分長い。「自分のことに使う時間」も、男性の方が44分長い。
- ・働いていない人の普段の日の「家事・育児時間」は、女性の方が3時間近く長く、差が大きい。一方、「睡眠時間」は男性の方が25分長く、「自分のことに使う時間」は男性の方が2時間31分長い。
- ・有職者の仕事がない日と働いていない人の普段の一日を比較すると、「家事・育児時間」は、女性では働いていない人の方が長く、男性では有職者の方が長い。また、「睡眠時間」は、男女ともに有職者の方が長い。

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がない日※有職者



普段の日※働いていない人



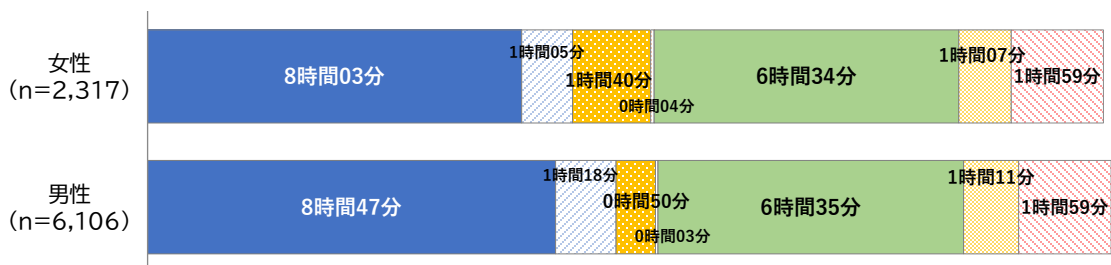
(1) 1日の時間の使い方(正規雇用労働者)

- ・正規雇用労働者の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が50分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が44分長く、「睡眠時間」は同程度となっている。
- ・テレワークの日の「家事・育児時間」も、女性の方が46分長いが、その差はテレワーク以外の日より小さい。一方、「仕事の時間」は男性の方が46分長い。
- ・テレワークの日とテレワーク以外の日と比較すると、男女ともに「仕事の時間」はテレワークの日の方が短くなっており、女性で44分、男性で42分短い。「家事・育児時間」は、女性で20分、男性で24分、テレワークの日の方が長い。また「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」も、男女ともにテレワークの日の方が10分前後長く、「自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)」についても、男女ともにテレワークの日の方が、25分程度長くなっている。
- ・仕事がない日の「家事・育児時間」は、男性に比べて女性の方が51分が長い。一方で、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性の方が25分長く、「自分のことに使う時間」も、男性の方が27分長い。

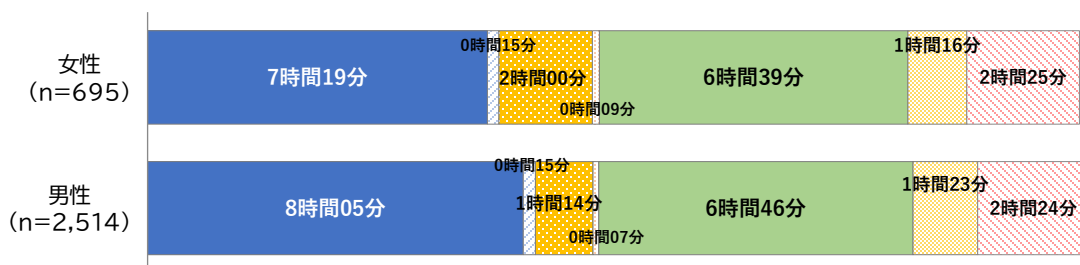
正規雇用労働者

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

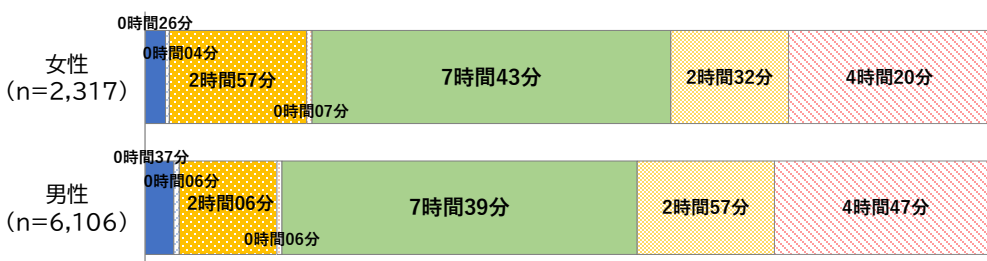
仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



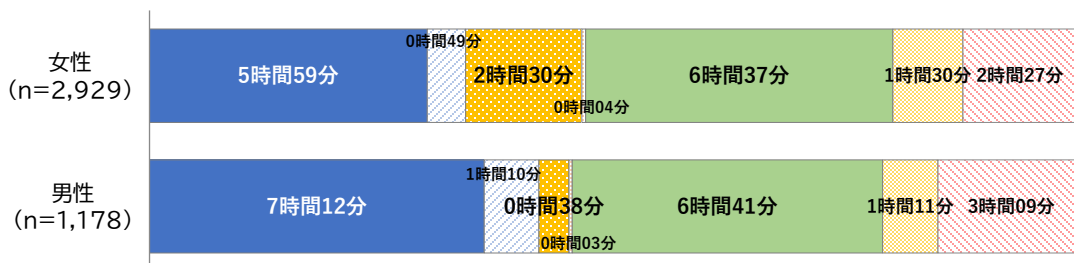
(1) 1日の時間の使い方(非正規雇用労働者)

- ・非正規雇用労働者の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見ても、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性で2時間30分、男性で38分と女性の方が1時間52分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が1時間13分長い。
- ・テレワークの日の「家事・育児時間」については、テレワーク以外の日よりも男女差は小さくなるが、女性の方が1時間34分長い。一方「仕事の時間」は男性の方が1時間13分長い。
- ・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、「仕事の時間」は男女ともに33分テレワークの日の方が短い。「家事・育児時間」は、男性では8分、テレワークの日の方が長い。また「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」も、男女ともにテレワークの日の方が10分程度長く、「自分のことに使う時間」は、女性で21分、男性で5分テレワークの日の方が長くなっている。
- ・仕事がない日の「家事・育児時間」は、男性と比べて女性の方が2時間8分長い。一方で、「自分のことに使う時間」については、男性の方が1時間59分長い。

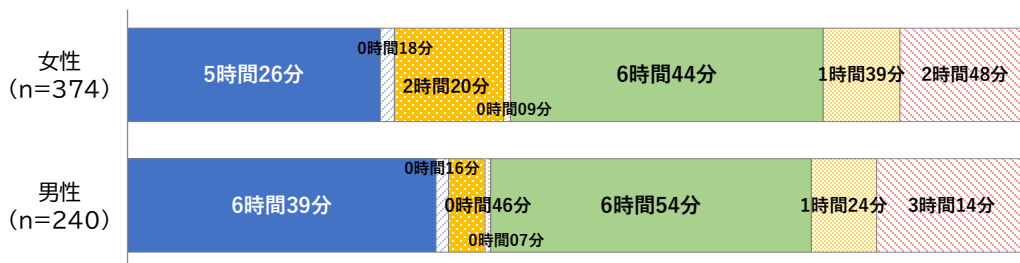
非正規雇用労働者

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

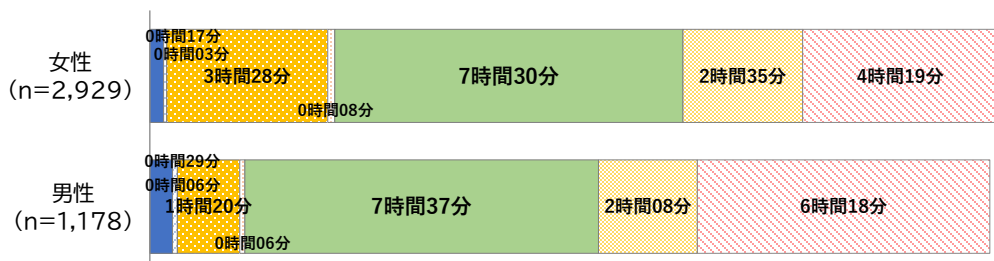
仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



(1) 1日の時間の使い方(有職者、有配偶(20-39歳))

・有配偶の有職者(20-39歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見てみると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が1時間41分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が2時間11分長い。

・テレワークの日の「家事・育児時間」は、テレワーク以外の日より男女差は小さくなるが、女性の方が1時間20分長い。「仕事の時間」は男性の方が1時間51分長い。

・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、男女ともに「仕事の時間」は女性で30分、男性で50分、テレワークの日の方が短い。「家事・育児時間」は、男性では28分、テレワークの日の方が長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」については、男女ともに15分程度テレワークの日の方が長く、「自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)」も、男女ともに20分程度テレワークの方が長くなっている。

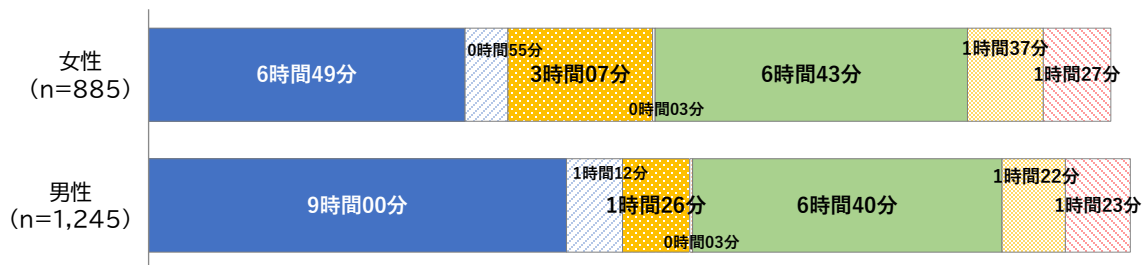
・仕事がない日の「家事・育児時間」は、女性で4時間54分、男性で3時間57分と、女性の方が長い。その差は1時間以内となる。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性の方が女性より24分長い。

有配偶

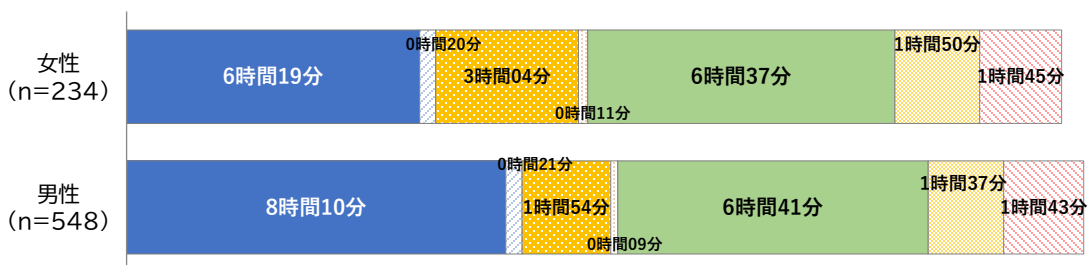
20-39歳

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

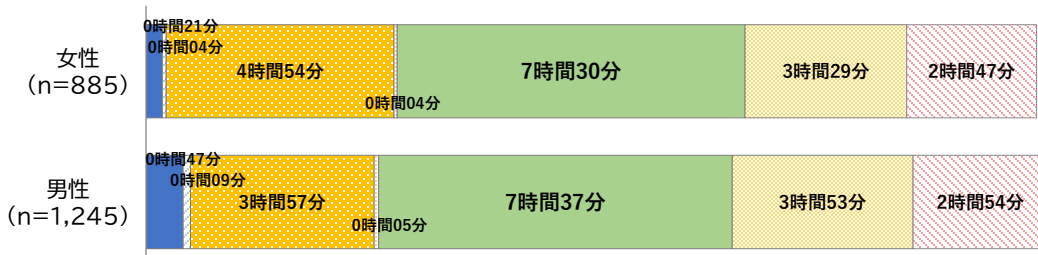
仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



(1) 1日の時間の使い方(有職者、有配偶(40-69歳))

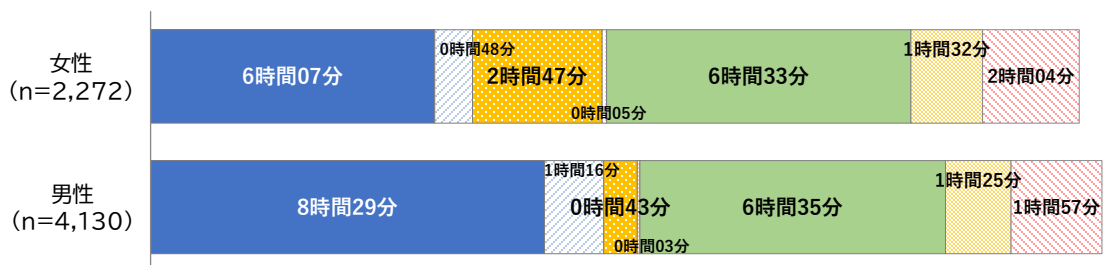
- ・有配偶の有職者(40-69歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見てみると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が2時間4分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が2時間22分長い。
- ・テレワークの日の「家事・育児時間」は、テレワーク以外の日より男女差は小さいが、女性の方が1時間47分長い。「仕事の時間」は男性の方が1時間56分長い。
- ・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、男女ともに「仕事の時間」は女性で6分、男性で32分テレワークの日の方が短い。「家事・育児時間」は、男性で22分テレワークの日の方が長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性で12分テレワークの日の方が長い。「自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)」は、女性で12分、男性で25分、テレワークの日の方が長い。
- ・仕事がない日の「家事・育児時間」は、女性の方が2時間長い。「自分のことに使う時間」は、男性の方が54分長い。

有配偶

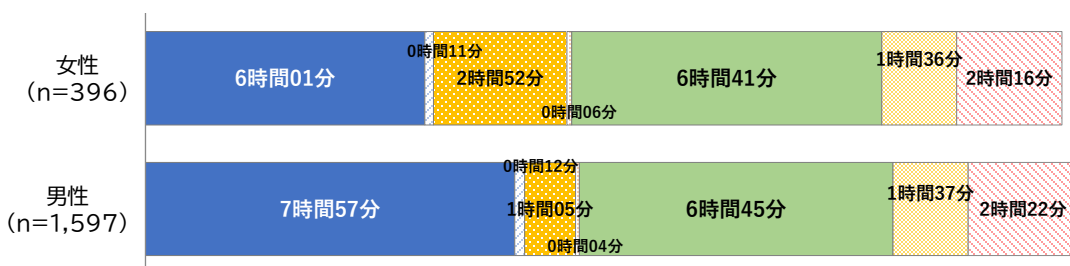
40-69歳

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



(1) 1日の時間の使い方(有職者、小学生以下の子供と同居している人)

・小学生以下の子供と同居している有職者の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見てみると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が2時間15分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が2時間30分長い。

・テレワークの日の「家事・育児時間」は、テレワーク以外の日より男女差は小さいが、女性の方が1時間44分長い。「仕事の時間」は男性の方が2時間4分長い。

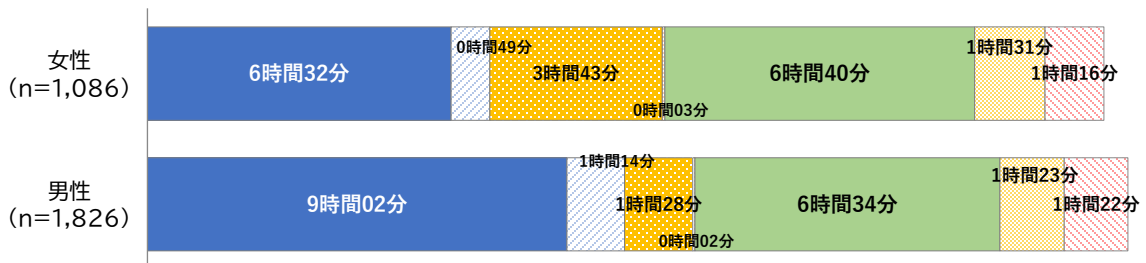
・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、男女ともに「仕事の時間」はテレワークの日の方が短くなっており、女性で19分、男性で45分短い。「家事・育児時間」は、男性では29分、テレワークの日の方が長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、女性で12分、男性で19分、テレワークの日の方が長く、「自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)」も、男女ともに20分程度テレワークの日の方が長くなっている。

・仕事がない日の「家事・育児時間」は、女性で5時間39分、男性で4時間07分と、女性の方が1時間32分長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性の方が女性より42分長く、「自分のことに使う時間」も、男性の方が女性より31分長い。

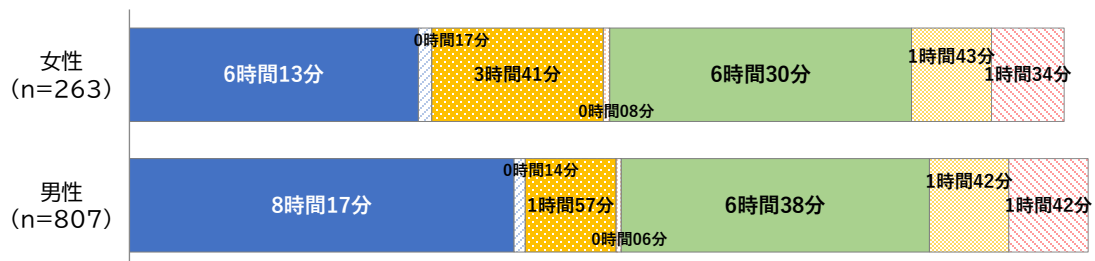
小学生以下の子供と同居している人

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



(1) 1日の時間の使い方(有職者、20-39歳有配偶女性、雇用形態・勤務形態別)

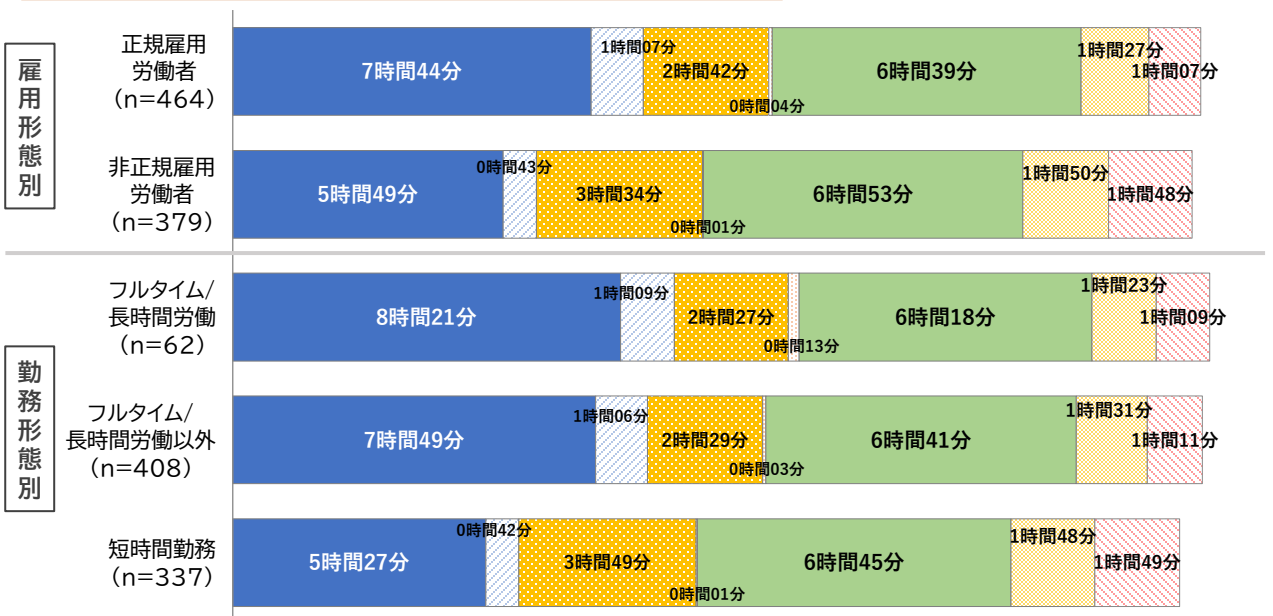
・有配偶の有職女性(20-39歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」「睡眠時間」の長さは、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。

・テレワークの日をテレワーク以外の日と比較すると、仕事時間の差が最も大きいのは「フルタイム/長時間労働」であり、1時間10分短い。対してテレワークの日の方が増える時間は、「家事・育児時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」となっている。

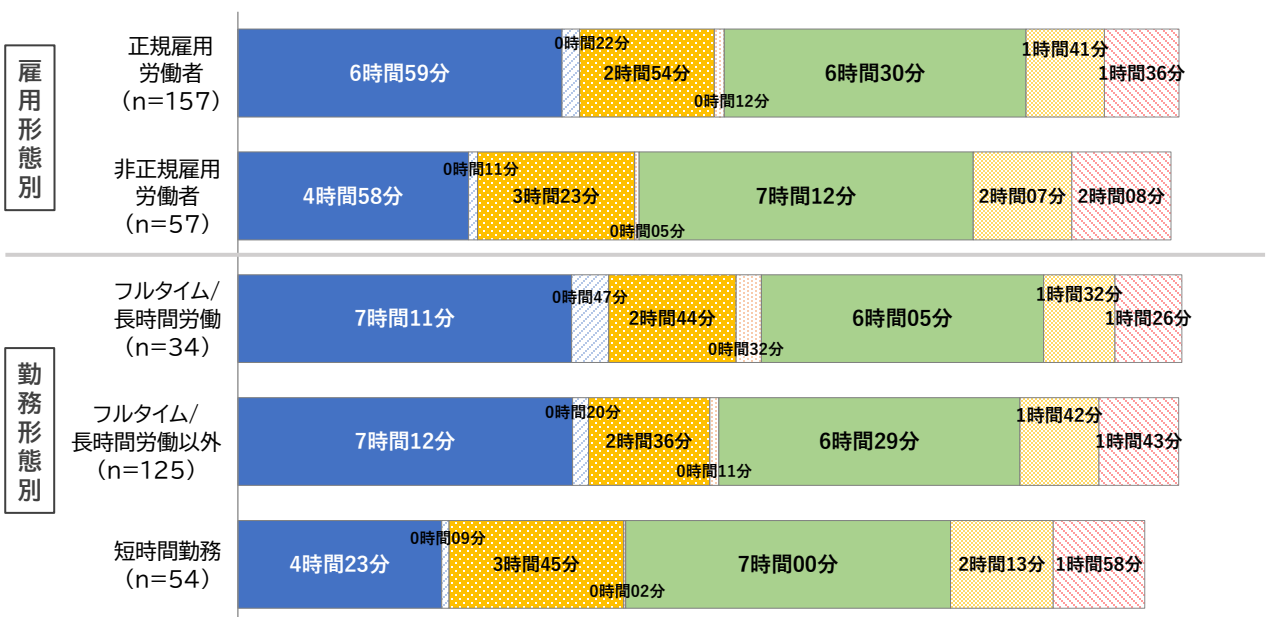
20-39歳・有配偶・女性

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



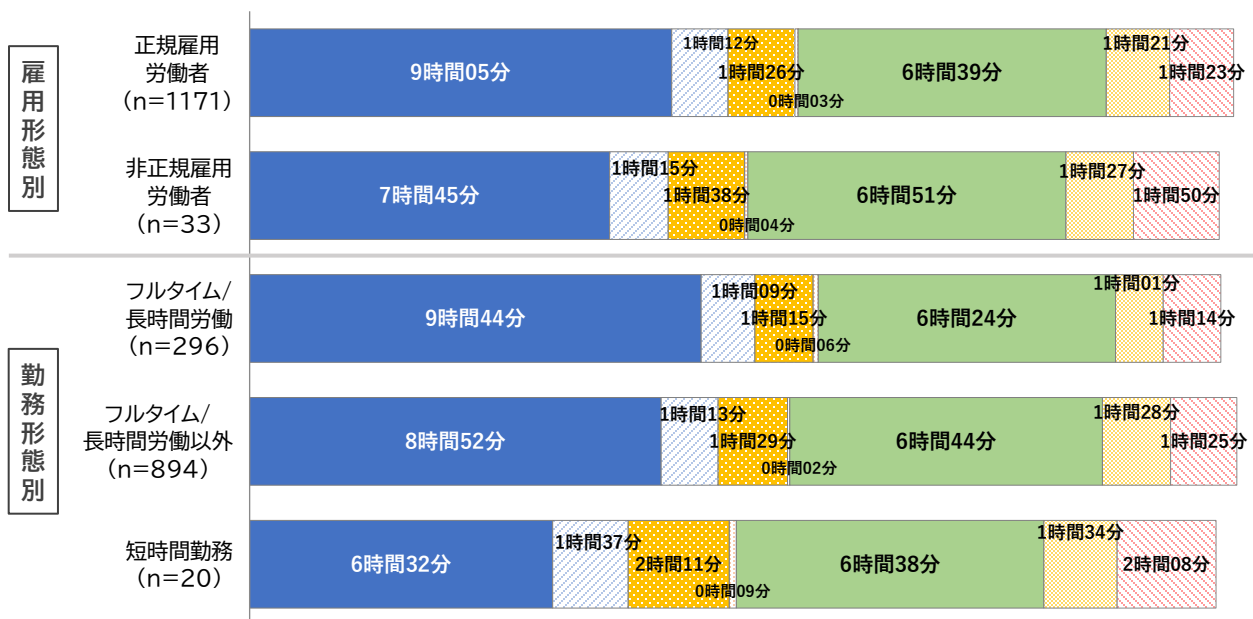
(1) 1日の時間の使い方(有職者、20-39歳有配偶男性、雇用形態・勤務形態別)

・有配偶の有職男性(20-39歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」の長さは、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。

20-39歳・有配偶・男性

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



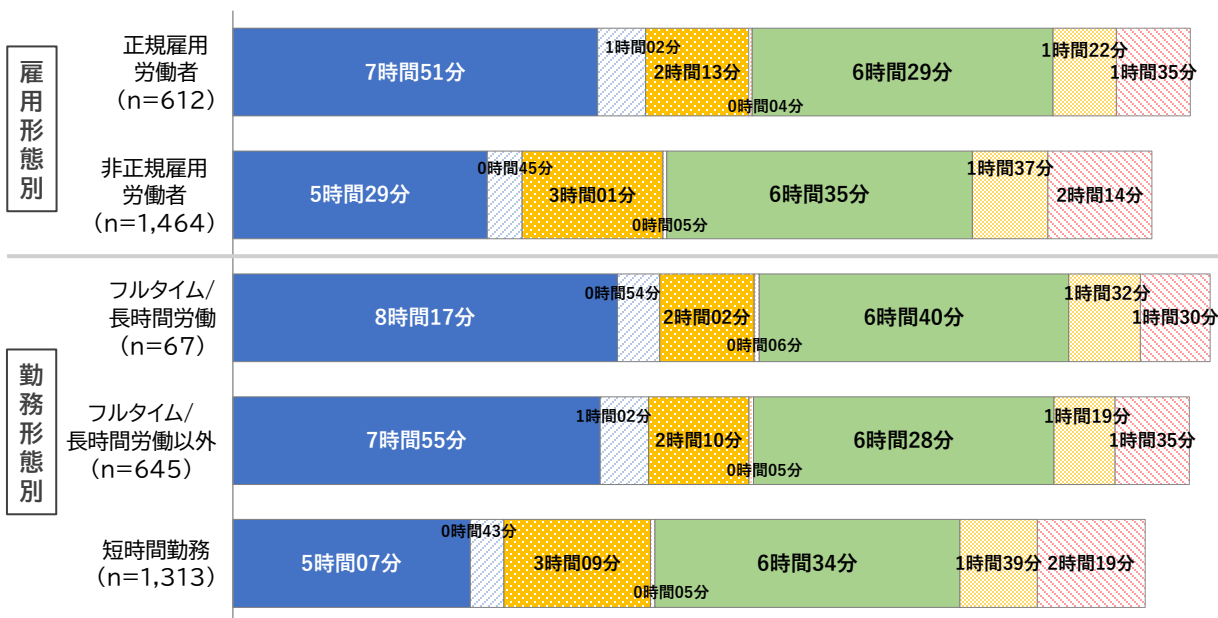
(1) 1日の時間の使い方(有職者、40-69歳有配偶女性、雇用形態・勤務形態別)

・有配偶の有職女性(40-69歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」の長さは、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。

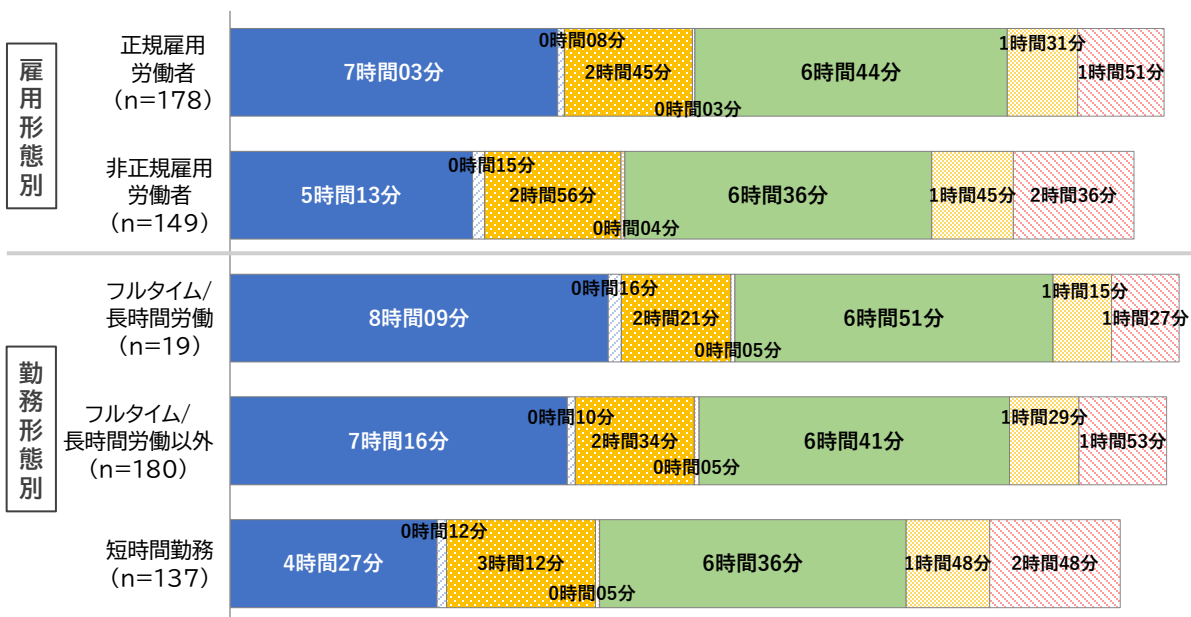
40-69歳・有配偶・女性

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



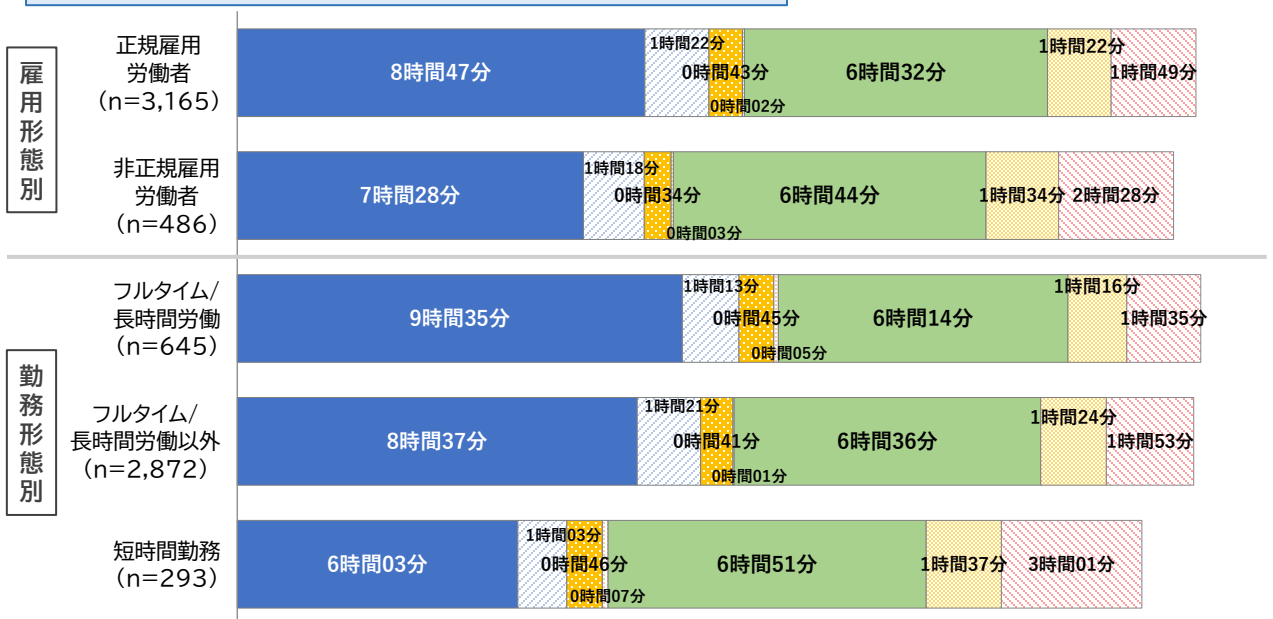
(1) 1日の時間の使い方(有職者、40-69歳有配偶男性、雇用形態・勤務形態別)

・有配偶の有職男性(40-69歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は雇用形態・勤務形態で大きな違いはない。「睡眠時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」の長さは、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。

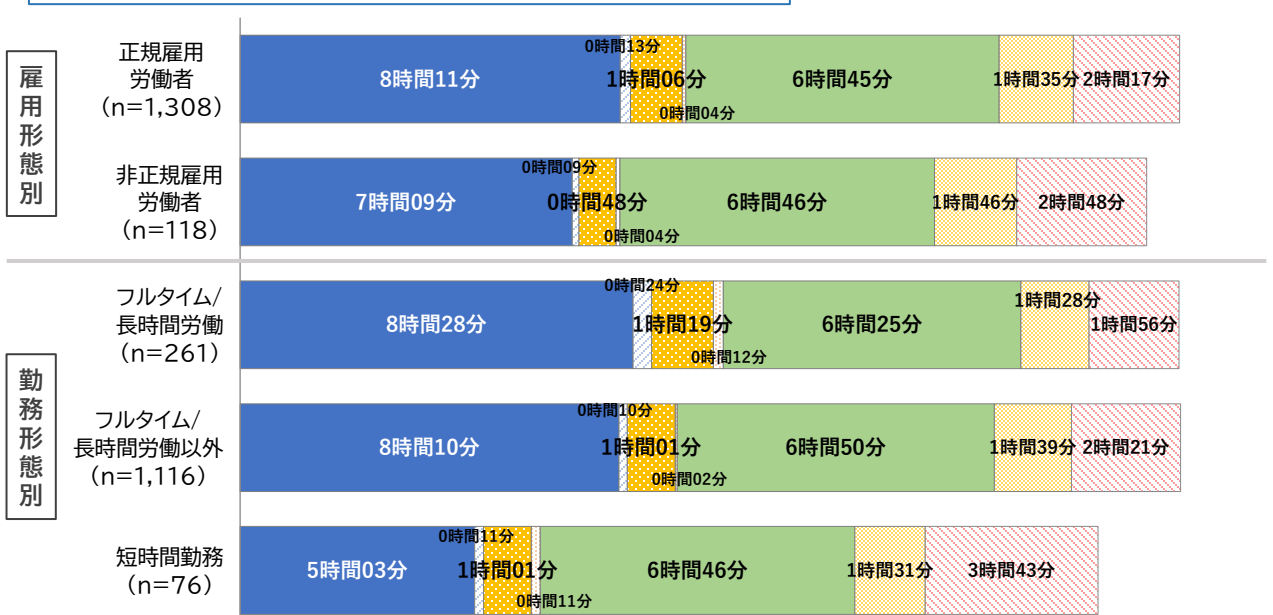
40-69歳・有配偶・男性

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



(1) 1日の時間の使い方(有職者、20-39歳有配偶、雇用形態・勤務形態別、仕事がない日)

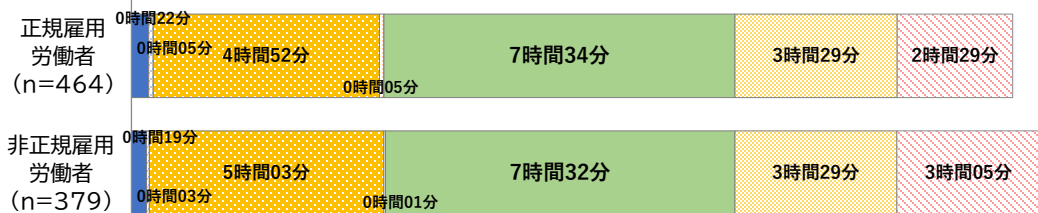
- ・有配偶の有職の男女(20-39歳)の仕事がない日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、女性の「家事・育児時間」「自分のことに使う時間」は、正規雇用労働者の方が非正規雇用労働者より短い。
- ・男性の「家事・育児時間」の長さは、正規雇用労働者の方が非正規雇用労働者より長い。
- ・男女で比較すると、「フルタイム/長時間労働以外」においては、「家事・育児時間」が女性で4時間19分、男性で4時間と、男女差が最も小さい。一方、仕事がない日において「自分のことに使う時間」が最も少ないのは、「フルタイム/長時間労働」の女性となっている。

20-39歳・有配偶・仕事がない日

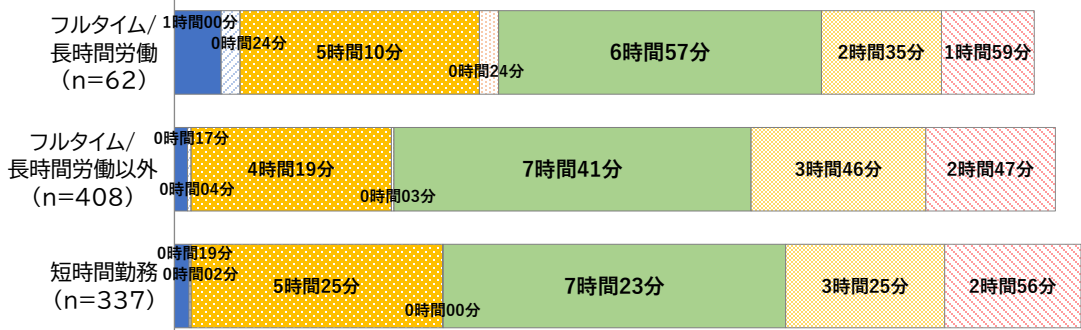
- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

女性

雇用形態別

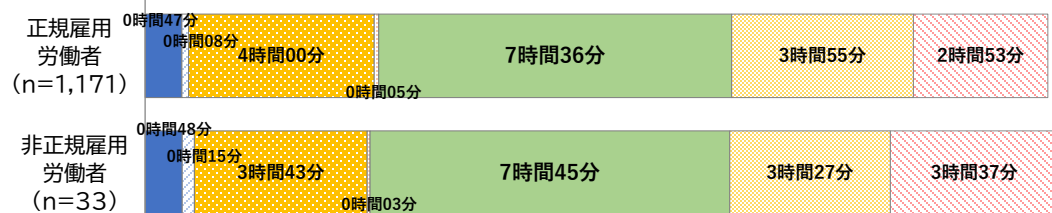


勤務形態別

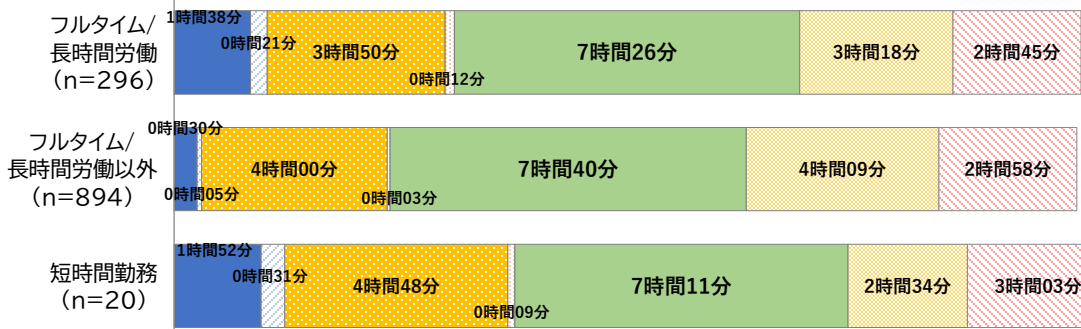


男性

雇用形態別



勤務形態別



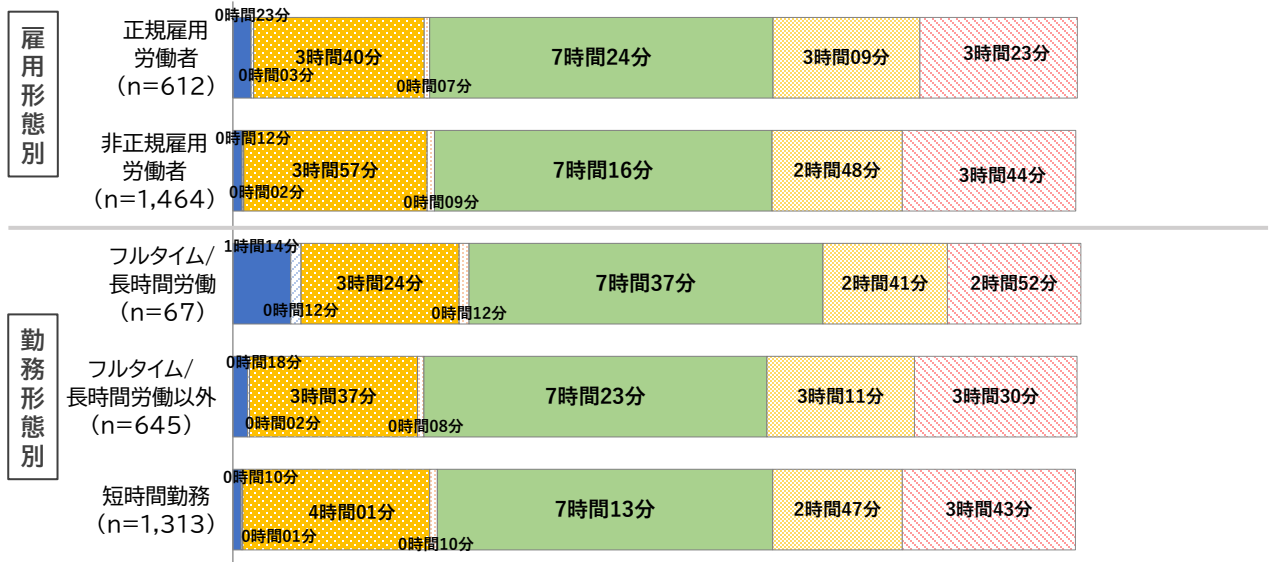
(1) 1日の時間の使い方(有職者、40-69歳有配偶、雇用形態・勤務形態別、仕事がない日)

- ・有配偶の有職の男女(40-69歳)の仕事がない日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、女性の「家事・育児時間」「自分のことに使う時間」は、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。
- ・男性の「家事・育児時間」の長さは、正規雇用労働者>非正規雇用労働者、フルタイム>短時間勤務となっている。
- ・男女で比較すると、いずれの区分においても、「家事・育児時間」は女性の方が1時間以上長い。また、「自分のことに使う時間」が最も少ないのは、「フルタイム/長時間労働」の女性となっている。

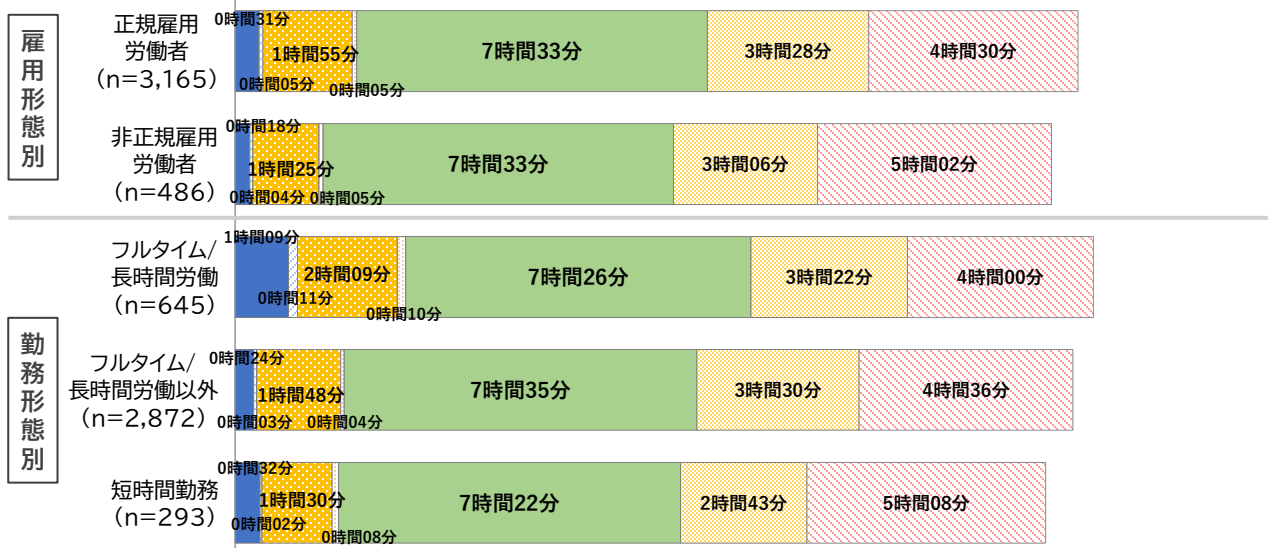
40-69歳・有配偶・仕事がない日

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

女性

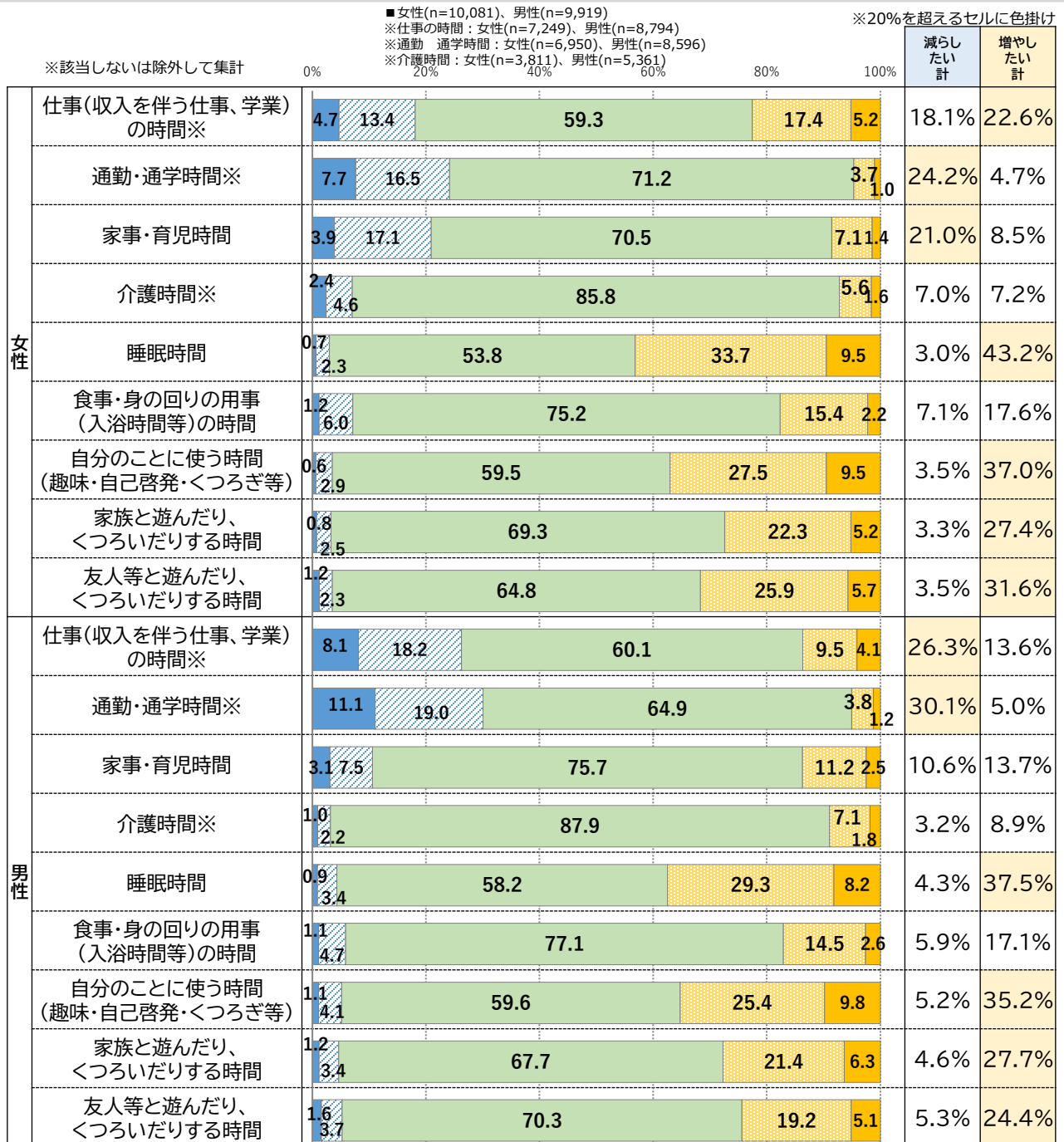


男性



(2) 生活の中の時間 増減希望

- 生活の中の時間の増減希望について男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」24.2%、「家事・育児時間」21.0%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」43.2%、「自分のことに使う時間」37.0%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」31.6%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」27.4%、「仕事の時間」22.6%。
- 男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」30.1%、「仕事の時間」26.3%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」37.5%、「自分のことに使う時間」35.2%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」27.7%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」24.4%。
- 男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「増やしたい計」が22.6%、男性では「減らしたい計」が26.3%と希望傾向が異なり、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」21.0%に対し、男性では10.6%と差がある。



■ 大幅に減らしたい □ 少し減らしたい ■ 現在のままでいい ■ 少し増やしたい ■ 大幅に増やしたい

※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(20-39歳、有配偶)

・生活の中の時間の増減希望について有配偶(20-39歳)の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「家事・育児時間」30.7%、「通勤・通学時間」29.7%、「仕事の時間」23.5%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」47.4%、「自分のことに使う時間」45.7%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」40.5%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」39.4%、「仕事の時間」25.9%、「食事・身の回りの用事の時間」23.4%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「仕事の時間」34.3%、「通勤・通学時間」34.2%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」46.0%、「自分のことに使う時間」43.8%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」40.7%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」32.8%、「家事・育児時間」26.3%、「食事・身の回りの用事の時間」22.6%。

・男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「減らしたい」「増やしたい」がどちらも24~26%と分かれているが、男性では「減らしたい計」が34.3%と高い。「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい」30.7%に対し、男性では「増やしたい」26.3%と増減の希望の傾向が異なる。

※該当しないは除外して集計

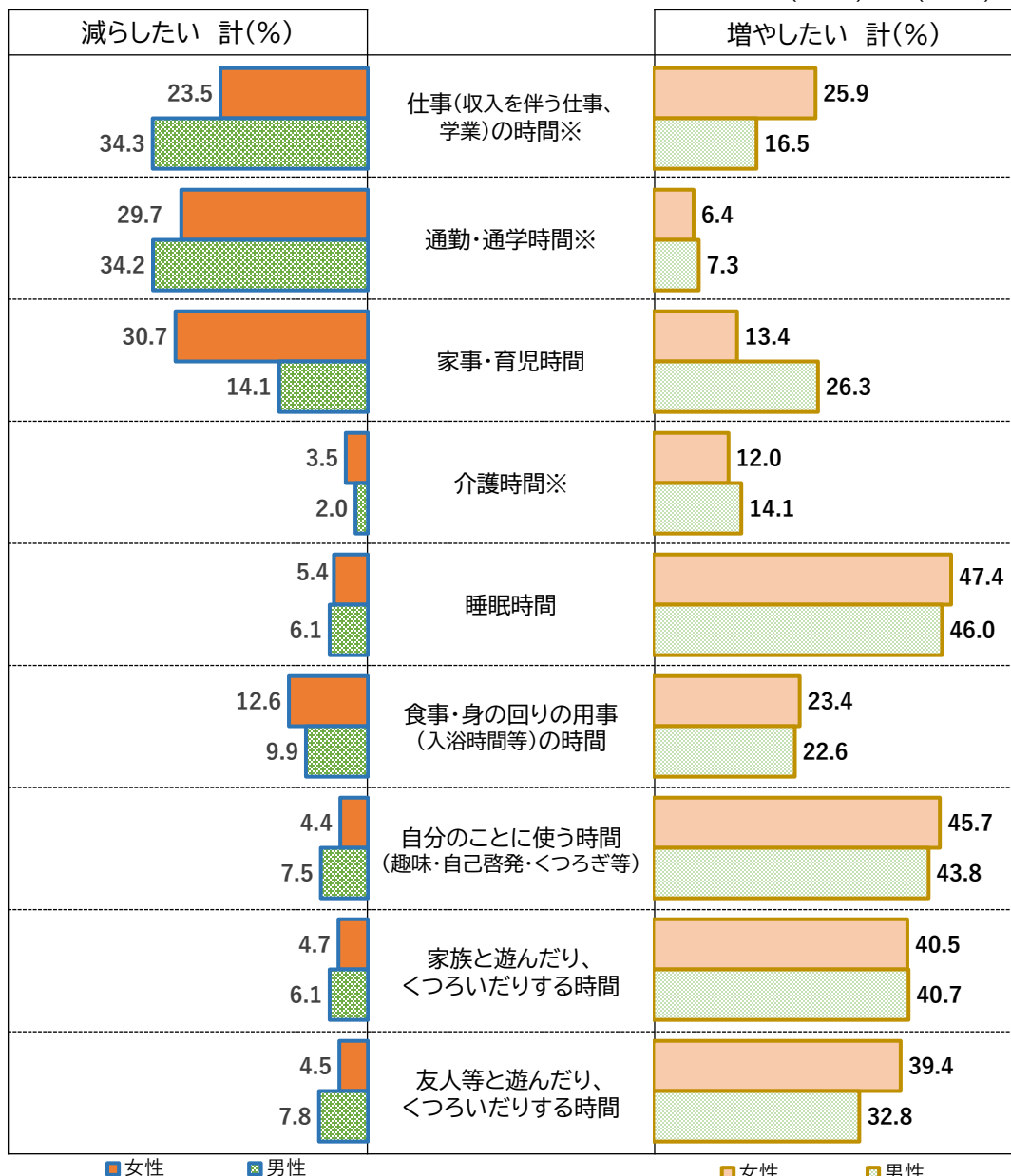
■女性(n=1,520)、男性(n=1,268)

※仕事の時間：女性(n=1,164)、男性(n=1,245)

※通勤・通学時間：女性(n=1,117)、男性(n=1,236)

※介護時間：女性(n=542)、男性(n=761)

有配偶 20-39歳



■女性

■男性

■女性

■男性

※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

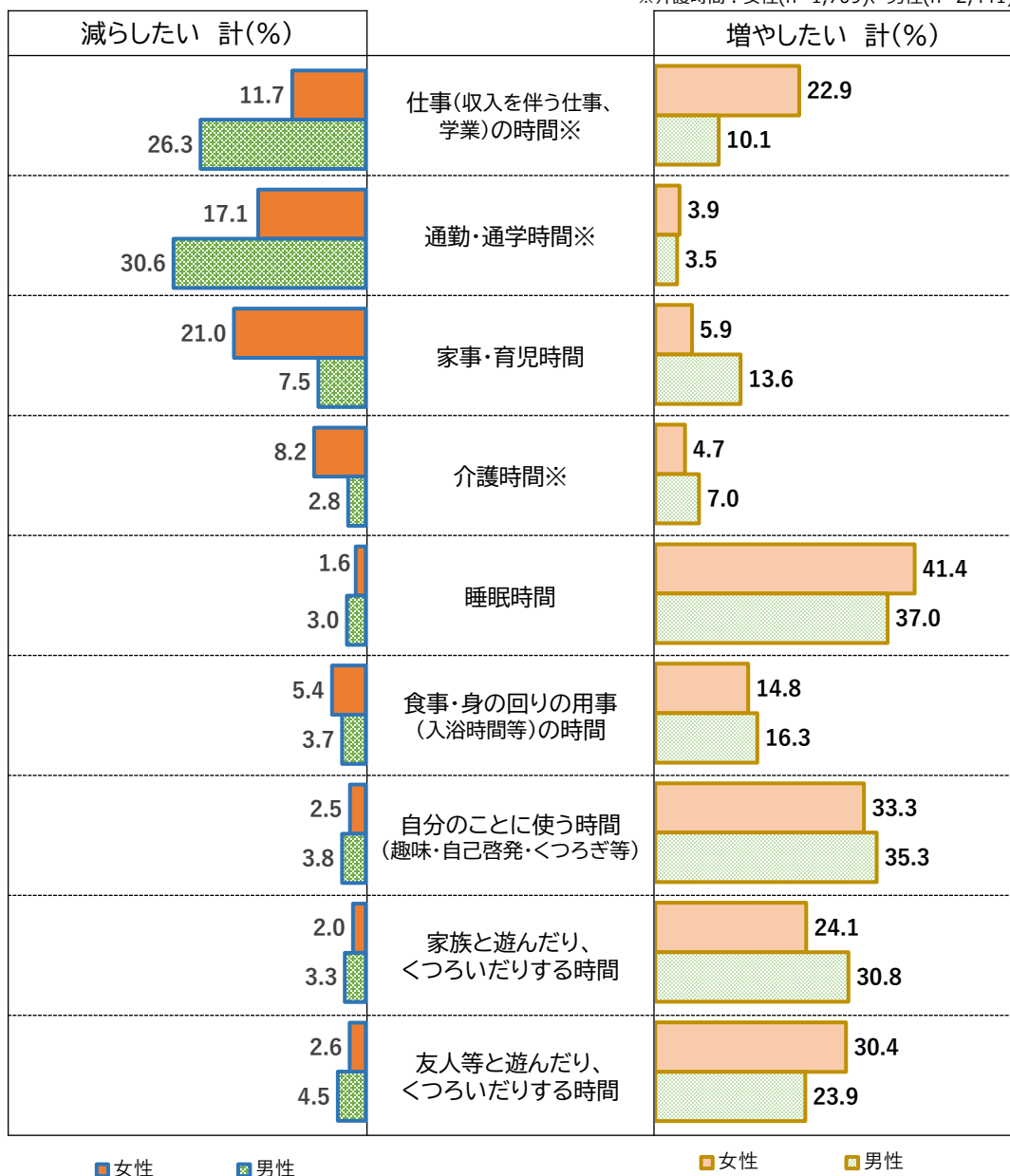
※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(40-69歳、有配偶)

- ・生活の中の時間の増減希望について有配偶(40-69歳)の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「家事・育児時間」21.0%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」41.4%、「自分のことに使う時間」33.3%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」30.4%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」24.1%、「仕事の時間」22.9%。
- ・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」30.6%、「仕事の時間」26.3%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」37.0%、「自分のことに使う時間」35.3%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」30.8%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」23.9%。
- ・男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「増やしたい」が22.9%、対して男性では「減らしたい計」が26.3%と希望傾向が異なり、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」21.0%に対し、男性では「増やしたい計」13.6%と希望傾向が異なっている。

有配偶 40-69歳

※該当しないは除外して集計
 ■女性(n=4,934)、男性(n=4,667)
 ※仕事の時間：女性(n=3,125)、男性(n=4,250)
 ※通勤・通学時間：女性(n=2,908)、男性(n=4,100)
 ※介護時間：女性(n=1,709)、男性(n=2,441)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」
 ※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(20-39歳、子供有り)

・生活の中の時間の増減希望について、子供がいる20-39歳の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「家事・育児時間」33.5%、「通勤・通学時間」27.9%、「仕事の時間」23.2%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「自分のことに使う時間」51.3%、「睡眠時間」49.9%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」44.1%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」43.9%、「仕事の時間」28.6%、「食事・身の回りの用事の時間」26.6%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」34.8%、「仕事の時間」34.1%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」46.9%、「自分のことに使う時間」44.4%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」42.2%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」33.0%、「家事・育児時間」27.7%、「食事・身の回りの用事の時間」22.3%。

・男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「減らしたい」「増やしたい」がどちらも23~29%と分かれているが、男性では「減らしたい計」が34.1%と高い。「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい」33.5%に対し、男性では「増やしたい」27.7%と増減の希望が異なる。

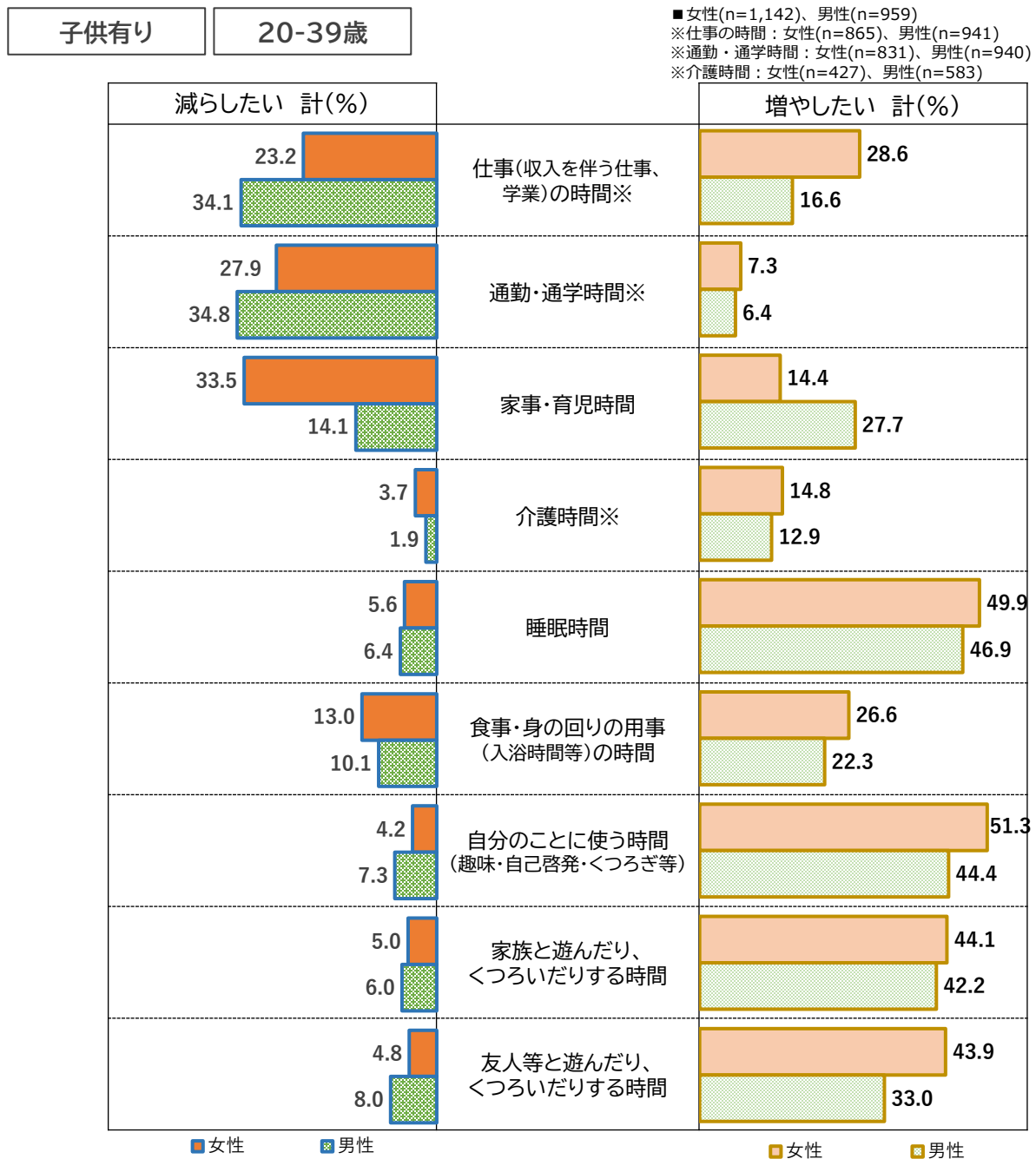
※該当しないは除外して集計

■女性(n=1,142)、男性(n=959)

※仕事の時間：女性(n=865)、男性(n=941)

※通勤・通学時間：女性(n=831)、男性(n=940)

※介護時間：女性(n=427)、男性(n=583)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(40-69歳、子供有り)

- ・生活の中の時間の増減希望について、子供がいる40-69歳の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「家事・育児時間」20.2%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」42.6%、「自分のことに使う時間」34.1%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」30.6%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」25.2%、「仕事の時間」22.5%。
- ・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」30.1%、「仕事の時間」25.7%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」37.3%、「自分のことに使う時間」35.0%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」30.7%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」24.2%。
- ・男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「増やしたい」が22.5%、対して男性では「減らしたい計」が25.7%と希望傾向が異なり、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」20.2%に対し、男性では「増やしたい計」が14.3%と傾向が異なっている。

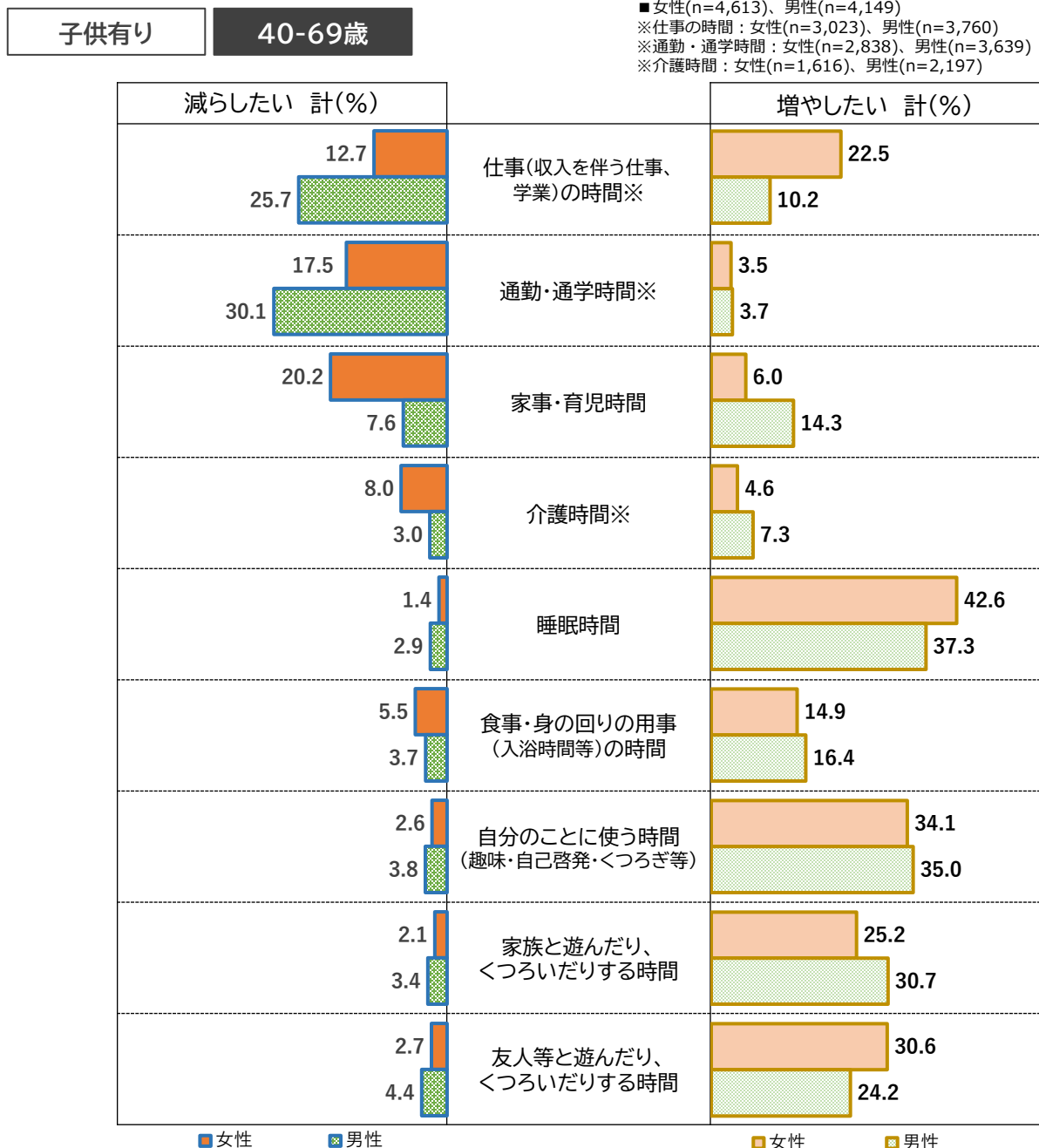
※該当しないは除外して集計

■女性(n=4,613)、男性(n=4,149)

※仕事の時間：女性(n=3,023)、男性(n=3,760)

※通勤・通学時間：女性(n=2,838)、男性(n=3,639)

※介護時間：女性(n=1,616)、男性(n=2,197)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(フルタイム/長時間労働)

・生活の中の時間の増減希望について、「フルタイム/長時間労働」の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「仕事の時間」45.8%、「通勤・通学時間」35.7%、「家事・育児時間」20.1%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」48.1%、「自分のことに使う時間」44.8%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」34.7%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」34.0%、「食事・身の回りの用事の時間」27.2%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「仕事の時間」45.2%、「通勤・通学時間」34.1%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」47.0%、「自分のことに使う時間」43.5%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」38.8%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」33.4%、「食事・身の回りの用事の時間」26.8%。

・男女で大きな差がある項目はなかった。

※該当しないは除外して集計

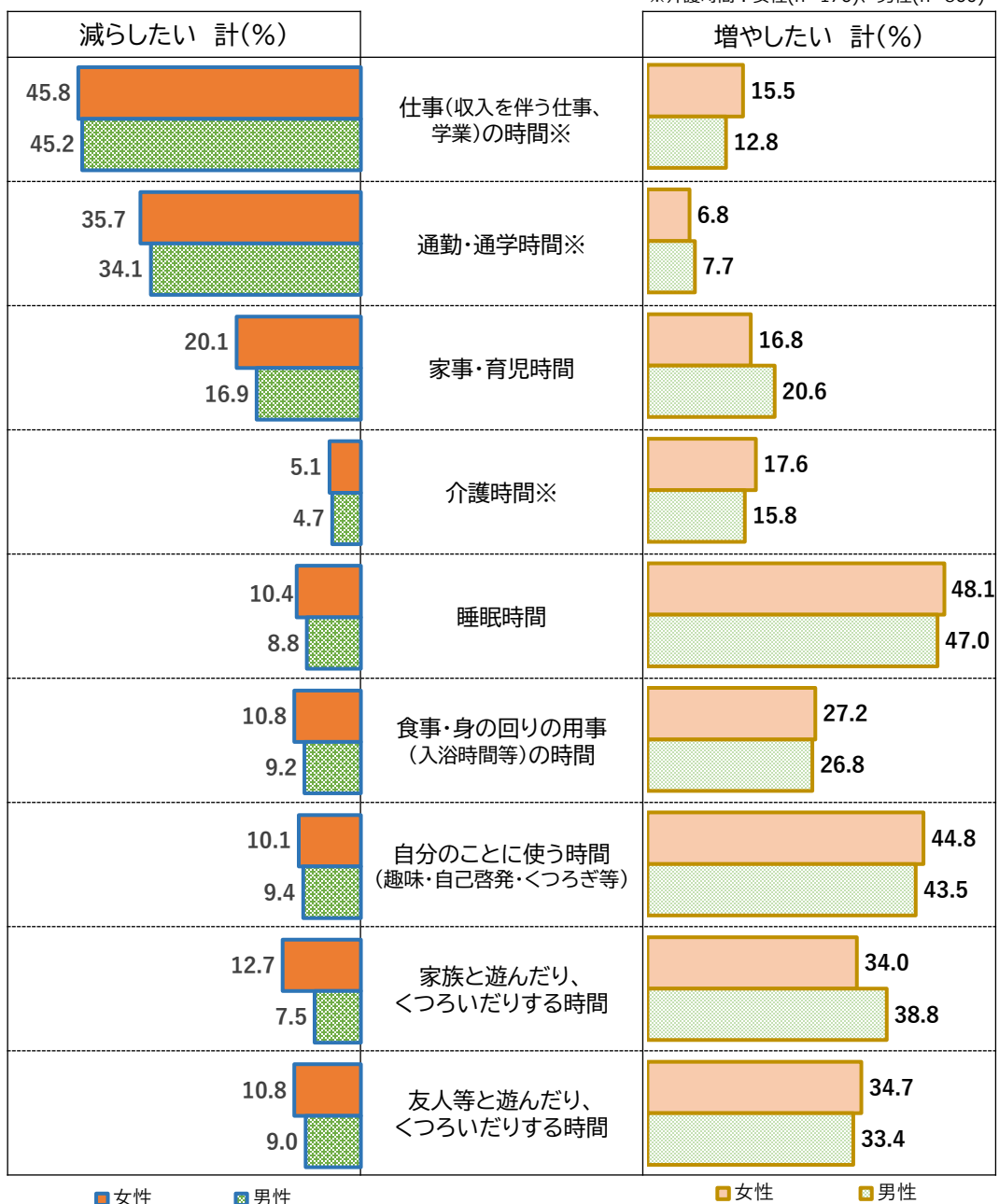
■女性(n=268)、男性(n=1,289)

※仕事の時間：女性(n=264)、男性(n=1,270)

※通勤・通学時間：女性(n=263)、男性(n=1,259)

※介護時間：女性(n=176)、男性(n=860)

フルタイム/長時間労働(残業月46時間以上)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(フルタイム/長時間労働以外)

・生活の中の時間の増減希望について、「フルタイム/長時間労働以外」の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」34.7%、「仕事の時間」31.9%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」50.1%、「自分のことに使う時間」45.5%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」35.2%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」33.6%、「食事・身の回りの用事の時間」24.2%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」32.8%、「仕事の時間」27.8%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」40.6%、「自分のことに使う時間」38.5%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」30.0%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」24.8%。

・男女で比較すると、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」18.7%に対し、男性では「増やしたい計」14.1%と傾向が異なっている。「睡眠時間」は、「増やしたい計」が女性50.1%、男性40.6%と、女性の方が高い。

※該当しないは除外して集計

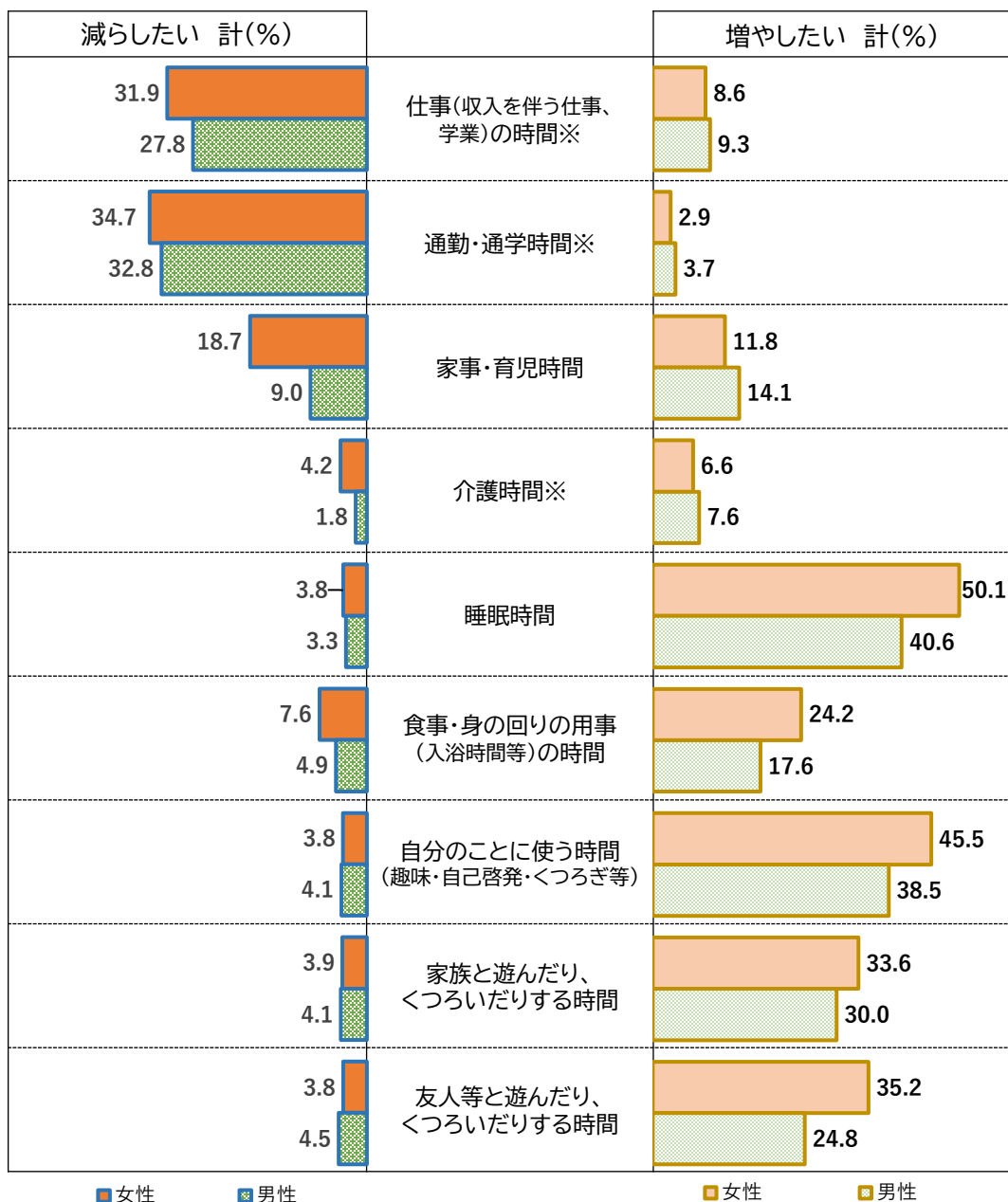
■女性(n=2,461)、男性(n=5,525)

※仕事の時間：女性(n=2,426)、男性(n=5,469)

※通勤・通学時間：女性(n=2,398)、男性(n=5,386)

※介護時間：女性(n=1,063)、男性(n=3,097)

フルタイム/長時間労働以外(残業月45時間以下)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(短時間勤務)

・生活の中の時間の増減希望について、短時間勤務の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」21.1%、「家事・育児時間」20.5%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」45.9%、「自分のことに使う時間」40.1%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」32.1%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」28.1%、「仕事の時間」24.6%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」23.7%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」30.1%、「自分のことに使う時間」29.1%、「仕事の時間」24.1%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」23.3%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」21.3%。

・男女で比較すると、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」20.5%、男性では9.0%と差がある一方、「睡眠時間」「自分のことに使う時間」は、「増やしたい計」が女性の方が男性より10%ポイント以上高い。

※該当しないは除外して集計

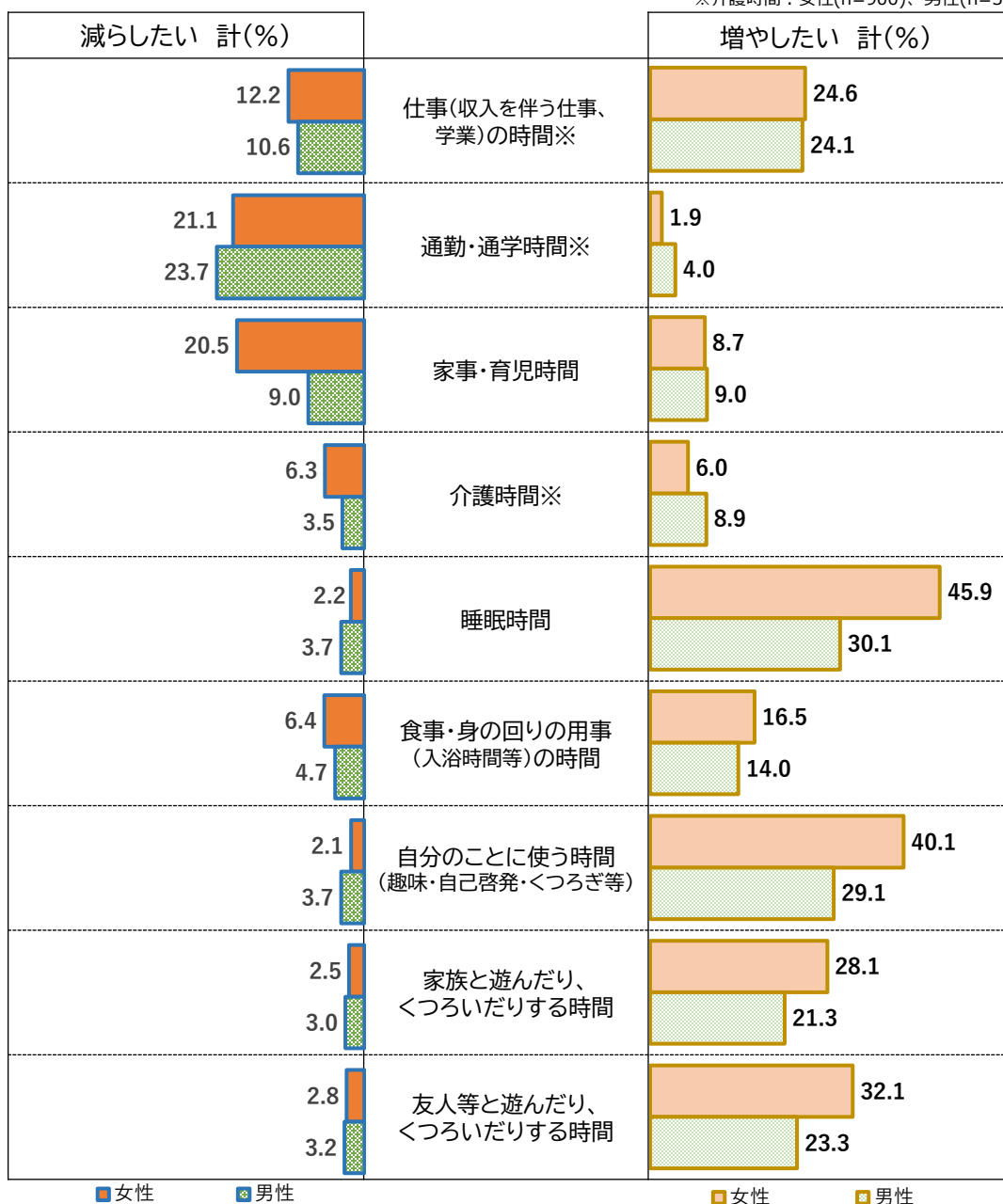
■女性(n=2,285)、男性(n=722)

※仕事の時間：女性(n=2,260)、男性(n=696)

※通勤・通学時間：女性(n=2,198)、男性(n=649)

※介護時間：女性(n=900)、男性(n=371)

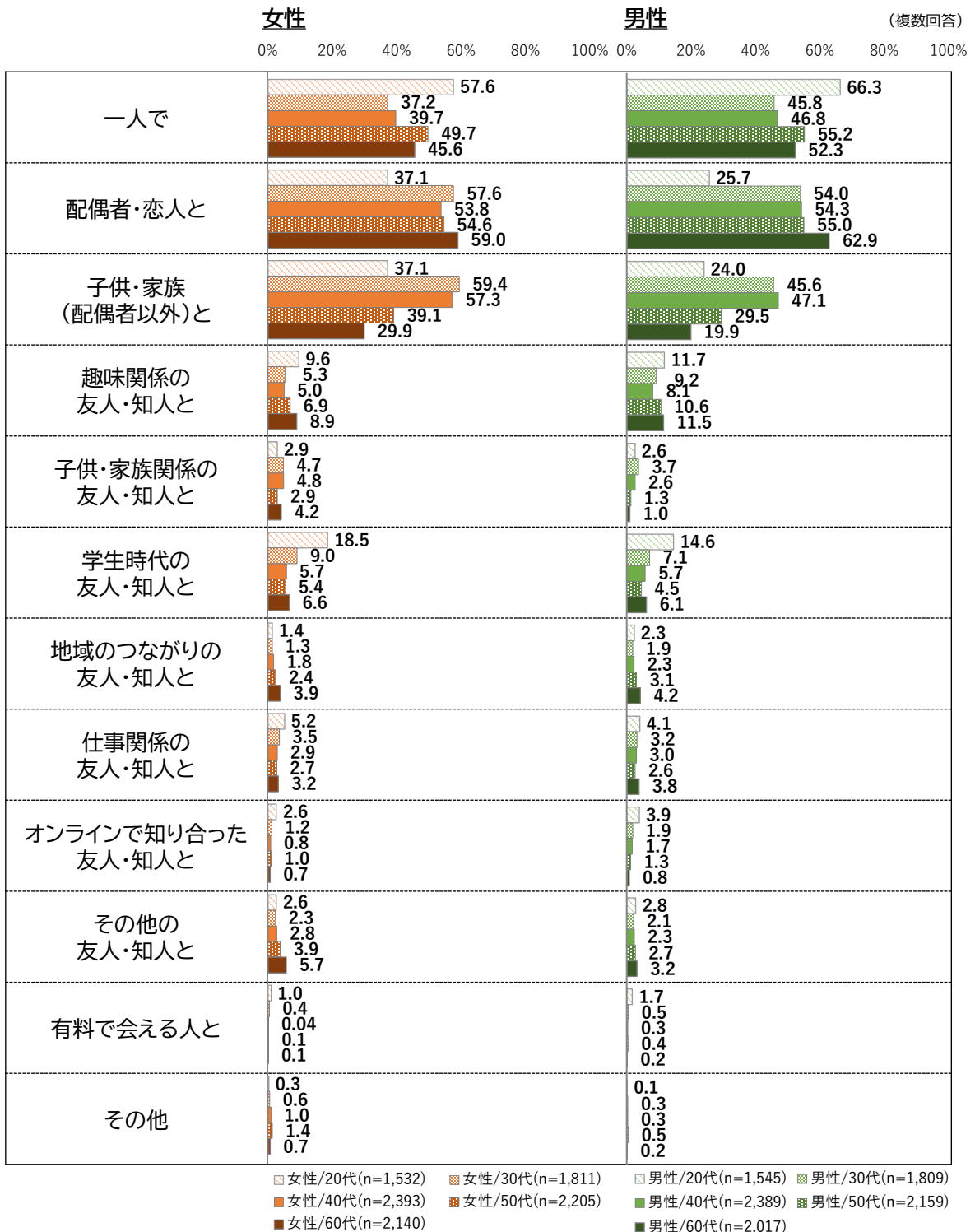
短時間勤務



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」
 ※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(3) 休みの日に誰と時間を過ごすことが多いか(年代別)

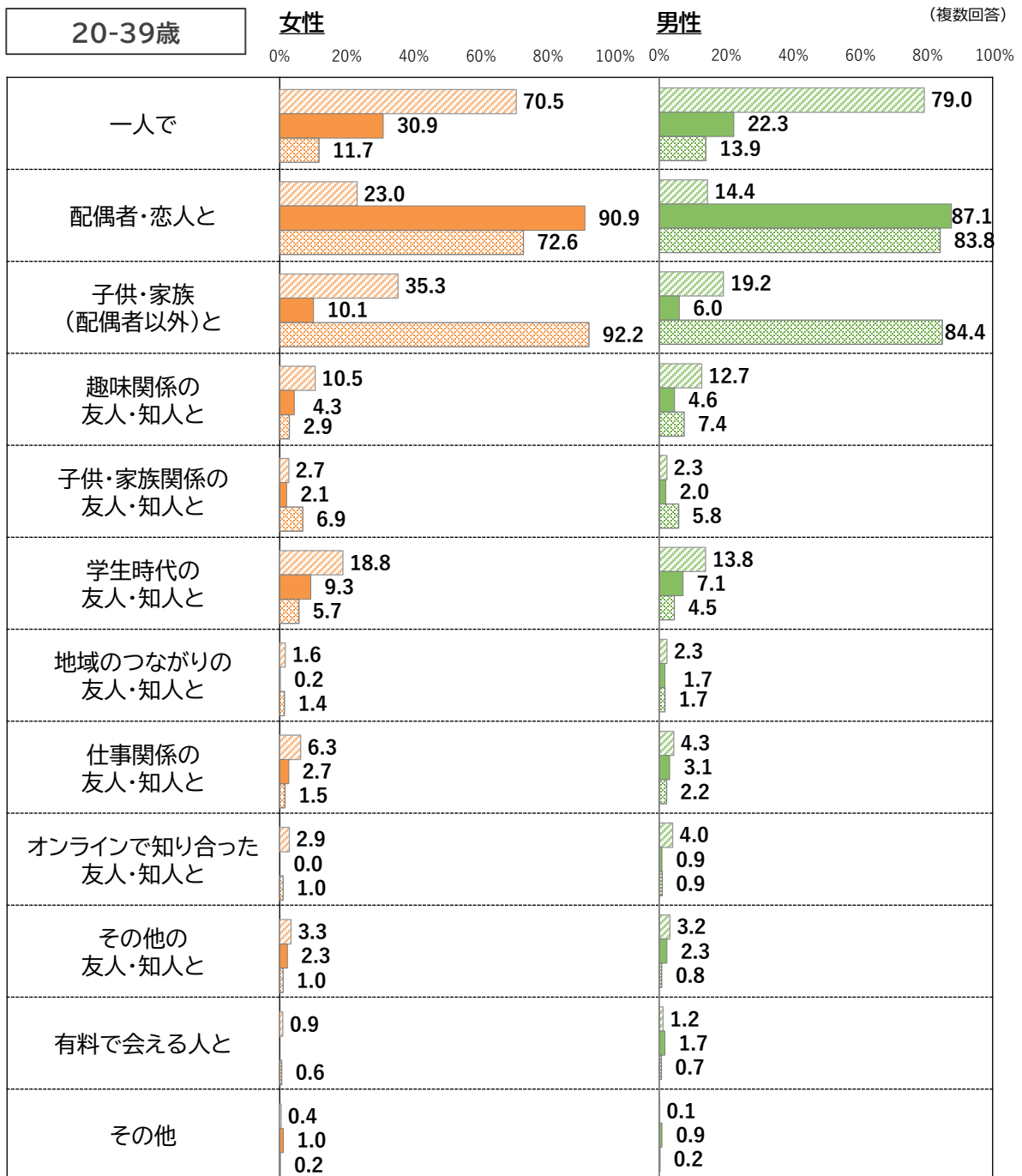
- ・休みの日に誰と時間を過ごすことが多いか男女別で見ると、男女ともに、20代では「一人で」「学生時代の友人・知人と」が他年代より高い。但し「一人で」は、女性では57.6%、男性では66.3%と、男性の方がやや高い。
- ・20代以外では、「友人・知人」関係で最も高いものは、男性では「趣味関係の友人・知人」となっている。また「地域のつながりの友人・知人」は、男女ともに「60代」でやや高く、「子供・家族関係の友人・知人」は、女性では30-40代でやや高い。「オンラインで知り合った友人・知人」は、男性20代でやや高い。
- ・男女で比較すると、「子供・家族(配偶者以外)」とは、どの年代でも女性の方が10%ポイント近く高い。



(3) 休みの日に誰と時間を過ごすことが多いか(20-39歳、配偶状況・子供の有無別)

・休みの日に誰と時間を過ごすことが多いかについて、配偶状況・子供の有無別に20-39歳の男女別で見ると、男女ともに、「独身」では「一人で」が最も高く、女性で70.5%、男性で79.0%。「有配偶・子供無し」では「配偶者・恋人と」が男女ともに9割前後と最も高く、「有配偶・子供有り」では「子供・家族(配偶者以外)と」が女性92.2%、男性84.4%と最も高い。

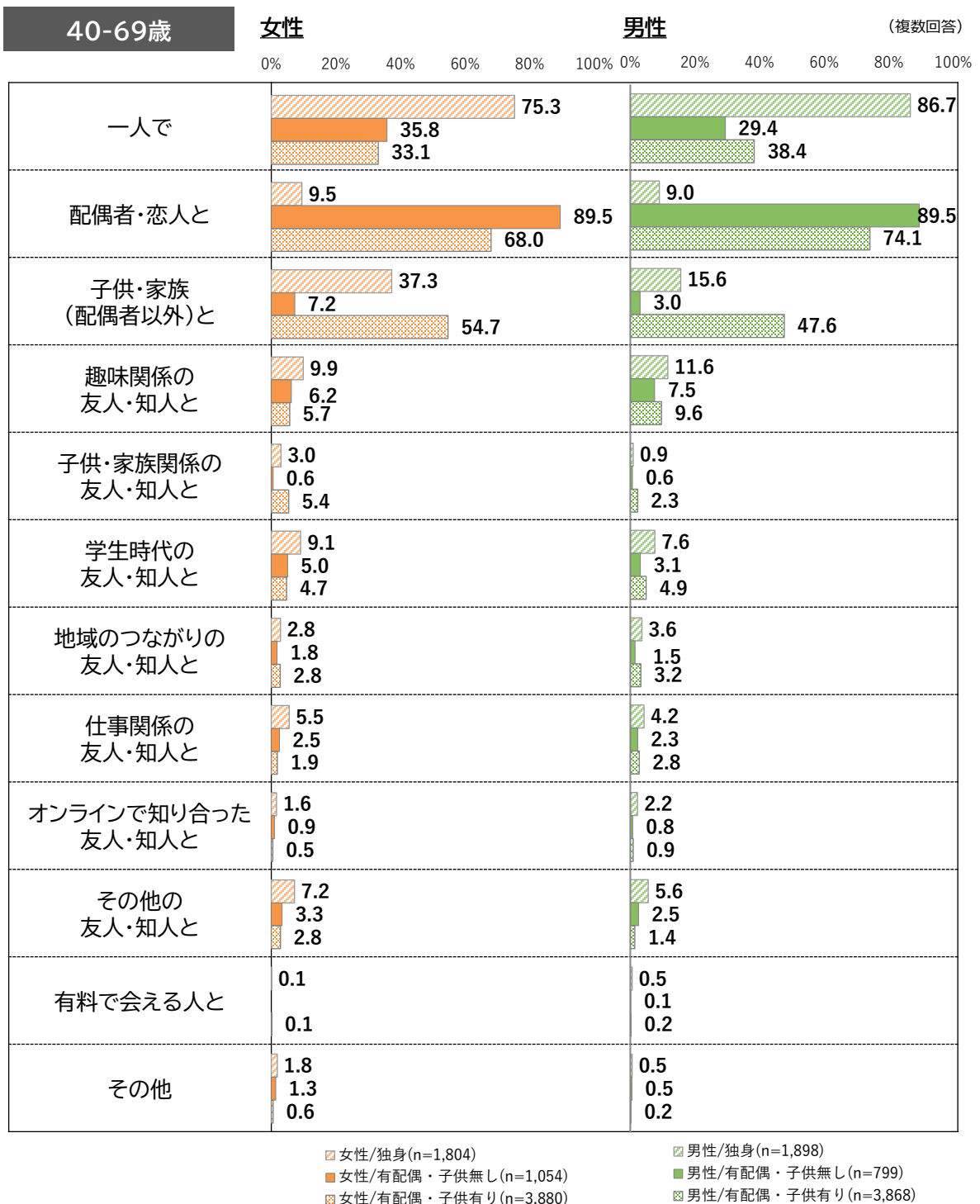
・男女ともに、「学生時代の友人・知人と」「趣味関係の友人・知人と」は「独身」では1割を超え、3区分の中で最も高い。また、「独身男性」では、「オンラインで知り合った友人・知人と」が4%と他区分に比べやや高い。また、「子供・家族と」について「独身女性」では35.3%、「独身男性」では19.2%と10%ポイント以上差がある。



(3) 休みの日に誰と時間を過ごすことが多いか(40-69歳、配偶状況・子供の有無別)

・休みの日に誰と時間を過ごすことが多いかについて、配偶状況・子供の有無別に40-69歳の男女別で見ると、男女ともに、「独身」では「一人で」が最も高く、女性で75.3%、男性で86.7%。「有配偶・子供無し」では「配偶者・恋人と」が9割と最も高く、「有配偶・子供有り」では「配偶者・恋人と」が7割と最も高いが、「子供・家族(配偶者以外)」も女性54.7%、男性47.6%と高い。

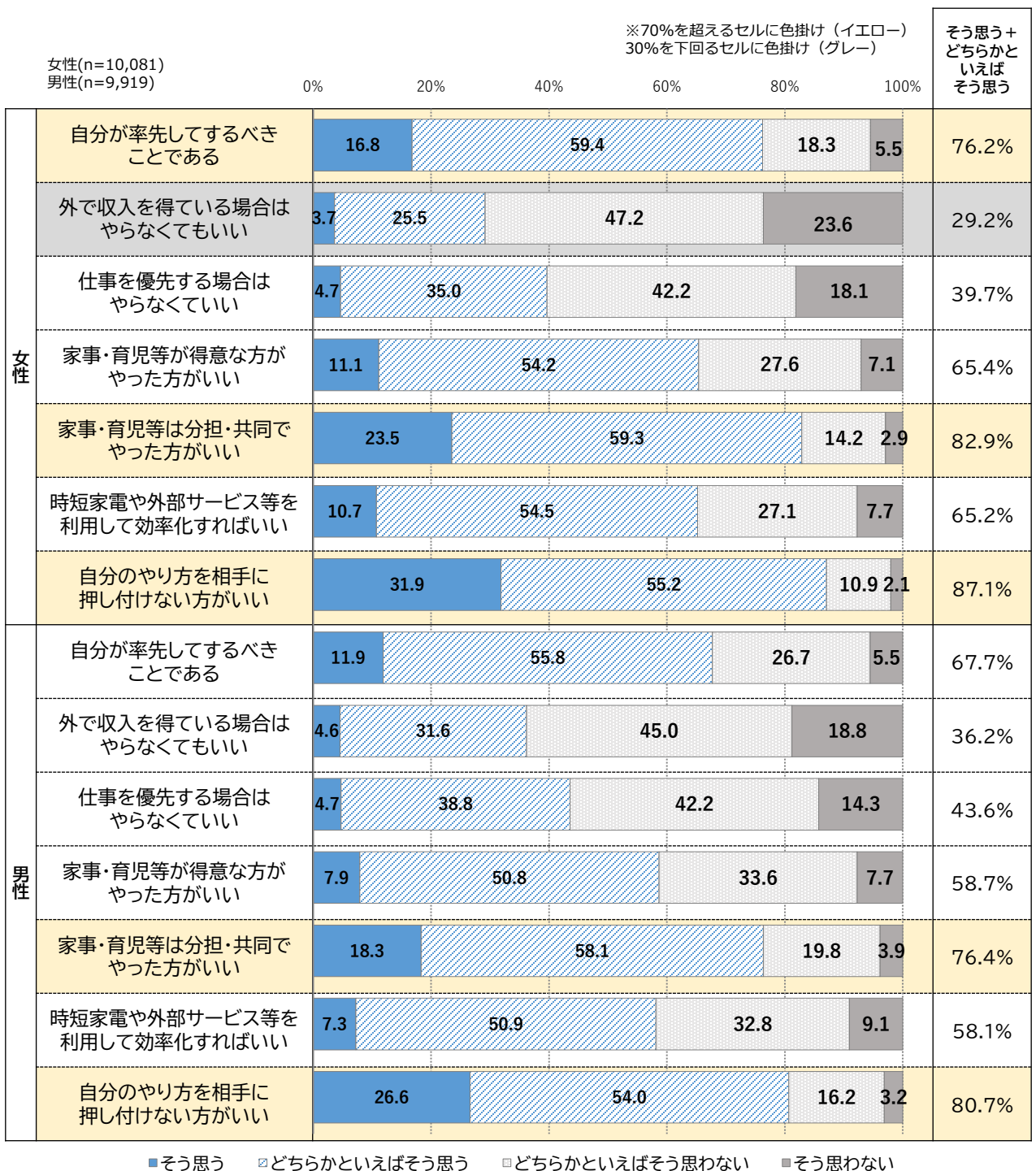
・男女ともに、「趣味関係の友人・知人」は「独身」では1割前後となり、3区分の中で最も高い。また、「独身女性」では「子供・家族と」が37.3%となるが、「独身男性」では15.6%と10%ポイント以上差がある。



(4) 家事・育児等への考え方

・家事・育児等への考え方について男女別で見ると、「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値で男女ともに7割を超える項目は、「家事・育児等は分担・共同でやった方がいい」「自分のやり方を相手に押し付けない方がいい」。女性のみ7割を超える項目は、「自分が率先してやるべきことである」。また、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の計が3割を下回るものは、女性の「外で収入を得ている場合はやらなくてもいい」。

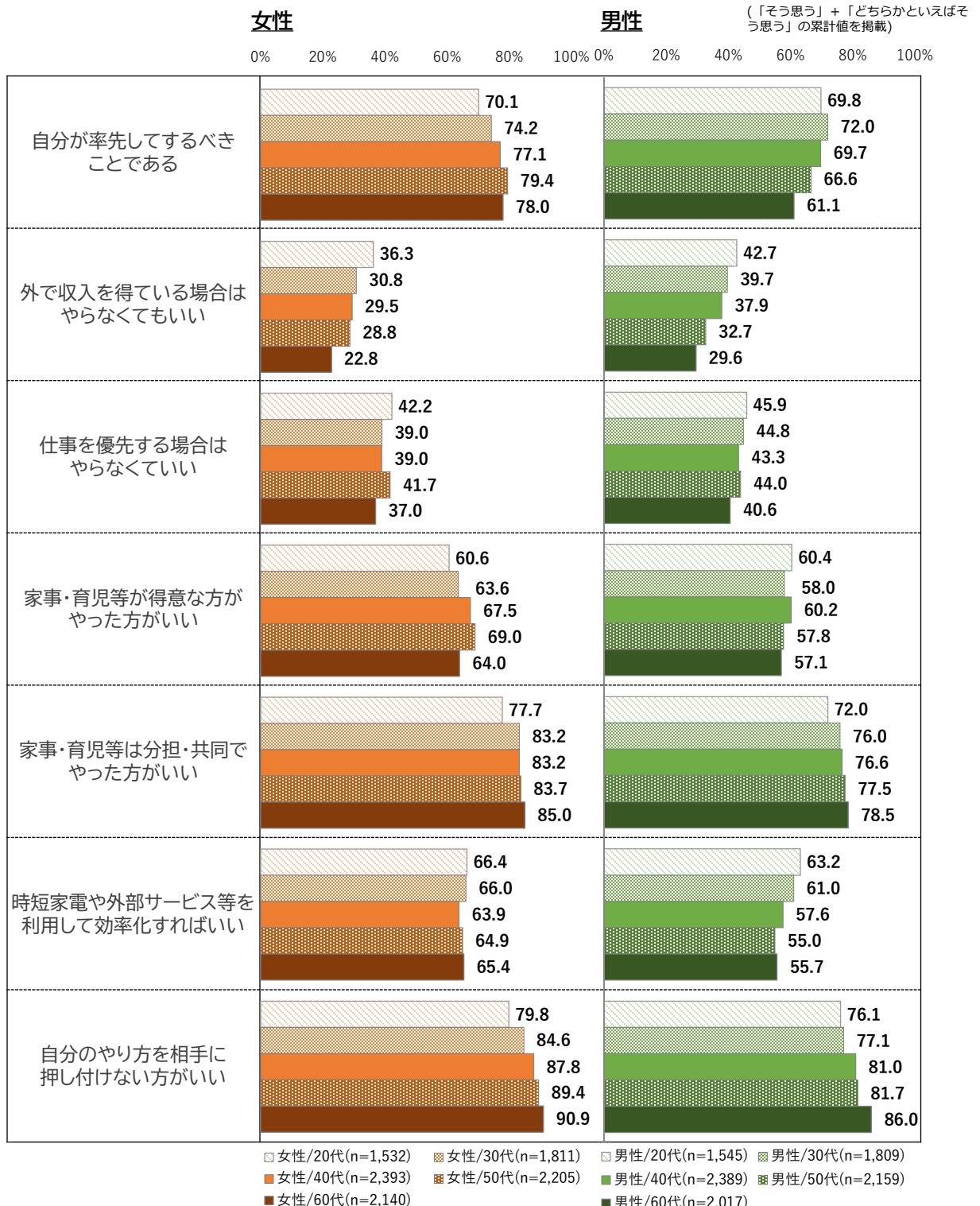
・男女で比較して10%ポイント以上差がある項目はなかった。



(4) 家事・育児等への考え方(年代別)

・家事・育児等への考え方について年代別に見てみると、男女ともに上の年代ほど「家事・育児等は分担・共同でやった方がいい」「自分のやり方を相手に押し付けない方がいい」が高い。また若いほど、「外で収入を得ている場合はやらなくてもいい」が高い。女性では、上の年代ほど「自分が率先してすべきことである」が高い傾向にあるが、男性では上の年代ほど低い傾向があり、男女で傾向が異なる。

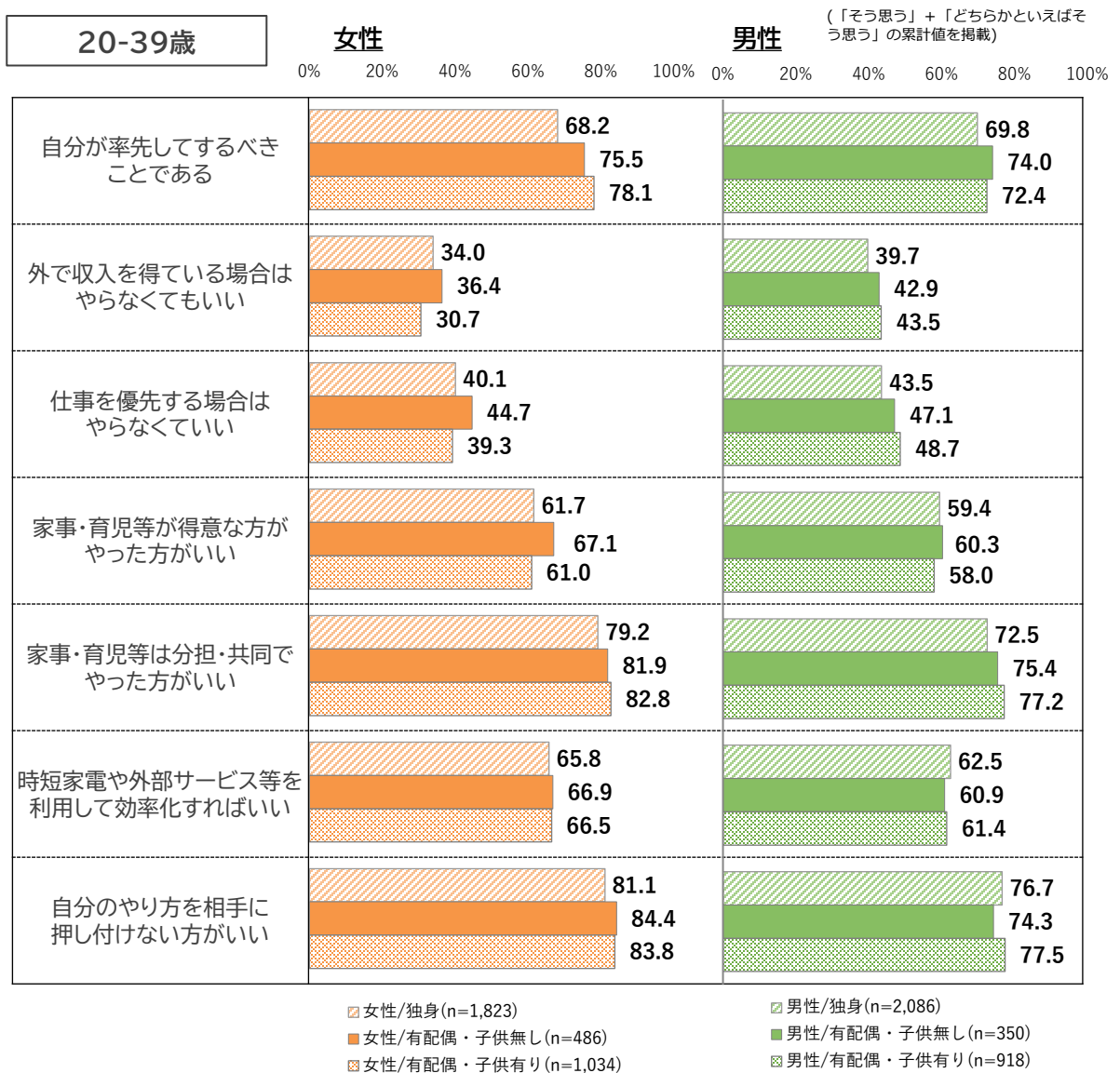
・同年代の男女で比較すると、「自分が率先してすべきことである」「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」は、50代以上で男性の方が10%ポイント近く低い。



(4) 家事・育児等への考え方(20-39歳、配偶状況・子供の有無別)

・家事・育児等への考え方について、配偶状況・子供の有無別(20-39歳)に見てみると、女性では、「独身」と「有配偶・子供有り」で比較すると、「自分が率先してすべきことである」は、「有配偶・子供有り」の方が10%ポイント程度高い。男性では、配偶状況によって大きく差があるものはなかった。

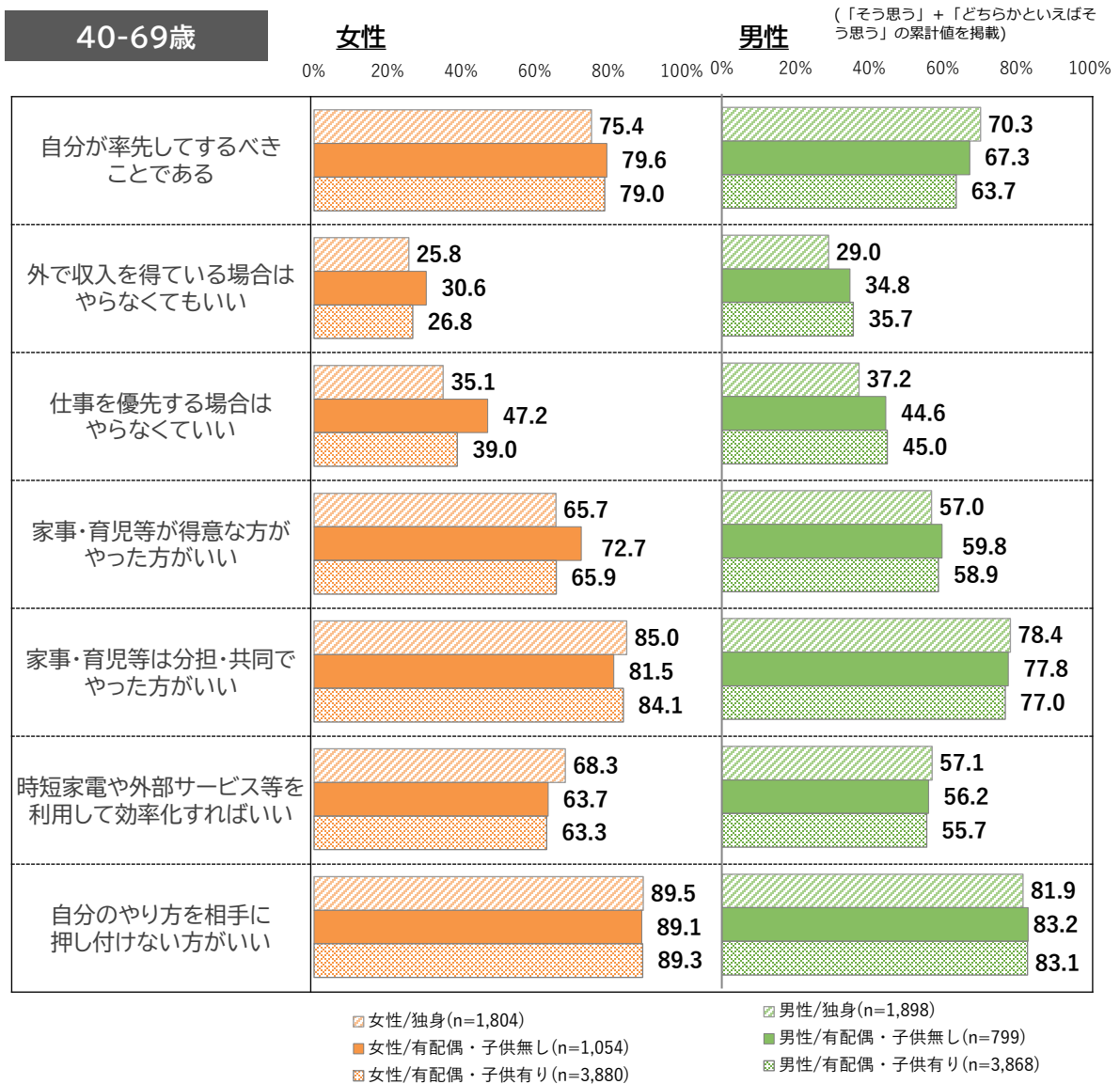
・男女で比較すると、「外で収入を得ている場合はやらなくてもいい」については、「有配偶・子供有り」においては男性の方が10%ポイント以上高く、「仕事を優先する場合はやらなくていい」も、男性の方が10%ポイント近く高い。



(4) 家事・育児等への考え方(40-69歳、配偶状況・子供の有無別)

・家事・育児等への考え方について、配偶状況・子供の有無別(40-69歳)に見てみると、女性では、「独身」と「有配偶・子供無し」で比較すると、「仕事を優先する場合はやらなくていい」は、「有配偶・子供無し」の方が10%ポイント程度高い。男性では、配偶状況で差があるものはなかった。

・男女で比較すると、「有配偶」において「自分が率先してすべきことである」で女性の方が10%ポイント以上高く、「有配偶・子供無し」において「家事・育児等が得意な方がやった方がいい」で女性の方が10%ポイント以上高い。また、「独身」における「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」も、女性の方が10%ポイント以上高い。



(5) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

・男女別にみると「利用したことがある」が2割を超えるものは、女性では「市販のおかず購入」57.4%、「フードデリバリー・出前利用」29.8%、「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」22.2%。男性では「市販のおかず購入」44.3%、「フードデリバリー・出前利用」23.2%。

・「利用したことがある+してみたいと思う」の累計値で見ると、男女ともに6割を超える項目は、「市販のおかず購入」。女性のみ6割を超える項目は、「フードデリバリー・出前利用」「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」。

・一方、「利用したことがある+してみたいと思う」の累計値が3割を下回るものは、男女ともに「料理代行」「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」。

・男女別にみると、「市販のおかず購入」「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」は女性の方が10%ポイント程度高い。

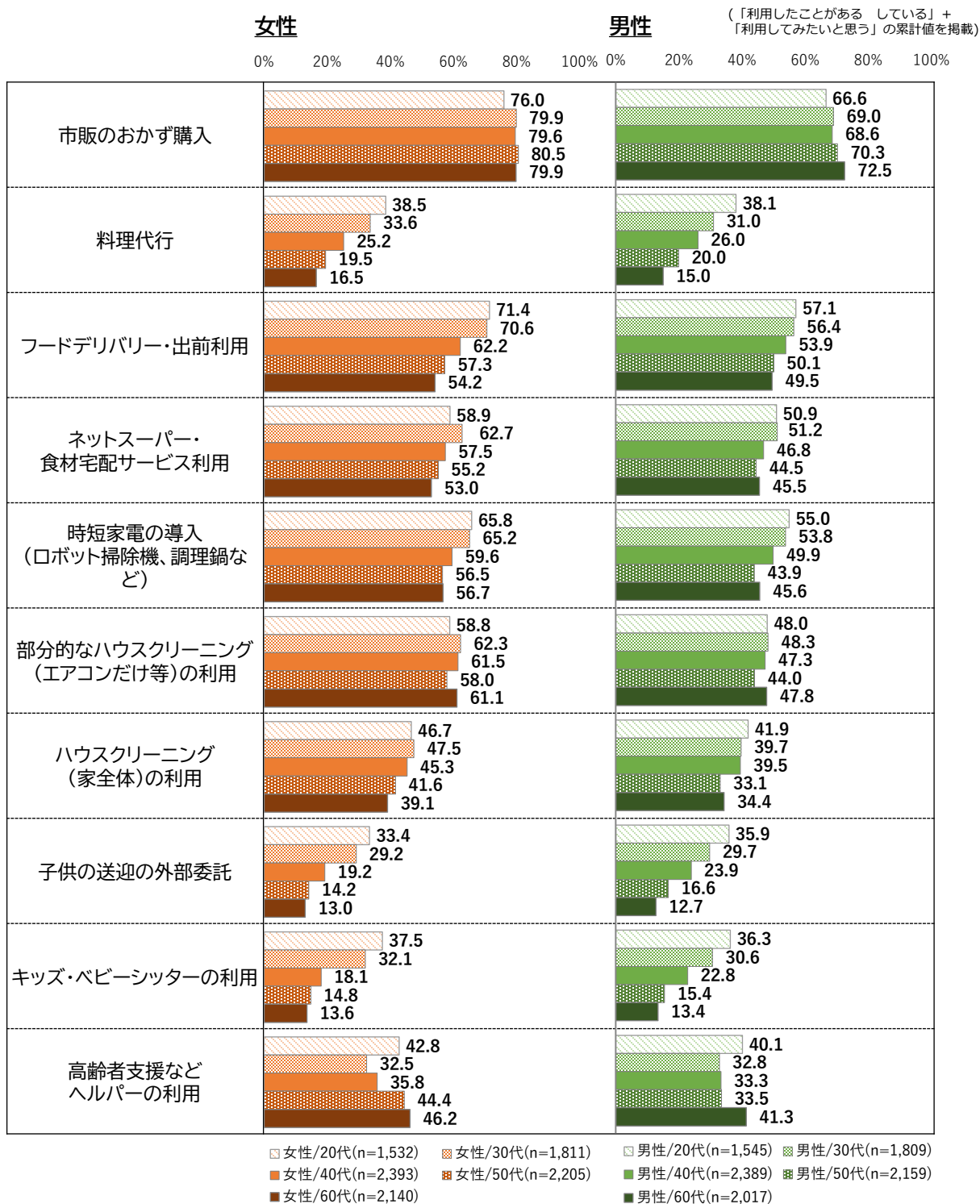
		※60%を超えるセルに色掛け（イエロー） 30%を下回るセルに色掛け（グレー）				利用したことがある・している+利用してみたいと思う	
女性(n=10,081)	男性(n=9,919)	0%	20%	40%	60%		80%
女性	市販のおかず購入	57.4	22.0	20.6	79.4%		
	料理代行	2.7	22.9	74.3	25.7%		
	フードデリバリー・出前利用	29.8	32.5	37.7	62.3%		
	ネットスーパー・食材宅配サービス利用	22.2	34.9	42.8	57.2%		
	時短家電の導入 (ロボット掃除機、調理鍋など)	15.0	45.3	39.8	60.2%		
	部分的なハウスクリーニング (エアコンだけ等)の利用	13.3	47.1	39.6	60.4%		
	ハウスクリーニング (家全体)の利用	4.7	39.1	56.2	43.8%		
	子供の送迎の外部委託	2.8	18.0	79.2	20.8%		
	キッズ・ベビーシッターの利用	3.0	18.9	78.1	21.9%		
	高齢者支援などヘルパーの利用	6.7	33.6	59.6	40.4%		
男性	市販のおかず購入	44.3	25.3	30.5	69.5%		
	料理代行	4.6	20.6	74.7	25.3%		
	フードデリバリー・出前利用	23.2	29.9	46.9	53.1%		
	ネットスーパー・食材宅配サービス利用	15.9	31.5	52.5	47.5%		
	時短家電の導入 (ロボット掃除機、調理鍋など)	12.4	36.8	50.8	49.2%		
	部分的なハウスクリーニング (エアコンだけ等)の利用	11.3	35.7	53.0	47.0%		
	ハウスクリーニング (家全体)の利用	5.8	31.6	62.5	37.5%		
	子供の送迎の外部委託	4.2	18.8	77.0	23.0%		
	キッズ・ベビーシッターの利用	4.0	18.8	77.2	22.8%		
	高齢者支援などヘルパーの利用	6.8	29.2	64.0	36.0%		

■利用したことがある・している ▨利用してみたいと思う □利用してみたいと思わない

(5) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向(年代別)

・年代別に見てみると、男女ともに若いほど「料理代行」「フードデリバリー・出前利用」「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」などが高い。また20-30代では、「時短家電の導入」がやや高い。上の年代になるほど高い項目はないが、女性では20代と50代以上、男性では20代と60代で「高齢者支援などヘルパーの利用」がやや高い。

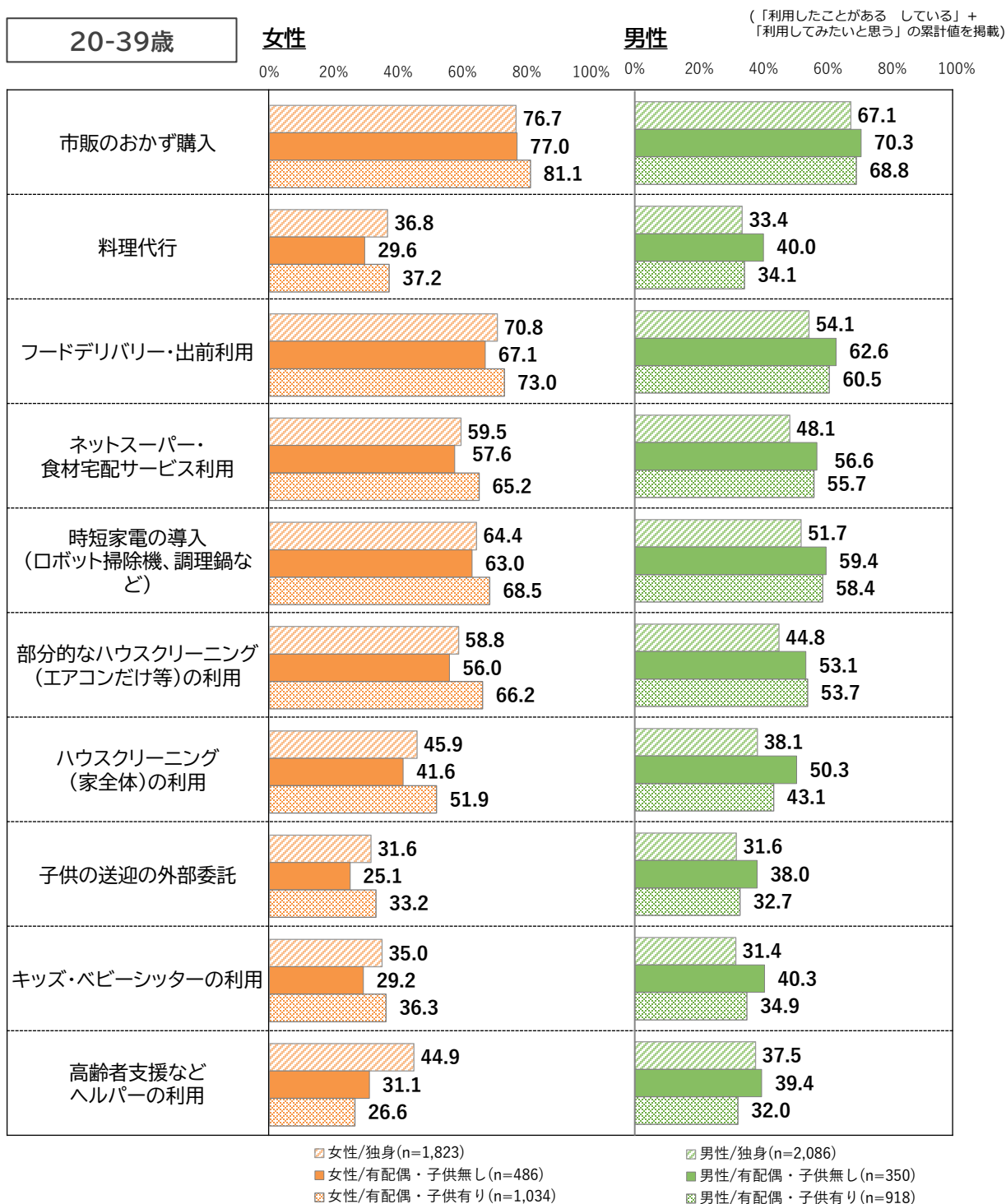
・同年代の男女で比較すると、女性の方が高い項目が多く、「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」は全ての年代で、「市販のおかず購入」は20-50代で、「フードデリバリー・出前利用」は20-30代で、「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」は30-50代で、「高齢者支援などヘルパーの利用」は50代で女性の方が10%ポイント程度高い。



(5) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向(20-39歳、配偶状況・子供の有無別)

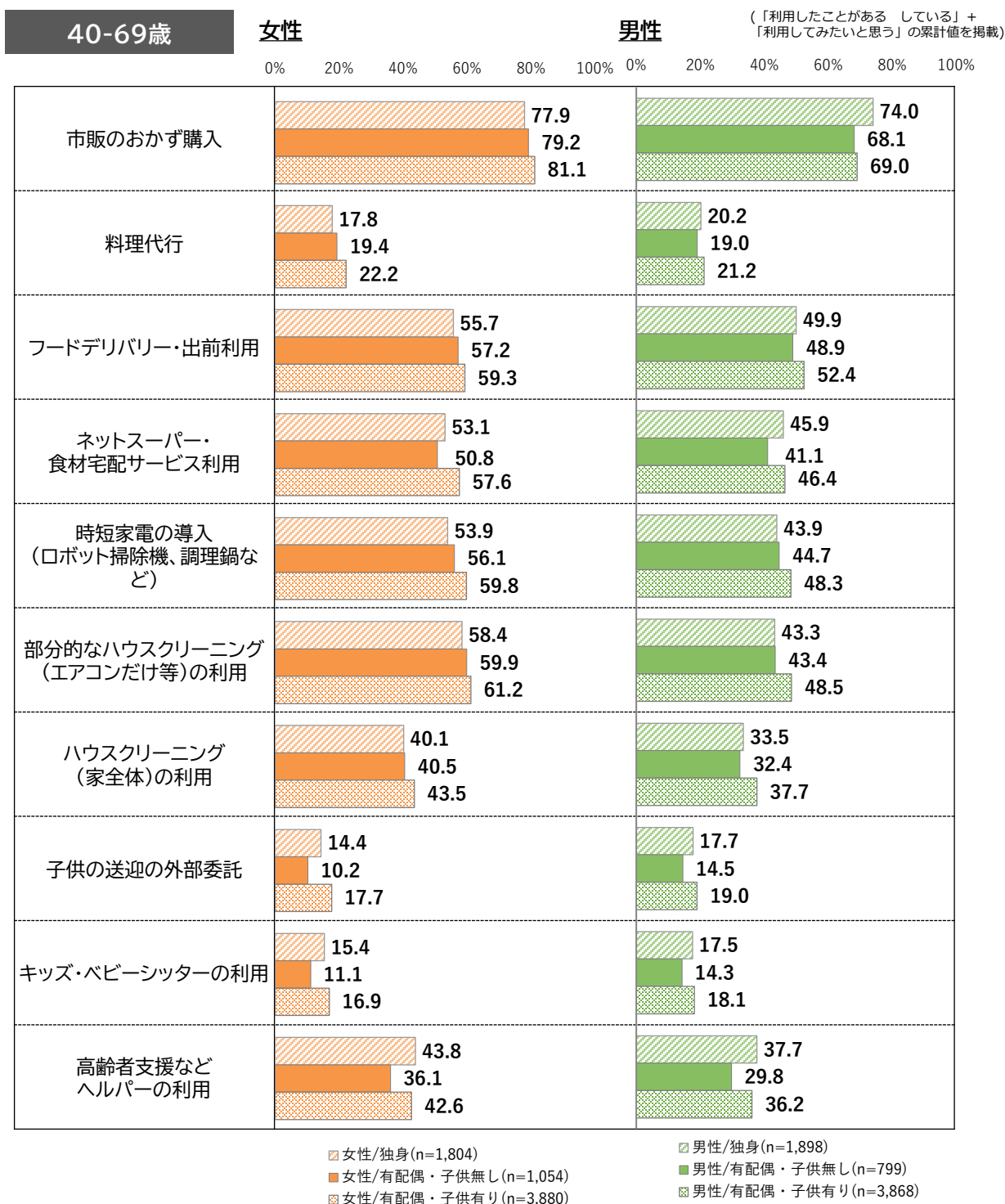
・配偶状況・子供の有無別(20-39歳)に見てみると、女性では「高齢者支援などヘルパーの利用」は、「独身」の方が「有配偶」よりも10%ポイント以上高い。男性では、「部分的なハウスクリーニングの利用」について、「有配偶」の方が10%ポイント近く高く、「ハウスクリーニングの利用」については、「有配偶・子供無し」で高い。

・男女で比較すると、全体的に女性の方が高い項目が多いが、「独身」では「フードデリバリー・出前利用」「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」について女性の方が10%ポイント以上高く、「有配偶・子供有り」では、「市販のおかず購入」「フードデリバリー・出前利用」「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」について、女性の方が10%ポイント以上高い。



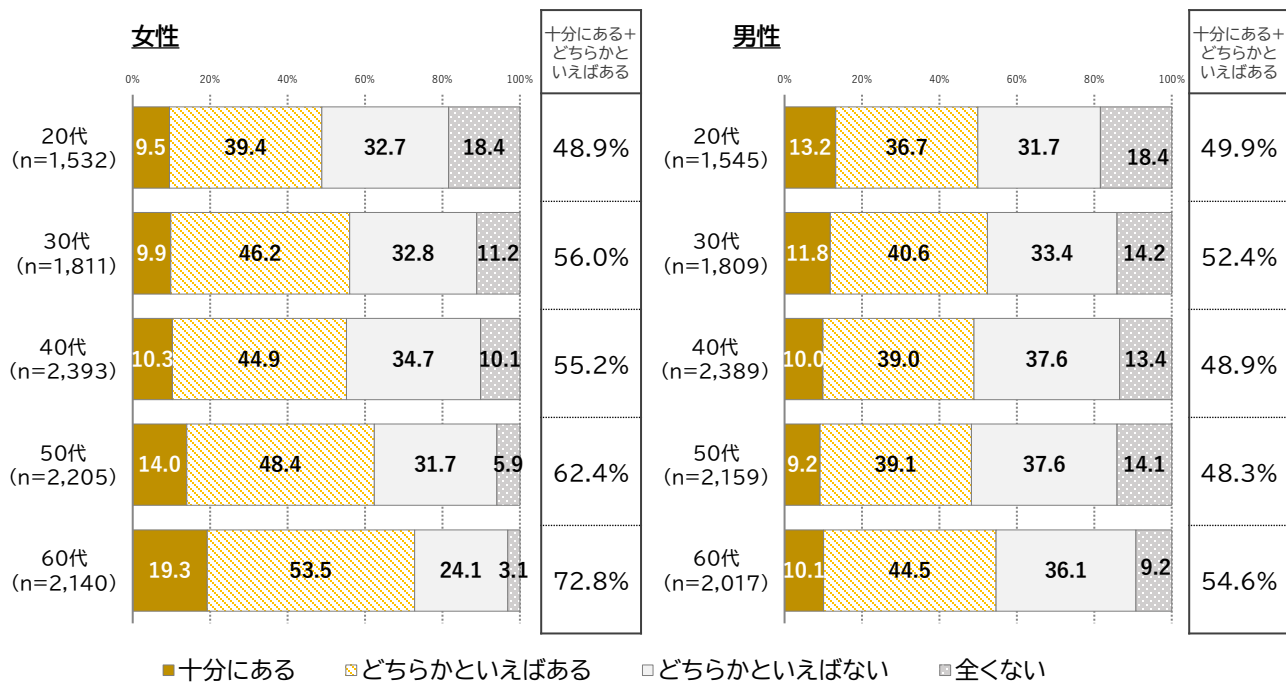
(5) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向(40-69歳、配偶状況・子供の有無別)

・配偶状況・子供の有無別(40-69歳)に見てみると、男女ともに、「独身」と「有配偶」で10%ポイント以上差があるものはない。
 ・男女で比較すると、全体的に女性の方が高い項目が多いが、全ての区分で「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」について女性の方が10%ポイント以上高い。また、「有配偶」では「市販のおかず購入」についても女性の方が高く、「有配偶・子供有り」では「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」についても、女性の方が10%ポイント以上高い。



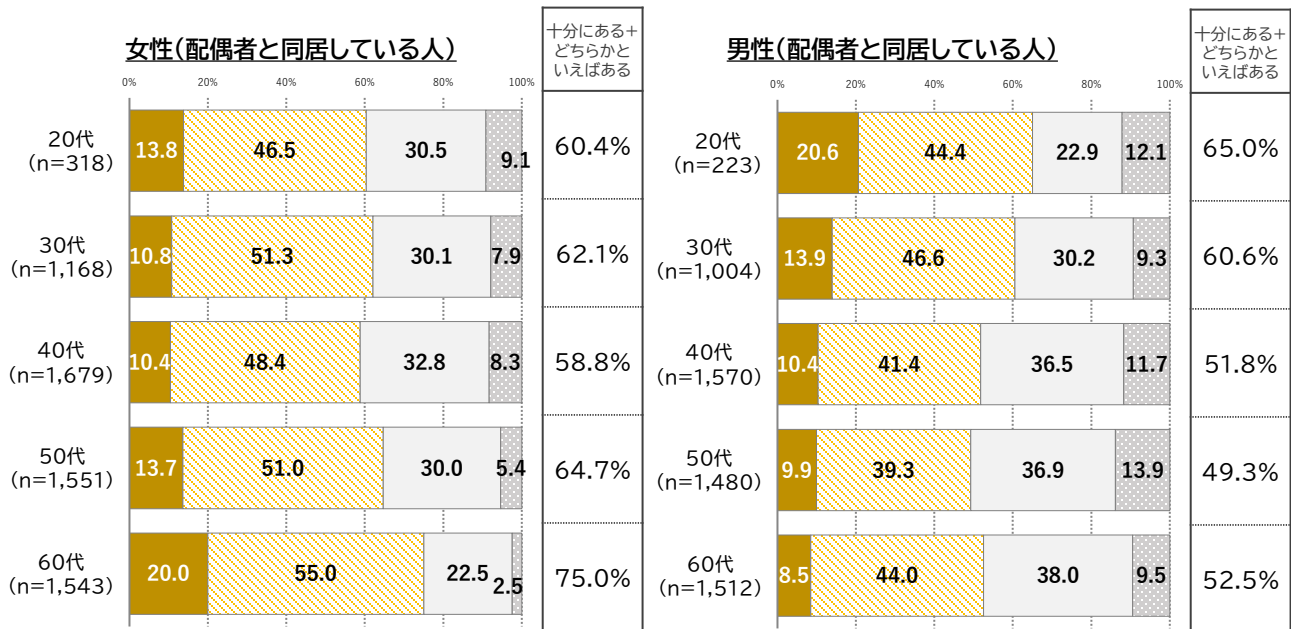
(6) 自分の家事のスキル(能力)についての評価(年代別)

- ・年代別に「十分にある」+「どちらかといえばある」の累計値を見てみると、女性では20代で48.9%、30代で56.0%、40代で55.2%、50代で62.4%、60代で72.8%と、上の年代ほど高い傾向となっている。
- ・男性では、20代で49.9%、30代で52.4%、40代で48.9%、50代で48.3%、60代で54.6%となっている。
- ・男女で比較すると、「50代以上」で、女性の方が10%ポイント以上高い。若いほど男女差は小さく、20代ではほぼ同程度となっている。

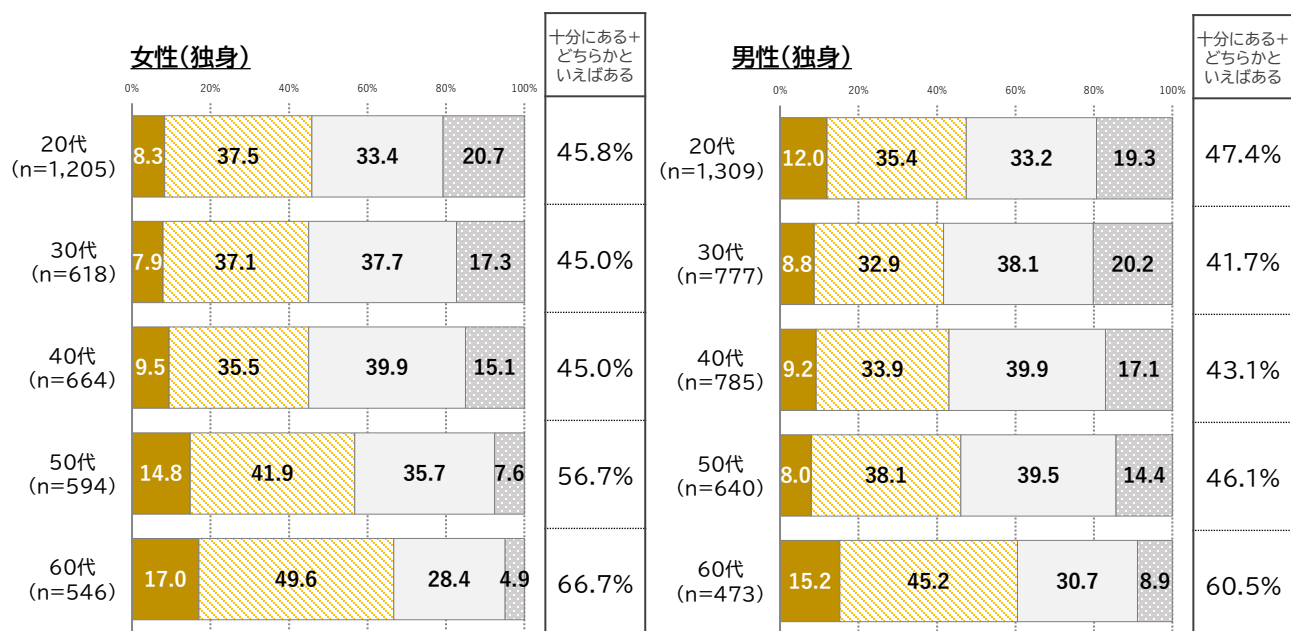


(6) 自分の家事のスキル(能力)についての評価(配偶者と同居している人及び独身)

- ・年代別に「十分にある」+「どちらかといえばある」の累計値を見てみると、配偶者と同居している人においては、女性では60代が75.0%と最も高い。男性では20代で65.0%と最も高く、30代でも60.6%と6割を超える。
- ・独身においては、女性では60代が66.7%と最も高い。男性では60代が60.5%と最も高く、それより下の年代と10%ポイント以上差がある。
- ・男女で比較すると、配偶者と同居している人について、20～40代では差は10%ポイント以内であるが、50代以上では差は10%ポイント以上となり、女性の方が高い。独身では、50代のみ女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・配偶者と同居している人と独身で比較すると、男女ともに20～30代では、「配偶者と同居している人」の方が15%ポイント程度高い。また女性は40代でも、「配偶者と同居している人」の方が10%ポイント以上高い。



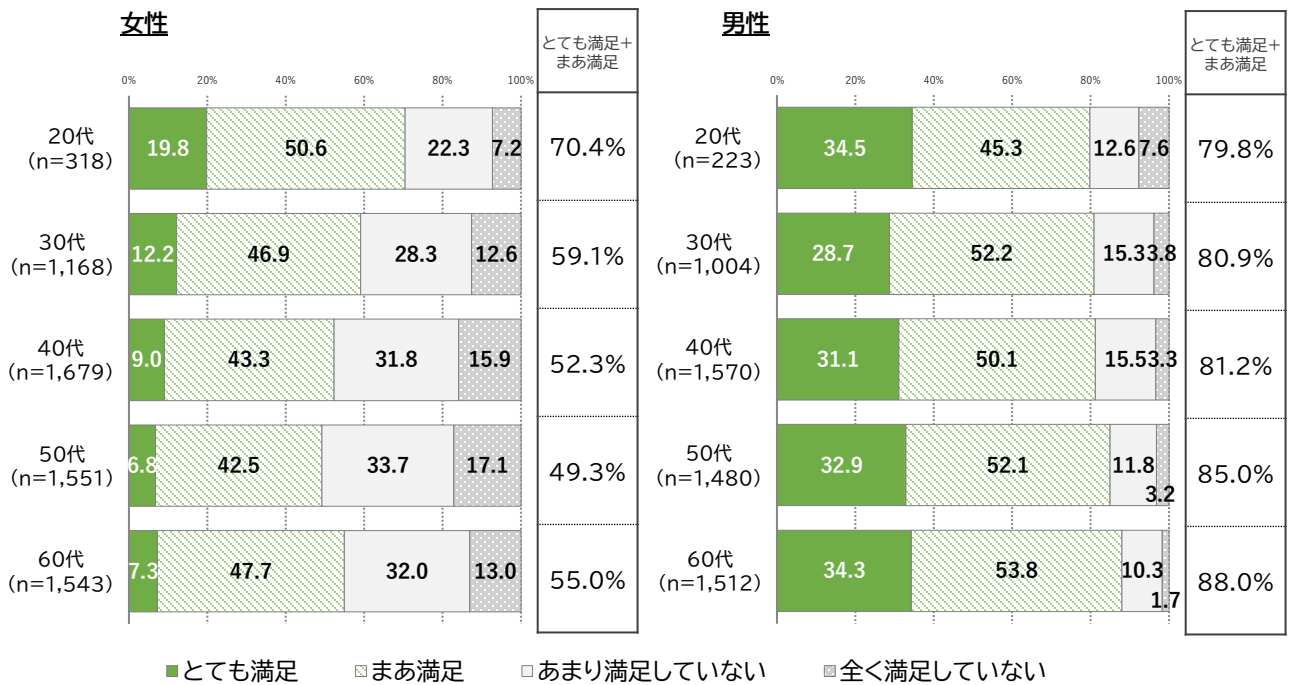
■十分にある ▨どちらかといえばある □どちらかといえばない ■全くない



■十分にある ▨どちらかといえばある □どちらかといえばない ■全くない

(7) 配偶者の実施する家事への満足度(配偶者と同居している人が対象)

- ・年代別に「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、女性においては20代で70.4%と唯一7割を超え、30代で59.1%、40代で52.3%、50代で49.3%、60代で55.0%となっている。
- ・男性においては、20代で79.8%、30代で80.9%、40代で81.2%、50代で85.0%、60代で88.0%と、どの年代でも8~9割となっている。
- ・男女で比較すると、20代では差が10%ポイント未満だが、年代が上になるほど男女差が大きくなり、30代では20%ポイント以上、40代以上では30%ポイント程度、男性の方が高い。

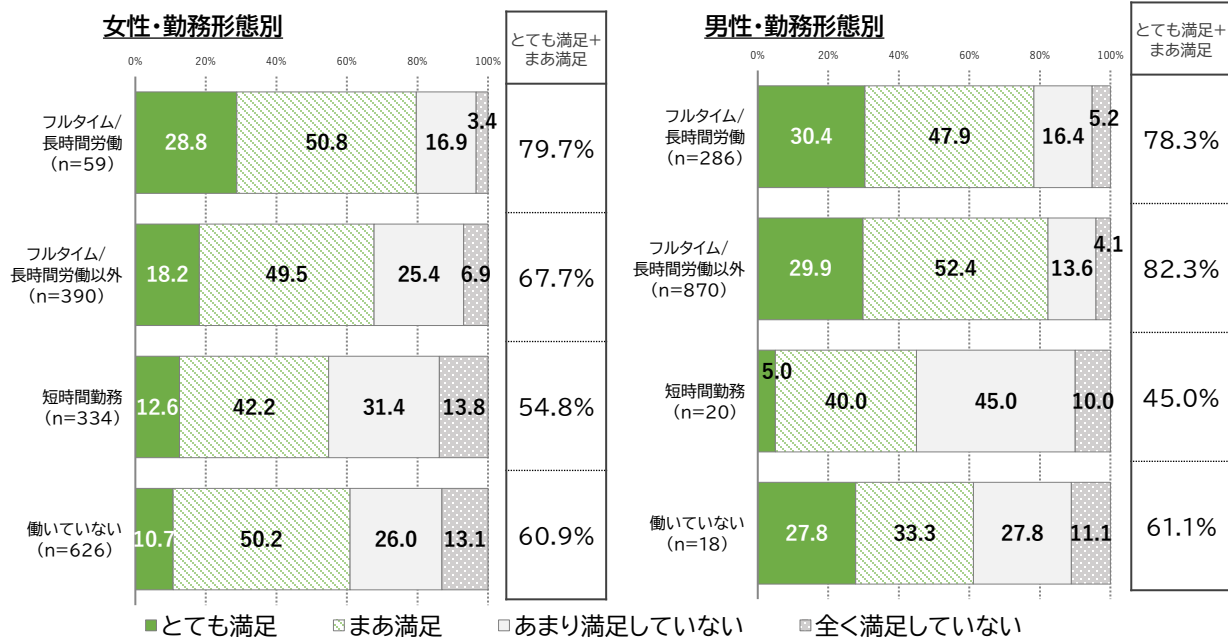


(7) 配偶者の実施する家事への満足度(配偶者と同居している人が対象、勤務形態別)

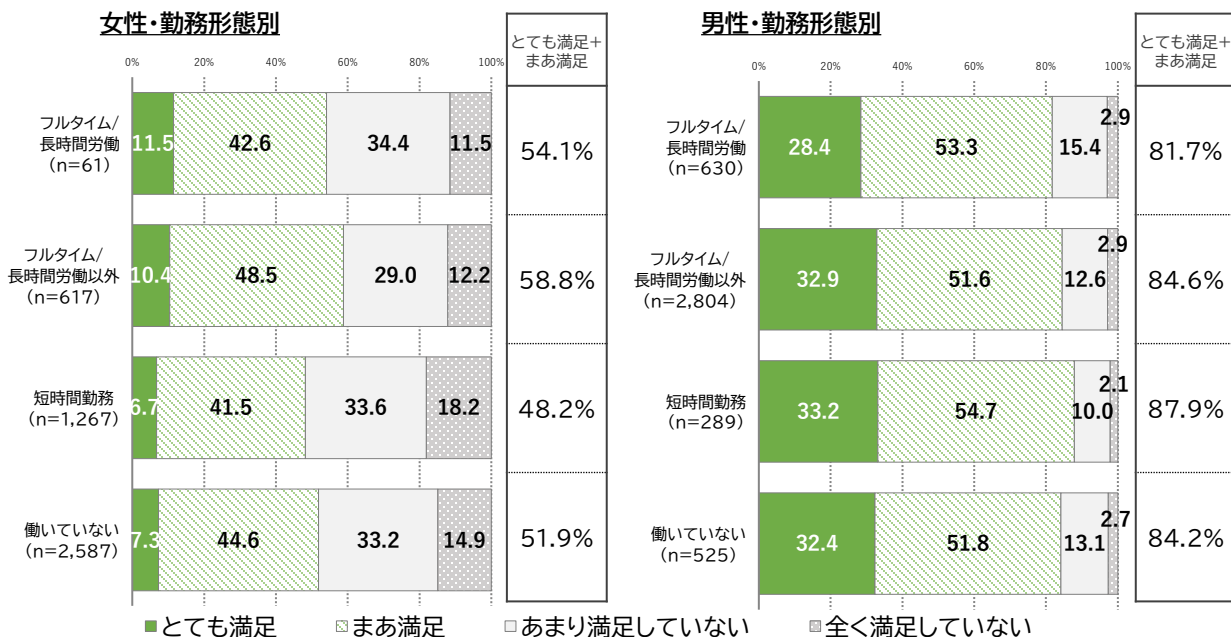
・年代、勤務形態別に「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、20-39歳女性では「フルタイム/長時間労働」が79.7%と最も高く、最も低い「短時間勤務」54.8%と比べ、差は20%ポイント以上。男性では「フルタイム/長時間労働」と「フルタイム/長時間労働以外」が、いずれも8割程度となっている。

・40-69歳の女性では「フルタイム/長時間労働以外」が58.8%と最も高く、「短時間勤務」が48.2%と最も低い。20-39歳ほど労働時間による差は小さく、40-69歳の方が満足度は低い傾向にある。男性では、どの区分でも8割強となっている。

20-39歳



40-69歳

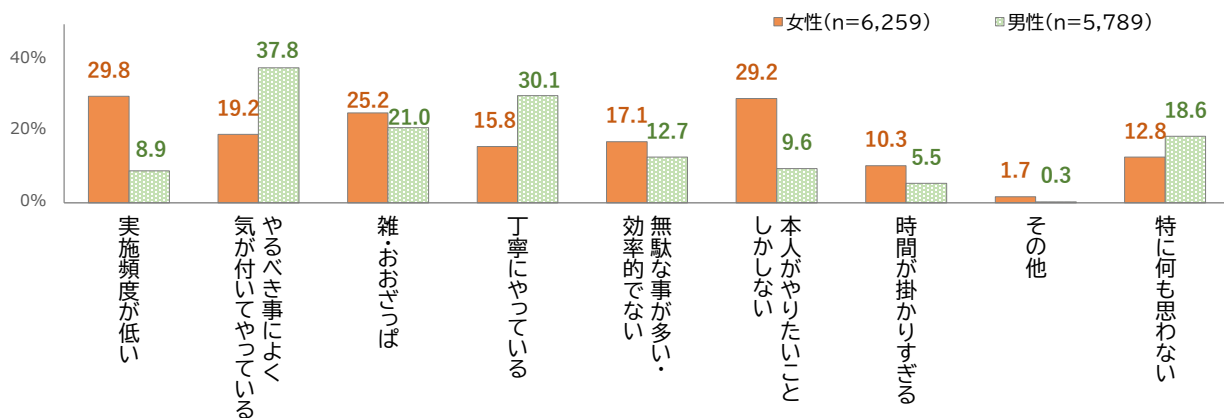


(8) 配偶者の実施する家事についてどう感じるか(配偶者と同居している人が対象)

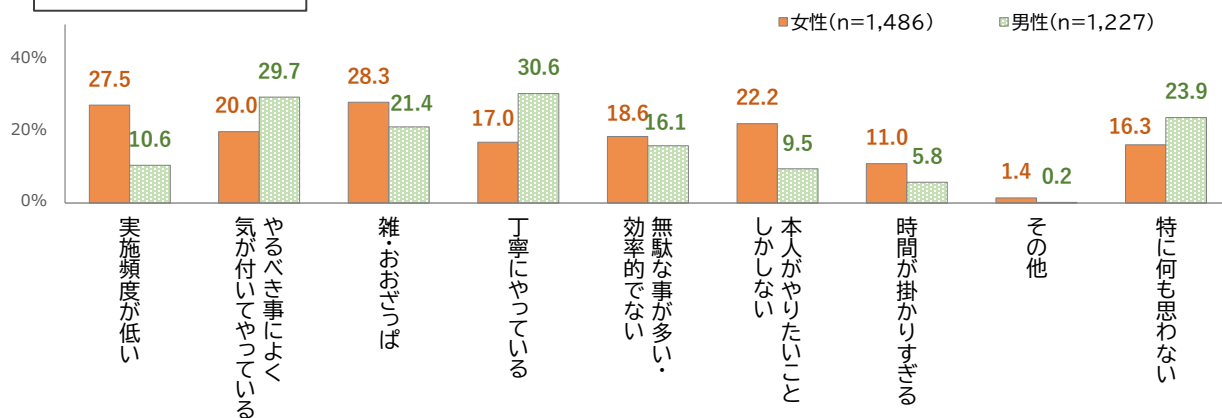
・女性では「実施頻度が低い」29.8%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかししない」29.2%が続いており、男性よりも10%ポイント以上高い。一方男性は、「やるべき事によく気が付いてやっている」37.8%が最も高く、次に「丁寧にやっている」30.1%となっており、女性よりも10%ポイント以上高い。

・20-39歳について男女別に見ると、全体と同じ傾向であり、「実施頻度が低い」は15%ポイント以上、「本人がやりたいことしかししない」は10%ポイント以上、女性の方が高い。一方「丁寧にやっている」は、10%ポイント以上男性の方が高い。

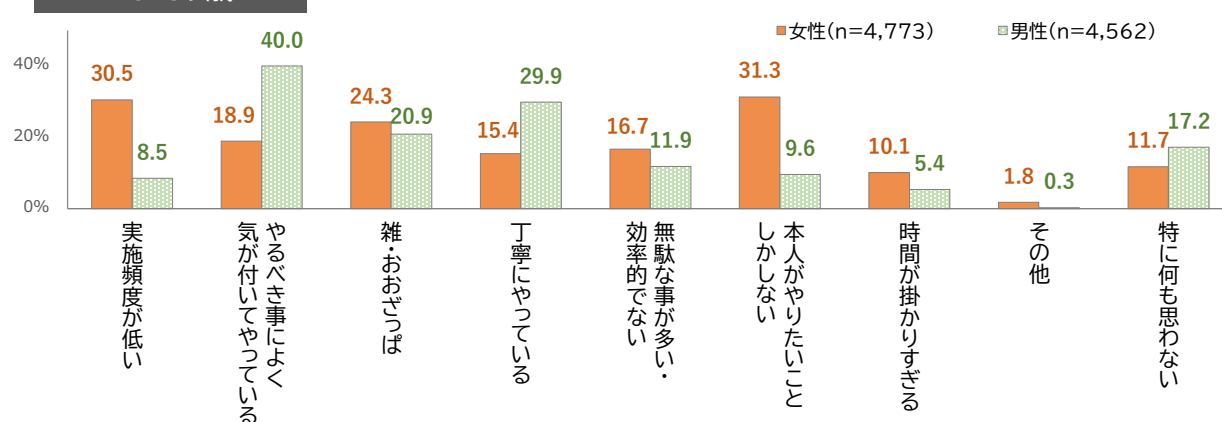
・40-69歳について男女別に見ると、「実施頻度が低い」「本人がやりたいことしかししない」は20%ポイント以上女性の方が高い。一方、「やるべき事によく気が付いてやっている」は20%ポイント以上、「丁寧にやっている」は10%ポイント以上男性の方が高い。



20-39歳



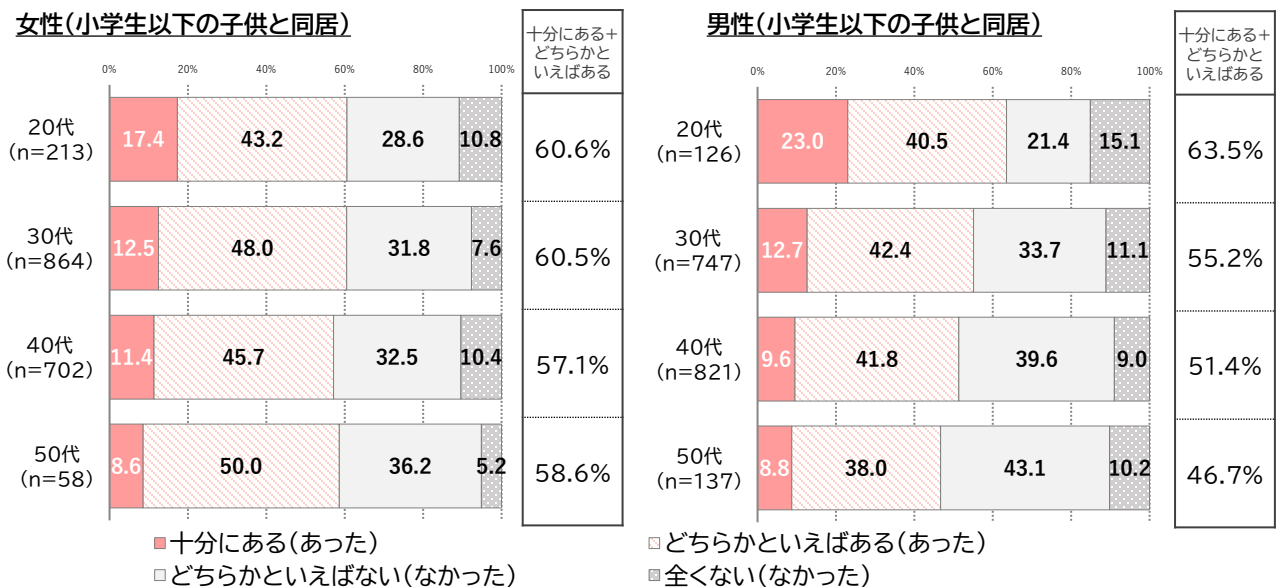
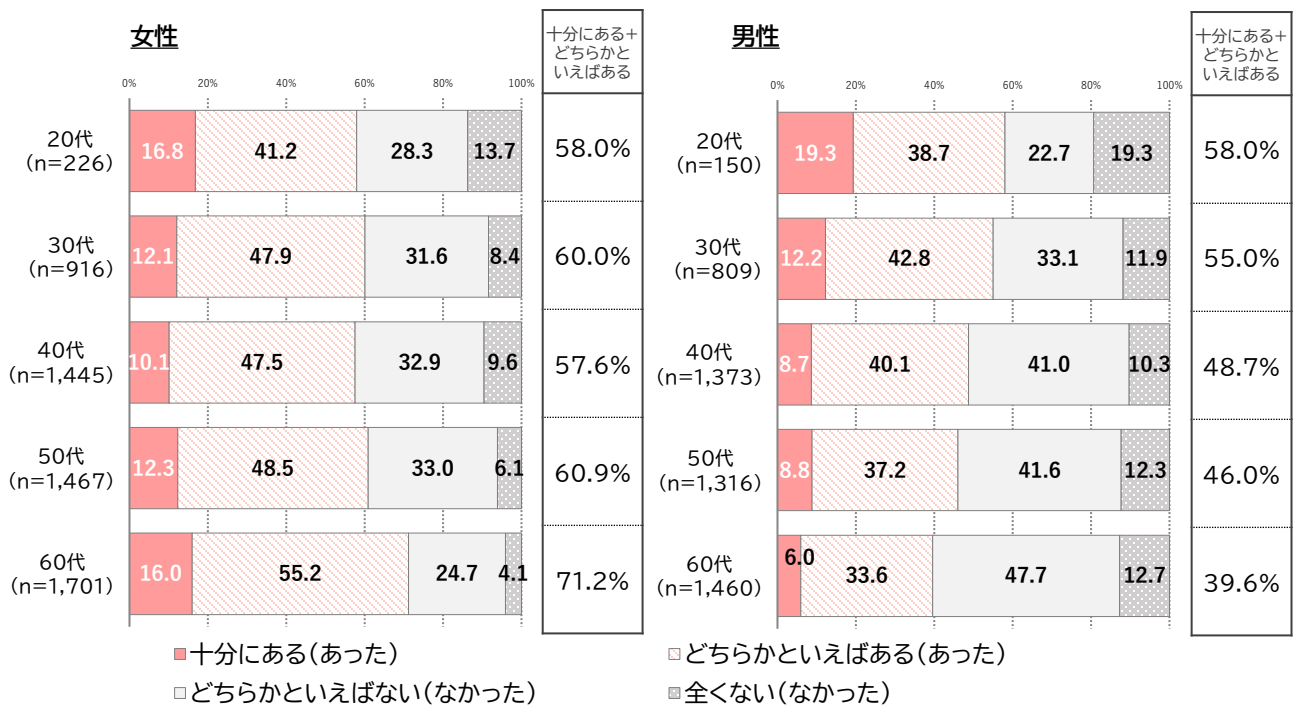
40-69歳



(9) 自分の育児のスキル(能力)についての評価(子供がいる・いたことのある人が対象)

・年代別に「十分にある」+「どちらかといえばある」の累計値を見てみると、女性では20-50代では6割、60代では71.2%となっている。男性では、20代で58.0%と最も高く、年代が上がるほど割合が下がり、60代では39.6%となっている。また、男女で比較すると、20代では同程度だが上の年代ほど男女差が大きく、50代では女性の方が15%ポイント、60代では30%ポイント以上高い。

・小学生以下の子供と同居している人について見てみると、女性では全ての年代で6割となっている。男性では、全体結果と同様に年代が若いほど割合が高く、20代では63.5%、一方50代では46.7%となっている。男女で比較すると、20代では同程度(男性の方がやや高い)だが、上の年代ほど男女差が大きく、女性の方が高い傾向。



(10) 配偶者の実施する育児への満足度(子供がいる・いたことのある人、小学生以下の子供と同居)

・年代別に「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、女性では20-30代で6割、40代で50.2%、50代で45.9%、60代で43.9%と、上の年代ほど低い。男性では上の年代ほど満足度は高い傾向にあるが、どの年代でも80%台となっている。また、男女で比較すると、どの年代でも20%ポイント近く男性の方が高く、特に40代より上でその差は30%ポイント以上と大きくなる。

・小学生以下の子供と同居している女性では、20代では64.3%となっているが、上の年代ほど低く、50代では50.0%となっている。男性では、どの年代でも85~88%程度となっている。男女で比較すると、上の年代になるほど、男性の満足度が女性の満足度を大きく上回る結果となっている。

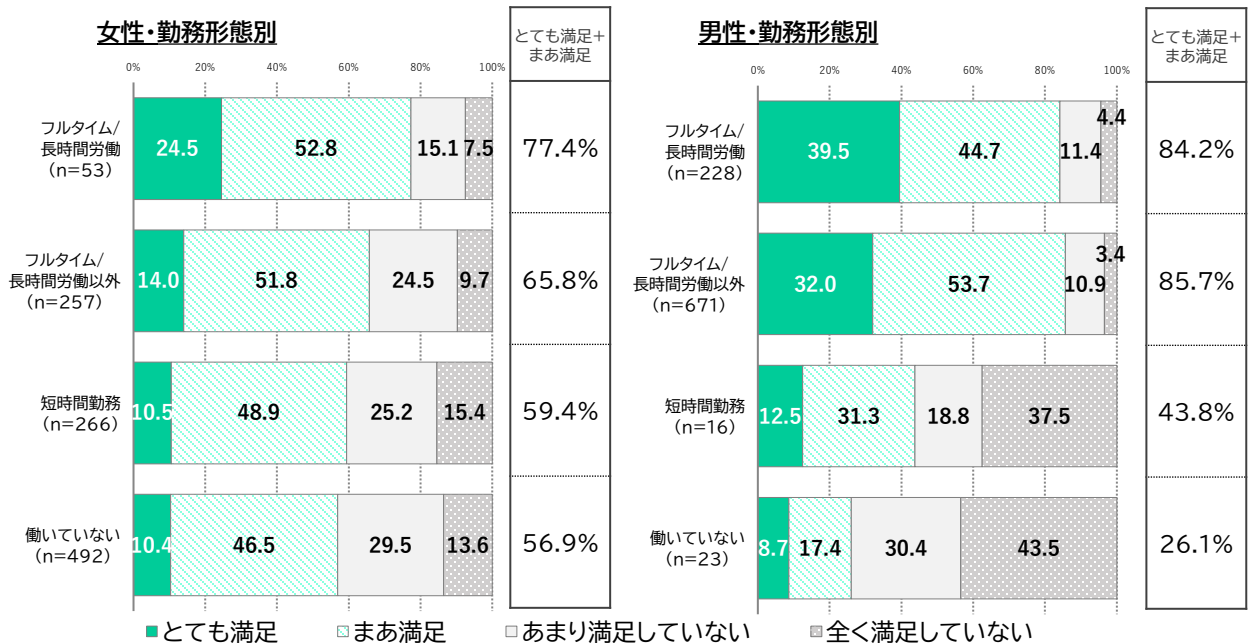


(10) 配偶者の実施する育児への満足度(子供がいる・いたことのある人、勤務形態別)

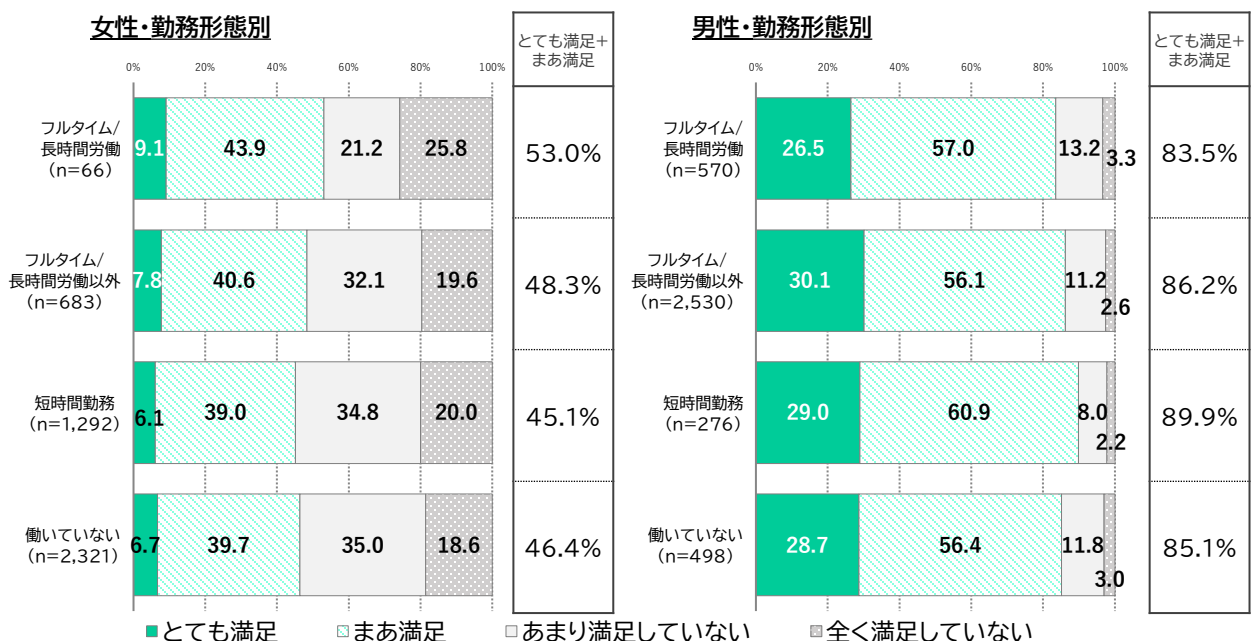
・年代、勤務形態別に「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、20-39歳の女性では「フルタイム/長時間労働」が77.4%と最も高い。一方、「短時間勤務」では59.4%、「働いていない」では56.9%と、差は10%ポイント以上。男性では「フルタイム/長時間労働」と「フルタイム/長時間労働以外」、いずれも85%前後となっている。

・40-69歳の女性では「フルタイム/長時間労働」が53.0%と最も高く、「短時間勤務」が45.1%と最も低い。20-39歳ほど労働時間による差は小さくなく、40-69歳の方が満足度が低い傾向にある。また、男性では、どの区分でも8割強となっている。

20-39歳



40-69歳

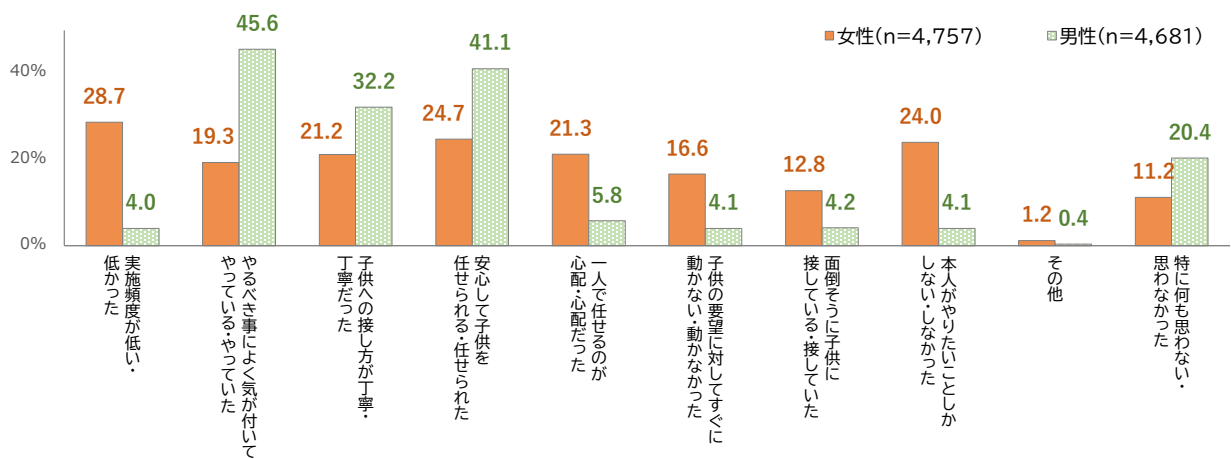


(11) 配偶者の実施する育児についてどう感じるか(子供がいる・いたことのある人が対象)

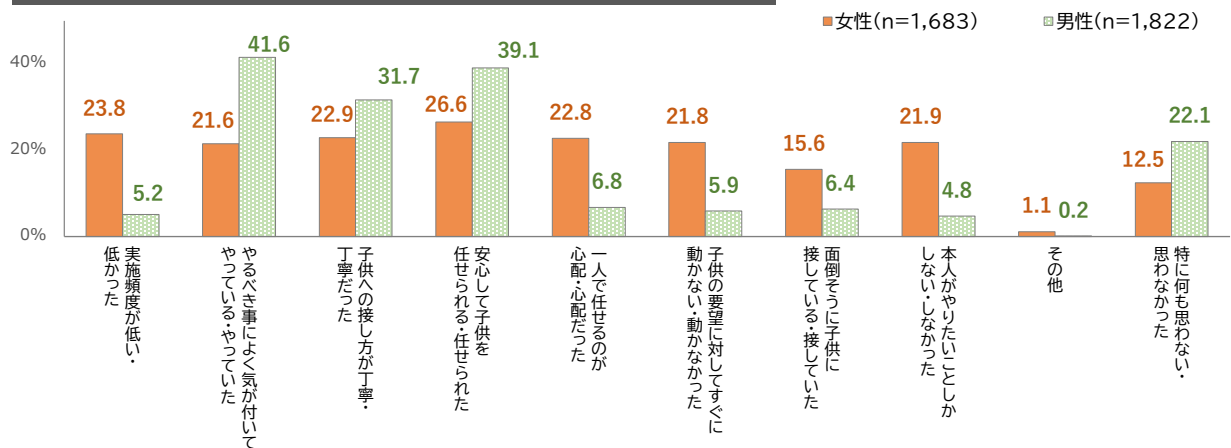
・現在、配偶者と同居している人について見ると、女性では「実施頻度が低い・低かった」28.7%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかしかない・しなかった」24.0%が続き、この2項目は男性よりも20～25%ポイント程度高い。また、「一人で任せるのが心配・心配だった」21.3%も男性より15%ポイント以上高い。一方、男性では「やるべき事によく気が付いてやっている・やっていた」45.6%が最も高く、次に「安心して子供を任せられる・任せられた」41.1%、「子供への接し方が丁寧・丁寧だった」32.2%が続き、この3項目では女性よりも10%ポイント以上高い。

・また、現在、配偶者と小学生以下の子供と同居している人で見ると、「実施頻度が低い」「一人で任せるのが心配・心配だった」「子供の要望に対してすぐに動かない・動かなかった」「本人がやりたいことしかしかない・しなかった」は女性の方が15%ポイント以上高い。一方、「やるべき事によく気が付いてやっている・やっていた」「安心して子供を任せられる・任せられた」は男性の方が10%ポイント以上高い。

現在、配偶者と同居している人



現在、配偶者と小学生以下の子供と同居している人



調査結果まとめ

◆1日の時間の使い方 有職者におけるテレワークの日・テレワーク以外の日の比較

1 有職者の「仕事のある1日」における時間の使い方を、テレワークの有無により比較すると、**テレワークの日の方が「仕事時間」は、女性は22分、男性は36分短い。**

2 また、男性では、テレワークの日の方が「家事・育児時間」が**22分長い**。女性の方が家事・育児時間が長い傾向は変わらないが、**テレワークの日の方がその差が小さい。**

3 男女ともにテレワークの日の方が「自分のことに使う時間」が**19分長い**。また、男性では「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」も**11分長い**。

有職者全体 仕事のある1日 時間の使い方		①テレワーク 以外の日	②テレワークの日	差異 (②-①)
仕事時間	女性	6時間47分	6時間25分	-22分
	男性	8時間23分	7時間47分	-36分
家事・育児時間	女性	2時間09分	2時間10分	+1分
	男性	0時間49分	1時間11分	+22分
家族と遊んだり くつろいだりする時間	女性	1時間20分	1時間23分	+3分
	男性	1時間11分	1時間22分	+11分
自分のことに 使う時間	女性	2時間16分	2時間35分	+19分
	男性	2時間15分	2時間34分	+19分

※10分以上増減のあるセルに色掛け、黄色が+10分以上、グレーが-10分以上

◆1日の時間の使い方 有配偶男性におけるテレワークの日・テレワーク以外の日の比較

1 「20-39歳/フルタイム長時間勤務」の男性では、テレワークの日の方が「仕事時間」が**1時間15分短い**。また40-69歳男性でも1時間7分短い。

2 一方、「20-39歳/フルタイム長時間勤務」の男性では、テレワークの日の方が「家事・育児時間」が、**40分長い**。また、40-69歳男性でも34分長い。

3 正規雇用労働者の男性を年代別で比較すると、**テレワーク有無に限らず、20-39歳の方が「仕事時間」が長く、かつ「家事・育児時間」も20-39歳の方が長い。**

有配偶・ 正規雇用労働者の男性 仕事のある1日 時間の使い方		①テレワーク 以外の日	②テレワーク の日	差異 (②-①)
仕事時間	20-39歳	9時間05分	8時間15分	-50分
	40-69歳	8時間47分	8時間11分	-36分
家事・育児 時間	20-39歳	1時間26分	1時間54分	+28分
	40-69歳	0時間43分	1時間06分	+23分
家族と遊んだり くつろいだりする時間	20-39歳	1時間21分	1時間36分	+15分
	40-69歳	1時間22分	1時間35分	+13分
自分のことに 使う時間	20-39歳	1時間23分	1時間42分	+19分
	40-69歳	1時間49分	2時間17分	+28分

有配偶・フルタイム/ 長時間労働の男性 仕事のある1日 時間の使い方		①テレワーク 以外の日	②テレワーク の日	差異 (②-①)
仕事時間	20-39歳	9時間44分	8時間29分	-1時間15分
	40-69歳	9時間35分	8時間28分	-1時間7分
家事・育児 時間	20-39歳	1時間15分	1時間55分	+40分
	40-69歳	0時間45分	1時間19分	+34分
家族と遊んだり くつろいだりする時間	20-39歳	1時間01分	1時間22分	+21分
	40-69歳	1時間16分	1時間28分	+12分
自分のことに 使う時間	20-39歳	1時間14分	1時間31分	+17分
	40-69歳	1時間35分	1時間56分	+21分

調査結果まとめ

◆生活の中の時間 増減希望

- 1 子供がいる20-39歳において、男性では「**仕事時間を減らしたい**」が34%、「**家事・育児時間を増やしたい**」が28%と高い。一方女性では「**仕事時間**」は増加・減少希望に分かれる。
- 2 子供がいる40-69歳において、男性では「**家事・育児時間を増やしたい**」は14%と、下の年代に比べ低い。女性では「**仕事時間を増やしたい**」が23%と、減少希望を上回る。
- 3 「**家族とくつろぐ**」「**自分のことに使う**」は増加希望が大きく上回るが、特に若い年代で顕著。特に女性においては、「**自分のことに使う時間を増やしたい**」が5割を超える。

20-39歳・子供有り		減らしたい	増やしたい	40-69歳・子供有り		減らしたい	増やしたい
仕事時間	女性	23.2%	28.6%	仕事時間	女性	12.7%	22.5%
	男性	34.1%	16.6%		家事・育児時間	女性	20.2%
家事・育児時間	女性	33.5%	14.4%	家事・育児時間		男性	7.6%
	男性	14.1%	27.7%		家族と遊んだり、くつろいだりする時間	女性	2.1%
家族と遊んだり、くつろいだりする時間	女性	5.0%	44.1%	家族と遊んだり、くつろいだりする時間		男性	3.4%
	男性	6.0%	42.2%		自分のことに使う時間	女性	2.6%
自分のことに使う時間	女性	4.2%	51.3%	自分のことに使う時間		男性	3.8%
	男性	7.3%	44.4%				

※増減で10%ポイント以上差がある（高い項目に色掛け）

◆家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

- 1 利用経験が男女ともに2割を超える項目は、「**市販のおかず購入**」「**フードデリバリー・出前利用**」のみ。女性のみ2割を超える項目は「**ネットスーパー・食材宅配**」。
- 2 上記以外の項目で、「**利用経験有+今後利用してみたい**」の計が6割を超える項目は、女性における「**時短家電の導入**」「**部分的なハウスクリーニングの利用**」。
- 3 年代別では、男女ともに若いほど利用意向の高いサービスが多い。

- 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向について、「利用したことがある」が2割を超えるものは、女性では「市販のおかず購入」57.4%、「フードデリバリー・出前利用」29.8%、「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」22.2%。男性では「市販のおかず購入」44.3%、「フードデリバリー・出前利用」23.2%。
- 「利用したことがある+利用してみたいと思う」の累計値で見ると、年代別では、男女ともに若いほど「料理代行」「フードデリバリー・出前利用」「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」などが高い。
- また20～30代で、「時短家電の導入」がやや高い。上の年代になるほど高い項目はないが、女性では20代と50代以上、男性では20代と60代で「高齢者支援などヘルパーの利用」がやや高い。

・家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

（上が「利用したことがある」数値、(カッコ内)が「利用したことがある+利用してみたいと思う」の累計値）

※選択肢は抜粋
※「利用したことがある+利用してみたいと思う」の累計値で男女で10%ポイント程度差がある（高い）項目に色掛け

	女性	男性
市販のおかず購入	57.4% (79.4%)	44.3% (69.5%)
フードデリバリー・出前利用	29.8% (62.3%)	23.2% (53.1%)
ネットスーパー・食材宅配サービス利用	22.2% (57.2%)	15.9% (47.5%)
時短家電の導入	15.0% (60.2%)	12.4% (49.2%)
部分的なハウスクリーニングの利用	13.3% (60.4%)	11.3% (47.0%)

調査結果まとめ

◆自分の家事・育児スキル(能力)と配偶者の実施する家事・育児への満足度

- 家事に関する自分のスキルへの評価について、20～30代では男女同程度、40代以上では**女性が上回る**。配偶者の家事への満足度は**全ての年代で女性の方が低い**が、若いほど差は小さい。
- 育児に関する自分のスキルへの評価について、30代以上では女性が上回るが、家事よりその差は小さい。配偶者の育児への満足度は、**家事同様に全ての年代で女性の方が満足度が低い**。
- 年代における自分のスキルへの評価の差異は、**男性では家事・育児ともに若い年代ほど高い傾向にあり、20代で最も高い**。

家事(配偶者と同居している人)		【自分】 十分ある+ どちらかとい えればある 計	【配偶者】 とても満足+ まあ満足 計
20代	女性	60.4%	70.4%
	男性	65.0%	79.8%
30代	女性	62.1%	59.1%
	男性	60.6%	80.9%
40代	女性	58.8%	52.3%
	男性	51.8%	81.2%
50代	女性	64.7%	49.3%
	男性	49.3%	85.0%
60代	女性	75.0%	55.0%
	男性	52.5%	88.0%

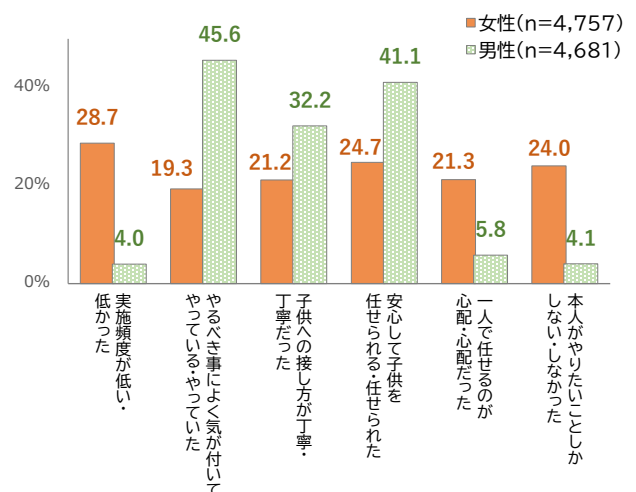
育児(小学生以下の 子供と同居している人)		【自分】 十分ある+ どちらかとい えればある 計	【配偶者】 とても満足+ まあ満足 計
20代	女性	60.6%	64.3%
	男性	63.5%	88.1%
30代	女性	60.5%	60.5%
	男性	55.2%	85.0%
40代	女性	57.1%	54.6%
	男性	51.4%	84.9%
50代	女性	58.6%	50.0%
	男性	46.7%	87.6%

◆配偶者の実施する家事・育児についての考え

- 配偶者の家事についての考えでは、女性の方が「**実施頻度が低い**」「**本人がやりたいことしかない**」が高く、男性の方が「**やるべきことによく気が付いてやっている**」「**丁寧**」が高い。
- 配偶者の育児について、女性の方が「**実施頻度が低い**」「**本人がやりたいことしかない**」「**一人で任せるのが心配**」が高く、男性の方が「**やるべきことによく気が付いてやっている**」「**子供への接し方が丁寧**」「**安心して子供を任せられる**」が高い。
- 家事よりも、「**配偶者の育児についての考え**」の方が、男女差が大きい。

- 配偶者の実施する家事についての考えを、配偶者と同居している人で見ると、女性では「実施頻度が低い」29.8%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかない」29.2%が続き、男性よりも10%ポイント以上高い。一方男性は、「やるべき事によく気が付いてやっている」37.8%が最も高く、次に「丁寧にやっている」30.1%と、女性よりも10%ポイント以上高い。
- 配偶者の実施する育児についての考えを、配偶者と同居している、子供がいる・いたことのある人で見ると、女性では「実施頻度が低い・低かった」28.7%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかない・しなかった」24.0%が続き、この2項目は男性よりも20～25%ポイント程度高い。また、「一人で任せるのが心配・心配だった」21.3%も男性より15%ポイント以上高い。男性では「やるべき事によく気が付いてやっている・やっていた」45.6%が最も高く、次に「安心して子供を任せられる・任せられた」41.1%、「子供への接し方が丁寧・丁寧だった」32.2%と、いずれも女性より10%ポイント以上高い。

◆配偶者の実施する育児についてどう感じるか ※選択肢は抜粋
(子供がいる・いたことのある、現在配偶者と同居している人)



5.生活の中での責任とストレス

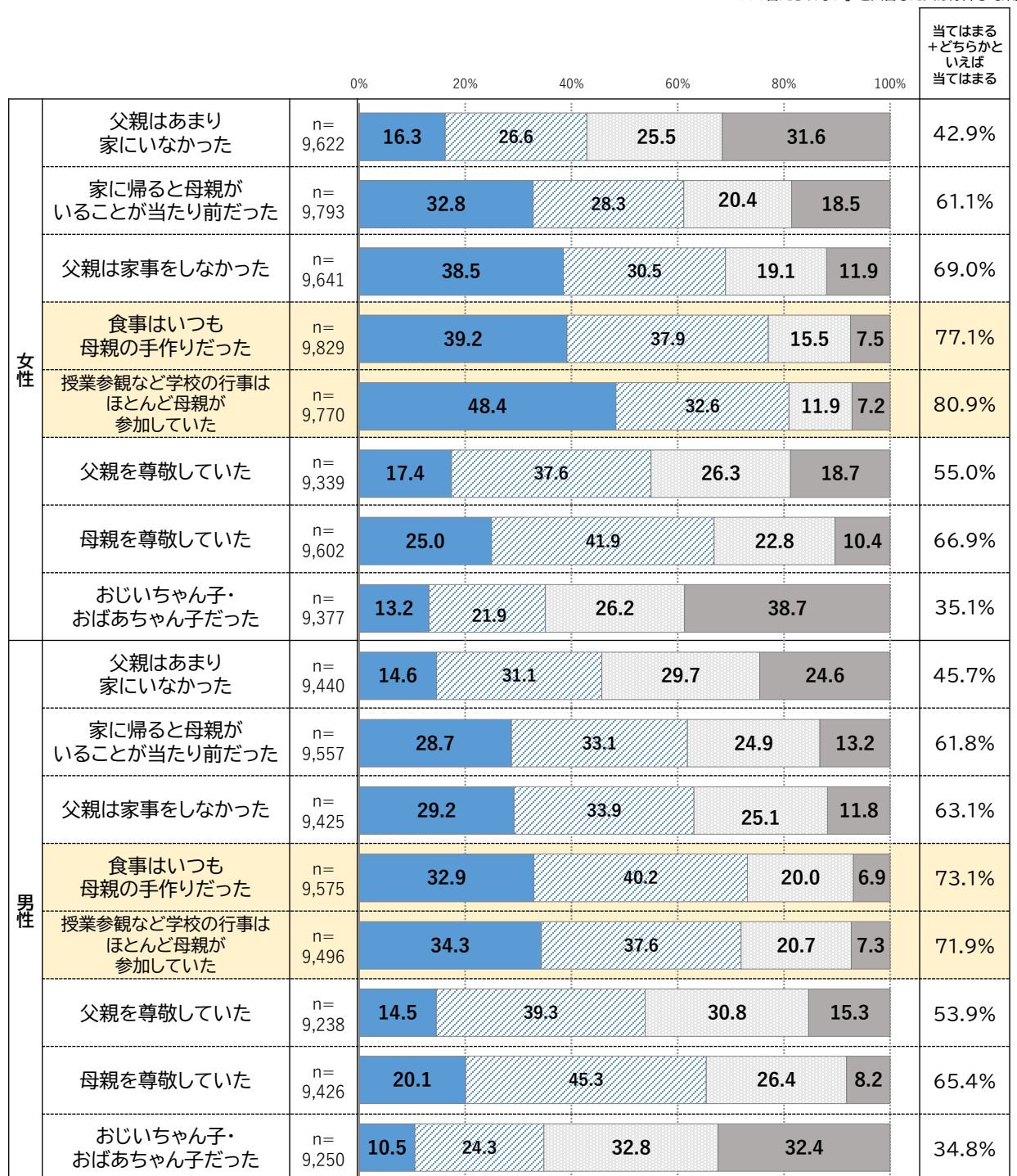
(1) 自分の父親・母親等との関係について

・「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値で見ると、男女ともに7割を超える項目は、「食事はいつも母親の手作りだった」「授業参観など学校の行事はほとんど母親が参加していた」。

・男女で10%ポイント以上差がある項目はなかった。

・「父親を尊敬していた」「母親を尊敬していた」については、男女ともに「母親を尊敬していた」が「父親を尊敬していた」の割合よりも10%ポイント以上高い。

※70%を超えるセルに色掛け（イエロー）
※「答えられない」と回答した人は除外して集計



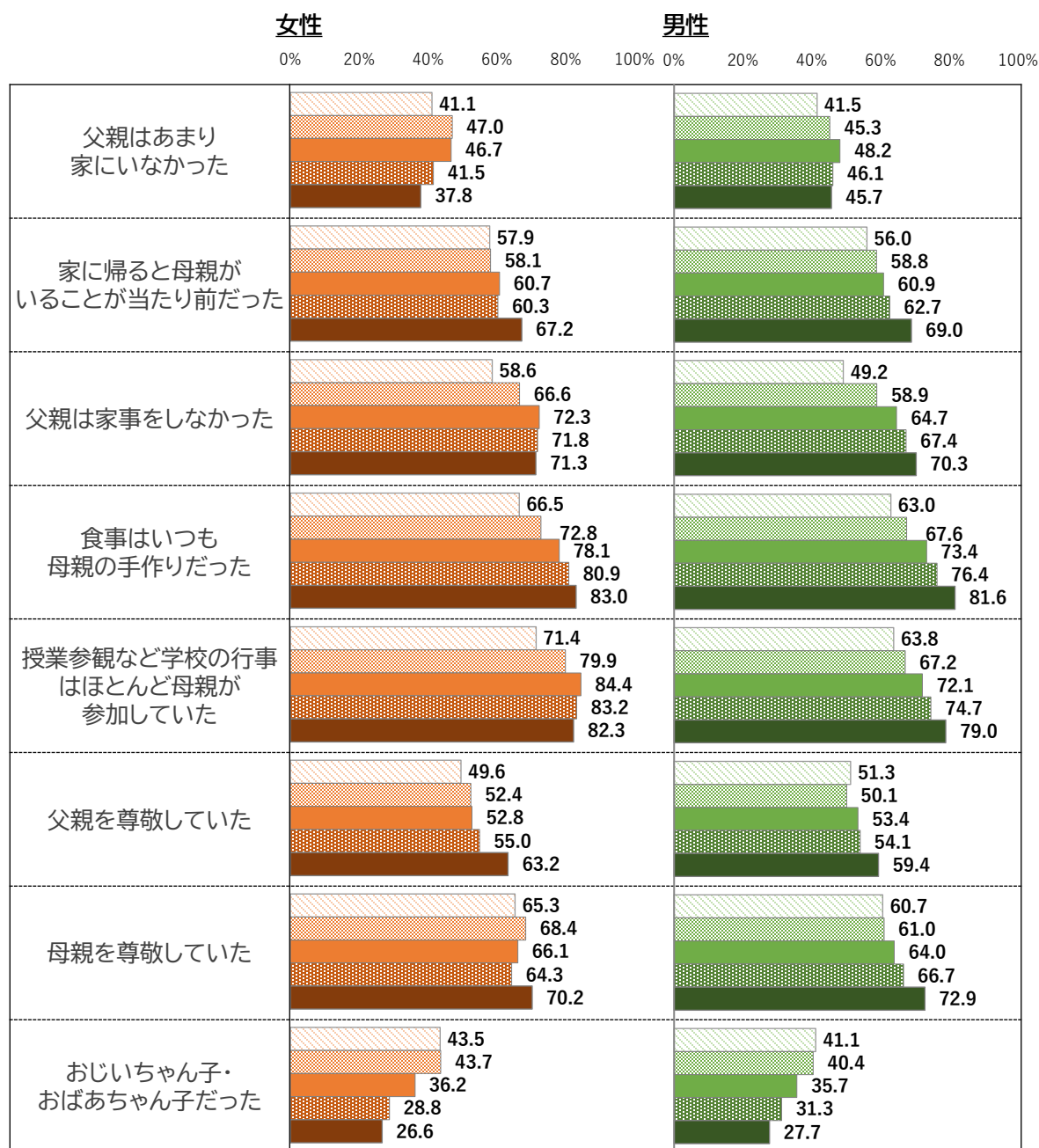
■ 当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまる
 □ どちらかといえば当てはまらない
 ■ 当てはまらない

(1) 自分の父親・母親等との関係について(年代別)

・年代別に見てみると、男女ともに若いほど「おじいちゃん子・おばあちゃん子だった」が高く、上の年代になるほど「父親は家事をしなかった」「食事はいつも母親の手作りだった」「父親を尊敬していた」が高い。また女性では上の年代になるほど「父親を尊敬していた」が高く、男性では上の年代になるほど「家に帰ると母親がいることが当たり前だった」「授業参観など学校の行事はほとんど母親が参加していた」「母親を尊敬していた」が高い。

・同年代の男女で比較すると、20代では「父親は家事をしなかった」で女性の方が10%ポイント近く高く、30-40代では「授業参観など学校の行事はほとんど母親が参加していた」で女性の方が10%ポイント以上高い。

(「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値を掲載)
※「答えられない」と回答した人は除外して集計



※対象者数の表示は全数。ただし設問によって集計対象のnが異なる。

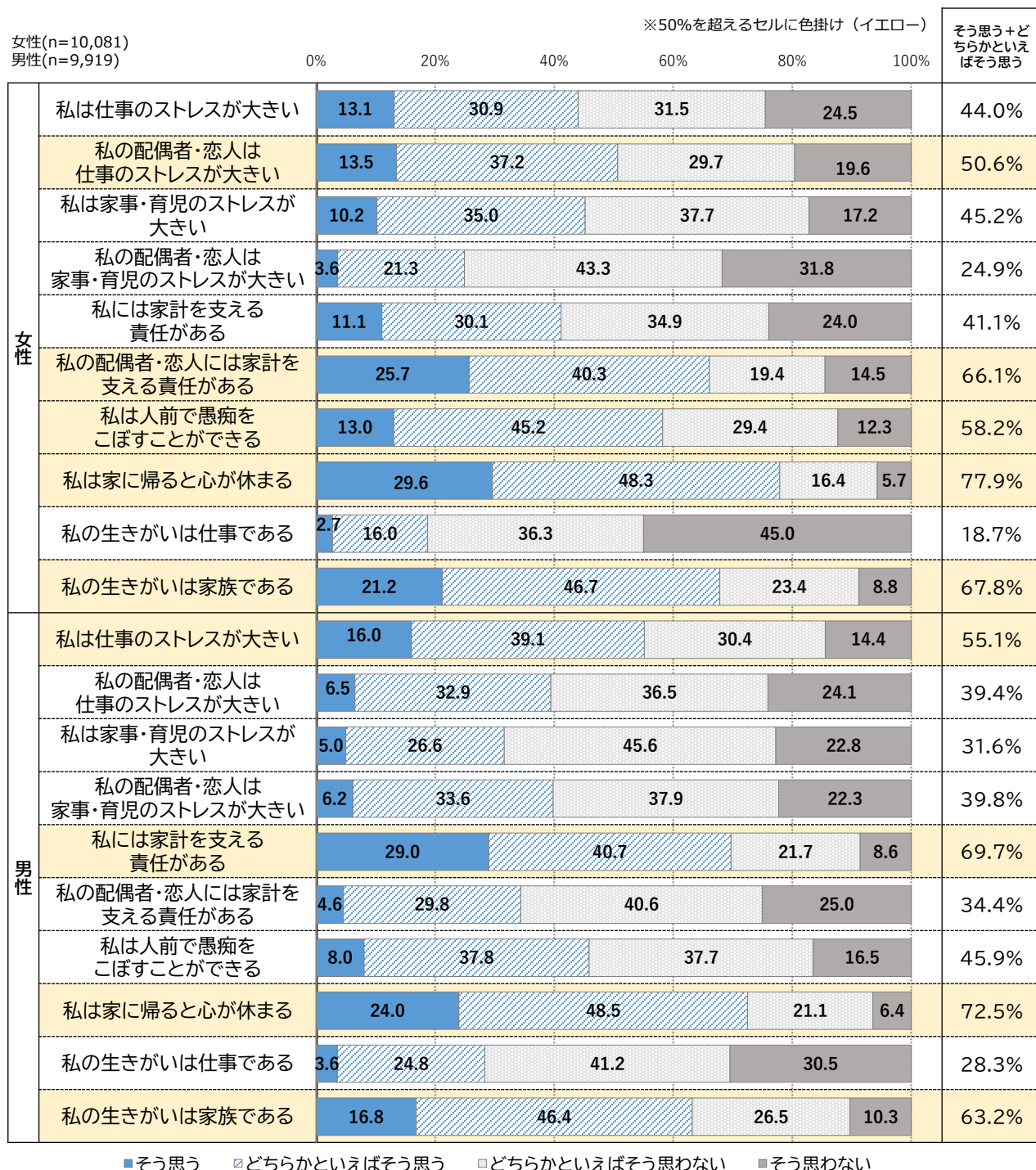
□ 女性/20代(n=1,532) □ 女性/30代(n=1,811)
■ 女性/40代(n=2,393) ■ 女性/50代(n=2,205)
■ 女性/60代(n=2,140)

□ 男性/20代(n=1,545) □ 男性/30代(n=1,809)
■ 男性/40代(n=2,389) ■ 男性/50代(n=2,159)
■ 男性/60代(n=2,017)

(2) ストレスや責任などについての考え方

・「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値が50%を超える項目についてみると、男女ともに「私は家に帰ると心が休まる」7割強、「私の生きがいは家族である」6割強となっている。女性でのみ50%を超える項目は、「私の配偶者・恋人には家計を支える責任がある」66.1%、「私は人前で愚痴をこぼすことができる」58.2%、「私の配偶者・恋人は仕事のストレスが大きい」50.6%。男性でのみ50%を超える項目は、「私には家計を支える責任がある」69.7%、「私は仕事のストレスが大きい」55.1%。

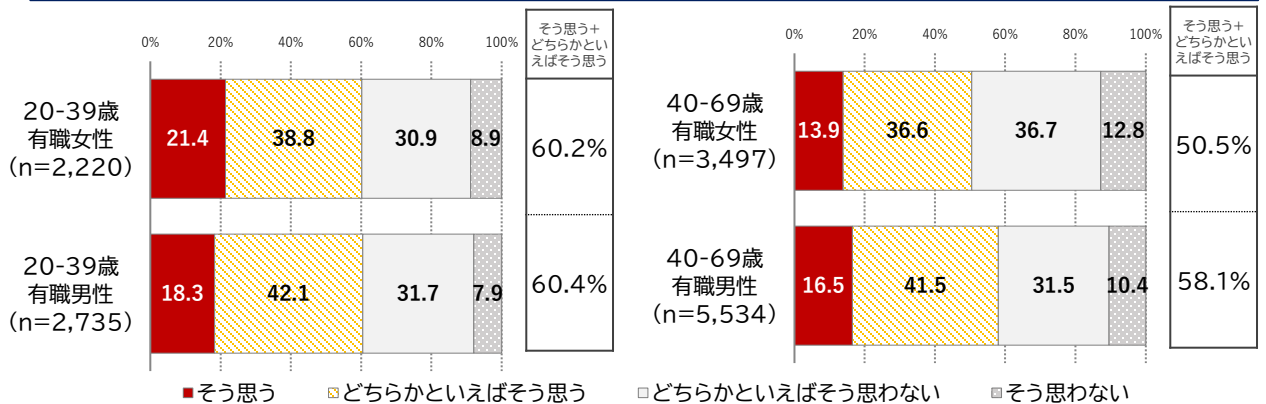
・男女で差がある項目についてみると、「私の配偶者・恋人は仕事のストレスが大きい」「私は家事・育児のストレスが大きい」「私の配偶者・恋人には家計を支える責任がある」「私は人前で愚痴をこぼすことができる」は女性の方が10%ポイント以上高い。一方、「私は仕事のストレスが大きい」「私の配偶者・恋人は家事・育児のストレスが大きい」「私には家計を支える責任がある」は男性の方が10%ポイント以上高い。



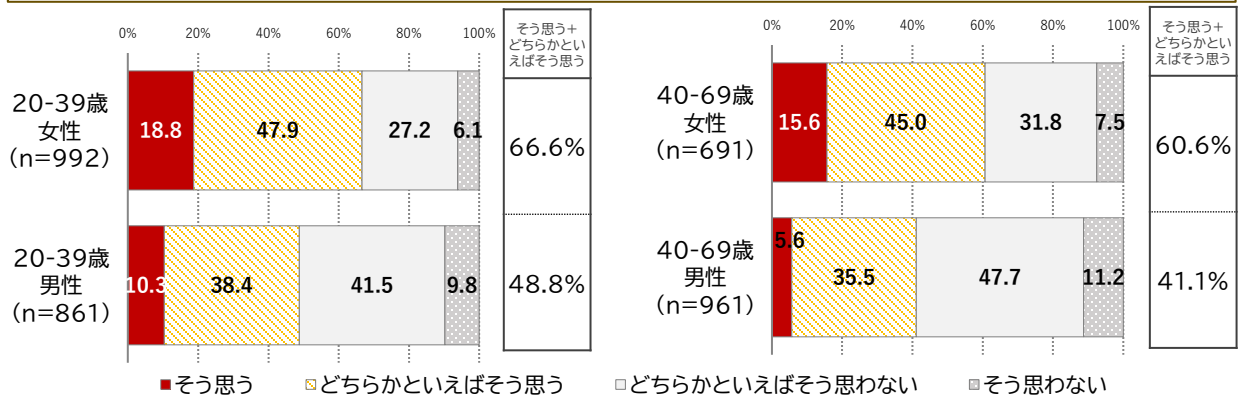
(2) 自分のストレスや責任などについての考え方(年代別)

- ・年代別に有職者における「仕事のストレス」について比較してみると(ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値、以下同様)、20-39歳では男女とも6割と同程度。40-69歳では女性50.5%、男性58.1%。
- ・配偶者と小学生以下の子供と同居している人の「家事・育児のストレス」を比較してみると、20-39歳においては、女性で66.6%、男性48.8%と、15%ポイント以上女性の方が高い。40-69歳では、女性は60.6%、男性は41.1%と、上の年代でも15%ポイント以上女性の方が高い。
- ・有配偶における「家計を支える責任」について比較してみると、20-39歳においては、女性で41.9%、男性で75.2%と、男性の方が30%ポイント以上高い。40-69歳では、女性は33.8%、男性で79.0%と、男性の方が40%ポイント以上高い。

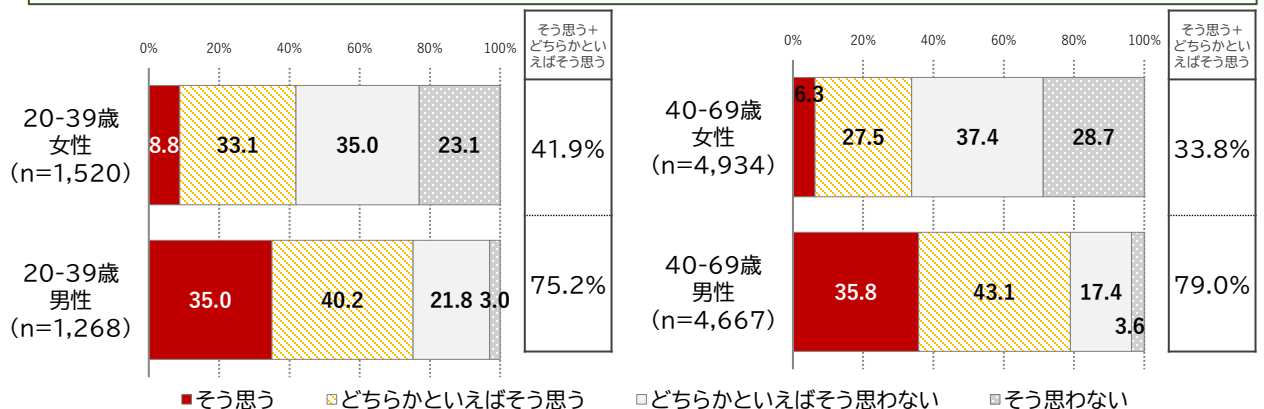
私は仕事のストレスが大きい ※有職者が対象



私は家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人が対象



私には家計を支える責任がある ※有配偶が対象

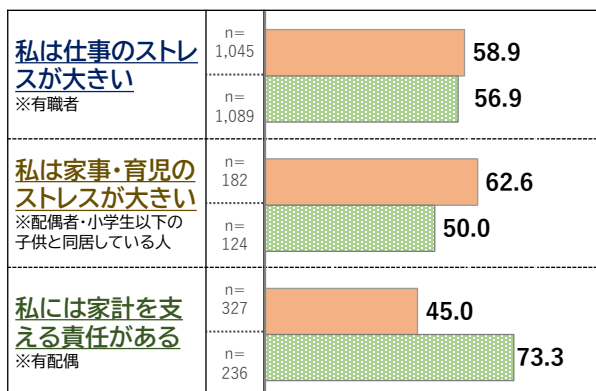


(2) 自分のストレスや責任などについての考え方(年代別)

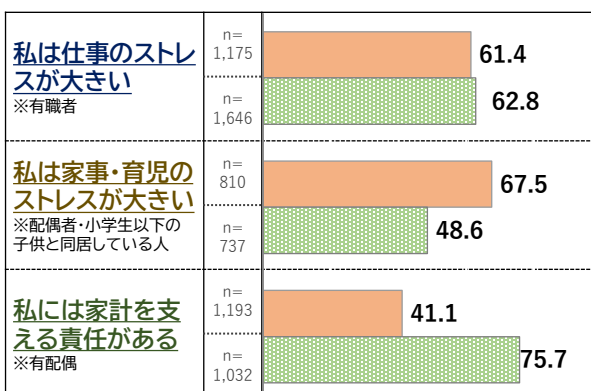
- ・年代別にみると、仕事のストレスについては、20代・30代では男女ともに6割で同程度となっているが、40代・50代では男性の方が10%ポイント程度ストレスが大きいと感じる人が多くなる。60代は男女ともに4割であり、全年代で最も割合が小さい。
- ・家事・育児のストレスについては、どの年代でも女性の方が男性よりも10%ポイント以上ストレスを感じる人が多いが、男女差は20代で10%ポイント程度、30代～40代で20%ポイント弱、50代で30ポイント%弱と、年代が上がるほど男女差が大きい。
- ・家計を支える責任については、男性ではどの年代でも75%～80%程度であるが、女性では20代で45.0%と最も高く、60代では29.6%と、上の年代になるほど低くなる。それに伴い、男女差も上の年代になるほど大きくなる。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載)

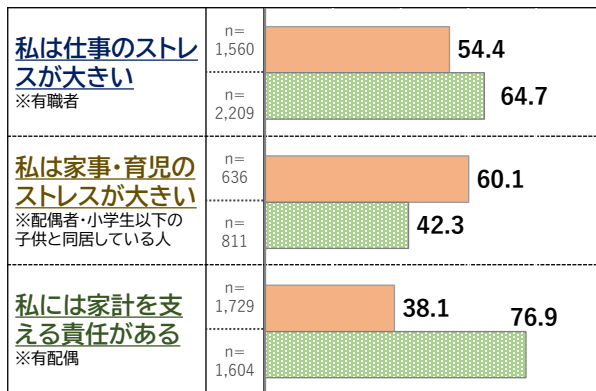
20代



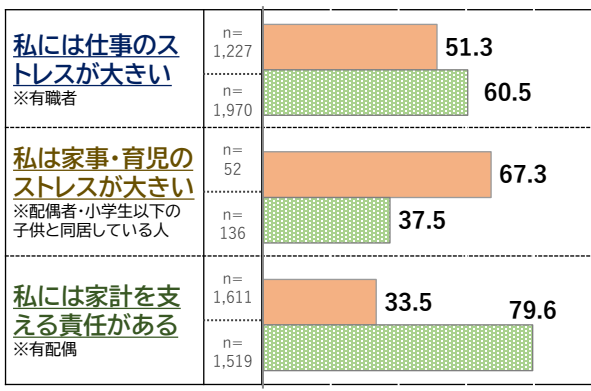
30代



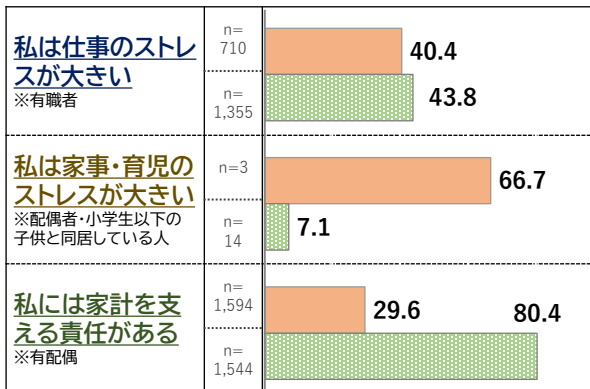
40代



50代



60代

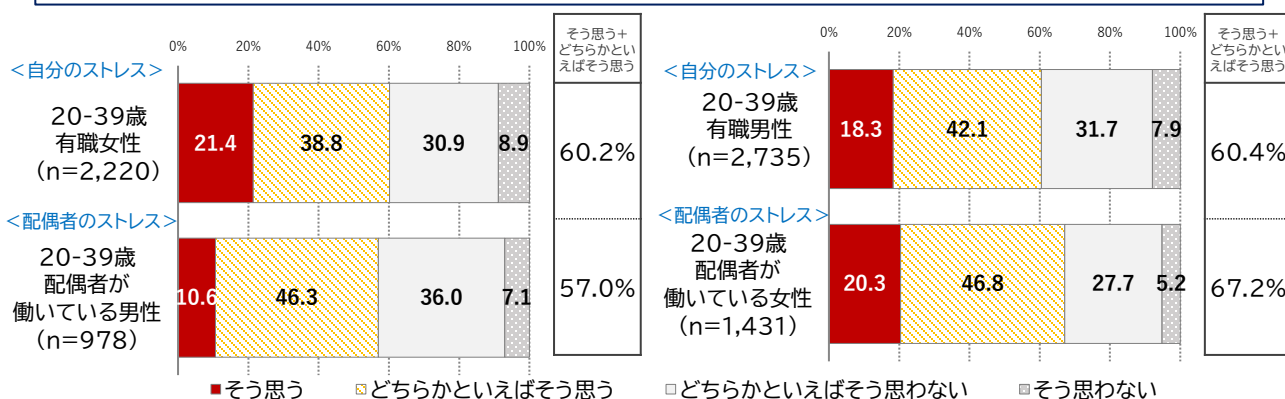


(3) 自分と配偶者のストレスや責任などについての考え方(20-39歳)

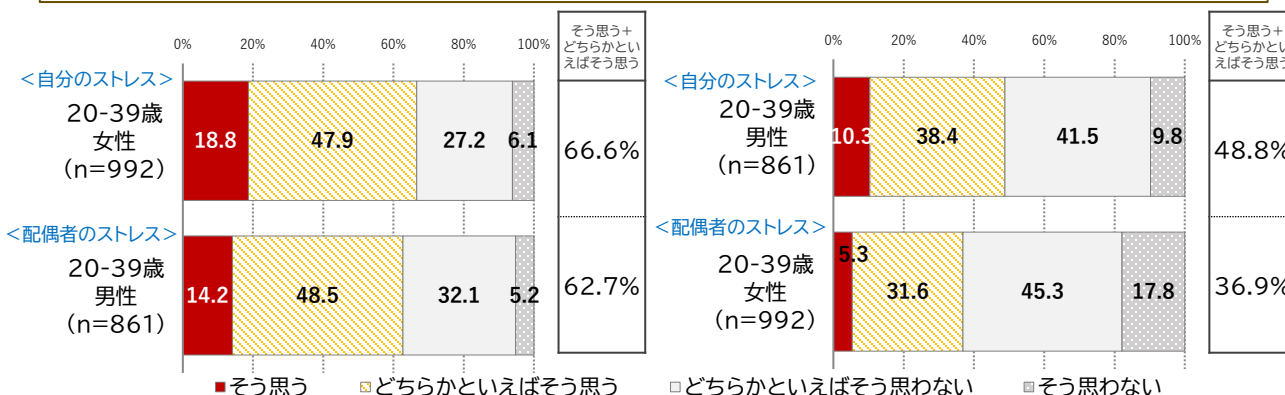
- ・20-39歳において、自分が感じるストレスや責任と、配偶者が「感じているのではないかと考えるストレスや責任について比較したものが下記である。
- ・仕事のストレスについては、女性が感じるストレスは60.2%、男性が配偶者に対して考えるストレスは57.0%と同程度。男性のストレスは60.4%、女性が配偶者に対して考えるストレスは67.2%となっている。
- ・家事・育児のストレスについては、女性が感じるストレスは66.6%、男性が配偶者に対して考えるストレスは62.7%。男性が感じるストレスは48.8%、女性が配偶者に対して考えるストレスは36.9%となっている。
- ・家計を支える責任については、女性が考える自分の責任は41.9%、男性が配偶者に対して考える責任は47.6%。男性の考える自分の責任は75.2%、女性が配偶者に対して考える責任は79.1%となっている。

20-39歳

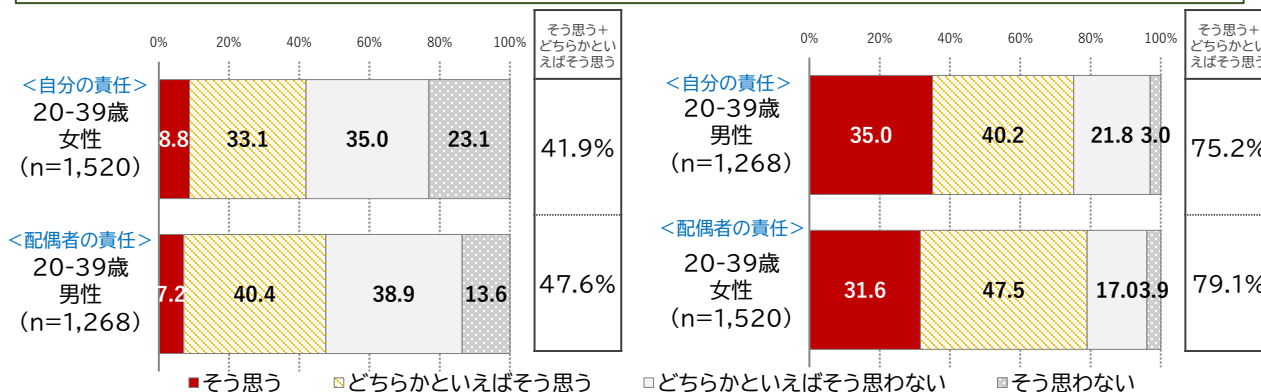
仕事のストレスが大きい



家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人が対象



家計を支える責任がある ※有配偶が対象



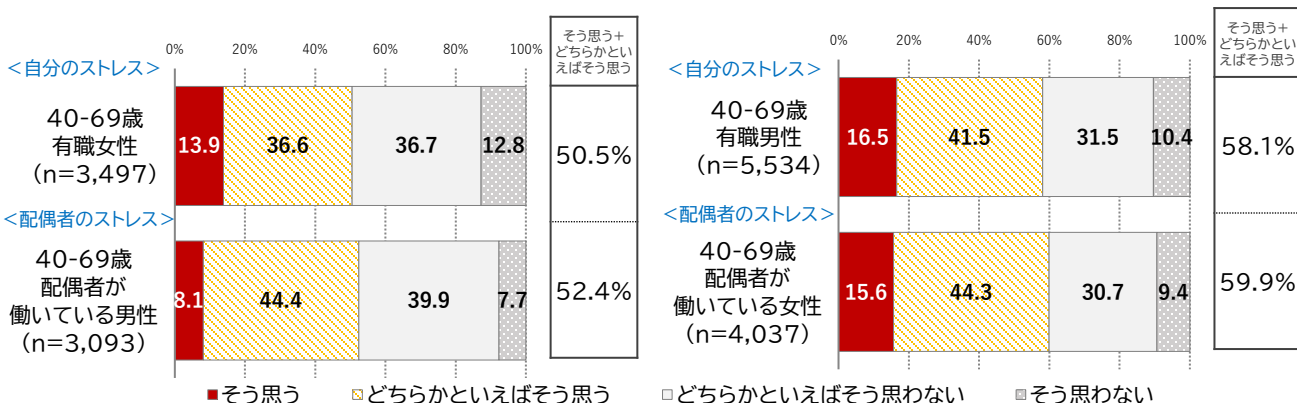
※カップル調査ではないことに留意。

(3) 自分と配偶者のストレスや責任などについての考え方(40-69歳)

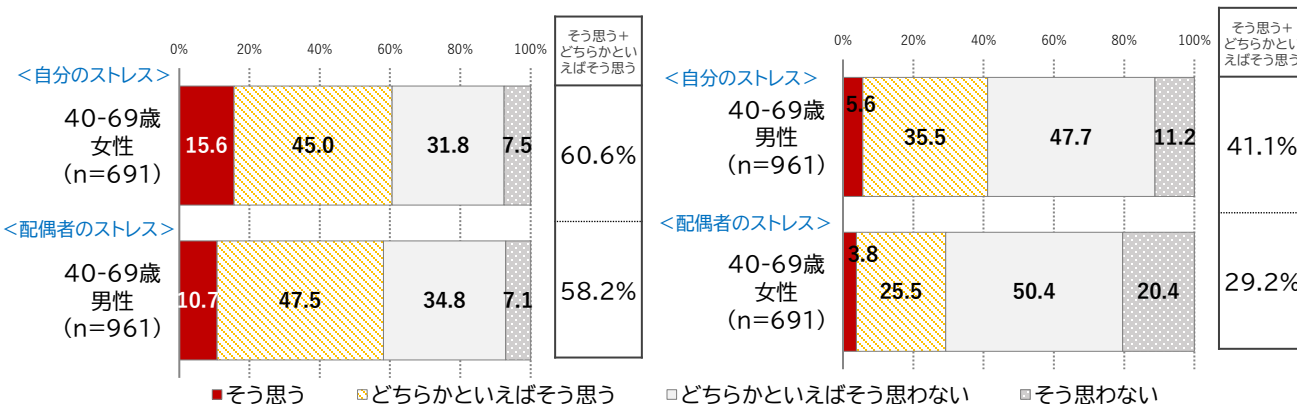
- ・40-69歳において、自分が感じるストレスや責任と、配偶者が「感じているのではないかと考えるストレスや責任について比較したものが下記である。
- ・仕事のストレスについては、女性が感じるストレスは50.5%、男性が配偶者に対して考えるストレスは52.4%は同程度。男性が感じるストレスは58.1%、女性が配偶者に対して考えるストレスは59.9%と同程度。
- ・家事・育児のストレスについては、女性が感じるストレスは60.6%、男性が配偶者に対して考えるストレスは58.2%。男性が感じるストレスは41.1%、女性が配偶者に対して考えるストレスは29.2%となっている。
- ・家計を支える責任については、女性が考える自分の責任は33.8%、男性が考える配偶者の責任は35.7%、男性の考える自分の責任は79.0%、女性が考える配偶者の責任は81.1%と、どちらも同程度となった。

40-69歳

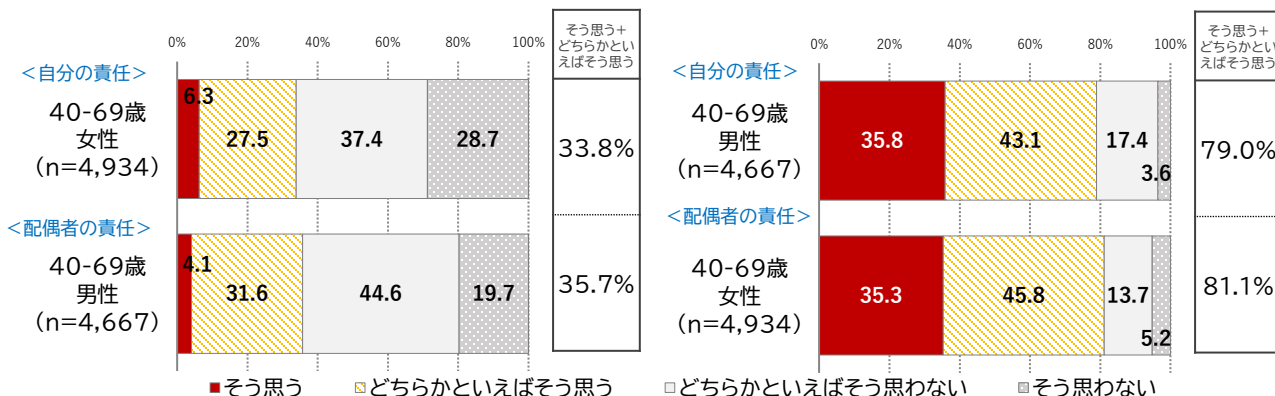
仕事のストレスが大きい



家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人が対象



家計を支える責任がある ※有配偶が対象

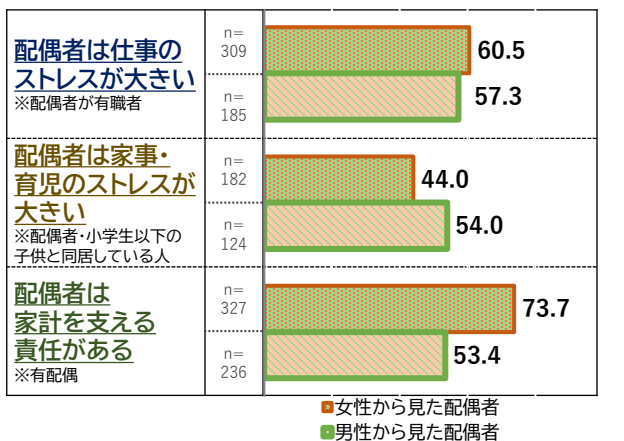


※カップル調査ではないことに留意。

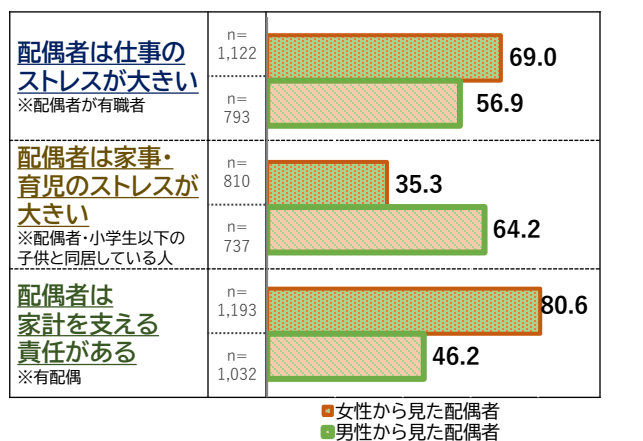
(3) 配偶者のストレスや責任などについての考え方(年代別)

- ・年代別に見てみると、配偶者の仕事のストレスについては、20代と60代では、男女ともに配偶者のストレスが大きいと考える割合が同程度。一方、30～50代については、女性の方が配偶者のストレスが大きいと考える割合が10%ポイント程度高い。
- ・家事・育児のストレスについては、60代を除く全ての年代で男性の方が配偶者のストレスが大きいと考える割合の方が高いが、20代ではその差が最も小さく、10%ポイント程度。
- ・家計を支える責任については、女性30代以上では「配偶者に対して考える責任」は8割となっている。一方、男性の「配偶者は家計を支える責任がある」と考える割合は若い年代ほど高く、20代男性では53.4%となっている。それに伴い、配偶者に責任があると考える割合は、上の年代になるほど男女差が大きくなり、男性の方が高くなる。

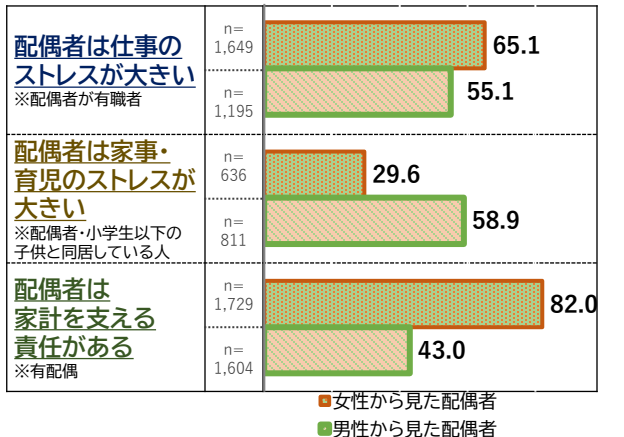
20代



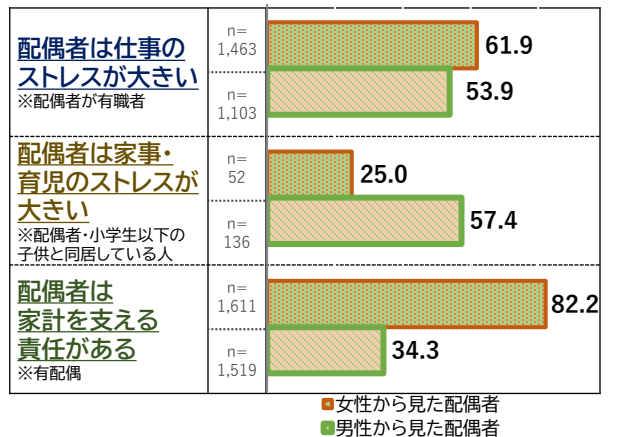
30代



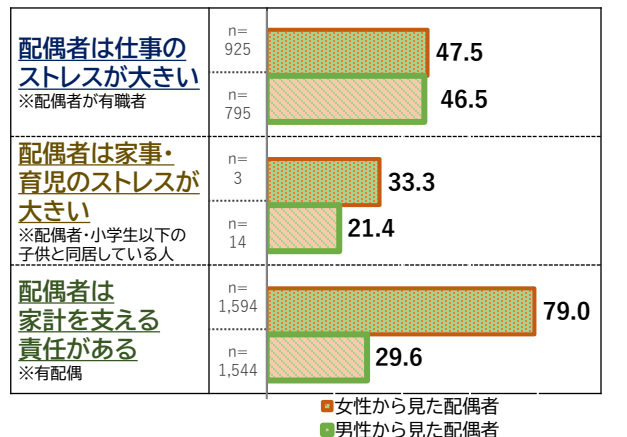
40代



50代



60代



調査結果まとめ

◆ストレスや責任などについての考え方

- 1 仕事のストレスが大きいと感じる割合は、**20-30代では男女ともに6割**。40-50代では、**男性の方がストレスが大きい**。60代では男女ともに4割で、最もストレスが小さい。
- 2 家事・育児のストレスが大きいと感じる割合は、**全ての年代で女性の方が高いが**、上の年代になるほど男女差が大きい。
- 3 家計を支える責任は、男性では全ての年代で75~80%程度。女性では**若い年代ほど高いが、20代でも45%程度であり、男女差が大きい**。

※ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載

ストレスや責任などについての考え方（自分）	20代		30代		40代		50代		60代	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
私は仕事のストレスが大きい ※有職者	58.9%	56.9%	61.4%	62.8%	54.4%	64.7%	51.3%	60.5%	40.4%	43.8%
私は家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人	62.6%	50.0%	67.5%	48.6%	60.1%	42.3%	67.3%	37.5%		
私には家計を支える責任がある ※有配偶	45.0%	73.3%	41.1%	75.7%	38.1%	76.9	33.5%	79.6%	29.6%	80.4%

※家事・育児のストレスについて、60代は対象者が少ないため省略。

◆自分と配偶者に対するストレスや責任などについての考え方

- 1 仕事のストレスは、**男女ともに自分のストレスが大きい**と考える割合と、**配偶者が考えるストレスについて10%ポイント以上の差はなく**、どちらの年代でも同様の傾向。
- 2 家事・育児のストレスは、**男性が自分のストレスが大きいと考える割合と、女性が配偶者のストレスが大きいと考える割合**において、どちらの年代でも10%ポイント以上差がある。
- 3 家計を支える責任は、男女・どちらの年代でも、**自分に責任があると考える割合・配偶者に責任があると考える割合について大きな差はない**。

ストレスや責任などについての考え方	20-39歳				40-69歳			
	女性（自分）	男性から見た配偶者	男性（自分）	女性から見た配偶者	女性（自分）	男性から見た配偶者	男性（自分）	女性から見た配偶者
仕事のストレスが大きい ※有職者	60.2%	57.0%	60.4%	67.2%	50.5%	52.4%	58.1%	59.9%
家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人	66.6%	62.7%	48.8%	36.9%	60.6%	58.2%	41.1%	29.2%
家計を支える責任がある ※有配偶	41.9%	47.6%	75.2%	79.1%	33.8%	35.7%	79.0%	81.1%

※ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載